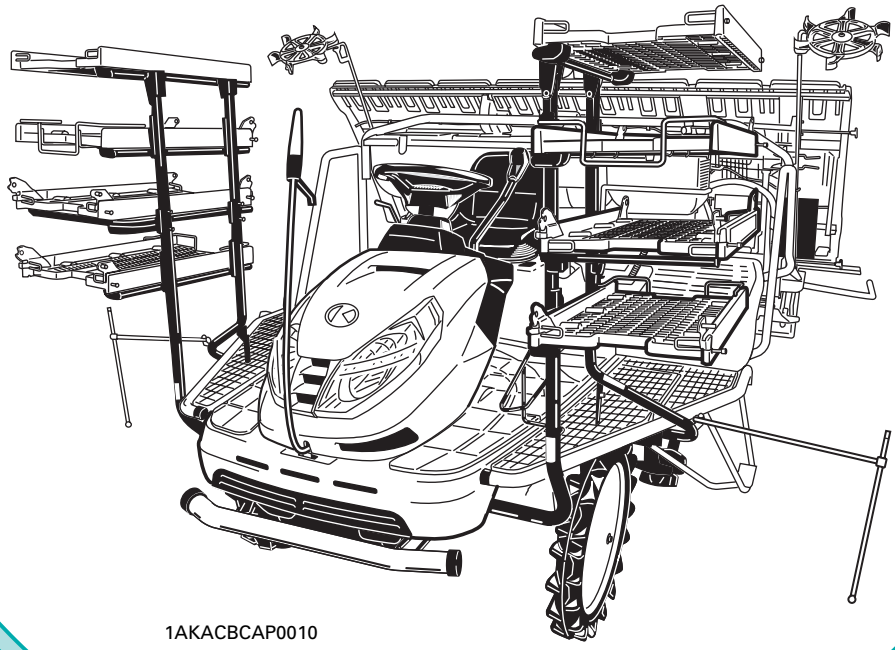
クボタ乗用田植機

取扱説明書

ROYAL VIP
WELSTAR
NSD8



1AKACBCAP0010

Operator's Manual

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	ウインカの操作方向
	ヘッドランプ
	エンジン停止
	エンジン油圧
	エンジン水温
	バッテリ充電異常
	燃料

	苗切れ
	植付クラッチ［**切**］
	マーカ［**出し忘れ**］
	あぜぎわクラッチ［**切**］
	肥料切れ［**F 仕様**］
	肥料づまり［**F 仕様**］

専門用語の説明

● **パワーステアリングハンドル**	油圧式の操向操作ハンドル
● **主変速レバー** (HST)	**[前進]・[後進]・[停止]** の切換えと走行速度及びエンジン回転をコントロールするレバー （油圧式の無段変速装置）
● **副変速レバー**	**[圃場作業]（低速位置）と [路上走行]（高速位置）** を切換えるレバー
● **十字ポンパレバー**	植付部（苗のせ台）の**上昇⟷下降**，植付部への動力伝達の**［入］**，**[切]** 及びラインマーカの**出し入れ**を行なうレバー
● **ブレーキペダル**	踏込むとブレーキが掛かるペダル
● **バックアップ**	主変速レバーを**［後進］**側に操作すると植付部が自動的に上昇する機能
● **フィットセンサ**	ほ場条件による植付部の感度を設定するセンサ
● **ST モンロー**	マイコンのはたらきで植付部を常に一定の水平状態に修正・保持する自動装置
● **安全クラッチ**	植付爪に障害物が詰まったとき，植付部のギアの破損を防止するために植付部への動力を断つ装置
● **コントローラ**	運転席下部にある自動制御をコントロールするマイコン部
● **整地ロータ** **[R 仕様]**	後輪とフロートの間にあるほ場の凸凹を整地するためのロータ
● **スローブローヒューズ**	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
● **ツインモードマーカ**	植付け中のマーカの出し入れを自動 / 手動に切換えられる機能

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲の苗の植付け用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買い上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は［NSD8・8-F 仕様］を基本としています。従って，仕様区分によってはついていない装置の説明もあります。

基本型式の表示

【例】NSD8 - C Y32 I F R

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

①名称・植付条数によって
●ウエルスターロイヤルビップ
NSD8..... ８条植
②植付条間によって
表示なし（標準）.....30cm
C 仕様.....33cm
③予備苗のせ台によって..... 表１参照
④植付爪の形状によって
●I ..... アイ爪
⑤施肥装置
●F .....粒状施肥装置付
⑥整地ロータの有無によって
●R 仕様.....8R
⑦植付株間によって
●表示なし（標準）.....14,16,18,21,24cm
●C 仕様.....11,12,14,16,18,21cm

※諸装置について..... 表２参照
※諸装備について..... 表３参照

●表１

表　示	とう載枚数	対象型式	備　考
表示なし	8	8	—
Y16	16	8	回動式
Y32	32	8,8-C	回転式

●表２

諸　　装　　置	
自動化装置	十字ポンパ（オートマーカ）
	植付部自動水平制御装置（STモンロ）
	車体角補正付自動昇降装置（オートフロート）
諸機能	ツインモードマーカ
	バックアップ機能
	ノーペダル旋回機能（ゆう優ターン）
	レール式予備苗のせ台
	アクセル連動主変速レバー（ゆう優ワンレバー）

●表３

諸　　装　　備	対　象　型　式		
	ウエルスターロイヤルビップ		
	8	Y16	Y32・CY32
水冷４サイクル３気筒立形ディーゼルエンジン	○	○	○
ワイド・ロングステップ	○	○	○
回転マーカ	○	○	○
あぜぎわスイッチ	○	○	○
多目的ヒッチ	○	○	—

目　次

⚠安全に作業するために

安全に作業するため次のことがらを必ず守ってください 1
表示ラベルと貼付け位置 12
表示ラベルの手入れ 16

サービスと保証について

装置の名称と取扱い

機体方向説明 2
各装置の名称 3
走行装置の名称とはたらき 8
メインスイッチ 8
エンジンストップノブ 8
主変速レバー 9
副変速レバー 9
パワーステアリングハンドル 9
ブレーキペダル 10
駐車ブレーキレバー 10
前輪デフロックペダル 10
運転席（シート） 11
メインパネル（走行操作） 11
燃料計 11
水温計 11
充電ランプ（充電警報） 11
オイルランプ（油圧警報） 11
コンビネーションスイッチ 11
作業装置の名称とはたらき 12
十字ポンパレバー 12
フィットセンサダイヤル 13
自動植付スイッチ 13
植始め調節ダイヤル 13
ツインモードマーカ 14
苗取り量調節レバー 14
植付深さ調節レバー 15
横送り切換えレバー 15
あぜぎわスイッチ 15
株間調節レバー 16
ロータ自動スイッチ 16
ロータ高さ調節ダイヤル 17
油圧ロックレバー 17
マスコット 18
マスコット（安心マスコット） 18
ラインマーカ 18
隣接マーカ 19
苗ステー・苗押さえ棒 19
予備苗のせ台 20
回動式予備苗のせ台 20
回転式予備苗のせ台 21
ホッパ 22
ロールケース（繰出し部） 22
ブロワ 22
施肥全条停止スイッチ 22
施肥量調量金具 23
メインパネル（電装） 23
苗切れモニタ（苗切れ警報） 23
マーカモニタ（マーカ出し忘れ警報） 23
植付クラッチモニタ（植付クラッチ入忘れ警報） 24
あぜぎわクラッチモニタ（あぜぎわクラッチ入忘れ警報） 24
施肥モニタ（肥料切れ警報）[F 仕様] 24
施肥モニタ（肥料つまり警報）[F 仕様] 25
コントローラ 25

運転のしかた

運転前の点検 27
日常点検項目 28
新車時の扱いかた 31
ならし運転について 31
エンジンの始動と停止のしかた 31
始動のしかた 32
暖機運転について 32
寒冷時の始動のしかた 33
燃料切れ後の再始動のしかた 33
バッテリが上がったときの始動のしかた 33
停止のしかた 34
移動走行について 35
移動走行前の準備 36
苗のせ台の移動のしかた 38
発進のしかた 39
旋回のしかた 40
停車・駐車のしかた 41
輸送について 41
トラックとあゆみ板の準備 41
トラックへ積込み時の田植機の準備 41
トラックへの積込み・積降しのしかた 41
トラック上での処置 43

田植作業のしかた

ほ場と苗の条件 44
ほ場条件 44
苗条件 45
田植作業前の準備 46
予備苗のせ台のセット 46
収納式苗のせ台のセット 49
ラインマーカのセット 49
隣接マーカとマスコットのセット 50
しゅう動板ガードのセット 50
各レバー・ダイヤルのセット 50
苗のせ台の折りたたみ・広げかた 52
植付作業のしかた 58
ほ場の出入りのしかた 58
植付作業の手順 58

目　次

植付けかたと旋回のしかた 61
自動植付作業のしかた 64
変形田の植付けかた［参考］..... 65
安全クラッチについて 66
苗の補給のしかた 67
あぜぎわの植付けかた 68
モンロー調節ダイヤルについて 69
施肥作業のしかた 70
ほ場と肥料について 70
施肥作業時のほ場条件 70
肥料について 71
一発肥料使用時の注意 72
施肥作業前の準備 73
施肥作業のしかた 75
ホッパ内の肥料の排出のしかた 77
作業に合わせた各部の調節・調整 78
植付株数の調整 78
苗取り量（１株本数）の調節 79
横送り切換えレバーの調節 80
苗取り量調節レバーの調節 80
植付株数と苗の使用量について 80
フィットセンサダイヤルの調節 81
フィットセンサの感度調節 81
植付深さの調節 82
苗ステー・苗押さえ棒の調節 83
整地板の調節 84
整地ロータの調節 85
ふく土板の調節 86
施肥量の調節 86
肥料繰出し量目安一覧表 92
メインパネルによる異常と処置 94
コントローラ（自己診断）による異常と処置 96

メンテナンス

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた . 98
ボンネットのオープン 98
運転席下カバーの脱着 99
苗のせ台のオープン 99
植付部の脱着 102
ロール・ブラシの取付け・取外し方法 ... 106
各部の掃除と注油のしかた 108
掃除のしかた 108
注油のしかた 111
注油，グリース塗布・注入箇所 111
定期点検 115
廃棄物の処理について 115
洗車時の注意 116
使用者が行なってはいけない修理 116
定期点検一覧表 117
給・注油（水）点検一覧表 118
燃料・オイルの点検・補給・交換 120
燃料の補給 120
エンジンオイルの点検・補給・交換 121
ミッションオイルの点検・補給・交換... 122
後車軸ケースオイルの点検・補給・交換. 123
ラジエータ冷却水の点検・交換..... 123
ラジエータフィンの掃除..... 125
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 125
燃料フィルタアッシの交換..... 126
エンジンバルブクリアランスの点検..... 126
エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換 126
パイプ・ホース類の点検・交換..... 127
各部ベルトの点検・調整..... 128
ミッション駆動ベルトの点検・調整..... 129
オルタネータ駆動ベルトの点検・調整... 129
ミッションオイルフィルタカートリッジの交換..... 129
タイヤの点検..... 130
後輪タイヤ空気圧の点検・調整..... 130
植付爪・押出し金具の点検・調整・交換. 131
苗のせ台のしゅう動板と受けの点検..... 133
施肥ブラシの点検・掃除・交換..... 134
バッテリの点検・交換..... 135
ワイヤハーネス（配線）・ヒューズの点検・交換..... 138
ランプ（電球）の点検・交換・反射テープの点検・交換..... 139
植付作業後の手入れ 140
毎日の作業後の手入れ..... 140
長期格納時..... 140

植付作業の不調と処置

欠株が出る 142
浮苗が出る・植付けが乱れる 144
浮苗が出る・植付けが悪い 146
植付けが乱れる・欠株が出る 146
施肥をしない・施肥量がばらつく 147
苗・ほ場条件による，その他の不具合 . 148

付表

主要諸元 150
付属部品 151
オプション（別売品）（純正品を使いましょう）..... 151
苗キーパ..... 151
クリーナ..... 152
補助車輪..... 152
広幅前輪タイヤ..... 153
後輪エアタイヤ..... 153
線引きマーカ..... 153
整地板..... 153
バックミラー..... 153
薬剤散布機［こまきちゃん]..... 153
薬剤散布機［箱まきちゃん]..... 154

除草剤散布機［滴下マン］..... 154
延長予備苗台 154
植付部脱着用スタンド 154
すくい板ホルダ 154
苗スライドストッパ 154
増量ロール 155
苗箱ホルダ 155
疎植キット 155
本機カバー 156
周り植えマーカ 156
苗ストッパ 156
フラットローラ 156
キャノピ 156
ペースト施肥増量スプロケット 156
アクセルレバー 156
前部ウエイト 156
消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）
..... 157
クボタ純オイル..... 159
クボタ純グリース 159
索引

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全に作業するため次のことがらを必ず守ってください

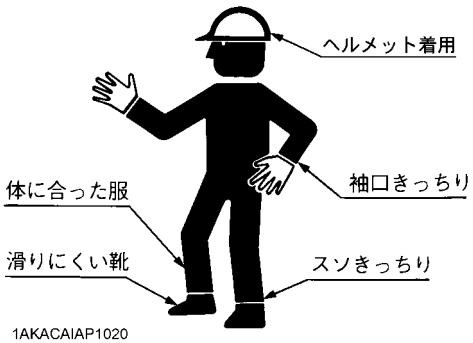
■ 安全指示順守

- 本書及び本機の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。
- 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。また，破損・紛失したときは注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
- ほかの人に機械を貸すときは，取扱方法や安全のポイントをよく説明し，この取扱説明書をよく読むように指導してください。

1AKACAIAP1010

■ 作業に合った服装及び健康状態

- 作業に合ったキチンとした作業着を着用してください。
- だぶついた服装は，回転部に巻込まれやすく危険です。また靴は，すべらないものを使用してください。
- ヘルメット，滑りにくい靴を着用し，必要に応じて安全靴，保護メガネや手袋などを着用してください。



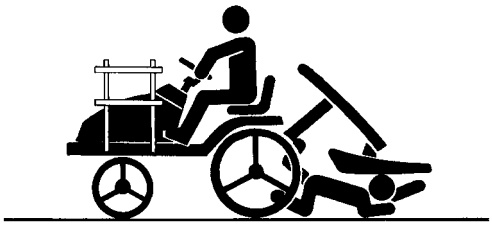
1AKACAIAP1020

- お酒を飲んでいる方，睡眠不足の方，妊娠中のご婦人，過労，病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。

1AKACAIAP1030

■ 子供が近づくのは危険

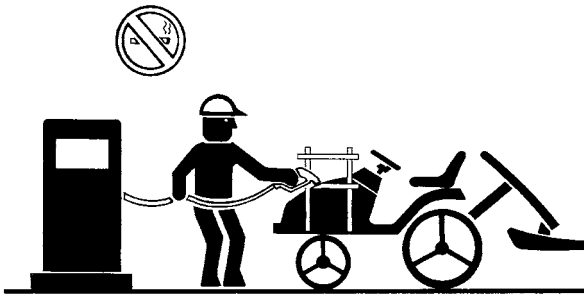
- 点検・整備中及び田植作業中機械に子供を近づけないでください。見えないところで機械に触ったりかくれたりしてたいへん危険です。



1AKACAIAP1040

■ 使用前の準備・点検

- 使用前の点検は必ず行なってください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は，エンジンを止めて行なってください。
- 火気厳禁。



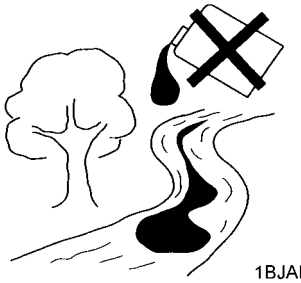
1AKACAIAP3810

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけて行なってください。
- 植付部を持上げて植付爪などの点検をするときは，油圧昇降ロックをするとともに，台などで支えをして落下を防止してください。

1AKACAIAP3820

■ 廃棄物の取扱い注意

- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
- 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。



1BJABAAAP0180

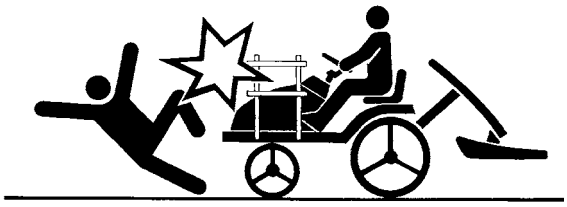
■ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

- 空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

1AKACAIAP1050

■ エンジンの始動

- エンジンの始動時，運転席に座り，主変速レバー，副変速レバーが**［N］（中立）**になっていることを確認してから始動してください。
- 機械の周囲の人・物にじゅうぶん注意し，ブレーキペダルを踏んでから始動してください。
- 屋内で始動するときは，窓・扉を開け，外気がじゅうぶん入るようにしてください。

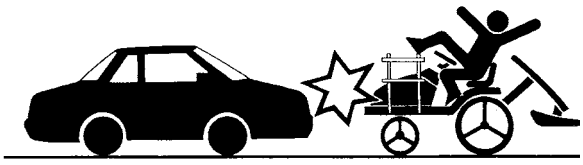


1AKACAIAP3830

1ARAEAAAP0560

■ 走行運転

- この機械は一般道路は走れません。
- 一般道路はトラックなどで運搬してください。
- 発進前に必ず植付部が持上げられているかを確認してください。
- 機械の周囲の人・物に注意して，ゆっくり発進してください。
- 初めて運転される方は，操作になれるまで低速で運転してください。
- 道のりが遠くても，その他どのような場合でも，絶対に運転者以外の人を乗せないでください。

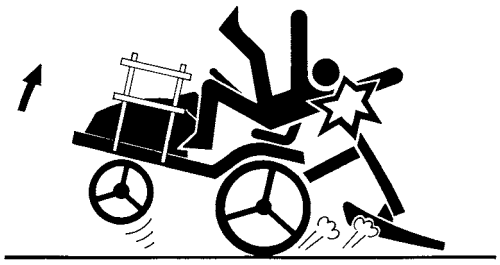


1AKACAIAP1060

- 予備苗のせ台の上などに物を乗せないで，荷物はめんどうでも，別にトラックなどで運搬するようにしてください。
- 副変速レバーを**［圃場作業］**又は**［路上走行］**に入れて発進する場合は，植付部を最上昇位置にしたあと，油圧ロックレバーを**［閉］**位置にして植付部の落下防止を行なってください。
- 急発進・急停止・急旋回はしないでください。
- 発進するときは，ブレーキペダルを離してから主変速レバーを**［N］（中立）**位置からゆっくりと操作してください。

1AKACAIAP1070

- 停止するときは，必ず主変速レバーを**［N］（中立）**位置に戻してからブレーキペダルを踏込んでください。
- カーブ・曲り角では早めにスピードを落としてください。
- わき見・手ばなし運転はしないでください。気のゆるみが大事故につながります。
- 油圧昇降ロックをし，植付部の落下を防止してください。



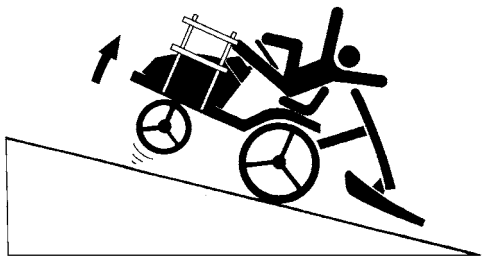
1AKACAIAP3840

- 隣接マーカ・マスコット・ラインマーカを収納状態にしたあと，ラインマーカをロックし，苗のせ台を収納してください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。特に，苗のせ台の接触には注意してください。
- 機体が右又は，左に大きく傾き，転倒するおそれがあるので，傾きの大きいところでは走行しないでください。
- 転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部など）を取外して本機側単独で坂道走行しないでください。

1AKACAIAP1080

■ 坂道走行

- 坂の手前で一旦停止して，副変速レバーを**［圃場作業］**に切換えてから，坂道の登り降りをしてください。
- 停止するときはブレーキペダルは踏込まないで，必ず主変速レバーを操作してください。
- 急発進は禁物。
- 坂が急で，前進で登ると前が浮上がるおそれがある場合は，後進で登るようにしてください。
- 坂の途中で副変速レバーを**［中立］**にしないでください。また，ブレーキペダルは踏込まないでください。

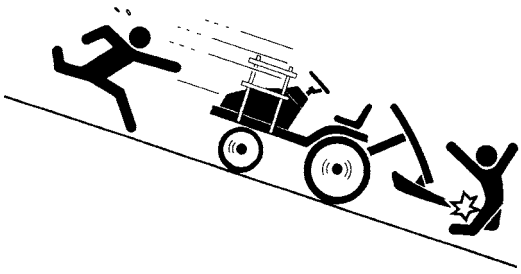


1AKACAIAP3850

- 坂の途中で危険回避などのためにやむを得ず機械を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。ブレーキペダルの踏込みが足らない場合は，暴走するおそれがあります。
- 坂道では，特別なときのほか駐車しないようにしてください。
- 駐車する場合は，駐車ブレーキをかけて，石や木片などで下側の両輪に車止めをしてください。
- 駐車中は，副変速レバーを**［圃場作業］**又は**［路上走行］**に入れておいてください。

1AKACAIAP3860

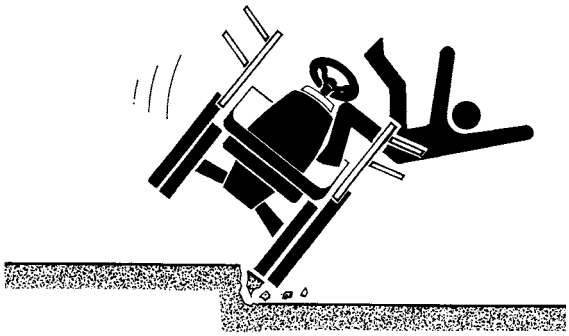
- 転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部など）を取外して本機側単独で坂道走行しないでください。



1AKACAIAP3870

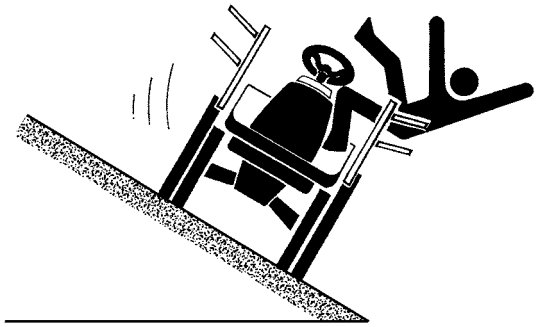
■ 農道，ほ場の移動

- 副変速レバー**［路上走行］**で，植付部を上昇させて，ゆっくり走行してください。
- 路肩くずれに注意してください。
- 草などでおおわれていて路肩がわからないときや危ないと思われる所では，機械から降りて確認するようにしてください。このとき必ずエンジンを止めて行なってください。
- 雨あがりのとき，狭い農道では，速度を落として慎重に走行するようにしてください。
- 対向車をさけるときは，無理に端いっぱいに寄らず，一旦停止して対向車をやりすごしてください。



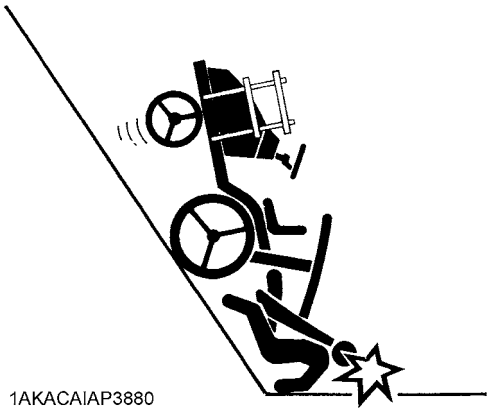
1AKACAIAP1090

- 油圧昇降ロックをし，植付部の落下を防止してください。
- 隣接マーカ・マスコットを収納し，ラインマーカをロックしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。
- 機体が右又は，左に大きく傾き，転倒するおそれがあるので，傾きの大きいところでは走行しないでください。

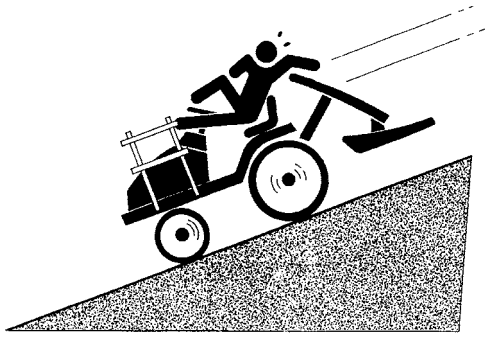


1AKACAIAP1080

■ ほ場の出入り


1AKACAIAP3880

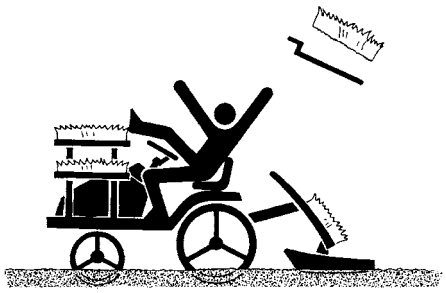
- 機械をあぜ・溝に直角に向けて止め，副変速レバーを**［圃場作業］**にし，十字ポンパレバーで植付部を下げ，主変速レバーを低速で，ゆっくり発進してください。後輪があぜに上がると同時に，植付部を上げてください。
- 農道が狭い場合は，ほ場に出入口の傾斜をつくり，溝は渡り橋をつくってください。
- ほ場の出入り，土手などの急斜面の登り降り，溝越えのときには，必ずあゆみ板を使うか，ほ場に出入口傾斜や渡り橋をつくって，後進で登ってください。
- あゆみ板は，機械の重量に耐える強度（金属製）で，段差に対して４倍以上の長さのもの，また，横サンとスベリ止めのついたものを使用してください。
- あゆみ板を登り始める前に，前輪デフロックペダルを**踏む**ことを忘れないでください。
- あぜ・溝に対して機械を直角にとめ，左右の２枚のあゆみ板が機械の両輪に合い，平行になっているかを確認してください。
- ハンドルを真直ぐに直し，真直ぐに登ってください。


1AKACAIAP3890

- 急傾斜面の移動で斜面を下るときは，副変速レバーを**［圃場作業］**で，前輪デフロックペダルを踏んで前輪を左右ロックしてください。
- 途中で副変速レバーを**［N］（中立）**にしないでください。
- 途中で危険回避などのために本機を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。ブレーキペダルの踏込みが足らない場合は，暴走するおそれがあります。

■ ほ場での作業

- 苗を補給するときは，主変速レバーを**［N］（中立）**にし，駐車ブレーキを掛けてください。
- 回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。
- あぜぎわで旋回するときは，あぜの周囲の人や物にじゅうぶん注意を払ってください。
- 作業中は，ほ場に人を入れたり，機械に人を近づけたりしないでください。
- ウエイト代りに，人や物を乗せないでください。
- 夜間作業は絶対にしないでください。
- 植付爪などに異物がかみこんだときは，エンジンを停止し，完全に止まったのを確認してから取除いてください。



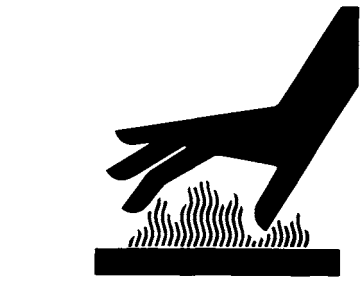
1AKACAIAP3900

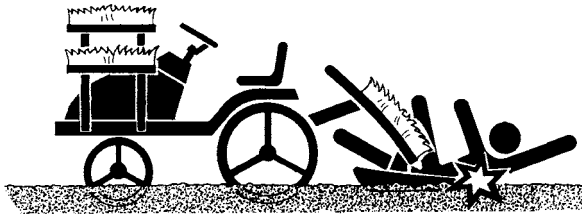
1AEABAAAP0110

1AEABAAAP0080

■ 機械から離れるとき及び走行，作業途中の駐車・点検

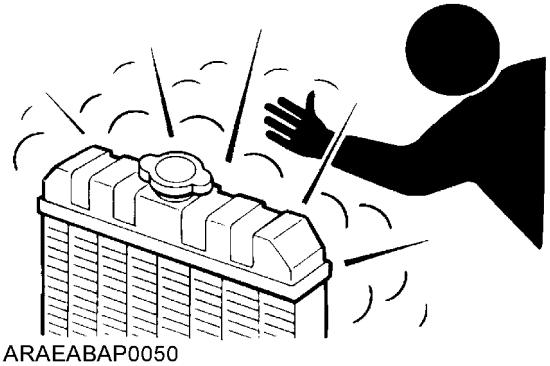
- 機械から離れるときは，坂道などの傾斜地を避け，平たんな場所へ移動してください。
- 駐車及び点検などで運転席を降りるときは，主変速レバーを**[N]（中立）**位置にしてエンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてキーを抜いてください。
- エンジンをかけたままで，草やワラの上に駐車しないでください。
- 高温部に触れないよう注意してください。
- 植付部を上昇させて点検するときは，油圧昇降ロックをし，植付部の落下を防止してください。


1AEABAAAP0080


1AKACAIAP3910

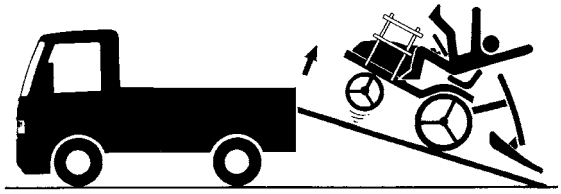
ヤケド防止

- 過熱された冷却水あるいは蒸気が皮ふに触れるとヤケドします。
- 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は，過熱，加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後 30 分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。
- 高温の油が皮ふに触れるとヤケドをします。
- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管及びその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって，残圧がないことを確かめて整備してください。
- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。


1ARAEABAP0050

1AEABAAAP0080

■ トラックなどへの積み・降し



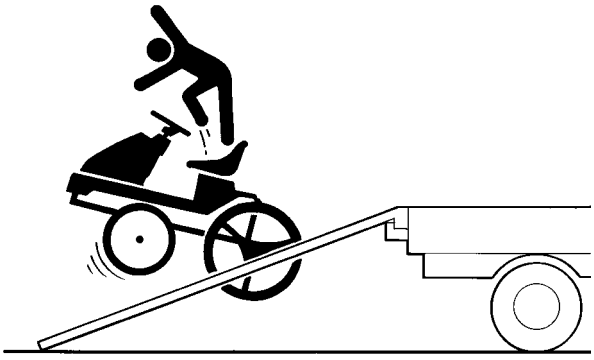
1AKACAIAP1100

- 前進であゆみ板を登ると大変危険です。必ず，後進で積込み，前進で積降してください。
- 積み・降しを開始する前に，トラックの駐車ブレーキがかかっているかを確認してください。
- 脱輪に注意してください。
- 前輪デフロックペダルを使用してください。
- 副変速レバーを**［圃場作業］**にし，主変速レバーをゆっくり操作してください。
- 途中で副変速レバーを**［N］（中立）**にしないでください。

- あゆみ板は，段差の４倍以上の長さのものを使ってください。

あゆみ板の基準

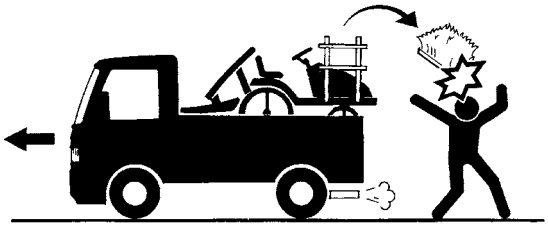
長　さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	30cm 以上
数　量	2 枚
強　度	1 枚が 600kg 以上の重量に耐えうる



1AKACARAP171C

- 誘導者を付け，周囲の安全をじゅうぶん確認してください。また，機械の前には絶対に立たないでください。
- 途中で危険回避などのために緊急に機械を停止させたいときは，ブレーキペダルを素早くいっぱい踏込んでください。
- 転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部など）を取外して本機側単独で積み・降し作業はしないでください。

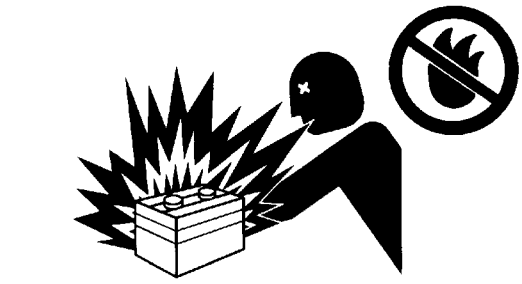
■ トラックなどでの運搬



1AKACAIAP3920

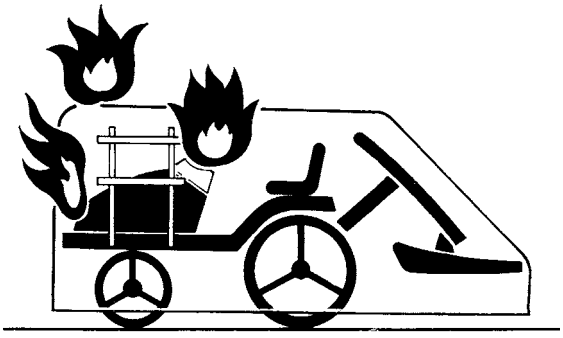
- 駐車ブレーキをかけてください。
- ロープは前輪と後輪に掛け，確実に固定してください。
- 苗のせ台・予備苗のせ台などにのせてある物は，必ず降ろしておいてください。
- 転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部など）を取外して本機側単独で運搬はしないでください。

■ バッテリの取扱い注意


1AKACAIAP3970

- バッテリのガスは爆発のおそれがあります。
- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。
- バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使わないでください。
- バッテリの充電時，交換時は，バッテリの注意ラベルをよく読んでください。
- バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
  LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐに**UPPER LEVEL（上限）**と**LOWER LEVEL（下限）**の間に補水してください。
- 充電は，バッテリを機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうとバッテリが破裂するおそれがあり危険です。
- バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。
- バッテリ液（希硫酸）が目，皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗ってください。
- バッテリ液（希硫酸）が目に入ったときは，水でよく洗った後，医師に治療を受けてください。
- 指定外のバッテリは使わないでください。

■ 使用後の手入れ


1AKACAIAP3930

- 点検・手入れ・掃除・調整は，エンジンを止めて行なってください。
- 取外したシートカバーなどは，必ず元のとおりに取付けてください。回転部などがむき出しになり危険です。
- 格納するときは，平たんな場所に植付部を下げて置いてください。
- 駐車ブレーキを掛けておいてください。
- 本機カバーなどをかける場合は，エンジンなど加熱部分がじゅうぶん冷えてからにしてください。火災の原因になります。

表示ラベルと貼付け位置

①品番　PL501-8986-2

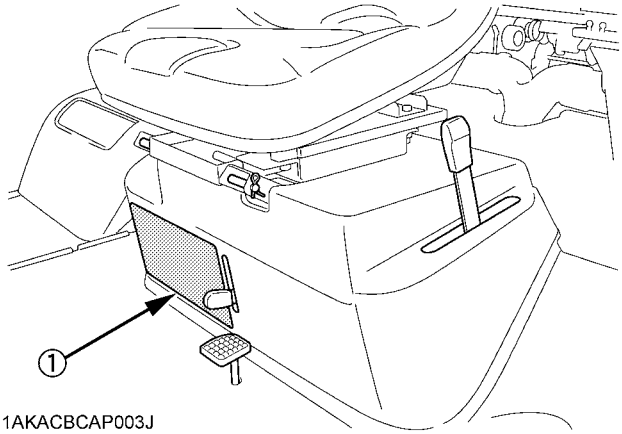
⚠ 警　告	⚠ 注　意
転倒や暴走の危険があるため、下記事項を守ること。 エンジン始動時 ブレーキペダルを踏み込み、主変速レバーを『N（中立）』にしてからエンジンを始動すること。 走行全般 主変速レバーを『N（中立）』にしてから、ブレーキペダルを離すこと。 高速時に急ブレーキ、急ハンドル操作を行わないこと。 作業時 苗補給時は、主変速レバーを『N（中立）』にし、駐車ブレーキをかけること。 トラックなどへの積み降ろし・畦越え・急な坂道での走行時 １．登るときはバックで登り、副変速レバーを『圃場作業』にすること。 ２．段差の４倍以上の長さのあゆみを使用し、誘導者をつけること。 ３．斜面に対して直角に走行すること。 ４．坂道を下る時は急ブレーキをかけないこと。 機械から離れるとき １．エンジンを止め、駐車ブレーキをかけること。 ２．坂道では車止めをすること。	使用前 １．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。 ２．屋内では排気ガスが溜まり易くガス中毒の危険があるため、換気を十分すること。 移動走行時 １．この機械は公道走行はできないため、トラックにのせて運搬のこと。 ２．転倒などの危険があるため、傾斜地・路肩の軟弱な農道・がけ際は走行しないこと。 ３．転落や破損の危険があるため、運転者以外の人や物を乗せないこと。 ４．植付部が不意に下降してはさまれる危険があるので、植付部を上げて移動するときは、油圧昇降を必ずロックすること。 作業時 １．ケガをするおそれがあるので、清掃・点検・整備・給油はエンジンを必ず止め、冷えてから行うこと。また、油圧昇降を必ずロックすること。 ２．ケガをする危険があるので、夜間作業は絶対にしないこと。 ３．植付作業中、安全クラッチが作動（ガッガッという大きな異音）したら、すぐに走行を停止し、エンジンを止めて植付爪先端の障害物を取り除くこと。 使用後 火災の危険があるので、シートカバーは機械が冷えてからすること。

1AKACBCAP152J

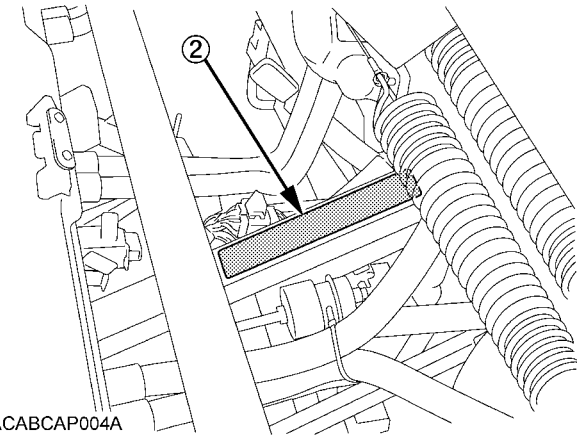
②品番　PR111-8955-4

⚠ 警　告	
転倒による重大事故の危険があるため、後部作業機を取り外した状態で走行・トラックへの積み下ろし作業はしないこと。	

1AKACBCAP153J



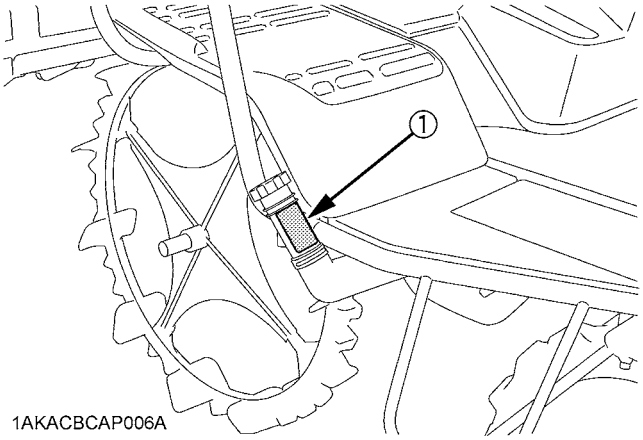
1AKACBCAP003J



1AKACABCAP004A

①品番　3F740-9828-2

1AKACBCAP154J



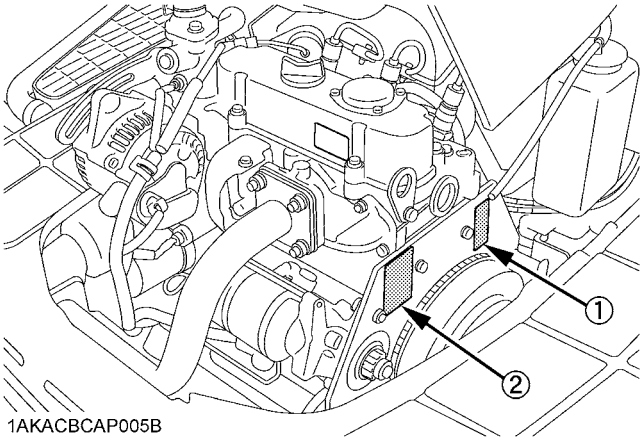
1AKACBCAP006A

①品番　T0180-4957-1

1AGADALAP244J

②品番　T0180-4958-1

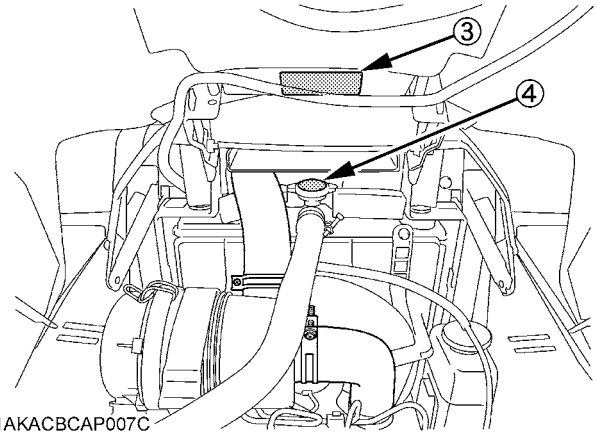
1AKACBCAP156J



1AKACBCAP005B

③品番　PF801-8983-1

1AKACBCAP157J

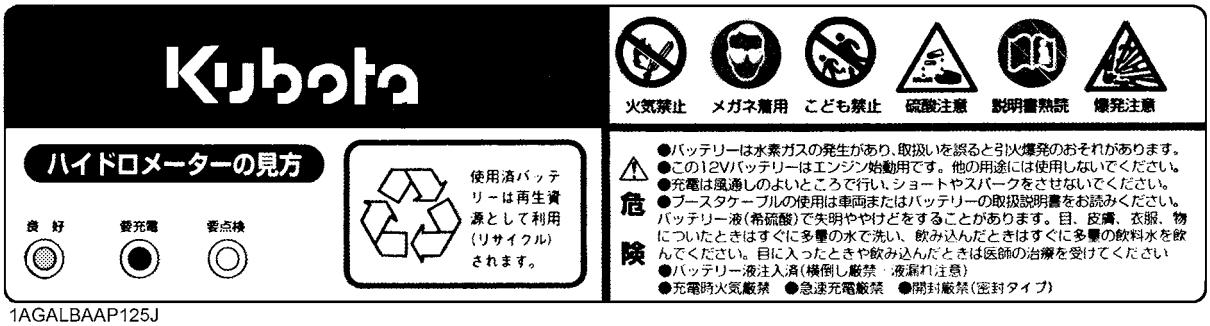


1AKACBCAP007C

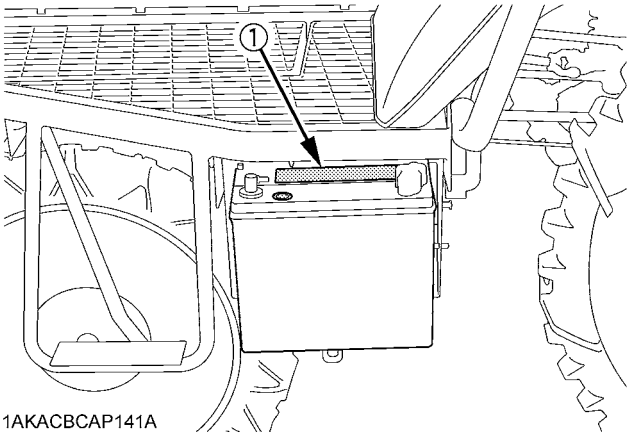
④品番　PM808-7209-1

1AKACBCAP2060

①品番　5H522-4112-0

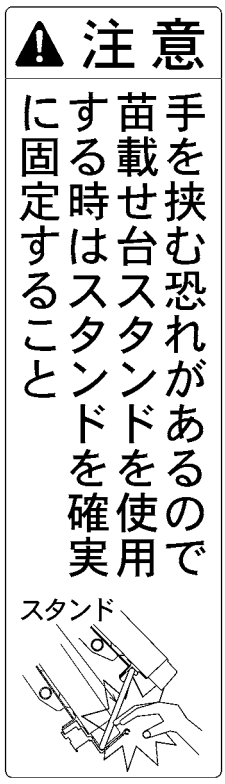


1AGALBAAP125J

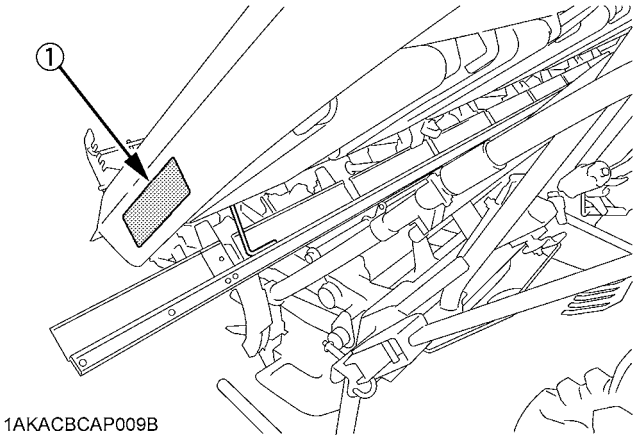


1AKACBCAP141A

①品番　PR111-8952-1



1AKACBCAP158J

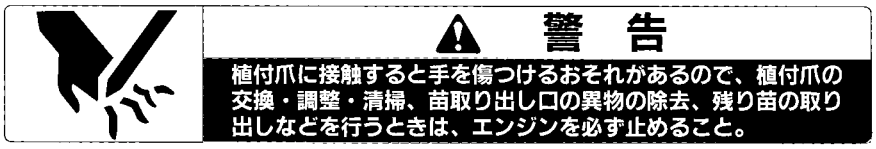


1AKACBCAP009B

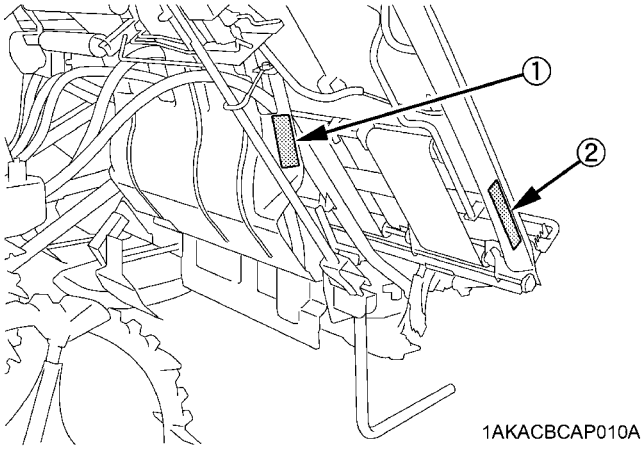
①品番　PR001-8952-1

1AKACBCAP159J

②品番　PL501-8958-1



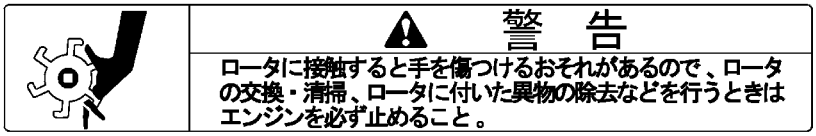
1AKACBCAP160J



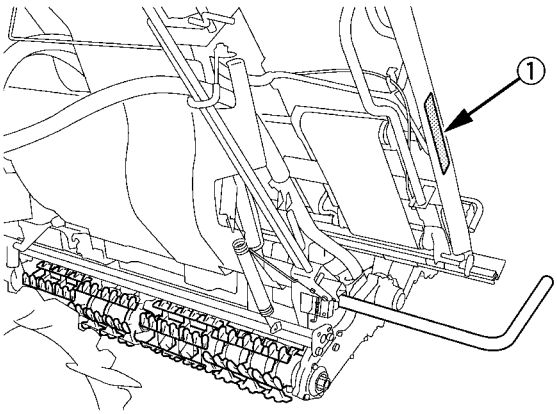
1AKACBCAP010A

[R仕様]

①品番　PP651-4983-1



1AKACBCAP161J



1AKACBCAP184A

[R仕様]

表示ラベルの手入れ

⚠表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルはいつもきれいにして，傷つけないようにしてください。
- ⚠ 表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 型式名・区分と製造番号
2. 搭載機関（エンジン）の型式名と番号

をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

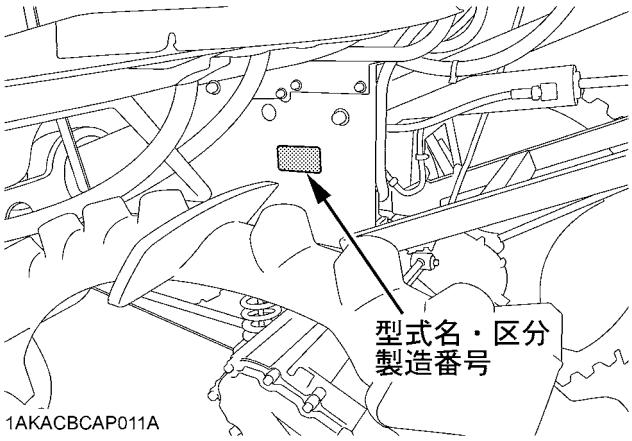
＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆ 認定番号

型　式　名	安全鑑定番号
クボタ NSD8	32149

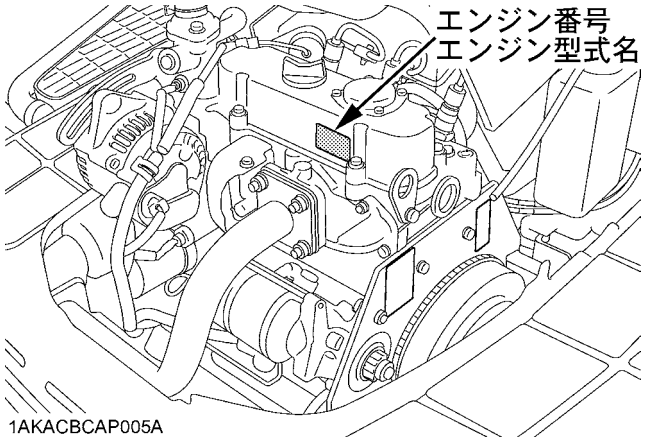
■ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。



1AKACBCAP011A

1AKABAKAP036A

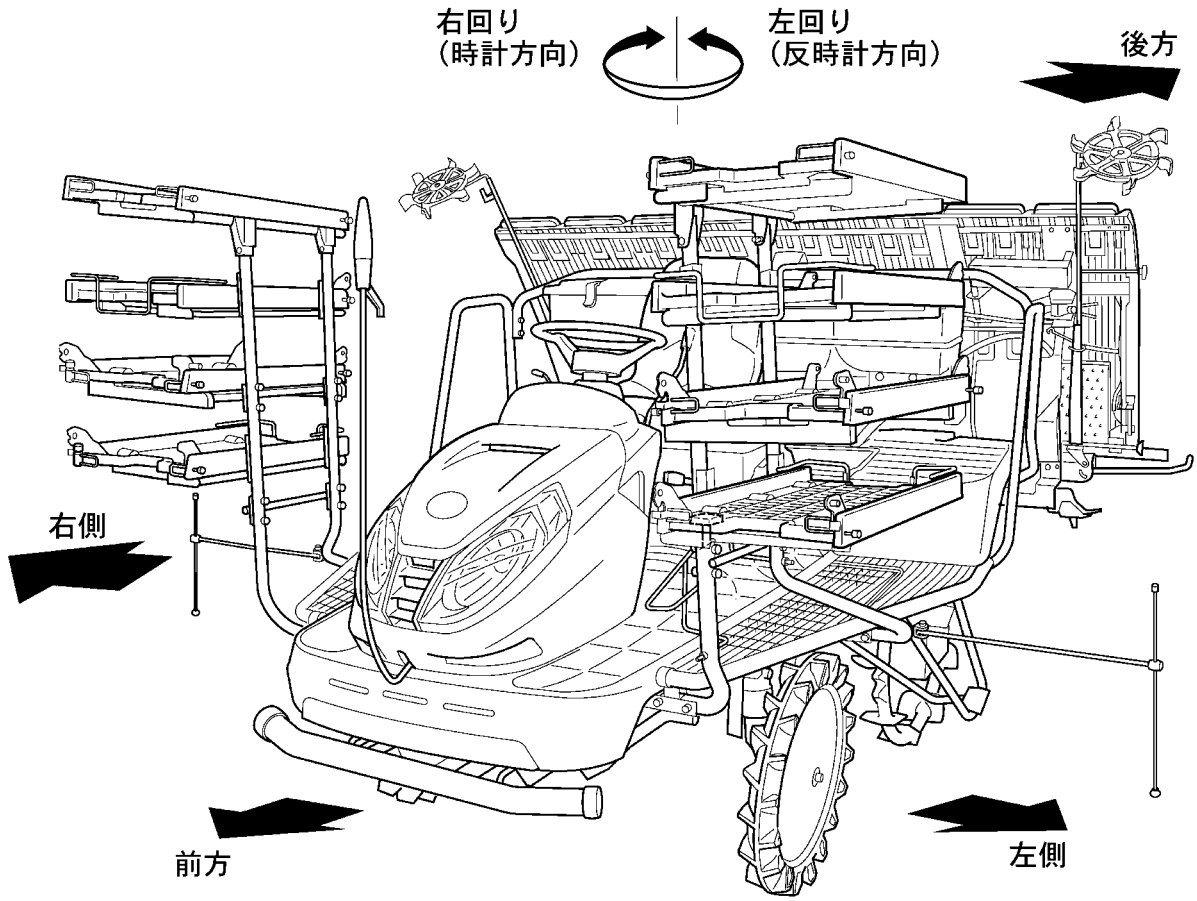


1AKACBCAP005A

装置の名称と取扱い

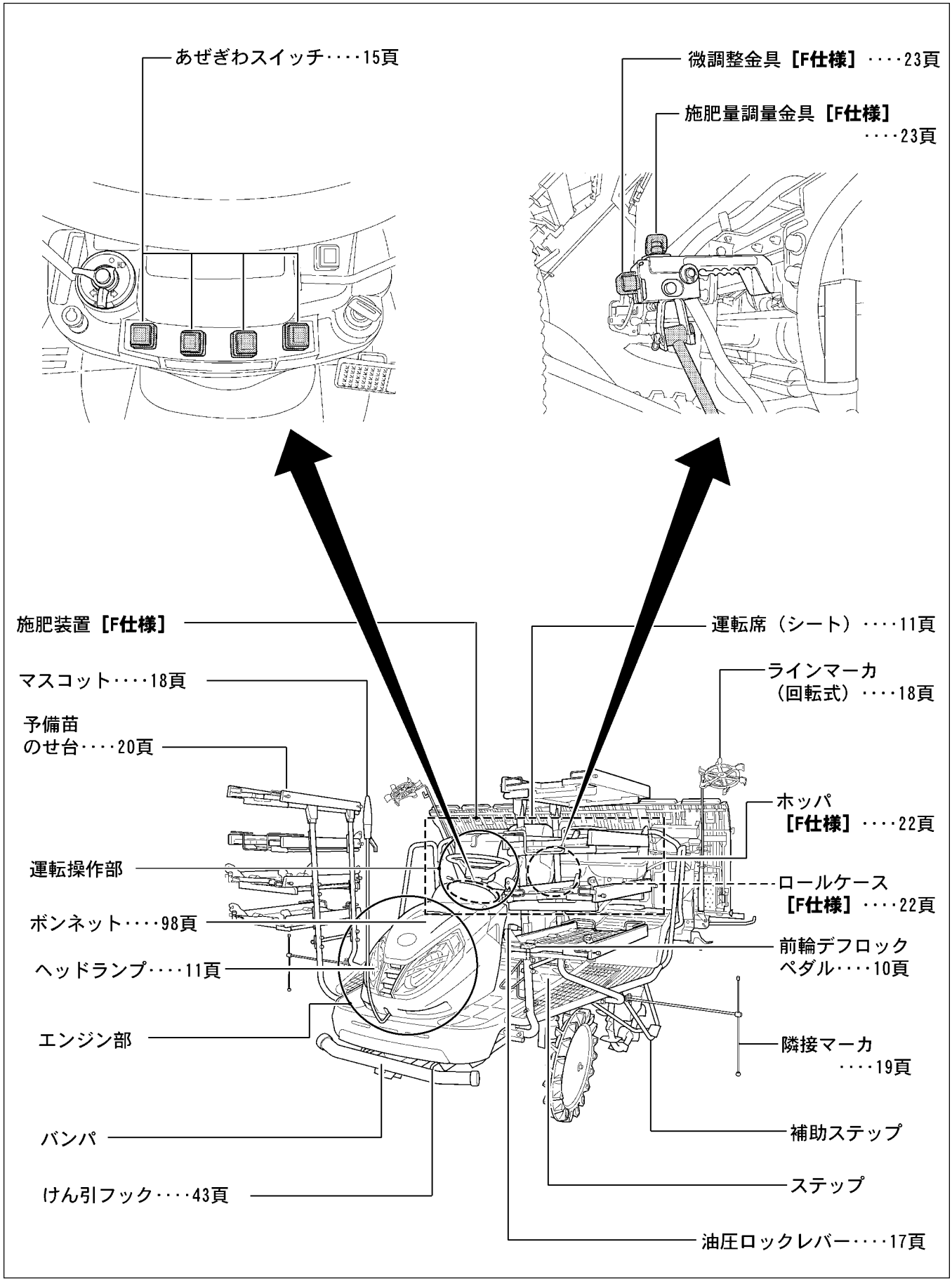
機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は、図示の通りです。

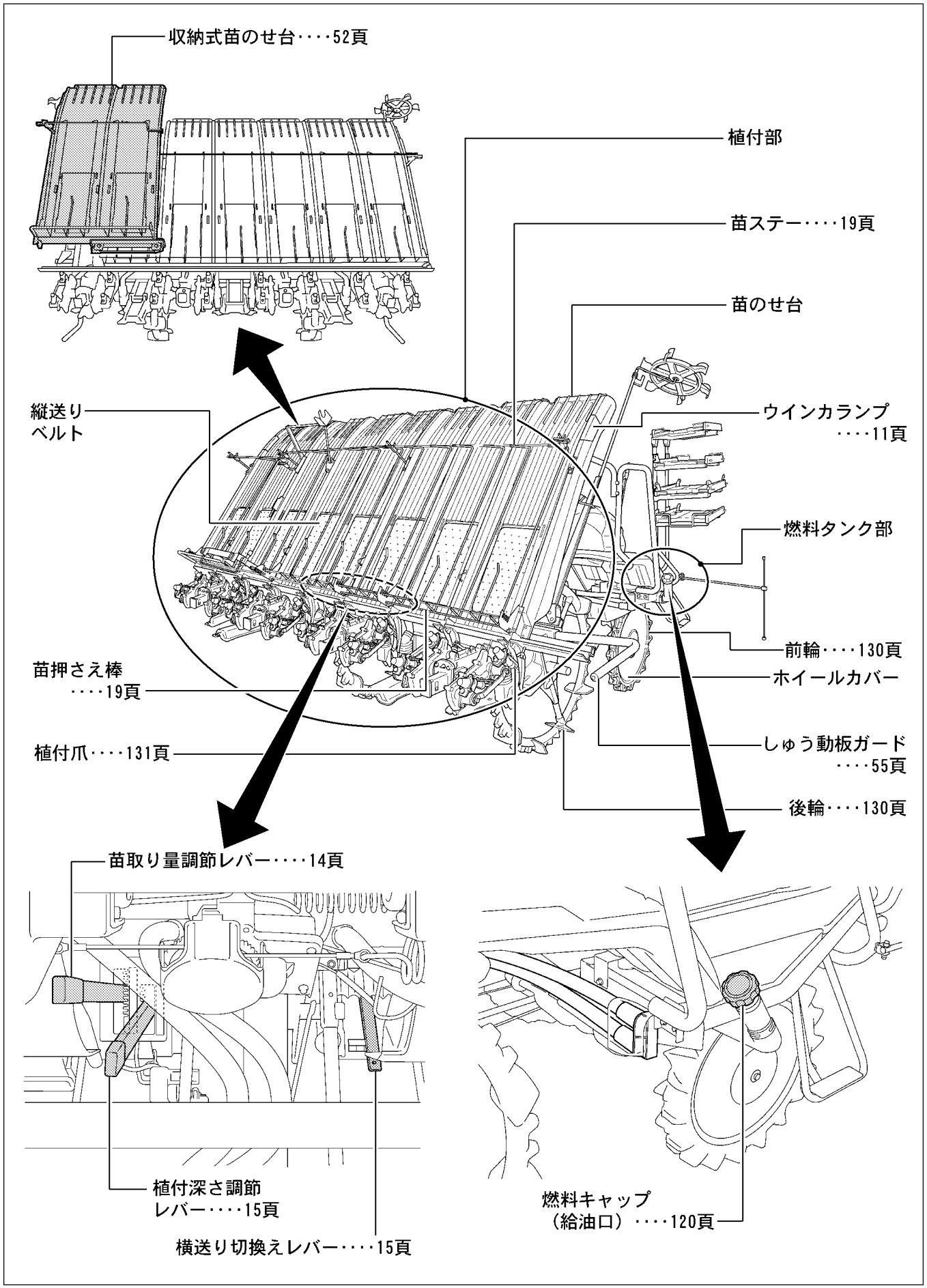


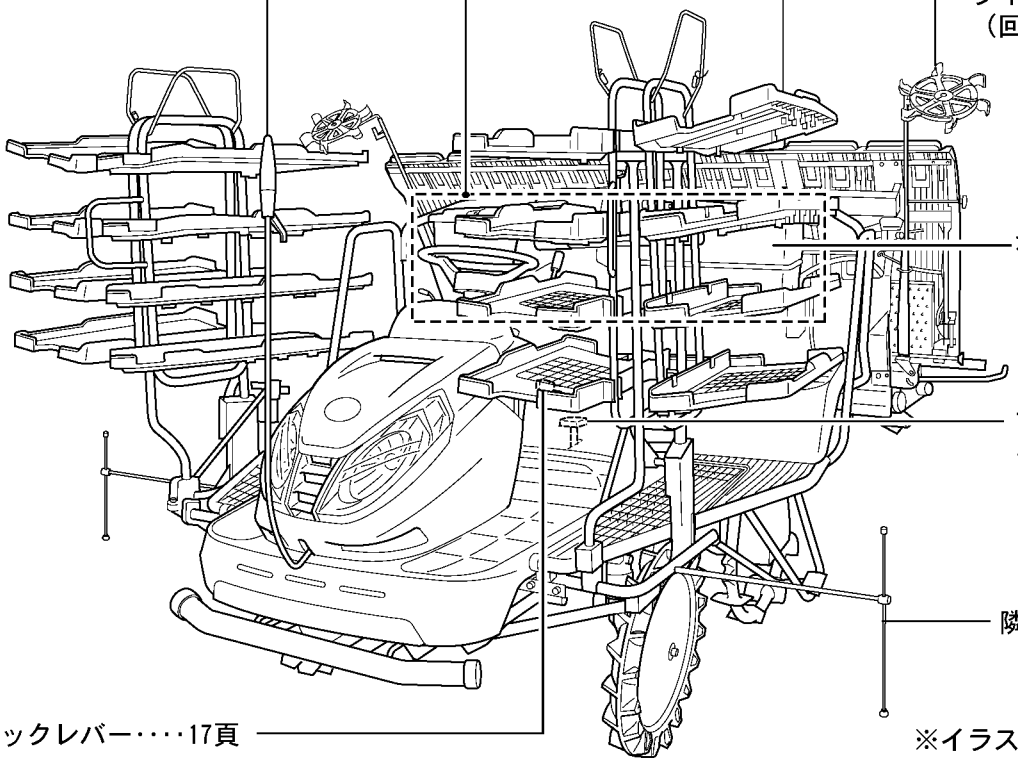
1AKACBCAP002A

各装置の名称

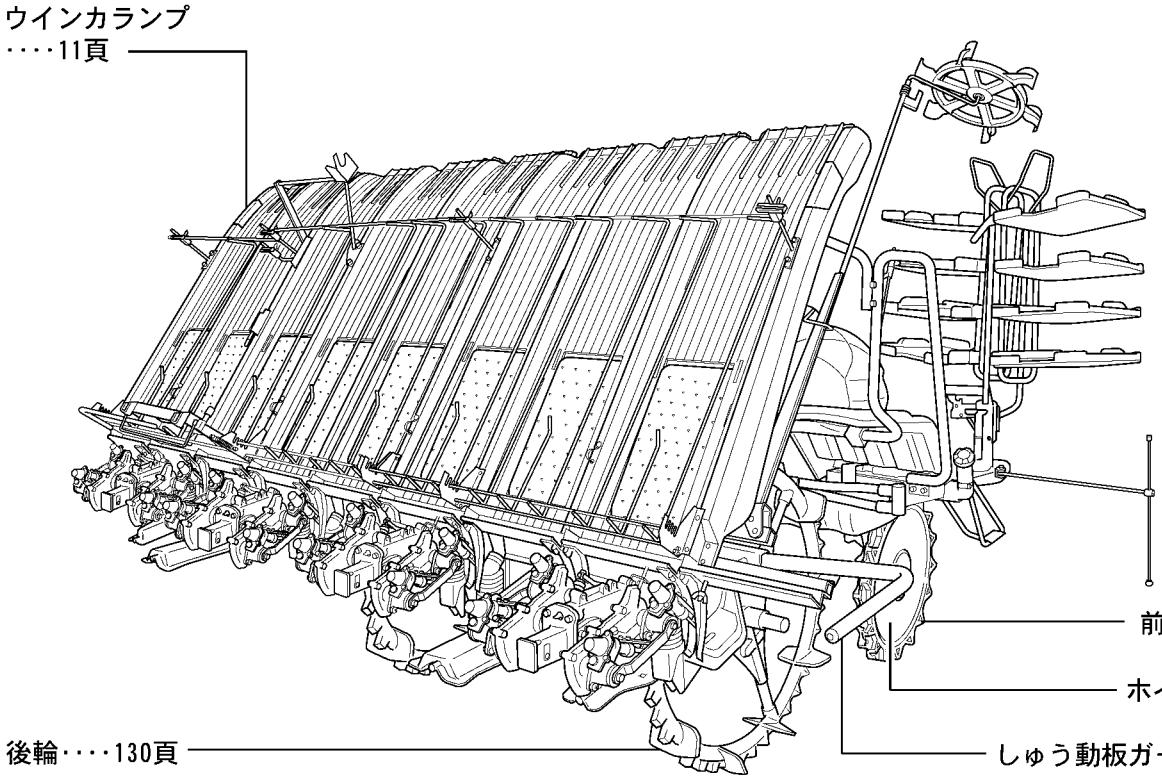

あぜぎわスイッチ‥‥15頁
微調整金具【F仕様】‥‥23頁
施肥量調量金具【F仕様】
‥‥23頁
施肥装置【F仕様】
マスコット‥‥18頁
予備苗
のせ台‥‥20頁
運転操作部
ボンネット‥‥98頁
ヘッドランプ‥‥11頁
エンジン部
バンパ
けん引フック‥‥43頁
運転席（シート）‥‥11頁
ラインマーカ
（回転式）‥‥18頁
ホッパ
【F仕様】‥‥22頁
ロールケース
【F仕様】‥‥22頁
前輪デフロック
ペダル‥‥10頁
隣接マーカ
‥‥19頁
補助ステップ
ステップ
油圧ロックレバー‥‥17頁

装置の名称と取扱い


収納式苗のせ台‥‥52頁
植付部
苗ステー‥‥19頁
苗のせ台
縦送り
ベルト
ウインカランプ
‥‥11頁
燃料タンク部
前輪‥‥130頁
苗押さえ棒
‥‥19頁
ホイールカバー
植付爪‥‥131頁
しゅう動板ガード
‥‥55頁
後輪‥‥130頁
苗取り量調節レバー‥‥14頁
植付深さ調節
レバー‥‥15頁
横送り切換えレバー‥‥15頁
燃料キャップ
（給油口）‥‥120頁

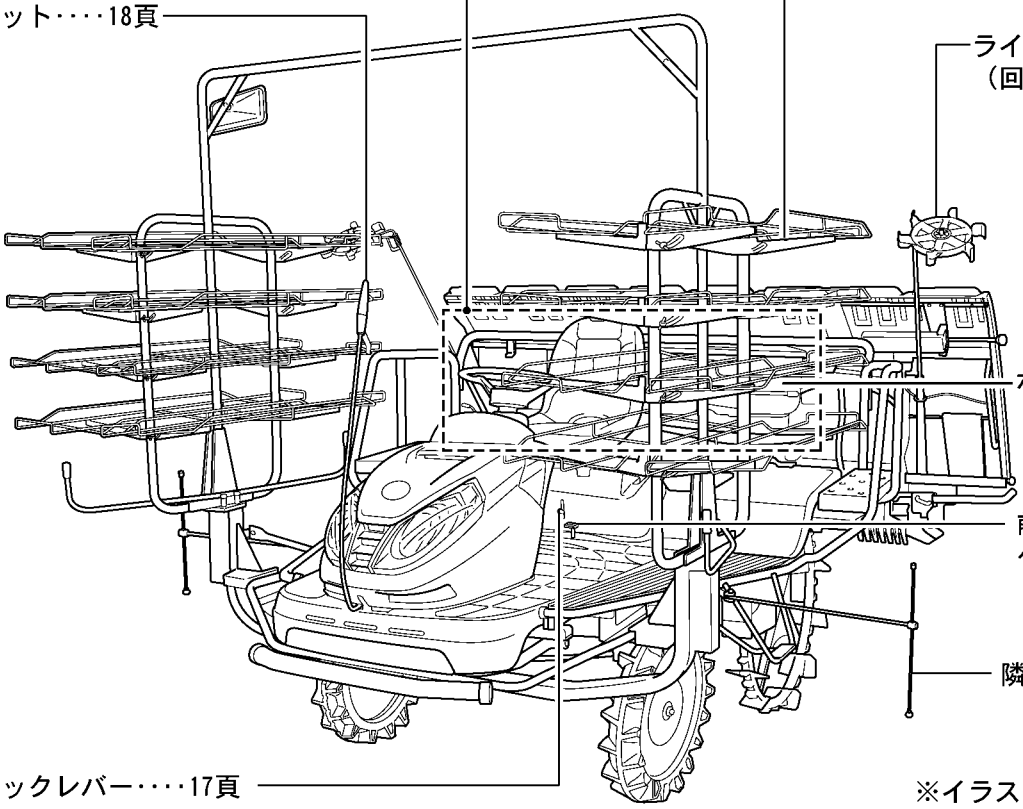


※イラストは8-Y16F仕様

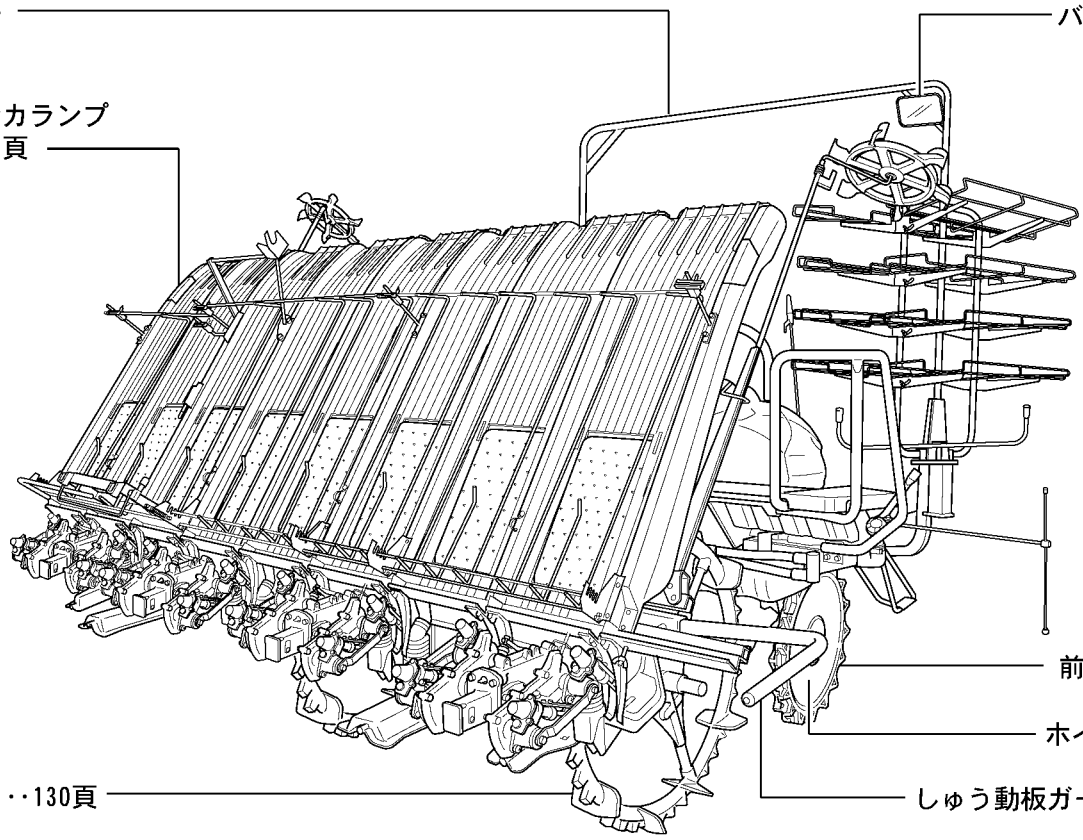


※イラストは8-Y16F仕様

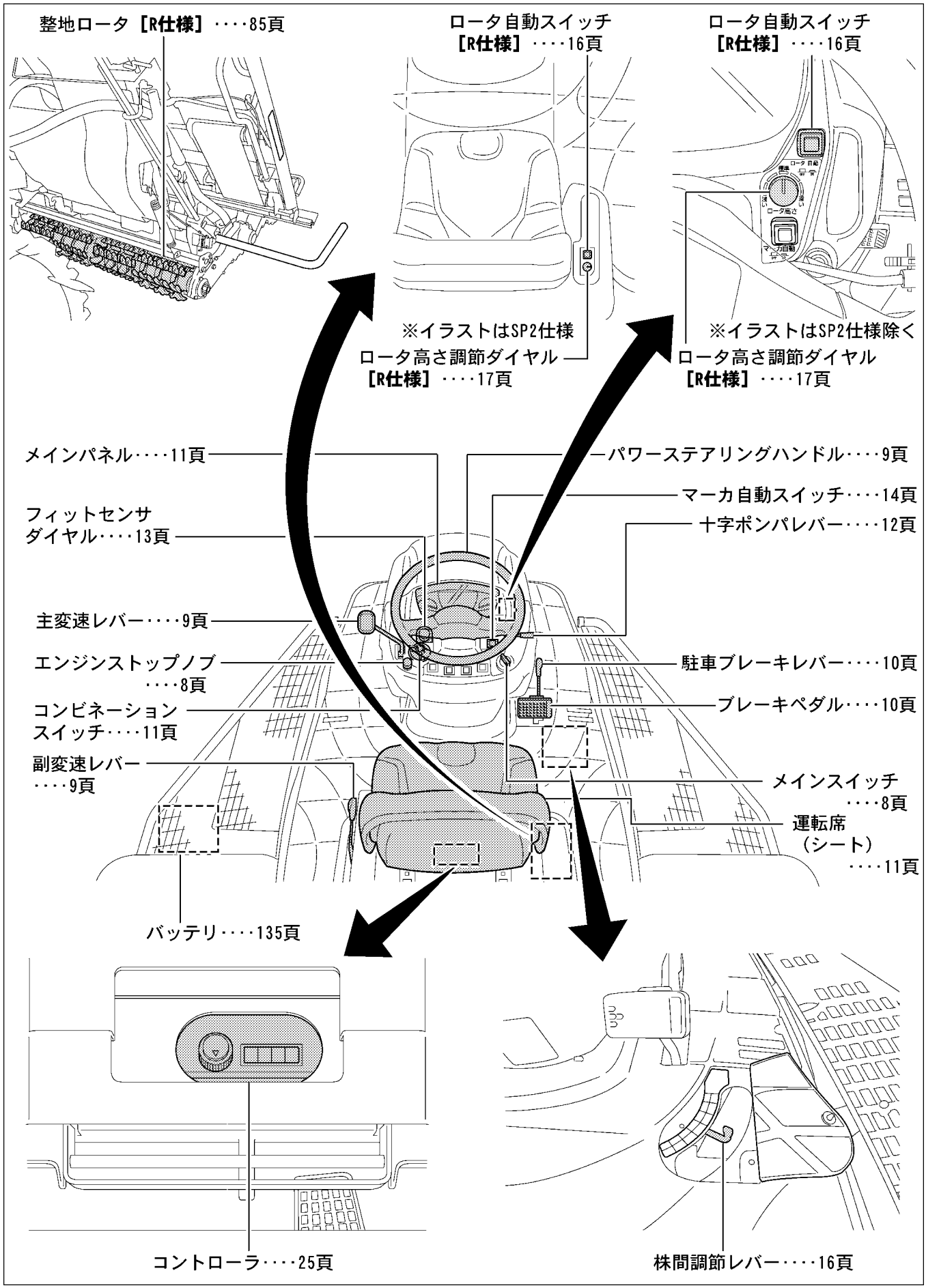
装置の名称と取扱い



※イラストは8-Y32F仕様



※イラストは8-Y32F仕様

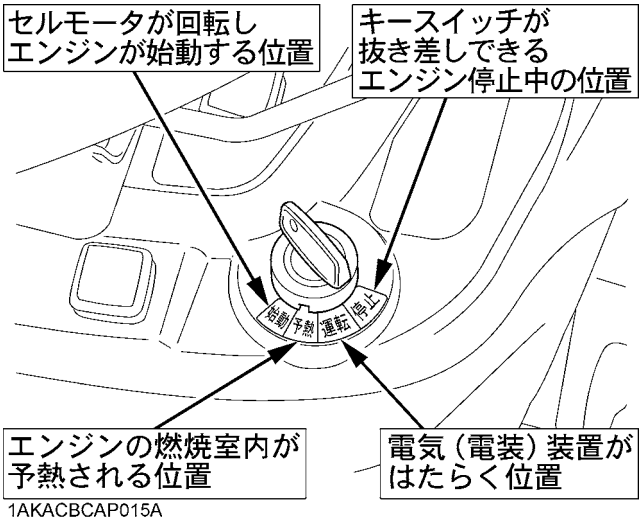

整地ロータ【R仕様】····85頁
ロータ自動スイッチ
【R仕様】····16頁
ロータ自動スイッチ
【R仕様】····16頁
※イラストはSP2仕様
※イラストはSP2仕様除く
ロータ高さ調節ダイヤル
【R仕様】····17頁
ロータ高さ調節ダイヤル
【R仕様】····17頁
メインパネル····11頁
パワーステアリングハンドル····9頁
マーカ自動スイッチ····14頁
フィットセンサ
ダイヤル····13頁
十字ポンパレバー····12頁
主変速レバー····9頁
エンジンストップノブ
····8頁
駐車ブレーキレバー····10頁
コンビネーション
スイッチ····11頁
ブレーキペダル····10頁
副変速レバー
····9頁
メインスイッチ
····8頁
運転席
（シート）
····11頁
バッテリ····135頁
コントローラ····25頁
株間調節レバー····16頁

走行装置の名称とはたらき

◆ エンジン操作関係

■メインスイッチ

田植機の電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。



1AKACBCAP015A

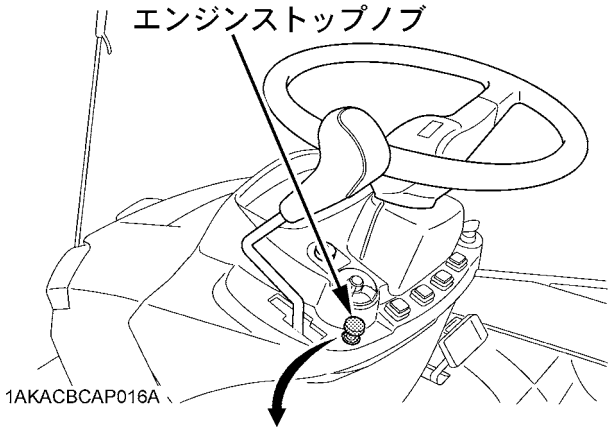
補　足

＊ **［運転］**位置と**［始動］**位置の間は**予熱**位置の範囲（エリア）です。寒冷時にエンジンを始動するときに使用します。(33 ページ参照)

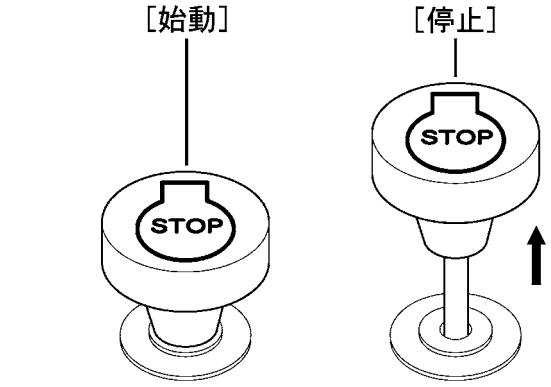
＊ エンジン始動後，キースイッチから手を離すとキースイッチは，**［運転］**の位置に戻ります。

■エンジンストップノブ

キースイッチを**［停止］**位置にしても，エンジンが停止しないときなどに，エンジンを停止させるノブです。



1AKACBCAP016A



1AKACBCAP017A

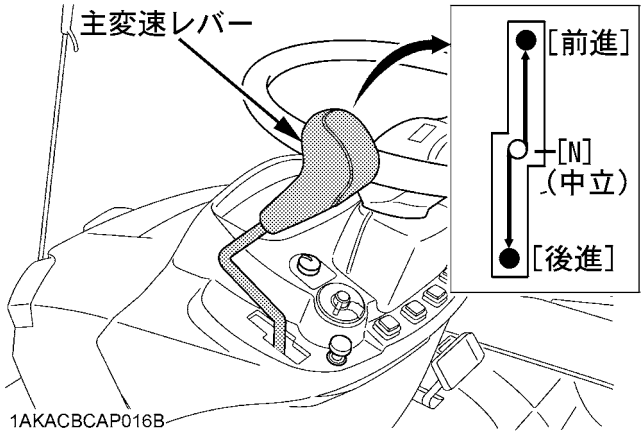
補　足

＊ エンジンストップノブは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では，エンジンは始動しません。

◆ 走行操作関係

■主変速レバー

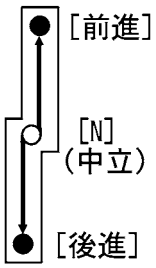
前進・後進・停止（中立）の操作及び走行速度の調整を行なうレバーです。



1AKACBCAP016B

補　足

＊ 走行速度及びエンジン回転数は，主変速レバーを動かす量に応じて変わり(増･減)ます。

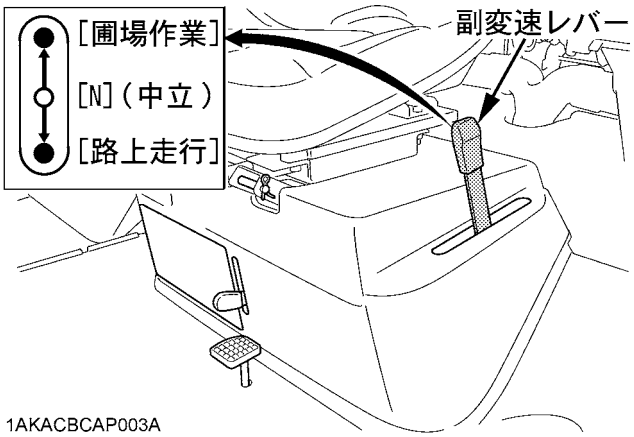


1AKACAIAP365A

＊ 主変速レバーが**[N]（中立）**位置で，レバーを**[左]**に倒すとエンジン回転数が上がります。
＊ 主変速レバーを**[N]（中立）**位置より**[後進]**側に操作するとバックブザーが鳴ります。
＊ 通常の走行を停止するときは，主変速レバーの操作で行なってください。
＊ 植付部が下降しているとき，主変速レバーを**[N]（中立）**位置より**[後進]**側に操作するとバックアップ機能が働いて植付部が上昇します。(植付部が接地していないときは，バックアップ機能は働きません。)

■副変速レバー

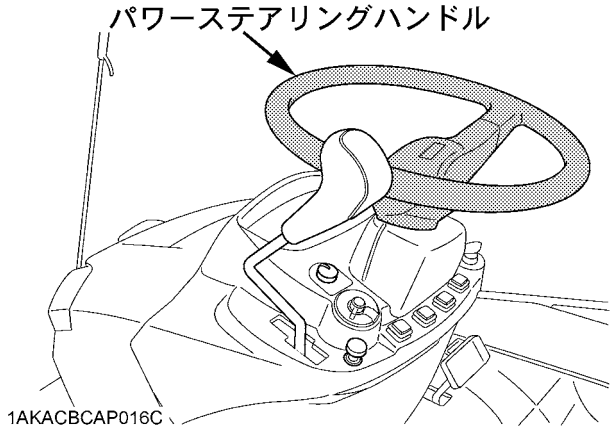
[路上走行]位置と**[圃場作業]**位置の切換えを行なうレバーです。



1AKACBCAP003A

■パワーステアリングハンドル

操向操作（旋回や進路変更）を行なう油圧式のハンドルです。



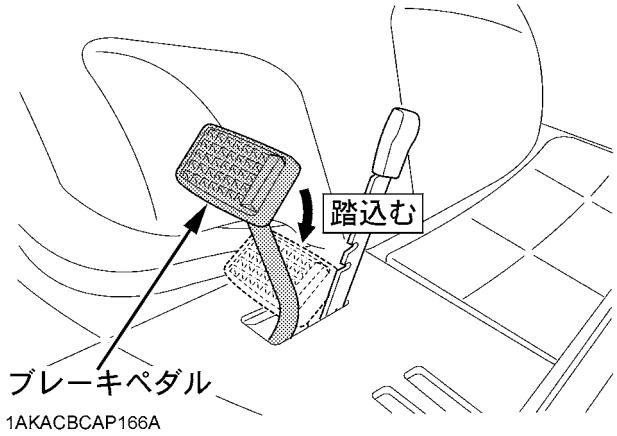
1AKACBCAP016C

重　要

＊ ハンドル操作は，エンジン始動中は軽くなりますが，エンジンが停止しているときは重くなりますので無理に操作しないでください。タイヤの摩耗が早くなったり，リムの破損の原因になります。

■ブレーキペダル

踏込むとブレーキが掛かります。エンジンの始動時や緊急停止時に使用します。



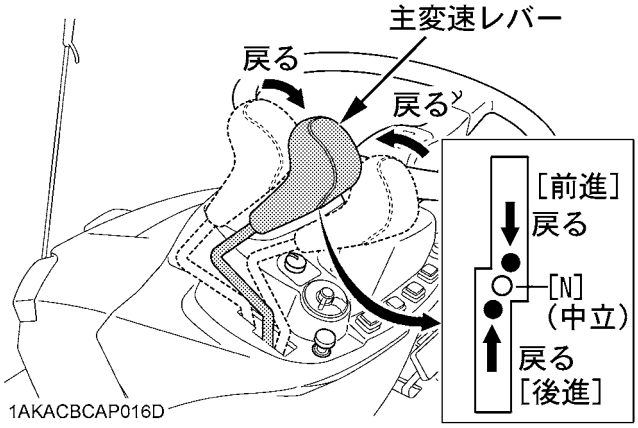
1AKACBCAP166A

重　要

＊ ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーを**前進側，後進側**への操作はできません。無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。

補　足

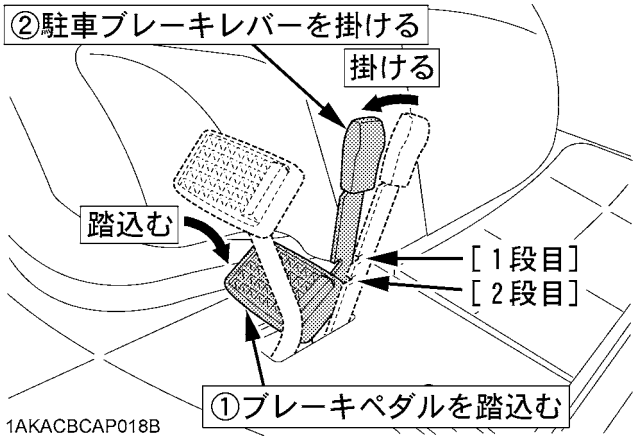
＊ 前，後進中にブレーキペダルを踏込むと，自動減速すると同時に主変速レバーが強制的に**[N]（中立）**へ戻ります。



1AKACBCAP016D

■駐車ブレーキレバー

ブレーキペダルを踏込み，駐車ブレーキレバーでペダルをロックすると駐車ブレーキが掛かります。また，ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキレバーを外すと駐車ブレーキが解除されます。



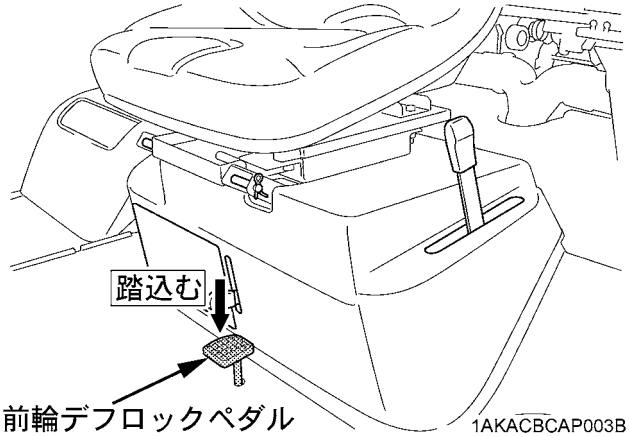
1AKACBCAP018B

補　足

＊ 急な坂道など傾斜の大きいところで駐車するときは，２段目の切欠位置に駐車ブレーキレバーを掛けてください。

■前輪デフロックペダル

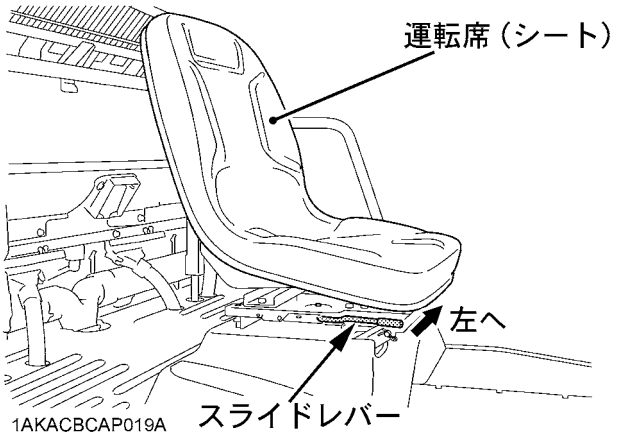
踏込むと，左と右の前輪が一体となって駆動します。あぜごえ，傾斜地（あゆみ板や急な坂道）や前輪がスリップするときに使用します。



1AKACBCAP003B

■運転席（シート）

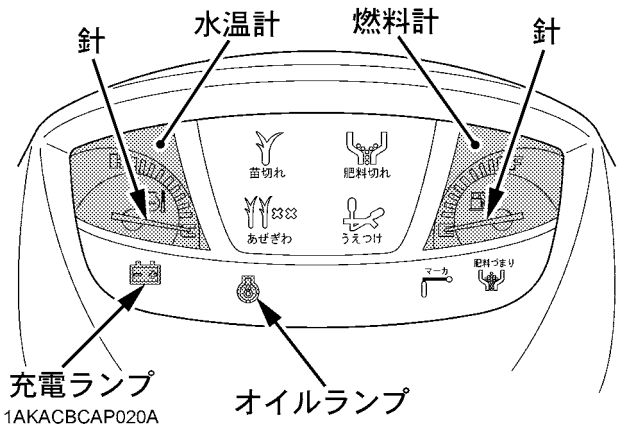
運転席は前後に6段階調節することができます。運転席前下側にあるスライドレバーを左方向に操作して，作業しやすい位置にしてください。



補　足

＊ 肥料補給を行なう時は，運転席を前方にスライドさせてください。肥料補給がしやすくなります。

■メインパネル（走行操作）



● 各メータ

■燃料計

燃料の残量を針で表示（**[F]**〔満タン〕⟷**[E]**〔空〕）します。

■水温計

エンジン冷却水の温度を針で表示（**[C]** ⟷ **[H]**）します。

補　足

＊ キースイッチを**【運転】**位置にするとメータが，はたらきます。

● 各ランプ

■充電ランプ（充電警報）

電気系統の故障で，充電できなくなったときに点灯します。

■オイルランプ（油圧警報）

エンジンオイルの圧力が，異常に低下したとき点灯します。

補　足

＊ 警報発生後の処置については，94 ページを参照してください。また，ランプは異常の原因を取除くと消灯します。
＊ エンジンが停止状態のとき，キースイッチを**【運転】**位置にすると，各警報ランプがランプチェックのため約2秒間点灯したあと消灯します。また，オイルランプと充電ランプは，エンジン始動後に消灯します。
＊ パネル表面の透明なカバー（アクリル樹脂）は，アルコール類（メチルやエチルなど）やカーシャンプー原液を使って掃除はしないでください。カバー表面が白くにごって，見えにくくなります。

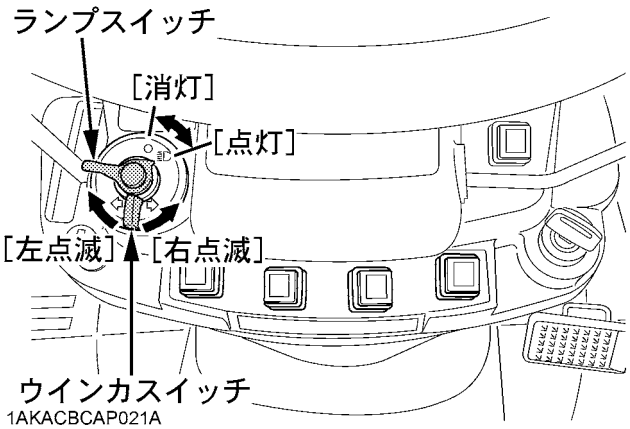
■コンビネーションスイッチ

● ランプスイッチ

[○] ……ヘッドランプが消灯します。
[≡○] ……ヘッドランプが点灯します。

● ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅します。旋回が終ったら，スイッチを中央に戻してください。

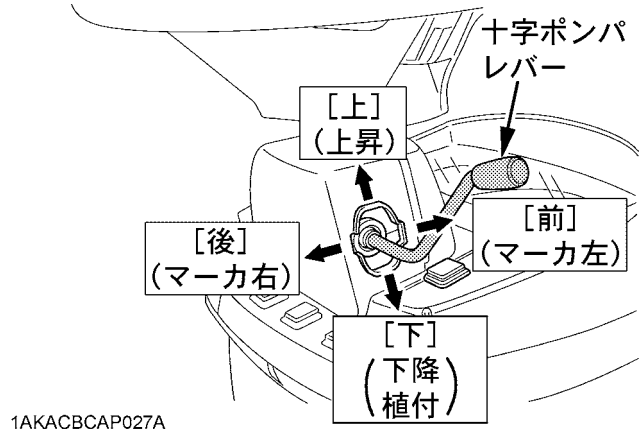


作業装置の名称とはたらき

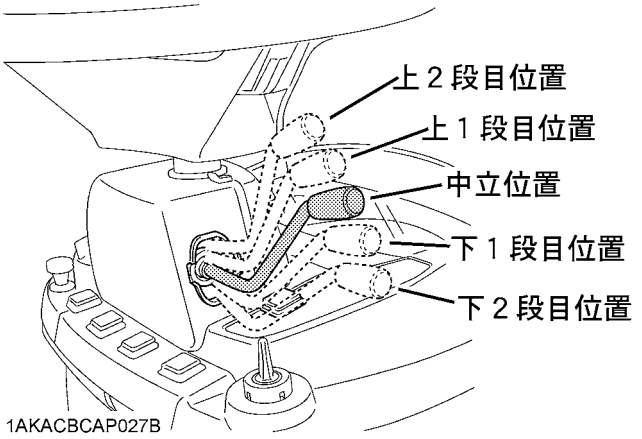
◆ 植付関係

■十字ポンパレバー

エンジンが作動中に植付部（苗のせ台）の**上昇・下降**，動力伝達の**入・切**，ラインマーカのセットを操作するレバーです。操作するときは，**上･下・前・後**各方向に軽く押したあと離してください。



1AKACBCAP027A



1AKACBCAP027B

上［上昇］…… 植付部の駆動が停止し，植付部が上昇します。

補　足

＊ **上１段目**位置にレバーを上げると，上げている間だけ植付部が上昇します。
植付部を一気に最上昇位置にするには，**ピッ**と音が鳴る**上２段目**までレバーを上げてください。

下［下降］･［植付］… 植付部が下降します。そのあと，再度操作すると植付部が駆動します。（爪が回転し，苗のせ台が横送りします。）

補　足

＊ **下１段目**位置にレバーを下げると，下げている間だけ植付部が下降します。
植付部を一気にフロートが接地するまで下げるには，**ピッ**と音が鳴る**下２段目**位置までレバーを下げてください。
もう１度レバーを**下２段目**位置まで下げると，**ピッピッ**と２回連続音がして植付部が駆動します。

前［マーカ左］……
後［マーカ右］ 植付部が下降状態のとき，操作するとラインマーカが**左**（**前**方）又は，**右**（**後**方）に倒れ（セット）ます。

重　要

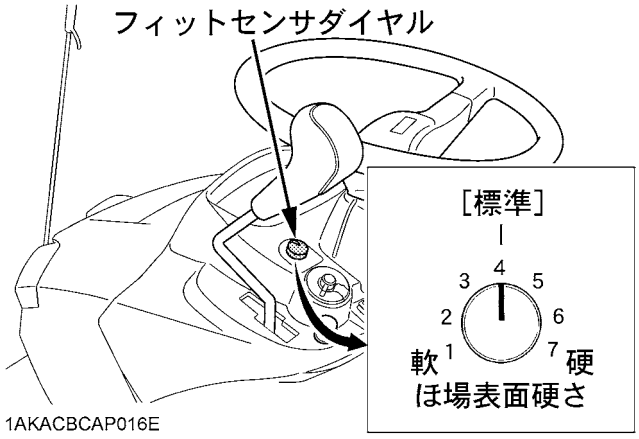
＊ レバーは軽く操作してください。強く操作するとレバーの破損やスイッチの故障によるトラブルの原因となります。

補　足

＊ 植付部が接地している状態で，主変速レバーを**［N］（中立）**位置より**［後進］**側に操作すると，植付部の駆動が停止し，植付部が上昇します。（バックアップ機能）
＊ 植付部を上昇させるとラインマーカは自動的に収納されます。

■フィットセンサダイヤル

- フィットセンサは，フロートによるほ場表面の整地を最良にするため，ほ場表面の状態に合わせて植付部の上下の動きの感度を調節する装置です。
- フィットセンサダイヤルは感度を変更するダイヤルです。ほ場の状態に合わせて７段階（１～７）の調節が行なえます。



1AKACBCAP016E

補　足

＊ 出荷時は，**【４】**の位置です。

■自動植付スイッチ

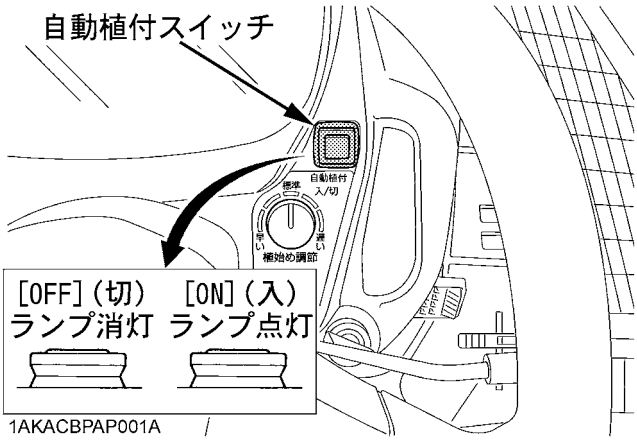
[R-SP2 仕様]

注　意

＊ 自動昇降する植付部に接触しケガをするおそれがあるので，機械の近くに人がいるときや運転者が運転席から離れるときは，自動植付機能を停止してください。

植付け作業中の旋回時，ハンドルを旋回方向に操作すると，植付部が上昇して植付クラッチが**【切】**になります。旋回後にハンドルを戻すと植付部が下降して，そのまま直進すると植付クラッチが**【入】**になります。

自動植付スイッチ **【ON】（入）**
……ランプが点灯し，自動植付が働きます。
自動植付スイッチ **【OFF】（切）**
……ランプが消灯し，自動植付が停止します。



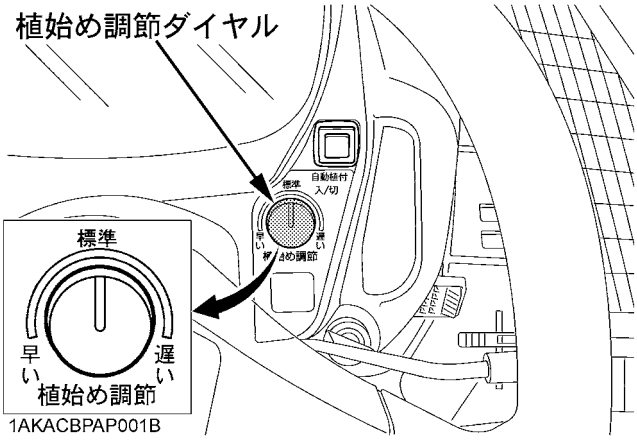
1AKACBPAP001A

重　要

＊ 施肥作業では，自動植付時も植始めは低速で行なってください。
＊ 高速で植始めると植始めに対し，施肥始め位置が遅れ施肥ムラになります。

■植始め調節ダイヤル

自動植付スイッチが **【ON】** の時，旋回後の植始め位置を前後に（無段階に最大 80cm）調節するためのダイヤルです。



1AKACBPAP001B

補　足

＊ ほ場条件（スリップ状態など）や運転操作方法に応じて，ダイヤルで植始め位置を調節してください。
＊ 変形田や深田，粘土質のほ場など植始め位置が揃わない条件では，ポンパレバーで植付操作，マーカ操作をしてください。
＊ 施肥作業では，植始め調節ダイヤルを少し早目に設定してください。

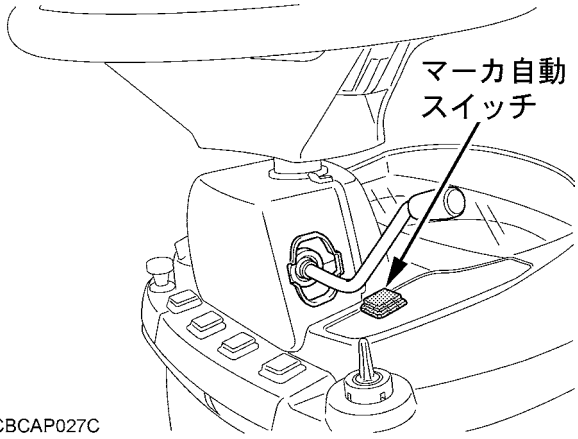
[R-SP2 仕様]

■ツインモードマーカ

[R-SP2 仕様除く]

マーカ自動スイッチを押すとスイッチが点灯し，自動モードが起動します。（次の操作手順となります）

- 初回のみ十字ポンパレバーで右か左のマーカを選択します。
- 次回からは植付部の上下に応じ，スイッチをオフにしない限り自動的に左右のマーカが交互に出ます。(エンジンを停止してもリセットはかかりません)



1AKACBCAP027C

補　足

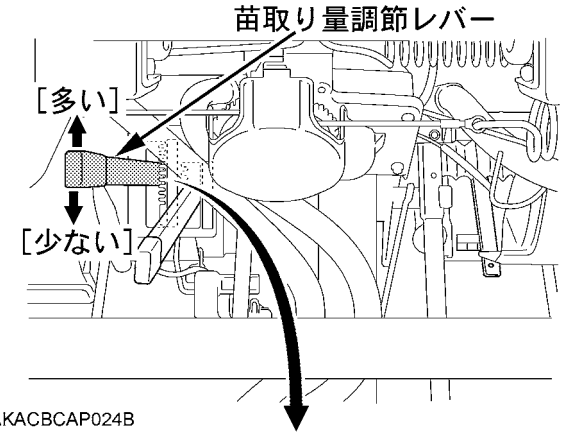
＊ 自動モード中，マーカ自動スイッチを押すと，自動モードは解除されます。

＊ 自動モード中でも，十字ポンパレバーでのマーカ操作ができます。

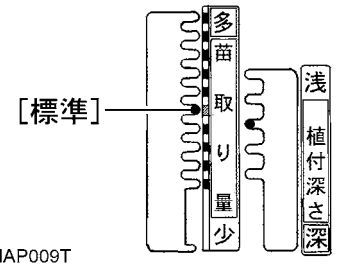
[R-SP2 仕様除く]

■苗取り量調節レバー

苗の縦取り量を調節するレバーです。苗の状態や種類に合わせて 10 段階の調節が行なえます。



1AKACBCAP024B



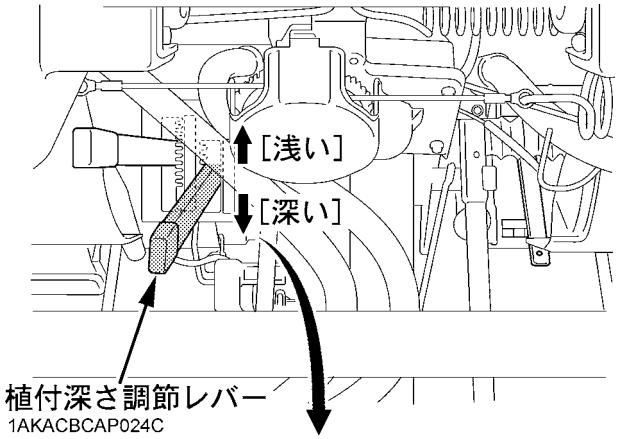
1AKACAIAP009T

補　足

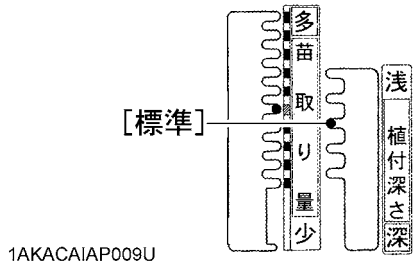
＊ 出荷時は，**【最多】**位置です。

■植付深さ調節レバー

ほ場に適した苗の植付深さを調節するレバーです。苗の植付深さに合わせて５段階の調節が行なえます。



1AKACBCAP024C



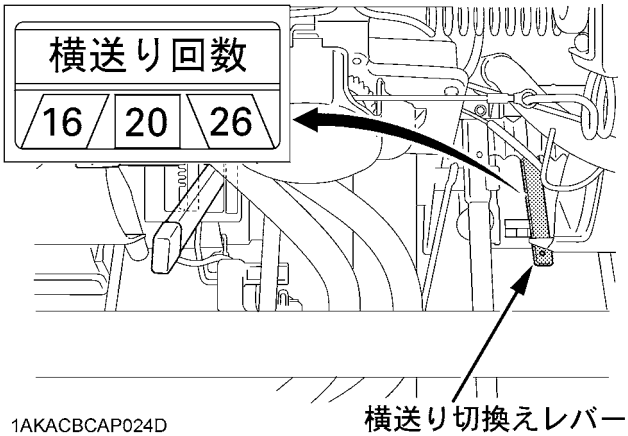
1AKACAIAP009U

補　足

＊ 出荷時は**【最深】**位置です。

■横送り切換えレバー

苗の横送り回数を切換えるレバーです。苗の種類に合わせて３段階（16 回〔成苗〕・20 回〔中苗〕・26 回〔稚苗〕）の切換えが行なえます。



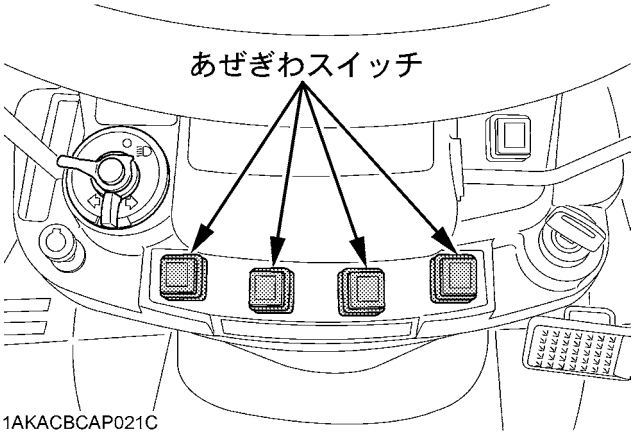
1AKACBCAP024D

補　足

＊ 出荷時は**【26 回】**位置です。

■あぜぎわスイッチ

パネル部のスイッチであぜぎわクラッチの**入／切**ができます。クラッチを**【切】**にするとスイッチが点灯します。



1AKACBCAP021C

補　足

＊ クラッチは右端，又は左端のいずれかからの順番でしか切ることができません。
＊ 入れるときは点灯しているあぜぎわスイッチの最右か最左を押すと全条**【入】**に戻ります。内側の条のスイッチから順に押し，２条ずつ**【入】**に戻すこともできます。
＊ あぜぎわスイッチを使用するときは，植付爪が**【停止】**又は，**【低速回転時】**に行なってください。

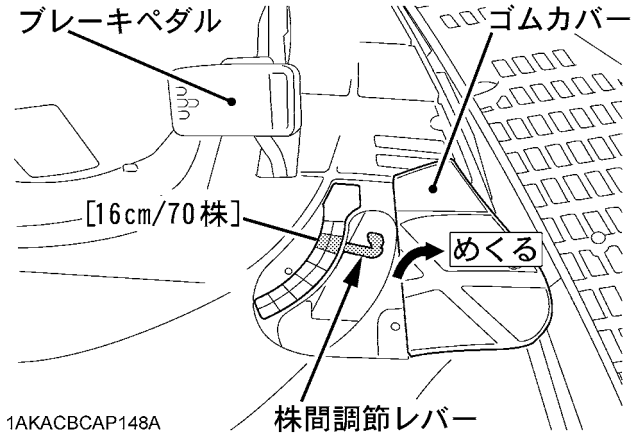
◆ あぜぎわクラッチ自動復帰

植付部を上げると，自動的にあぜぎわクラッチの**【切】**状態が解除され，ブザーが鳴ります。

■株間調節レバー

[C 仕様除く]

植付株間の調節を行なうレバーです。5段階の株間に調節できます。



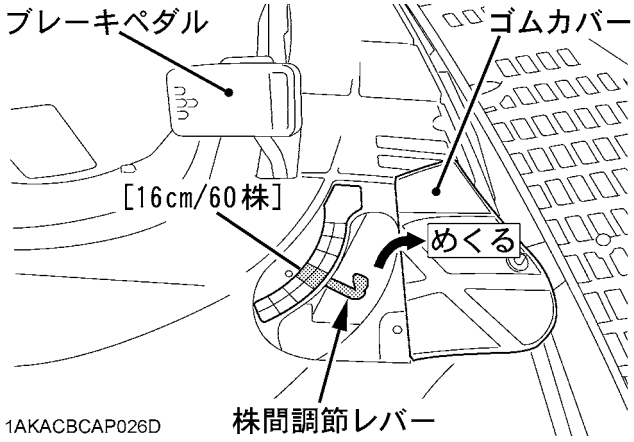
補　足

＊ 出荷時は，**[16cm/70 株]** 位置です。

[C 仕様除く]

[C 仕様]

植付株間の調節を行なうレバーです。6段階の株間に調節できます。



補　足

＊ 出荷時は，**[16cm/60 株]** 位置です。

[C 仕様]

■ロータ自動スイッチ

[R 仕様]

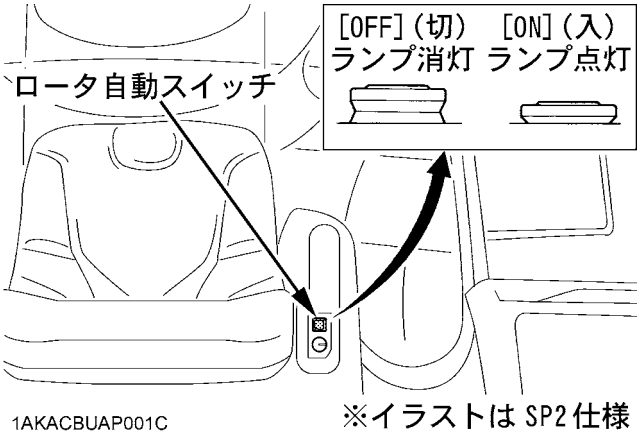
整地ロータの昇降を制御するスイッチです。
スイッチを押すとランプが点灯します。

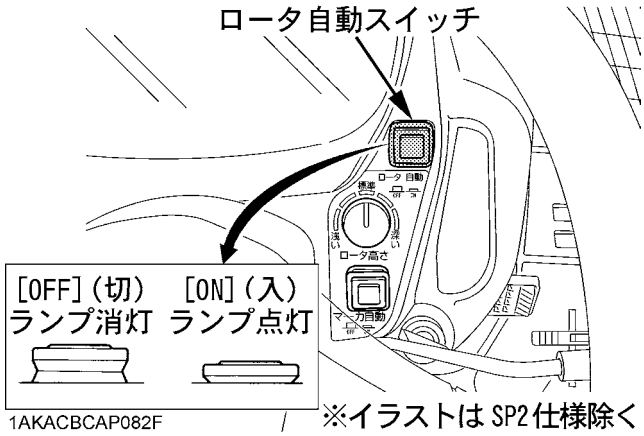
ロータ自動スイッチ **[ON]（入）**

…… ランプが点灯し，植付クラッチと連動して整地ロータが昇降します。

ロータ自動スイッチ **[OFF]（切）**

…… ランプが消灯し，整地ロータを格納位置に保持します。





補　足

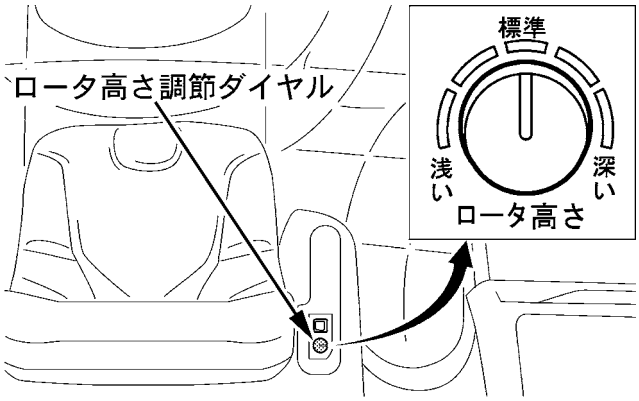
＊ 整地ロータの昇降は，植付クラッチ **[入]** で下降し，植付クラッチ **[切]** で上昇します。

[R 仕様]

■ロータ高さ調節ダイヤル

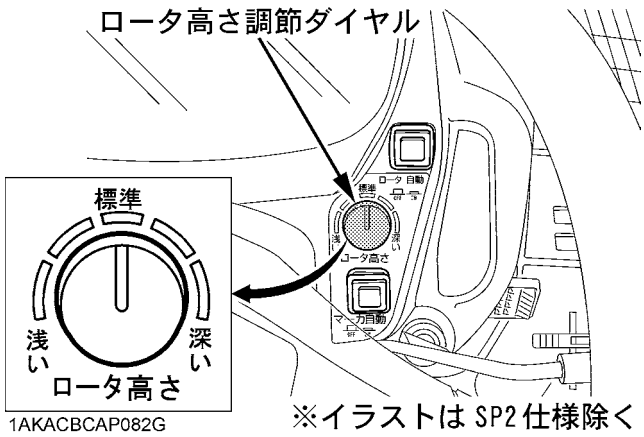
[R 仕様]

整地ロータの高さを微調節するダイヤルです。整地ロータは，ほ場の車輪跡の整地を行ない，植跡をきれいにするためのものです。ほ場条件によりダイヤルを切換えて整地ロータの高さ（ほ場上面からの高さ）を変えてください。



1AKACBUAP001D

※イラストは SP2 仕様



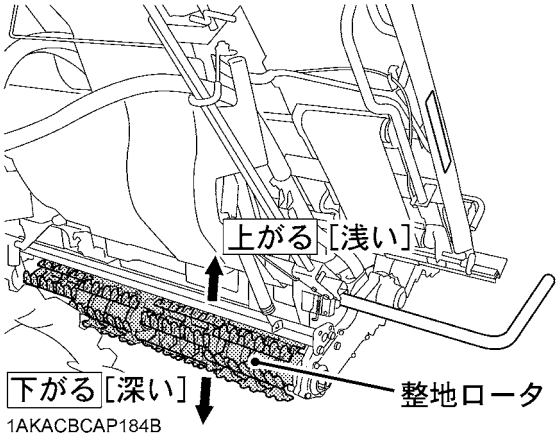
1AKACBCAP082G

※イラストは SP2 仕様除く

補　足

＊ ほ場条件によっては，ロータ自動スイッチを **[OFF]** にし，ロータを格納位置にした方がきれいに植付けられる場合があります。

＊ 整地ロータ高さ調節ダイヤルを操作すると整地ロータの高さが変わります。ラベル表示の **[深い]** の方向に切換えると整地ロータは下がり，**[浅い]** の方向に切換えると整地ロータは上がります。

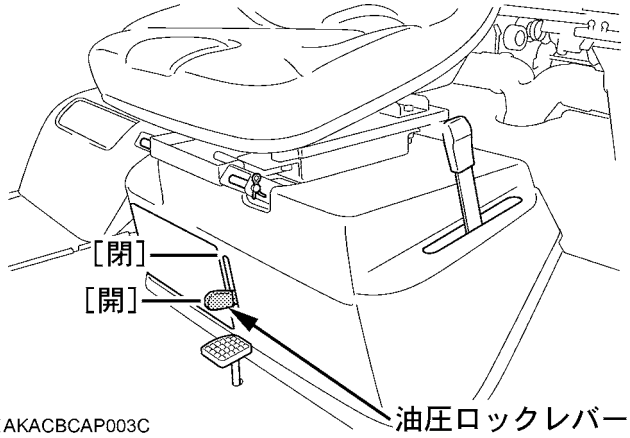


1AKACBCAP184B

[R 仕様]

■油圧ロックレバー

植付部の下降防止を行なう油圧のロックレバーです。ロックレバーを上げる（**[閉]** 位置）と，エンジンが作動中に十字ポンパレバーを操作しても植付部は下降 ⟷ 上昇しません。解除するときは，ロックレバーを下げて（**[開]** 位置）ください。



1AKACBCAP003C

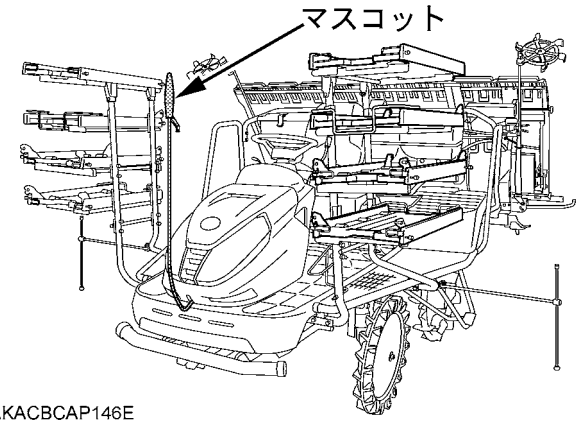
補　足

＊ レバーを操作するときは，上又は，下方向いっぱいまで操作してください。

■マスコット

[R-SP2 仕様除く]

マスコットは，ラインマーカで引かれた線上を直進していくための目印となるものです。
また，警報発生時点滅します。（苗切れ，肥料切れ，肥料詰まり，植付クラッチ）



1AKACBCAP146E

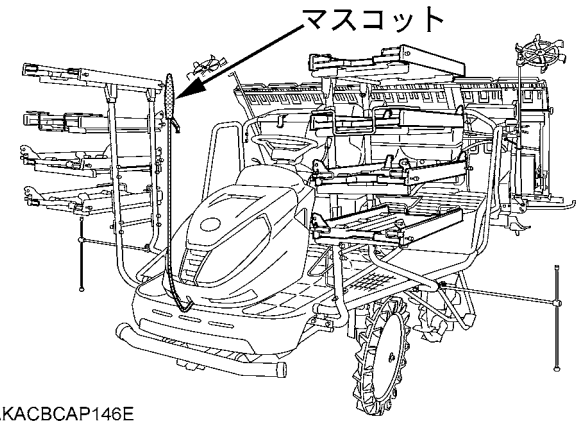
[R-SP2 仕様除く]

■マスコット（安心マスコット）

[R-SP2 仕様]

マスコットは，ラインマーカで引かれた線上を直進していくための目印となるものです。
また，「自動」，「植付クラッチ」の作動状態をランプで表示します。

ランプ点灯…自動 **[ON]**，植付クラッチ **[入]**
ランプ点滅…自動 **[ON]**，植付クラッチ **[切]**
ランプ消灯…自動 **[OFF]**

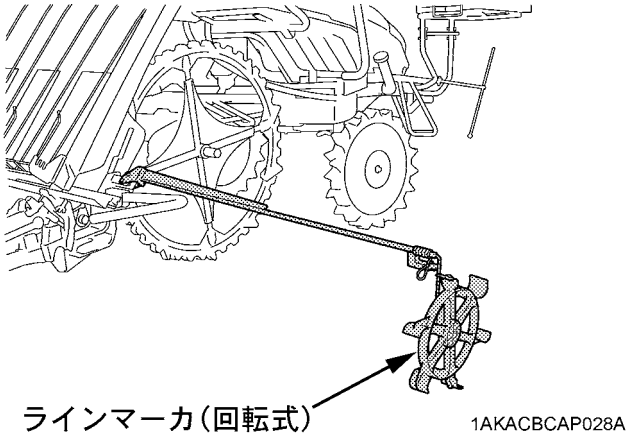


1AKACBCAP146E

[R-SP2 仕様]

■ラインマーカ

次行程を植付けるとき，適正な隣接条間を保つための目標となる線をほ場面に引きます。



1AKACBCAP028A

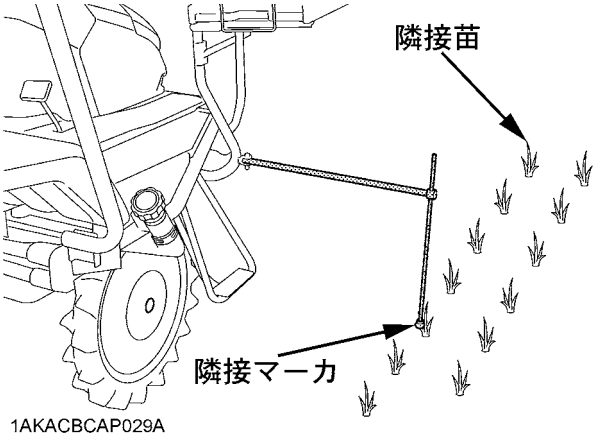
補　足

＊ 植付部を上昇させるとラインマーカは自動的に収納されます。
＊ 十字ポンパレバーを **[前]（マーカ左）** 及び **[後]（マーカ右）** 方向に押すと，マーカが収納されます。
（このとき，植付クラッチは切れません）
再び **[前]・[後]** に操作してマーカを倒すこともできます。

■隣接マーカ

[Y16・Y32 仕様除く]

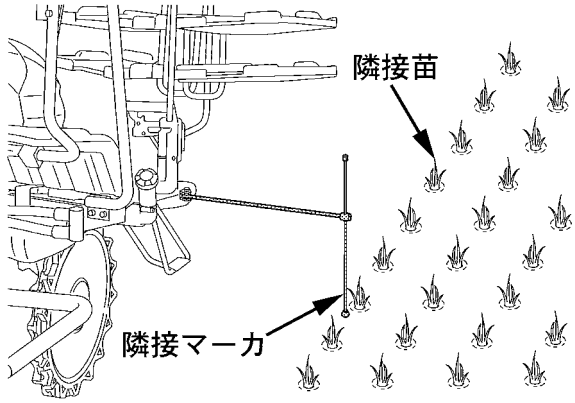
あぜぎわの植付けを行なう場合やラインマーカで引かれた線が見えにくいときは，次行程の植始めに隣接条の苗の真上にマーカを合わせて植付けると適正な隣接条間が保てます。



1AKACBCAP029A

[Y16・Y32 仕様除く]

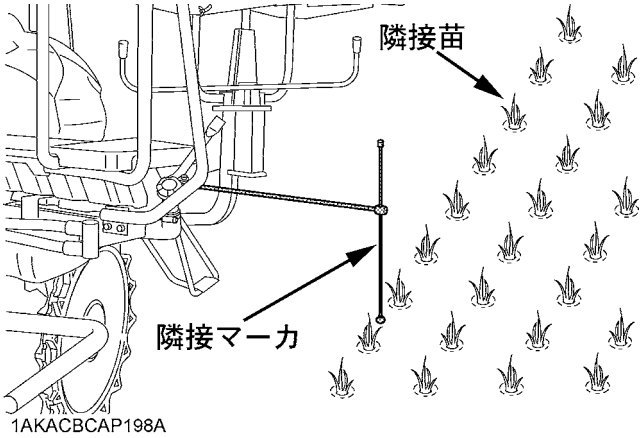
[Y16 仕様]



1AKACBCAP208A

[Y16 仕様]

[Y32 仕様]

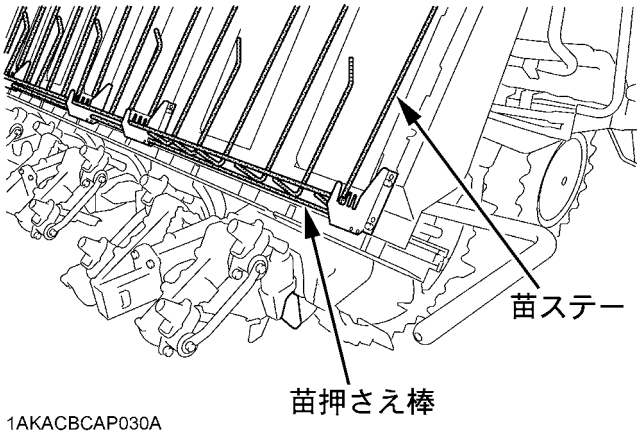


1AKACBCAP198A

[Y32 仕様]

■苗ステー・苗押さえ棒

苗ステーは，薄くて軟弱な苗床や根張りの悪い苗床から，苗がくずれ落ちて発生する欠株を防ぎます。また，苗押さえ棒は，植付時の苗の倒れや欠株を防ぎます。

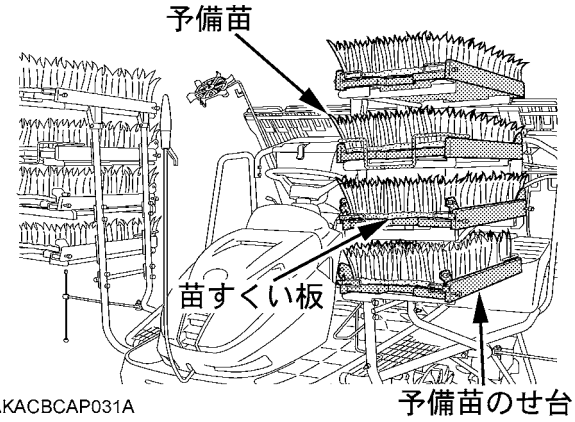


1AKACBCAP030A

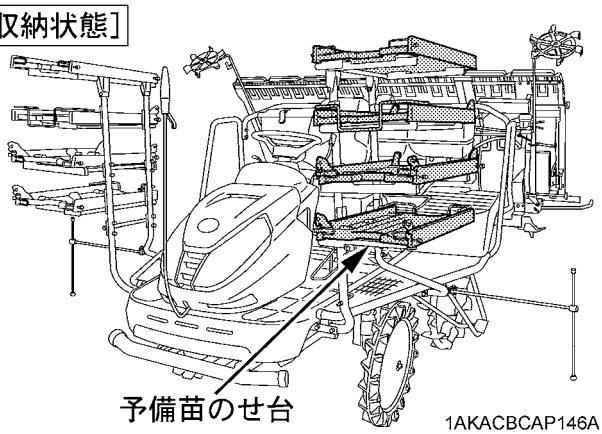
■予備苗のせ台

[Y16・Y32 仕様除く]

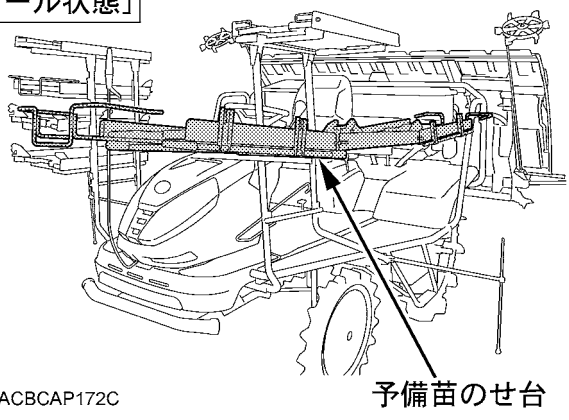
予備苗を８枚載せることができます。また，予備苗のせ台は取外してレール状に連結できます。あぜなどから苗補給を行なうとき，レール状にすると補給しやすくなります（46 ページ参照）。また旋回時など前方の予備苗が邪魔なときは，折りたたんでください。



［収納状態］



［レール状態］

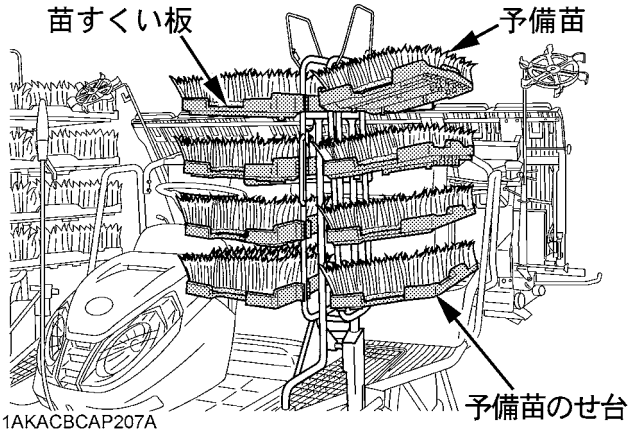


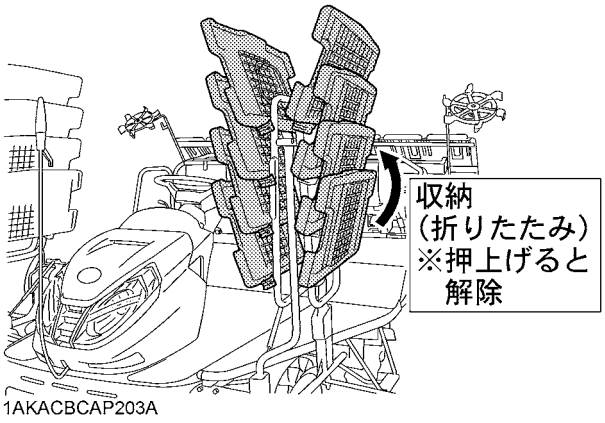
[Y16・Y32 仕様除く]

■回動式予備苗のせ台

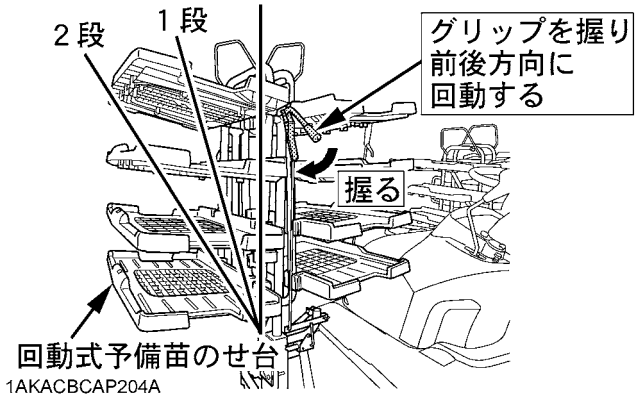
[Y16 仕様]

予備苗を 16 枚載せることができます。また予備苗のせ台は，上側に収納（折りたたみ）することができます。収納時に各段の予備苗のせ台の上段側のフック部にロックしてください。
また，ロックを解除するときは，いったん押上げて，フック部のロックを外してください。





［苗補給位置］　［植付作業・移動走行］位置



補　足

＊ 予備苗のせ台は，苗補給位置（２段階）･植付作業･移動走行位置の３段階に回動します。

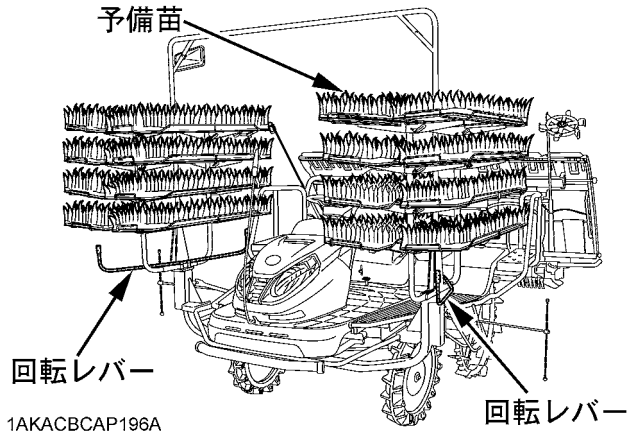
[Y16 仕様]

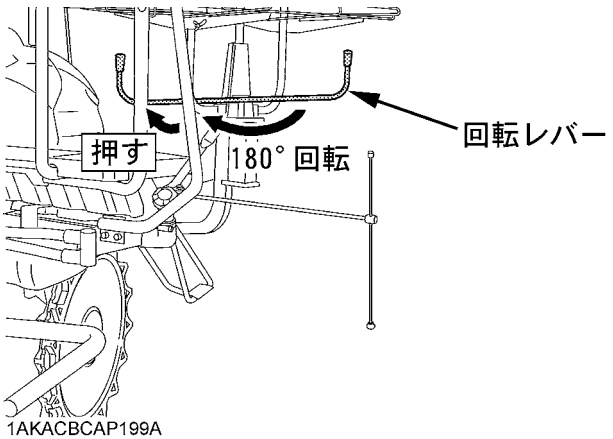
■回転式予備苗のせ台

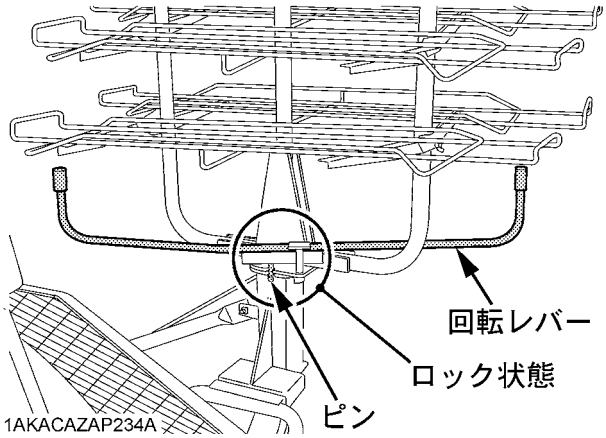
[Y32 仕様]

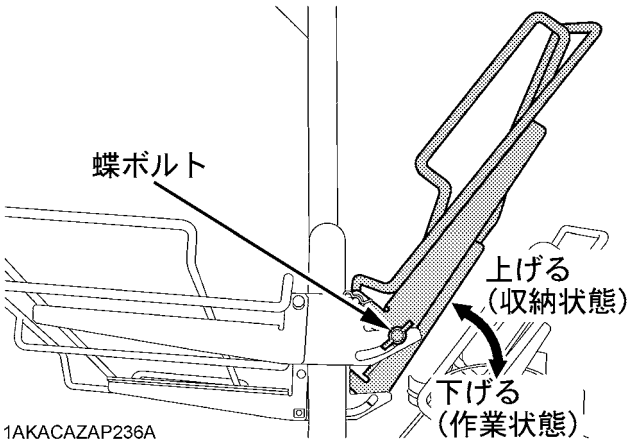
予備苗を 32 枚（苗箱）載せることができます。また，回転レバーを操作して予備苗のせ台を回転することができます。

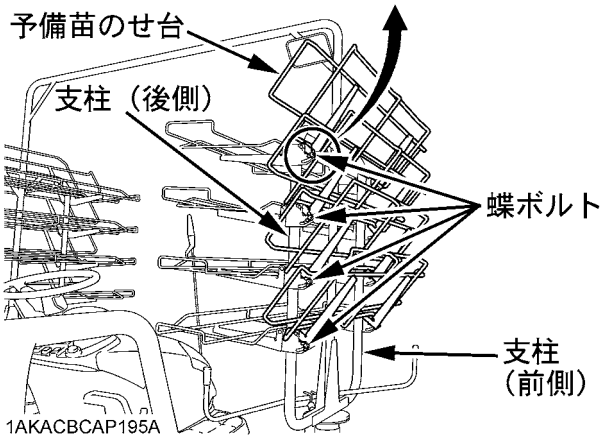
回転するときは，回転レバーを押してピンをロック部の溝から解除して，右方向に 180 度回転します。180 度回転後にロック部の溝にピンをロックします。







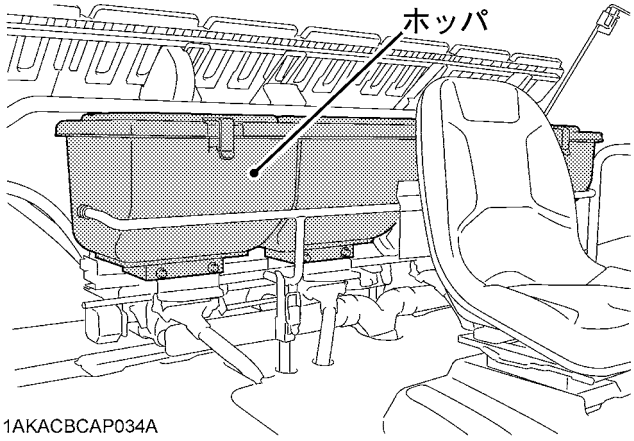




[Y32 仕様]

◆ 施肥装置関係［F 仕様］

■ホッパ
粒状の肥料を入れるところです。

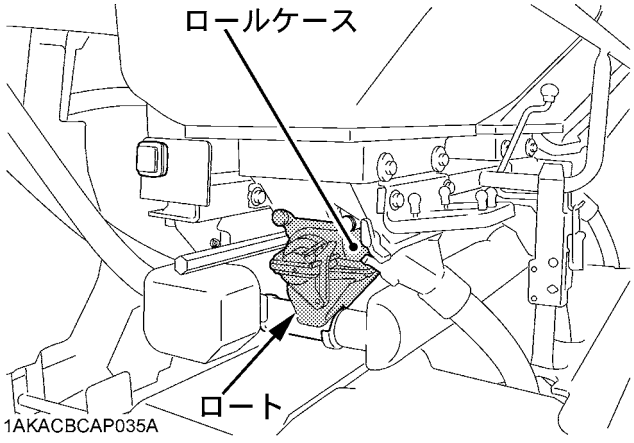


1AKACBCAP034A

補　足

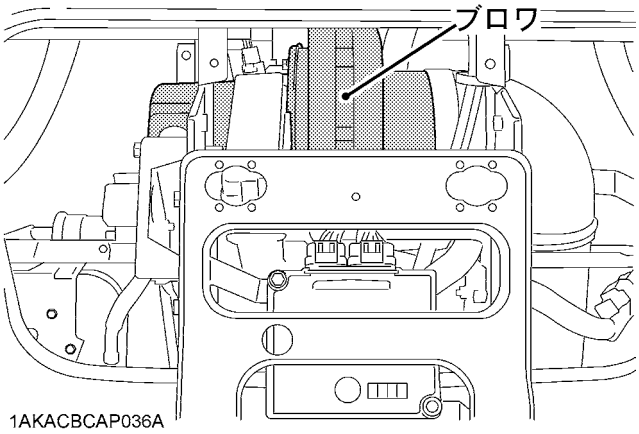
＊ ホッパ容量は 1 条当り約 11L（約 10kg）です。

■ロールケース（繰出し部）
ホッパ内の肥料の繰出量を調節し，設定された量を常に一定にして繰出すところです。



1AKACBCAP035A

■ブロワ
ロールケースから繰出された肥料を作溝器へ強制搬送する送風機です。



1AKACBCAP036A

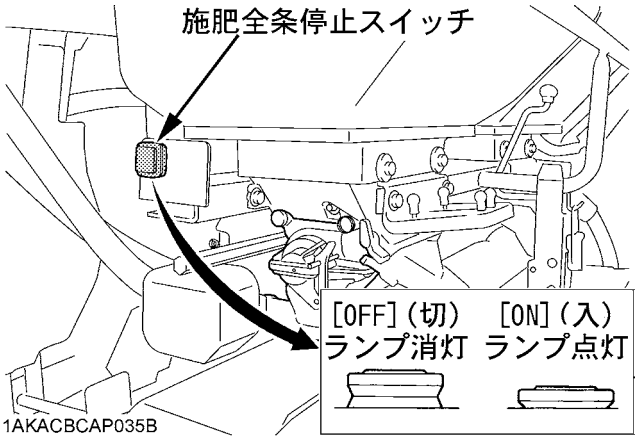
補　足

＊ ブロワはエンジンを始動するとほぼ同時に回転し，エンジン回転中は常時回転します。ただし，植付部最上昇位置のときと施肥全条停止スイッチが**［全条停止］**のときはブロワは回転しません。

■施肥全条停止スイッチ
全条同時に肥料の繰出しと停止を切換えるスイッチです。

施肥全条停止スイッチ**［ON］（入）**
…… ランプが点灯し，肥料の繰出しが全条停止します。

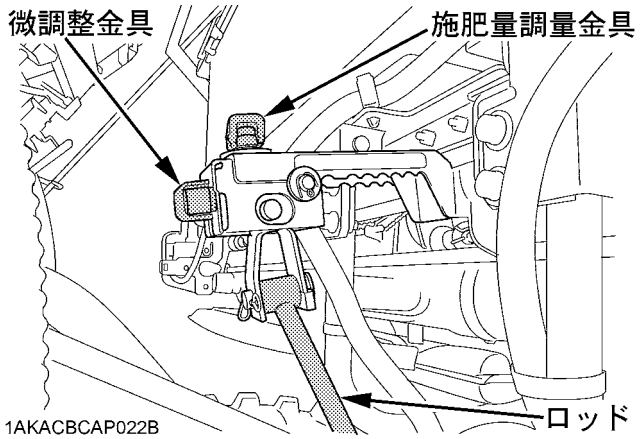
施肥全条停止スイッチ**［OFF］（切）**
…… ランプが消灯し，肥料が全条繰出されます。



1AKACBCAP035B

■施肥量調量金具

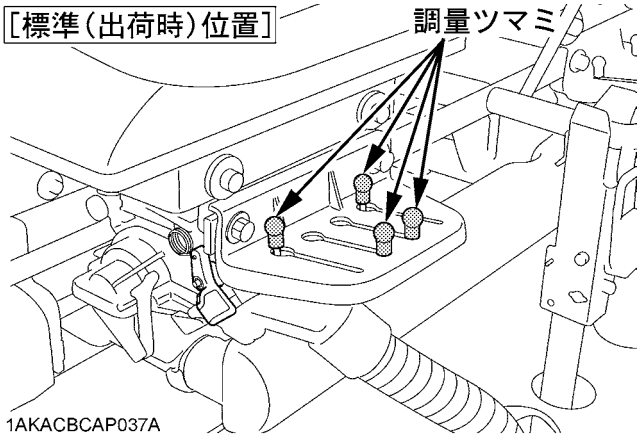
施肥量を調節する金具（ロッド）です。



補　足

＊ 施肥量はロールケースにある調量ツマミ（シャッタ）と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の変更で 10 ～ 80kg/10a の繰出しが行なえます。また，目標とする施肥量に調節するには，**調量ツマミの調節で２段階**（範囲：20 ～ 45kg/10a〔標準〕・50 ～ 80kg/10a〔多い〕）と**調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の組換え**（範囲：10 ～ 20kg/10a〔少ない〕）で変更できます。

＊ 調量ツマミの出荷位置は標準（20～45kg/10a）位置です。

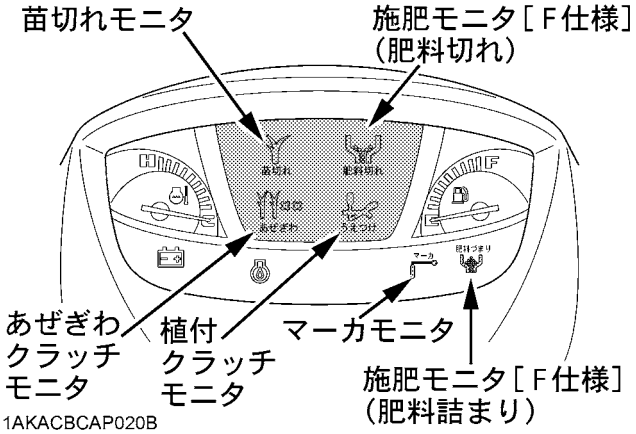


補　足

＊ 微調整金具で施肥量の微調整ができます。（86 ページ参照）

◆ 電装関係

■メインパネル（電装）



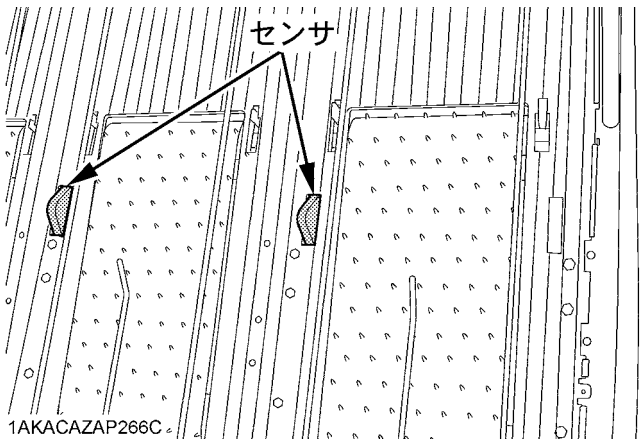
● 各モニタ（警報ランプ，警報ブザー）

■苗切れモニタ（苗切れ警報）

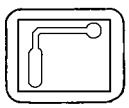
苗の残量が少なくなったときメインパネル及びマスコットのランプが点滅しブザーが鳴ります。

補　足

＊ 苗切れ警報は，苗がなくなってきたとき，苗のせ台の各条にあるセンサが感知してはたらきます。



■マーカモニタ（マーカ出し忘れ警報）



ラインマーカがセットされていないときに，メインパネルのランプが点滅します。ラインマーカ出し忘れに注意してください。
但し，ツインモードマーカ使用中は点灯したままです。

■植付クラッチモニタ（植付クラッチ入忘れ警報）

植付クラッチが**［切］**位置でメインパネル及びマスコットのランプが点滅します。十字ポンパレバーの操作による植付クラッチの入忘れに注意してください。

■あぜぎわクラッチモニタ（あぜぎわクラッチ入忘れ警報）

あぜぎわクラッチを切ったときに，メインパネルのランプが点滅します。クラッチの入忘れに注意してください。

補　足

＊ マーカと植付クラッチとあぜぎわクラッチの警報では，ブザーは鳴りません。

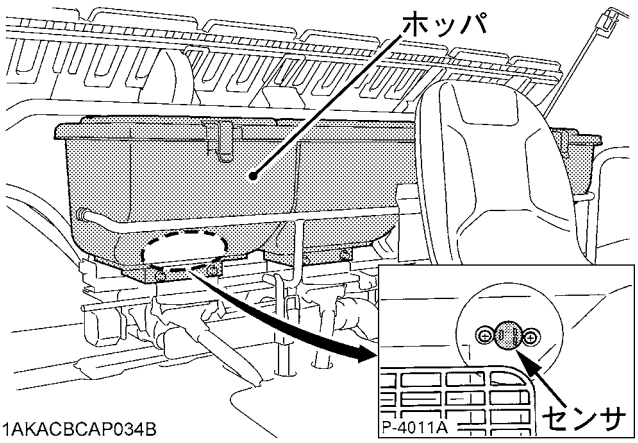
■施肥モニタ（肥料切れ警報）［F 仕様］

施肥作業中に肥料が残り少なくなったときに，メインパネル及びマスコットのランプが点滅しブザーが鳴ります。

補　足

＊ 施肥全条停止スイッチが**［全条停止］**の状態のときは作動しません。
（ランプ点灯状態）

＊ 肥料切れ警報は，肥料がなくなってきたとき，各ホッパ内にあるセンサが感知して働きます。

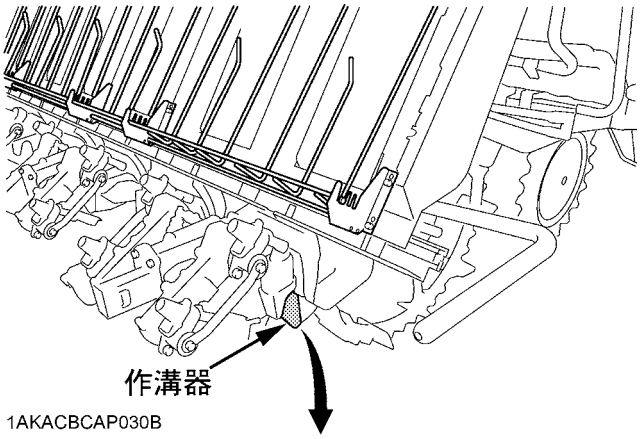


■施肥モニタ（肥料つまり警報）[F 仕様]

施肥作業中に肥料が詰まったときに，メインパネル及びマスコットのランプが点滅しブザーが鳴ります。

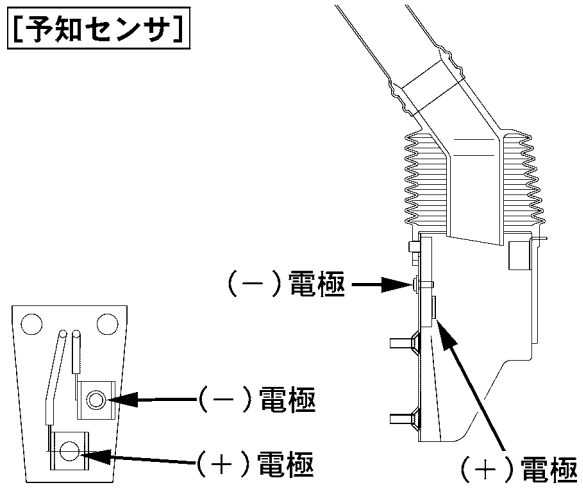
補　足

＊ 肥料詰まり警報は，各作溝器内にある肥料詰まり予知センサに小粒肥料や泥水などが付着したときに，（＋）と（－）の電極が導通すると働きます。
＊ 施肥全条停止スイッチが**[全条停止]**の状態のときは作動しません。
（ランプ点灯状態）



1AKACBCAP030B

[予知センサ]



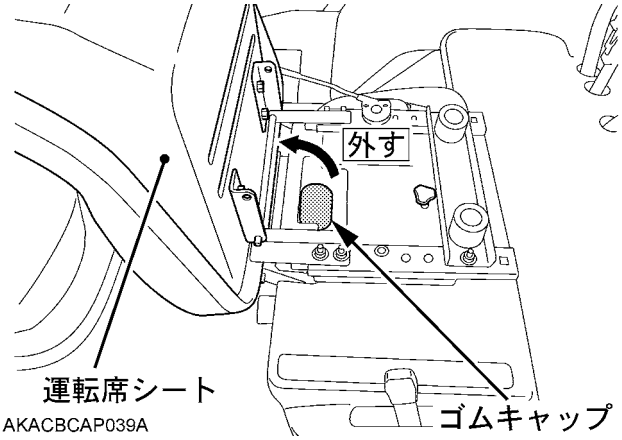
1AKACAIAP400A

補　足

＊ 警報発生後の処置については，94 ページを参照してください。
＊ エンジンが停止状態のとき，キースイッチを**[運転]**位置にすると，各モニタのランプがランプチェックのため約 2 秒間点灯したあと消灯します。ただし，施肥モニタは**[F 仕様]**以外は点灯しません。

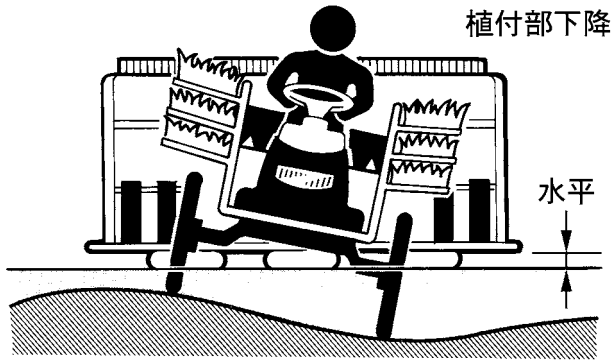
■コントローラ

自動装置関係の制御を行なうところです。コントローラは，運転席下前方にあるゴムキャップを外すと見えます。

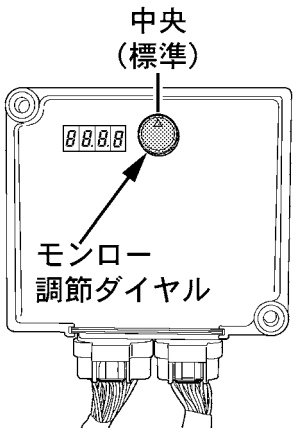


1AKACBCAP039A

植付部自動水平制御装置は，機体が左・右に傾くと，自動的に植付部（苗のせ台）を水平状態に修正・保持する装置です。モンロー調節ダイヤルは，自動水平制御がはたらいていても，左と右の植付深さが一定にならないときに使用します。
(69 ページ参照)



1AKACAIAP118A



1AKACAZAP051A

補　足

＊ 出荷時は中央（標準）位置です。

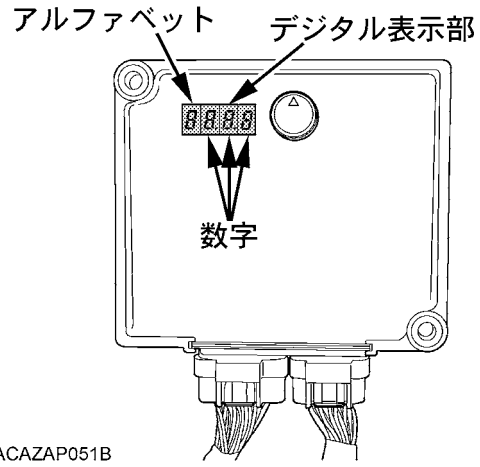
● **自己診断について**

自動制御装置に異常が発生したとき，コントローラが異常内容を表示します。

補　足

＊ 処置については，96 ページを参照してください。
＊ 異常が発生しても気付かない内容もありますので，定期的に確認を行なってください。

異常が発生すると，４ケタのアルファベットと数字がデジタルの表示部に表示されます。



補　足

＊ 正常なときは，キースイッチを**【運転】**位置にすると，５秒間**【型式】**を表示したあとアワメータとして現在までの積算使用時間を表示します。このとき，４ケタ目（右端）は，数字を６倍して**【分】**単位の表示となります。
【例】□12.4……12 時間 24 分
また，999.9 時間以上は**【分】**単位の表示がなくなり，1000 時間から 9999 時間までの表示となります。
＊ 異常箇所が同時に２つ以上発生した場合は，順番に繰返し表示します。

型式表示について

【SP2 仕様除く】

型　　式	７セグ表示
NSD8，F	ndBn
NSD8R，FR NSD8Y32R，Y32FR	ndBr
NSD8QR，Q2R	ndBP
NSD8CY32，CY32F	ndBc
NSD8CY32R，CY32FR	ndBr
NSD8C8	ndBc
NSD8Y16R，Y16FR	ndBr

【SP2 仕様】

型　　式	７セグ表示
NSD8R-SP2，FR-SP2 NSD8Y32R-SP2， Y32FR-SP2 NSD8Y16R-SP2， Y16FR-SP2	ndBr
NSD8QR-SP2，Q2R-SP2	ndBP
NSD8CY32R-SP2， CY32FR-SP2	ndBc

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，98 ページを参照。）

警　告

＊ 平たんな場所で駐車ブレーキを掛け，必ずエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがあるので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊ 燃料，オイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルを補給したときは，キャップや給油栓を確実に締め，こぼれた燃料やオイルは，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

重　要

各部への給油と交換

＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の**【クボタ純オイル・純グリース】**を必ず使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆田植機の回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にごみや泥がたまっていないか点検します。

■日常点検項目

＜ここを＞ → ＜点検し異常があれば＞ → ＜こうする（処置）＞			参照ページ
機体の周りを歩いて			
機　体　各　部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. ごみや泥などがたまってないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。 6. 反射テープ（リフレクタ）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換する。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。 6. 新しいテープに貼替える。	— — 127 108, 140 ⚠-12 139
タ　イ　ヤ	・摩耗や損傷はないか。 ・空気圧の過不足はないか。 **［エアタイヤ装着時］**	・交換する。 ・調整する。	130
各ワイヤ，レバー支点部，しゅう動部	・たるみや損傷はないか。 ・作動状態に異常はないか。	・交換する。 ・注油する。	—
繰出しホース**［F 仕様］**	・破損や外れはないか。	・交換又は，取付けをする。	108
作　溝　器**［F 仕様］**	・肥料や泥が付着していないか。	・掃除する。	—
ロールケース，ロート，ロール，ホッパ**［F 仕様］**	・肥料が付着していないか。	・掃除する。	108
植付爪・押出し金具	・摩耗や破損又は，変形していないか。 ・石などの異物がはさまっていないか。	・調整又は，交換する。 ・取除く。	131
整地ロータ**［R 仕様］**	・摩耗や破損はないか。 ・整地ロータに異物がはさまったり巻付いたりしていないか。	・交換する。 ・取除く。	108
ブラシ**［F 仕様］**	・摩耗していないか。	・交換する。	134

＜ここを＞ ➡ ＜点検し異常があれば＞ ➡ ＜こうする（処置）＞				参照ページ
ボンネットを開けて				
エアクリーナ		・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除する。	126
エンジンオイル		・油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	・規定量まで補給する。 …クボタ純オイル D30 又は D10W-30	121
オルタネータ駆動ベルト		・たるみはないか。 ・損傷はないか。	・調整する。 ・交換する。	129
ラジエータ	冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの **FULL 線と LOW 線の間**）あるか。	・清水を規定量まで補給する。	123
	フィン	・詰まりはないか。	・掃除する。	125
ホース，パイプ		・油もれや水もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	127
配線コード		・コネクタの外れはないか。 ・被覆の損傷はないか。	・接続をする。 ・交換する。	138
運転席に座って・メインスイッチを入れて				
メインパネル	充電ランプ	・ランプは点灯するか。 ・エンジン始動後，消灯するか。	・配線コード，オルタネータのコネクタが外れていないか点検する ・購入先に連絡してください。	—
	燃料計	・作業に必要な燃料はあるか。 ・針は動くか。	・ディーゼル軽油を補給する。	120
	水温計	・針は動くか。	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの **FULL 線と LOW 線の間**）まで補給する。 ・購入先に連絡してください。	123 —
	各モニタランプ，ブザー	・キースイッチを**【運転】**位置にしたとき，約 2 秒間ランプは点灯するか。 ・ブザーは鳴るか。	・バッテリの充電又は，交換する。 ・ランプ切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを点検して交換又は，接続をする。	135 138
	オイルランプ	・ランプは点灯するか。 ・エンジン始動後，消灯するか。	・購入先に連絡してください。 ・エンジンオイルを規定量まで補給する。	—
ヘッドランプ		・ランプは点灯するか。	・ランプ切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを点検して交換又は，接続する。	138
ウインカランプ		・ランプは点滅するか。		138
バッテリ		・エンジンは始動するか。	・充電又は，交換する。	135

＜ここを＞ ➡ ＜点検し異常があれば＞ ➡ ＜こうする（処置）＞			参照ページ
エンジンを始動して・機体を動かしてみて			
エンジン，マフラ	・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	—
ブロワ **[F 仕様]**	・回転しているか。 ・異音はしないか。	・スローブローヒューズ切れ，配線コードの外れがないか点検して交換又は，接続をする。 ・購入先に連絡してください。	138
各操作レバー， 各操作スイッチ	・各操作レバー，各操作スイッチの作動と各作動部に異常はないか。	・ヒューズ切れがないか点検して交換又は，購入先に連絡してください。	138
主変速レバー	・**[後進]** 側に操作するとブザーは鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを点検して交換又は，接続をする。 ・購入先に連絡してください。	138
ブレーキペダル	・踏込むと停止するか。	・購入先に連絡してください。	10

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。新車の田植機は厳重な検査のもとに出荷されていますが田植機の各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中は田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる田植作業は避けてください。
田植機の性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ エンジンは規定田植作業回転数以上に回さないでください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

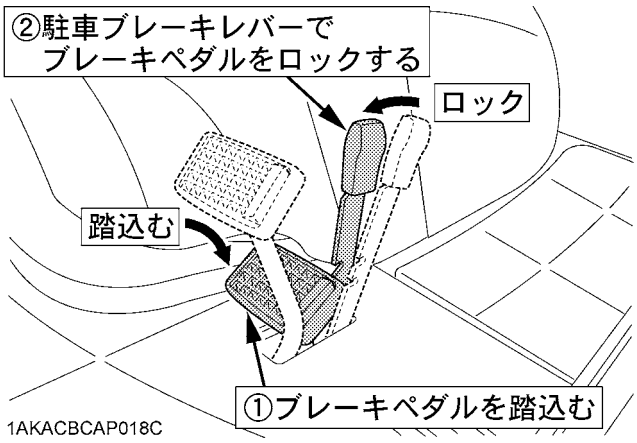
注 意

＊ この取扱説明書前編の黄色のページ［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。
＊ 田植機に貼ってある警告ラベル・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ エンジン排気ガスによる排気ガス中毒をさけるため，換気の不じゅうぶんな納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊ 周囲の人に始動の合図をして，始動操作は運転座席に必ず座ってから行なってください。
＊ 運転席への乗り降りするときは，必ずステップ両側より行なってください。転倒してケガをするおそれがあります。

■始動のしかた

1. 駐車ブレーキを掛けます。

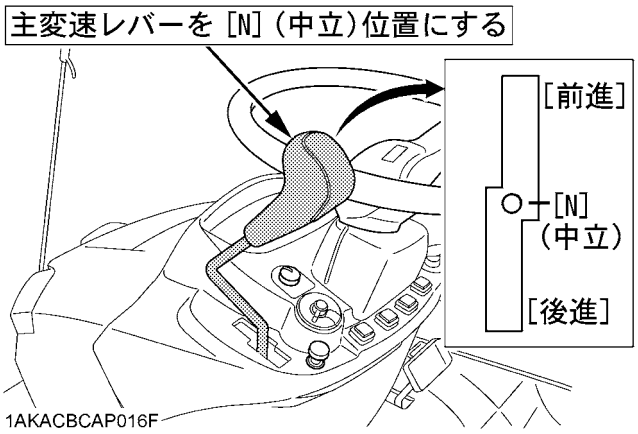
ブレーキペダルを踏込み，駐車ブレーキレバーでブレーキペダルをロックします。



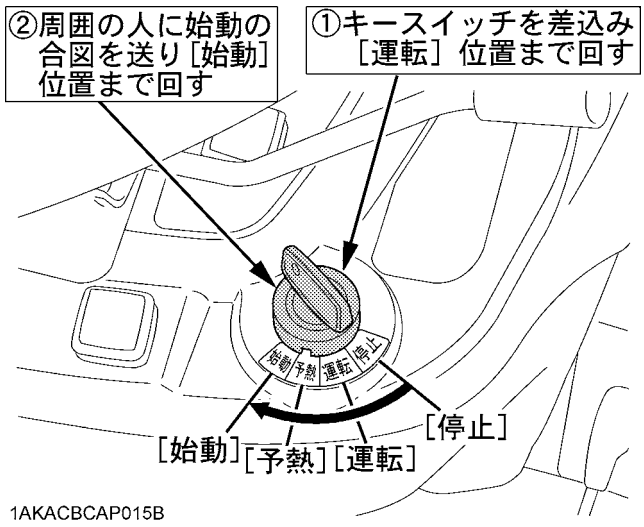
補　足

＊ 駐車ブレーキを掛けていないときは，ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンが始動しません。

2. 各レバー位置の確認をします。



3. エンジンを始動します。



重　要

＊ キースイッチを**［始動］**位置に回して 10 秒たっても始動しないときは，いったんキーを**［停止］**位置にして，キースイッチを**［予熱］**位置にして約４秒待ってから，エンジンを再始動してください。10 秒以上の使用は故障の原因になります。
＊ エンジン回転中に，キースイッチを**［始動］**位置に回すと故障の原因になります。
＊ エンジン始動後，オイルランプ，充電ランプが消灯しないときは，購入先へ連絡してください。

■暖機運転について

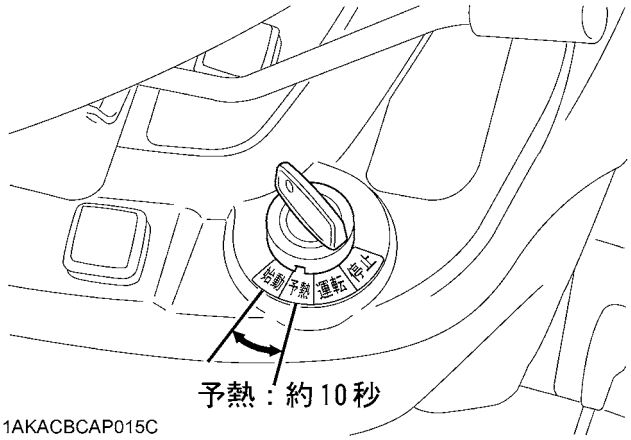
エンジン始動後，エンジン回転数をアイドリング状態で約５分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

■寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にキースイッチを**【予熱】**位置で 10 秒間予熱したあと**【始動】**位置に回してください。



1AKACBCAP015C

重　要

＊ 寒冷時は暖機運転を怠るとパワーステアリングハンドルの操作ができなくなったり，**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　温	暖機運転時間
0 ℃～－ 10 ℃	約 10 分
－ 10 ℃～－ 15 ℃	10 ～ 15 分
－ 15 ℃～－ 20 ℃	15 ～ 20 分
－ 20 ℃以下	20 分以上

■燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

1. キースイッチを**【停止】**位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. 始動のしかたの１～２を確認後，エンジンを始動します。

補　足

＊ キースイッチを**【運転】**位置にすると約５～10 秒で自動的にエア抜きされます。

■バッテリが上がったときの始動のしかた

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは，バッテリの補充電又は，交換を行なってください。(135 ページ参照)
補充電や交換がすぐに行なえないときは，救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

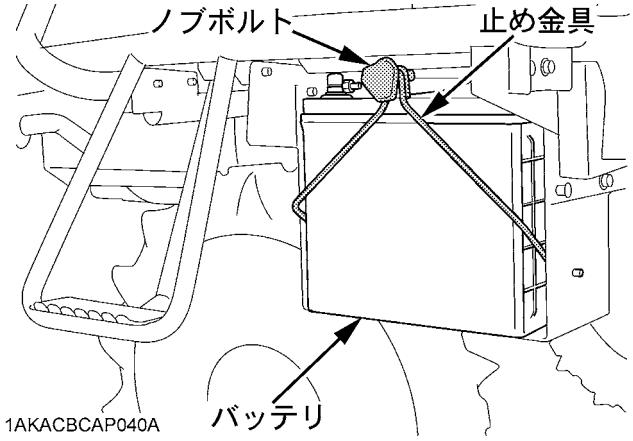
重　要

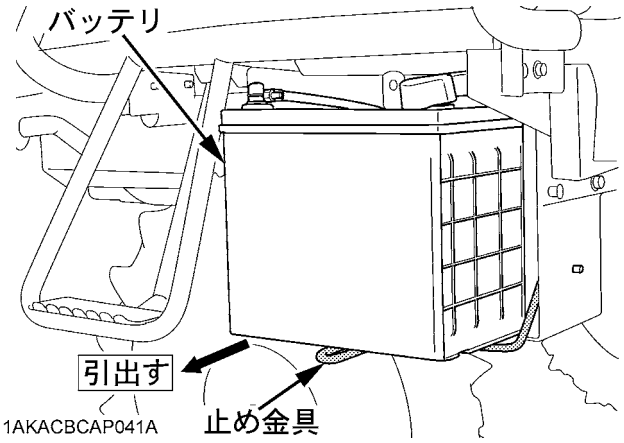
＊ 接続するバッテリは，必ず 12V のものを利用してください。故障の原因となります。
＊ バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
＊ 充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。

補　足

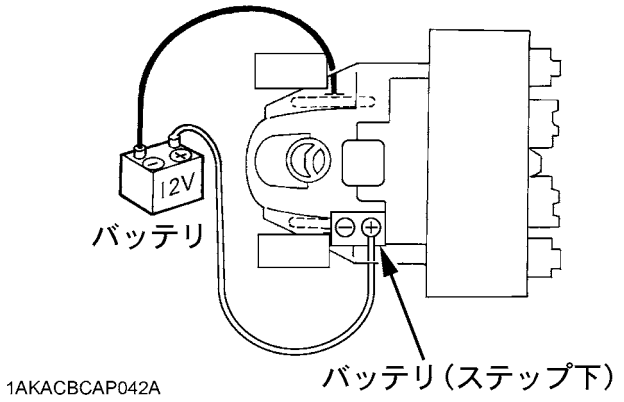
＊ ブースタケーブルの取扱いは，ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ノブボルトをゆるめ，止め金具を倒し，金具の上にバッテリを引き出したあと，（＋）側のゴムキャップを外します。





2. ブースタケーブル（赤）を田植機側と救援車側のバッテリの**（＋）端子**にそれぞれ接続したあと，ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの**（－）端子**に接続し，田植機側は金属部で塗装がされていないところ（前・後輪の取付ボルトなど）に接続します。



3. 利用するバッテリが車などの場合は，エンジン回転を上げます。
4. 田植機のエンジンを始動します。
5. ブースタケーブルを取付の逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 主変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。
2. キースイッチを**［停止］**位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊ エンジン停止中でキースイッチが**［運転］**位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上りの原因**となります。
＊ キースイッチを**［停止］**位置にしてもエンジンが停止しないときは**エンジンストップノブ**を引いてください。そのあと，購入先へ連絡してください。

移動走行について

この田植機は，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

警　告

＊ 転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部など）を取外して本機側単独で移動走行は行なわないでください。

注　意

＊ 安全のためヘルメットを着用してください。
＊ 周りが暗いときは，ヘッドランプを点灯してください。
＊ 苗ステーは，後方に倒れないようにラックの取付部に取付けてください。
＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ 機械には運転者以外は乗らないでください。また，苗のせ台及び予備苗のせ台の苗やホッパ内の肥料［F 仕様］は取出し，ステップなどには障害物となるような物は置かないでください。
＊ 植付部は上昇位置で油圧をロックし下降防止を行なってください。また，ラインマーカや収納式苗のせ台は収納状態にしてください。

＊ 暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので，あぜごえや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは，下記事項に注意し，予備苗台はレール状から収納状態に戻してください。
- **走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する。）**
- **主変速レバーで走行と停止を行なう。（ブレーキペダルは操作しない。）**
- **あぜや斜面に対して直角に走行する。**
- **あぜや斜面に対して上り方向は後進，下り方向は前進で走行し，前輪デフロックペダルを踏込む。**
- **あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込まない。**

＊ 下記のようなところを走行するときは，暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので注意してください。
- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**
- **左又は，右に 15 度以上傾斜しているところ**

重　要

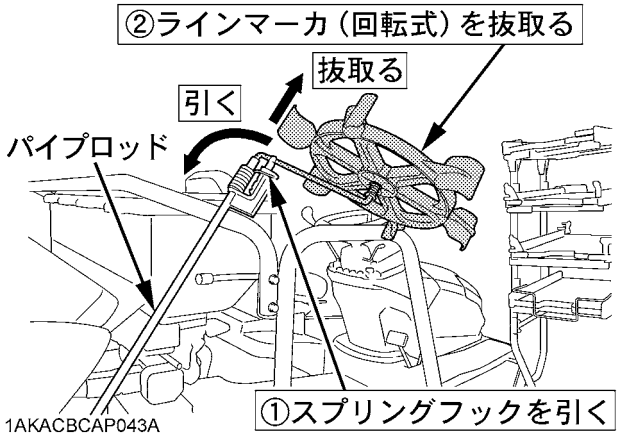
＊ 植付部を下降した状態で走行すると，フロートや作溝器，溝切板**［F 仕様］**，整地ロータ**［R 仕様］**が破損することがあります。

■移動走行前の準備

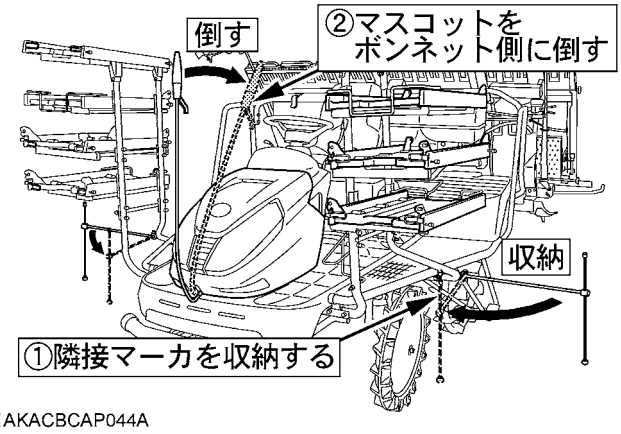
注 意

＊ 苗のせ台及び予備苗のせ台にある苗や苗すくい板は，すべて降してください。
＊ ホッパ内の肥料はすべて排出して空の状態にしてください。［F 仕様］
＊ ステップの回りに物は置かないでください。
＊ 水平で平たんな場所で行なってください。

1. 平たんな場所に機体を止め，エンジンを停止します。
2. 左，右のラインマーカを収納し，フックに固定します。
3. スプリングのフックを引き，マーカ先端部をパイプロッドから抜取ります。



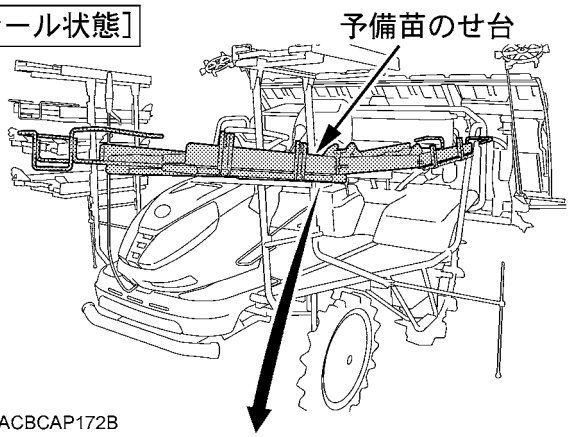
4. 左，右の隣接マーカを前方に収納します。
5. マスコットをボンネット側に倒します。



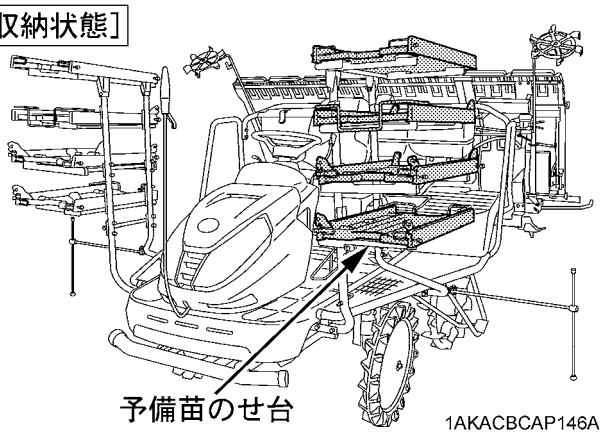
［Y16・Y32 仕様除く］

6. 予備苗のせ台を収納状態に戻します。

［レール状態］



［収納状態］

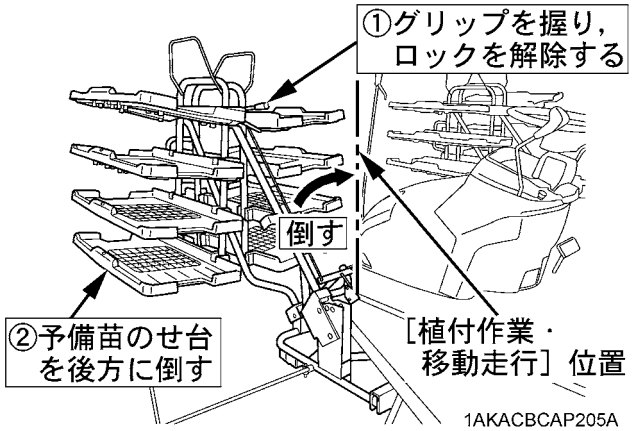


収納状態へのセット方法は，46 ページ参照。

［Y16・Y32 仕様除く］

[Y16 仕様]

7. 左，右のスライド式予備苗のせ台のグリップを握りロックを解除して，後方（植付作業･移動走行位置）に倒します。



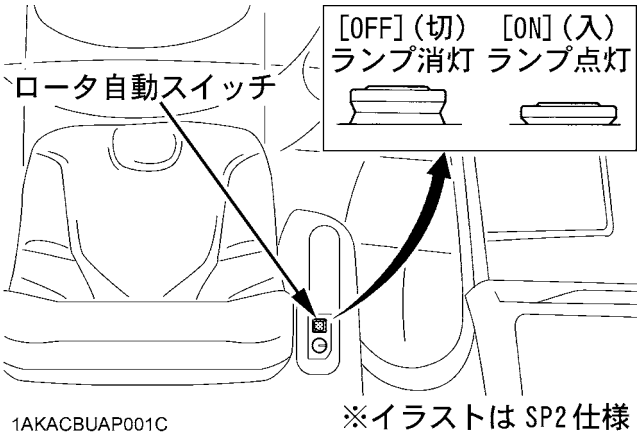
補　足

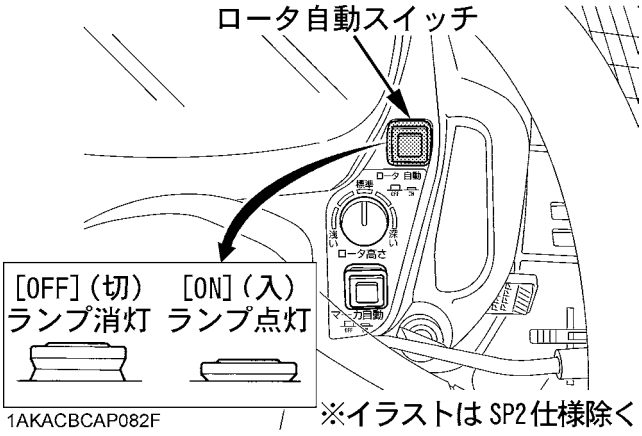
＊ 予備苗のせ台に苗がのっていない状態で後方に倒すときは，勢いよく後方に動くため，ゆっくりと倒してください。

[Y16 仕様]

[R 仕様]

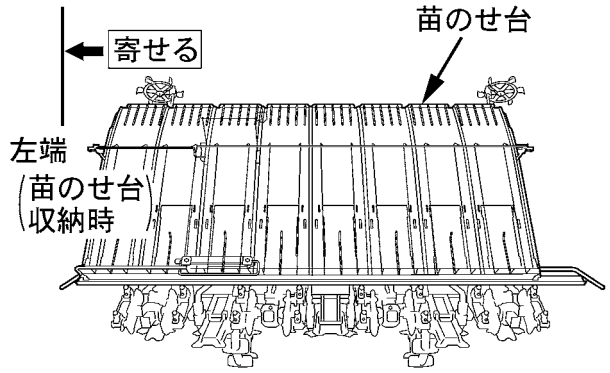
8. ロータ自動スイッチを**［OFF］（切）**にします。





[R 仕様]

9. 苗のせ台を**左端**（収納する位置）まで移動します。(38 ページ参照)

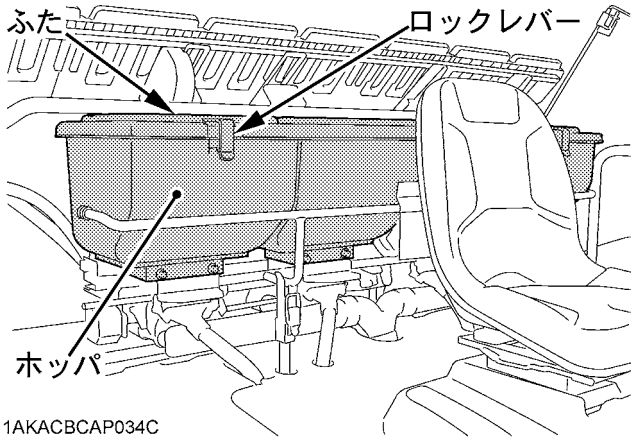


1AKACBCAP008A

10. 収納式苗のせ台を収納します。
(52 ページ参照)

[F 仕様]

11. ホッパのふたをロックレバーでロックします。



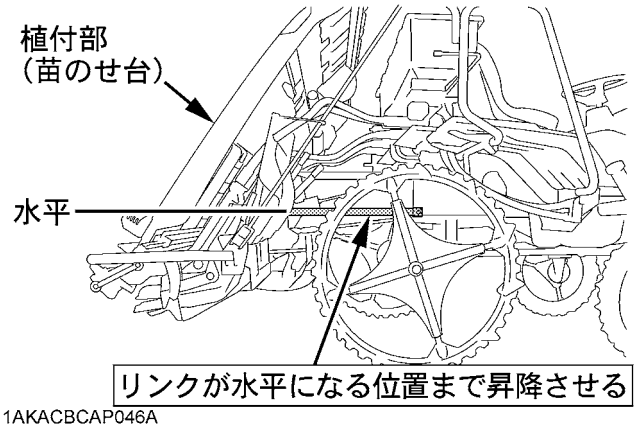
1AKACBCAP034C

[F 仕様]

12. エンジン始動後十字ポンパレバーを操作し，植付部を最上昇位置にしたあと，油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして下降防止をします。

■苗のせ台の移動のしかた

1. エンジン始動後，十字ポンパレバーを**[上]（上昇）**側又は**[下]（下降）**側に操作して植付部のリンクが水平状態になる程度まで昇降させます。



1AKACBCAP046A

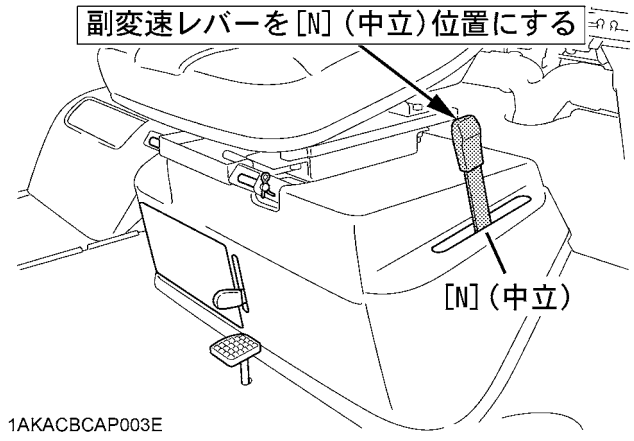
補　足

＊ 植付部が最上昇にあると植付部は横送りしないため，植付部は最上昇位置より下がった位置にしてください。

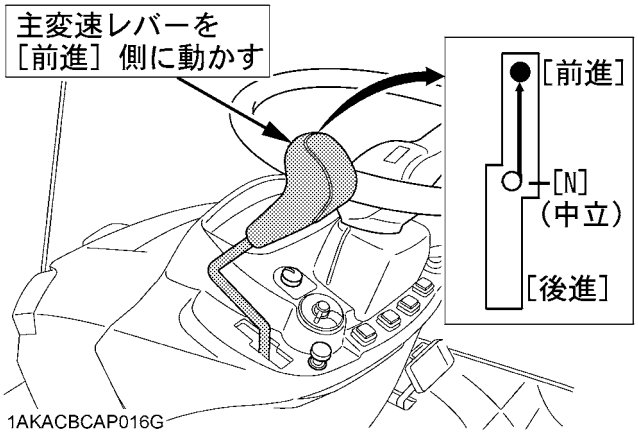
2. 油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして下降防止をします。

1AKACBCAP003D

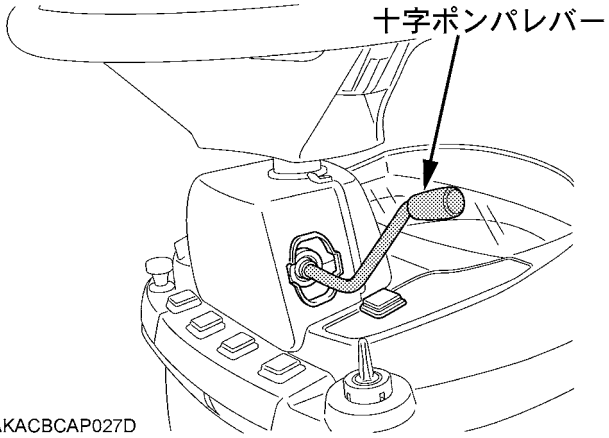
3. 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを**[N]（中立）**位置にします。



4. 十字ポンパレバーを**[下]（下降）**側にピッと音が鳴るまで操作したあと，もう１度レバーを**[下]（下降）**側にピッピッと連続音が鳴るまで操作して，植付部の駆動の準備をします。
5. 主変速レバーをゆっくり**[前進]**側に動かします。



6. 後方の苗のせ台の動きを確認しながら**機体左端**の位置でポンパレバーを**[上]（上昇）**側に操作し，植付クラッチを**[切]**にします。
7. 主変速レバーを**[N]（中立）**位置に戻します。
8. 駐車ブレーキを掛けます。
9. 油圧ロックレバーを**[開]**位置にして，十字ポンパレバーを操作し，植付部を上げて**最上昇位置**にします。



10. 油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして下降防止をし，エンジンを停止します。

■発進のしかた

注　意

- **始動操作は，運転席で必ず行なってください。**
- **周囲の人に合図をしてから始動してください。**
- **急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。**

1.　運転席の調整をします。

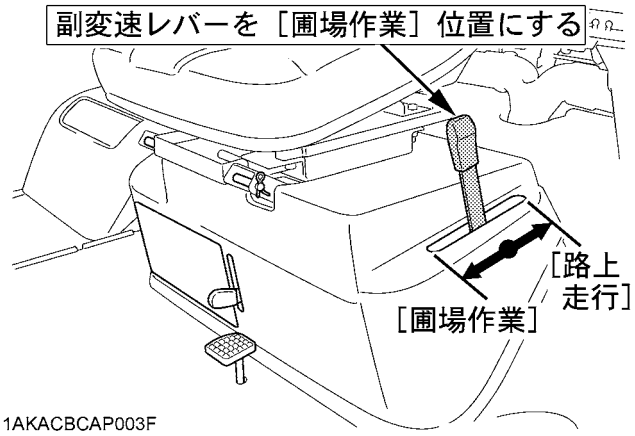
運転席前下側にあるスライドレバーを左方向に操作して調整します。(11 ページ参照)

2.　エンジンを始動します。

(32 ページ参照)

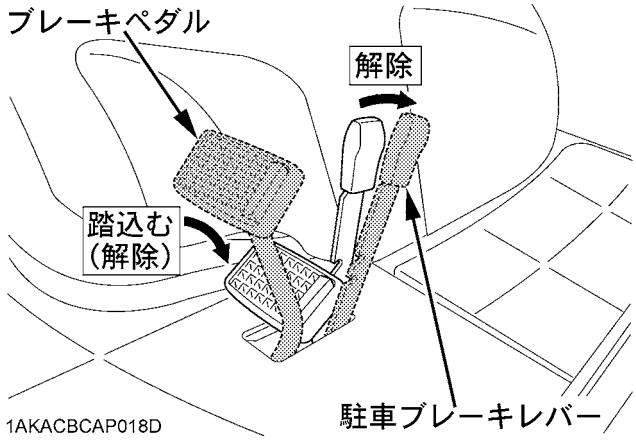
3. 走行速度を選んで発進します。

1. 副変速レバーで速度を選びます。



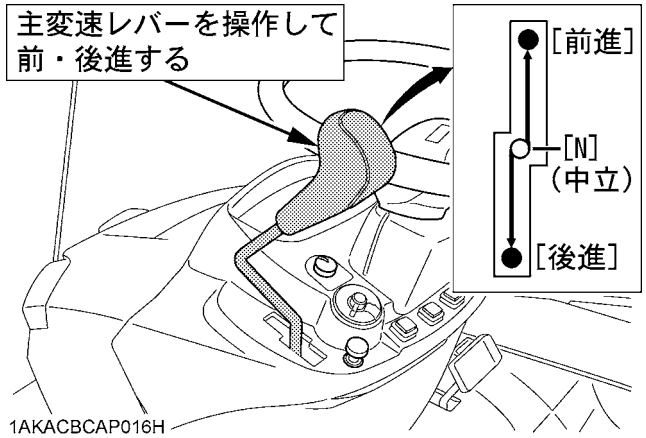
1AKACBCAP003F

2. ブレーキペダルを離します。駐車ブレーキが掛かっているときは，ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除します。



1AKACBCAP018D

3. 主変速レバーを **［N］（中立）** 位置より前に押すと前進し，後に引くと後進します。



1AKACBCAP016H

重　要

＊ 副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを **［N］（中立）** 位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

補　足

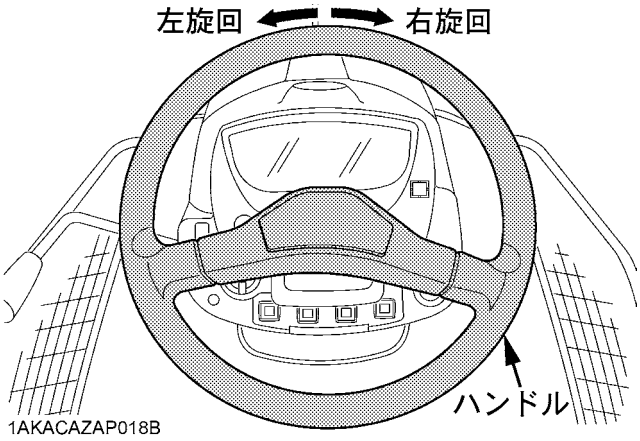
＊ 前，後進中にブレーキペダルを踏込むと，減速すると同時に主変速レバーが強制的に **［N］（中立）** 位置に戻ります。また，ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーの操作はできません。

■旋回のしかた

注　意

＊ 高速走行時，ハンドルを急に操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にハンドルを回します。回す角度に応じて旋回力が変わり，回す角度が大きいほど旋回半径が小さくなります。



1AKACAZAP018B

重　要

＊ 砂利道での急旋回は，タイヤが早く摩耗しますので避けてください。

■停車・駐車のしかた

注　意

＊ 田植機から離れるときは，平たんで安全な場所に置き，植付部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。
＊ 走行を停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず主変速レバーを操作して停止してください。
＊ 坂道やあぜ越えなどの斜面では，ブレーキペダルを素早くいっぱいまで踏込んでください。
＊ 坂道で駐車するときは，ブレーキペダルを踏込み，２段目の切欠位置に駐車ブレーキレバーを掛け，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。
2. 停止するときはブレーキペダルを踏込み，駐車するときは駐車ブレーキを掛けます。
3. エンジンを停止してキースイッチを抜きます。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

＊ 積込み・積降しは平坦地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
＊ あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（30cm 以上），長さ（高さの４倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，田植機の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	30cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が600kg以上の重量に耐えうる

■トラックへ積込み時の田植機の準備

1. 苗のせ台及び予備苗のせ台の苗や苗すくい板はすべて降します。
2. 施肥機付きの場合は，肥料をすべて排出します。
3. ラインマーカ・隣接マーカ・マスコット・予備苗のせ台を収納します。
4. 苗のせ台を左端まで移動させたあと，収納式苗のせ台を収納状態にします。
5. 植付部を上げて最上昇位置にし，油圧ロックして下降防止を行ないます。

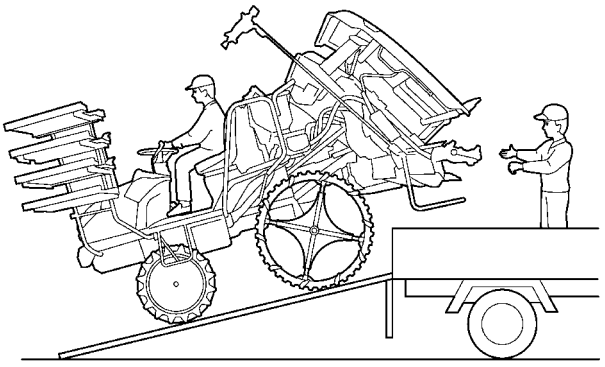
■トラックへの積込み・積降しのしかた

警　告

＊ 転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部など）を取外して本機側単独で移動走行やトラックの積降し，運搬作業は行なわないでください。

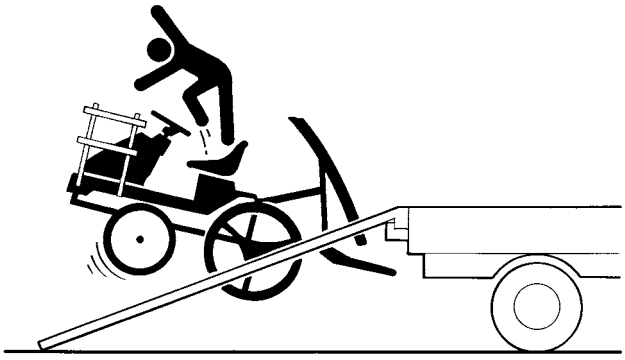
注　意

＊ 積込みは後進，積降しは前進で，低速で走行してください。
＊ 共同作業者は，あゆみ板を走行中の田植機からは離れてください。
＊ 平坦地を選び，できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なってください。また，田植機の周辺に人を近づけないでください。



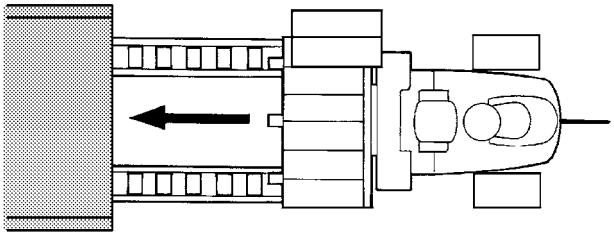
1AKACBCAP047A

＊ あゆみ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込むと，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。



1AKACAIAP127A

1. 副変速レバーを**［圃場作業］**位置にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速で走行します。
2. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左，右の前輪と後輪の中心を合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから前輪デフロックペダルを踏込み，斜面に対して直角に積込み・積降しをしてください。



1AKACBCAP058A

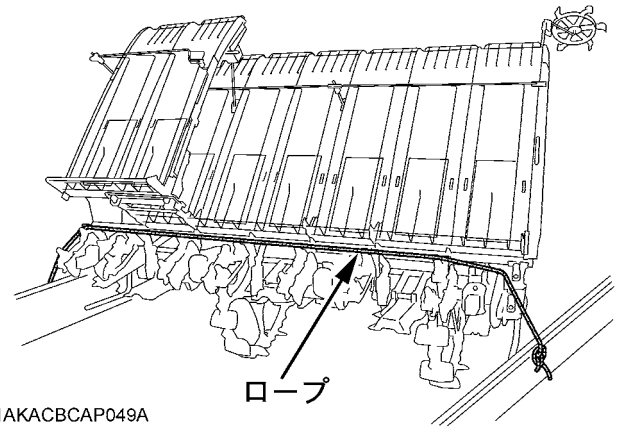
3. 荷台に乗り終わると駐車ブレーキを掛けて，走行を停止します。

■トラック上での処置

注　意

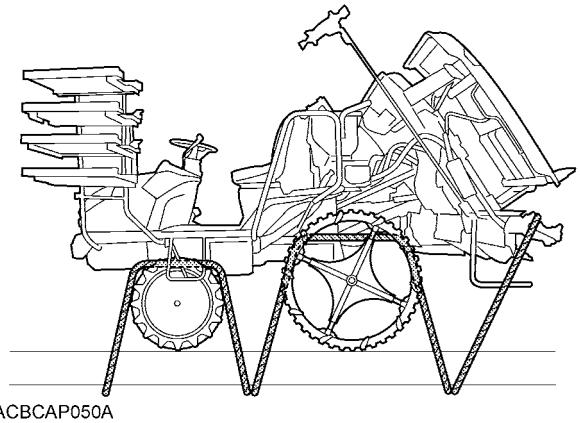
＊ 駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

1. エンジンを停止します。
2. 副変速レバーを**【圃場作業】**位置にします。
3. 植付部を最上昇位置にし，油圧ロックレバーを**【閉】**位置にして，植付部の下降防止を行なって植付部がバウンドしないように，軽くロープ掛けします。



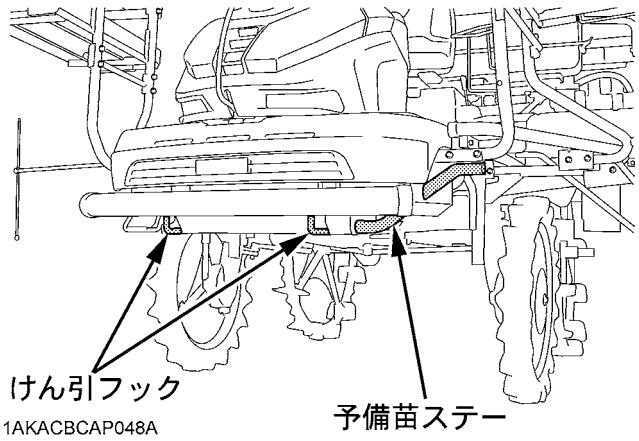
1AKACBCAP049A

4. 車輪にロープを掛けて固定します。


1AKACBCAP050A

重　要

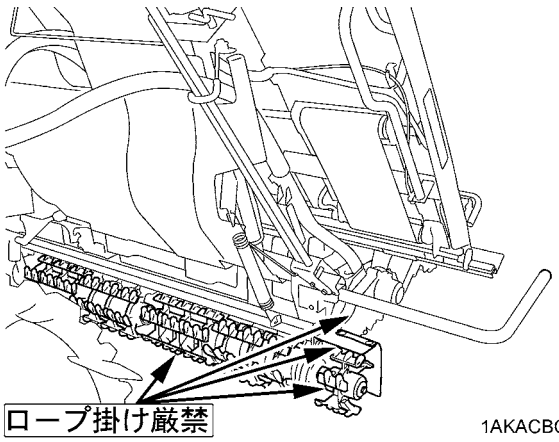
＊ 機体前部にロープを掛けるときは，けん引フックに必ず掛けてください。また，予備苗ステーにはロープを絶対に掛けないでください。予備苗ステーが破損します。



1AKACBCAP048A

[R 仕様]

＊ トラック輸送時，整地ロータ各部にはロープを掛けないでください。整地ロータが破損します。



1AKACBCAP110A

[R 仕様]

[F 仕様]

＊ 施肥部にロープは掛けないでください。破損の原因となります。

[F 仕様]

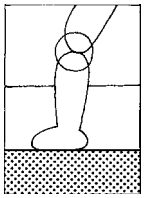
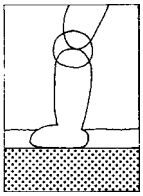
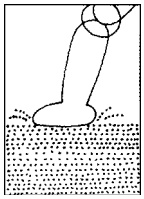
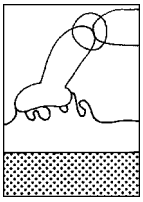
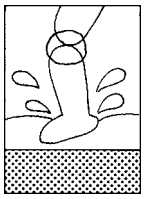
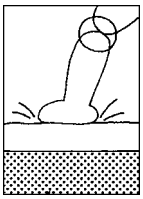
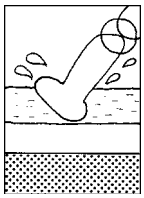
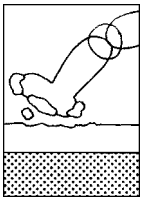
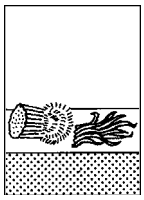
田植作業のしかた

ほ場と苗の条件

ほ場の条件，苗の条件が良くなければ植付作業が行なえないことがあります。
次のような条件が予想される場合は事前に購入先にご相談ください。

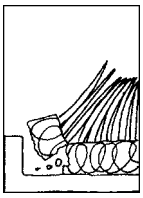
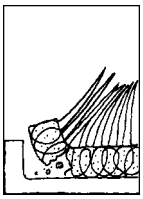
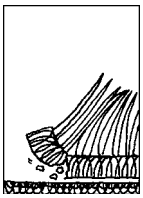
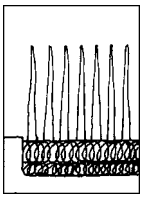
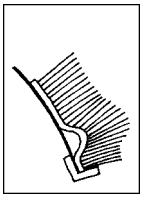
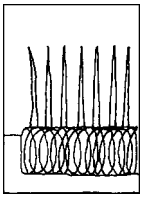
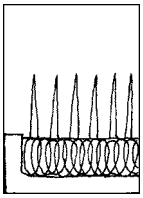
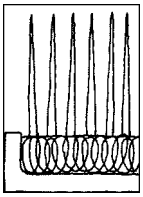
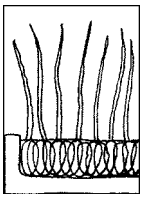
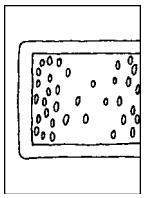
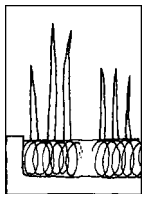
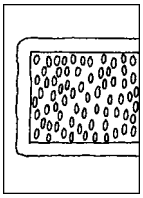
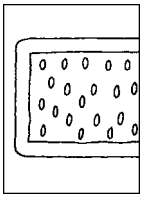
■ほ場条件

ほ場づくりは，作物の種類・植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので，最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）や経験者に相談して，作物に適したほ場づくりをしてください。

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）	
深　さ	 ①耕盤までの深さが 30cm 以上ある深いほ場。	 ②耕盤までの深さが 10cm 以下の浅いほ場。
土　質	 ①砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほどの硬いほ場）。	 ②強粘土質のほ場（歩くのが困難な粘いほ場）。
硬　さ	 ①代かき直後のほ場，又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）。	 ②代かき後，日数がたって硬くなったほ場，又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場）。
水　深	 ①水深の平均が 3 cm を越える水の多いほ場。	 ②水気がなく，車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	 ①裏作跡などで，刈り株・排わら又は雑草がじゅうぶん腐らず，代かき後も表面に多量に露出しているほ場。	

■苗条件

苗づくりは，各地の指導指針や最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）の指導を仰いだり，経験者に相談して，良い苗（健苗）づくりを行なってください。

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）		
苗　床	 ①砂質が多く，苗床が崩れやすい苗。	 ②根張りが悪く，苗床が崩れやすい苗。	
	 ③根張りはよいが，根を切ったために苗床が崩れやすい苗。	 ④根の張り過ぎた，植付爪のささりにくい苗。	
	 ⑤苗床厚（マット厚）が２ cm 以下の，薄い苗。	 ⑥苗床厚（マット厚）が４ cm 以上の，厚い苗。	
草　丈	 ①草丈が８ cm 以下の，短い苗。	 ②草丈が 20cm 以上の，長い苗。	
素　質	 ①軟弱徒長苗。	 ②播種ムラのひどい苗。	 ③成育ムラや成育不良のある苗。
播種量	 ①催芽もみで，１箱当り 250g 以上の，厚播きの苗。	 ②催芽もみで，１箱当り 100g 以下の，薄播きの苗。	

田植作業前の準備

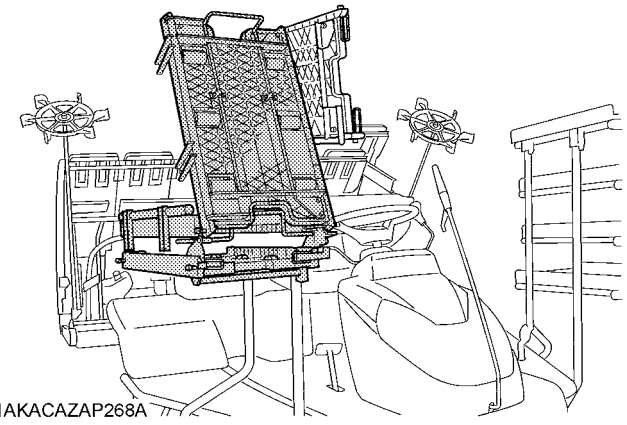
警　告

＊ 平坦な場所に置き，エンジンは必ず止めてください。
＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

■予備苗のせ台のセット

注　意

＊ レール状態にセットした予備苗のせ台の片方を折りたたんだ状態で，もう一方の予備苗のせ台を起こした状態にしますと，風，振動などで元の位置に倒れる危険があるので注意してください。［Y16・Y32 仕様除く］


1AKACAZAP268A

苗のせ台をレール状態にセットします。

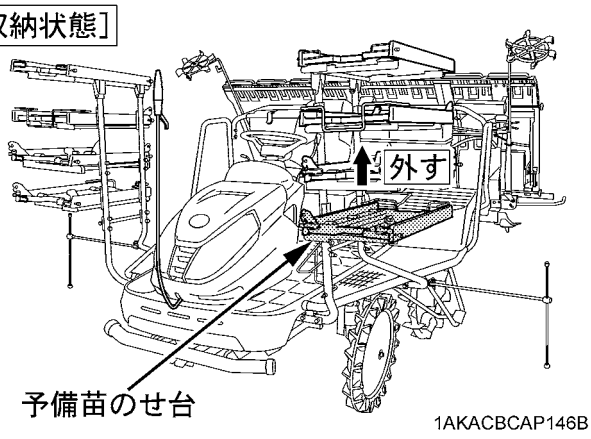
重　要

＊ 旋回時予備苗のせ台が障害物に衝突するなど，レール状態で不具合がある場合は，収納状態で作業してください。

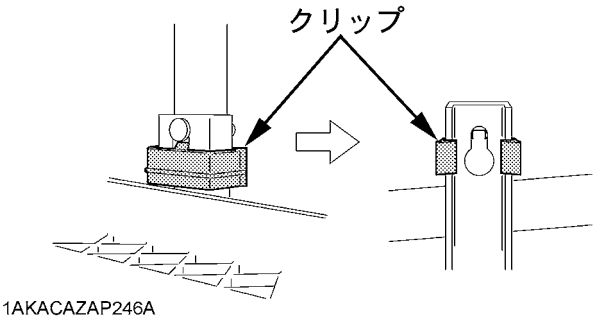
［Y16・Y32 仕様除く］

1. クリップを外してから，収納状態の予備苗のせ台の下側（（前）ラベルが貼付されています）を外し，上側から３番目の前側に取付けます。
   レール状態にした後，クリップは元の場所にはめてください。

［収納状態］



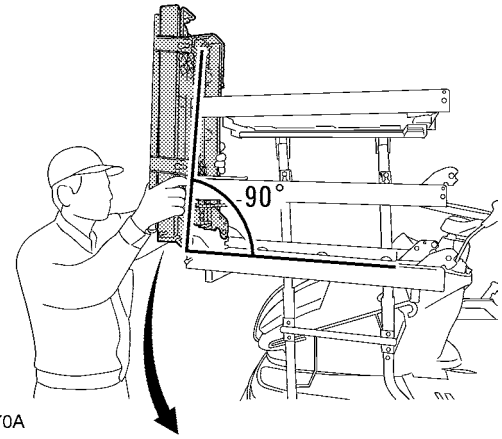
1AKACBCAP146B



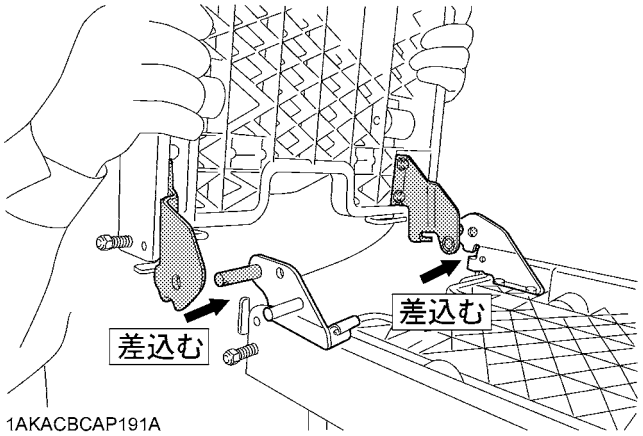
1AKACAZAP246A

補　足

＊ 取付けるときは，予備苗のせ台を垂直方向にしてください。

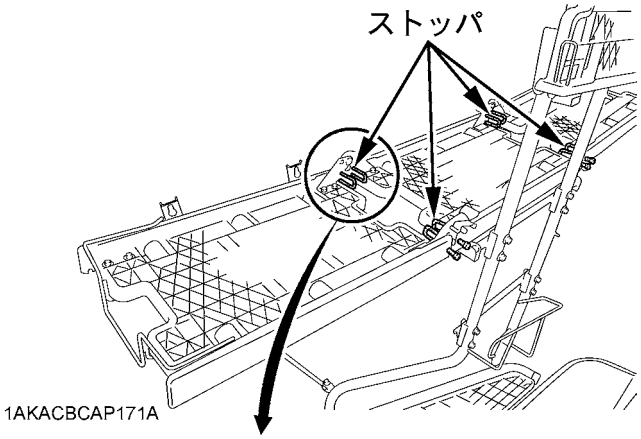


1AKACBCAP170A

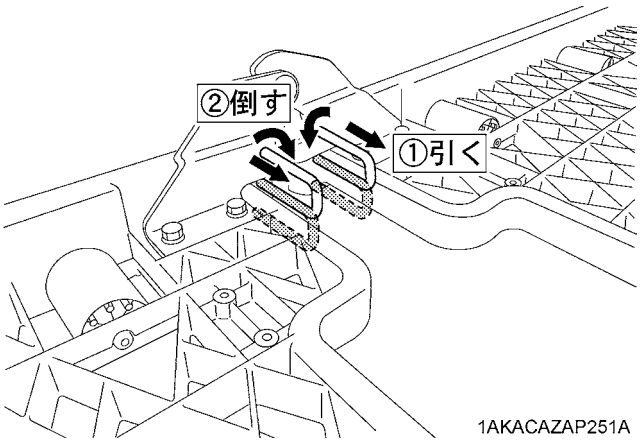


1AKACBCAP191A

2. 上側から２番目の予備苗のせ台を外し，３番目の後側に前側と同じように，垂直方向にして取付けます。
3. 苗をスライドできるように，中央８ヵ所のストッパを下向きにしてください。

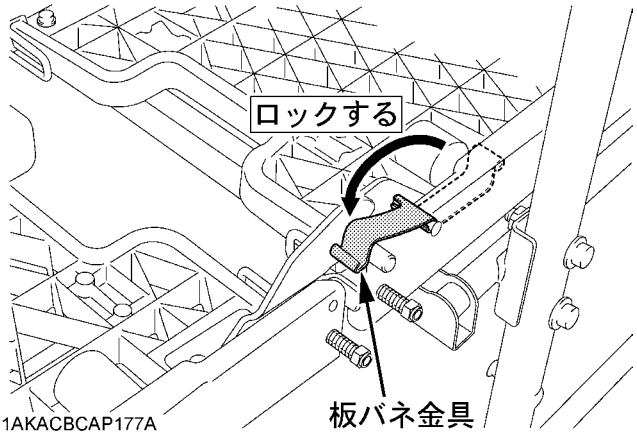


1AKACBCAP171A



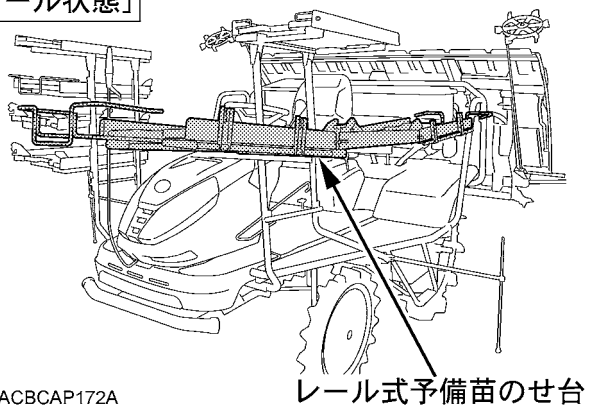
1AKACAZAP251A

4. 連結金具外側の板バネをロックします。



1AKACBCAP177A

［レール状態］

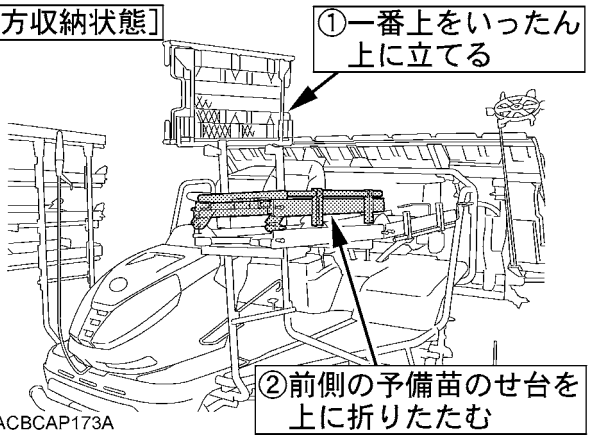


1AKACBCAP172A

補　足

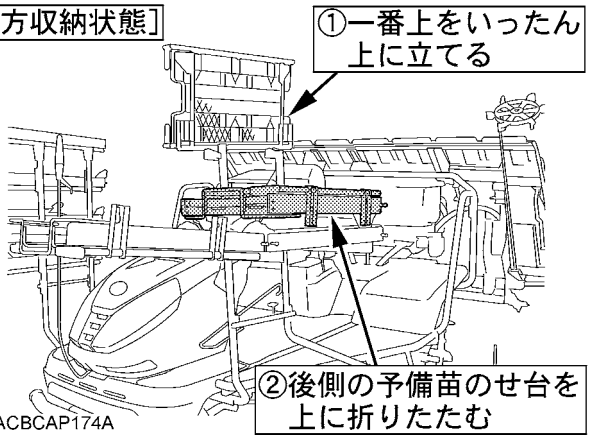
＊ あぜが高い場合や，移動，輸送時などに前側の予備苗のせ台を上に折りたたむことができます。また，後側の予備苗のせ台も折りたたむことができます。

［前方収納状態］



1AKACBCAP173A

［後方収納状態］



1AKACBCAP174A

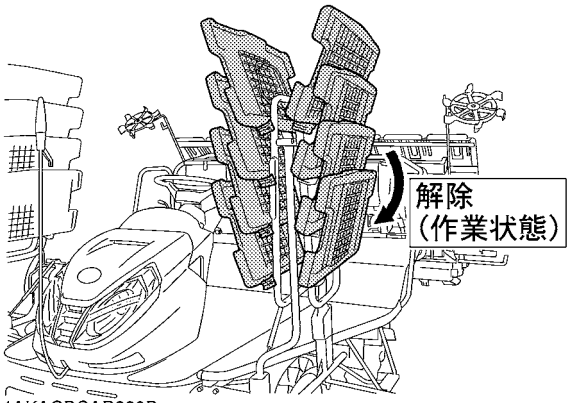
補　足

＊ 両方同時での折りたたみはできません。
＊ 片方を折りたたんだ状態で，もう一方の予備苗のせ台を起した状態にしますと，風，振動などで元の位置に倒れて危険ですのでご注意ください。

［Y16・Y32 仕様除く］

［Y16 仕様］

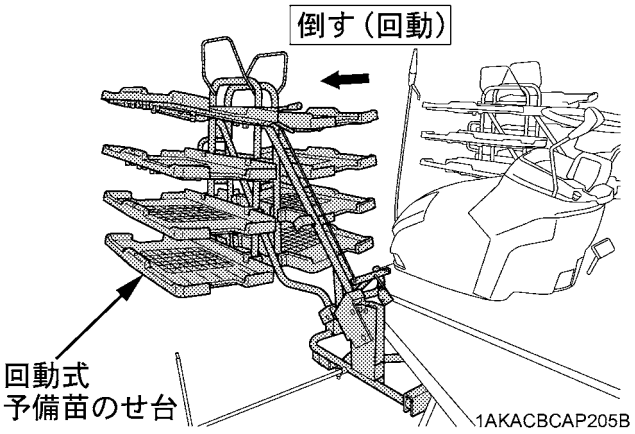
各予備苗のせ台のフック部を下段から外して，各予備苗のせ台を下げて作業状態にセットします。



1AKACBCAP203B

補　足

＊ 植付作業途中で，予備苗のせ台に苗補給を行なうときは，あぜなどの高さやほ場状態に合わせて，予備苗のせ台を前方に倒して（回動）補給してください。

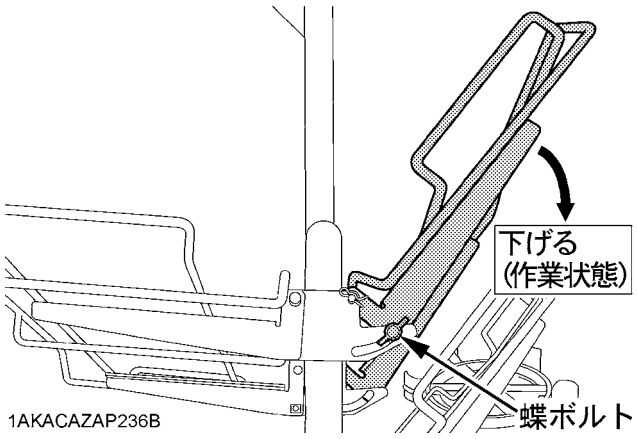


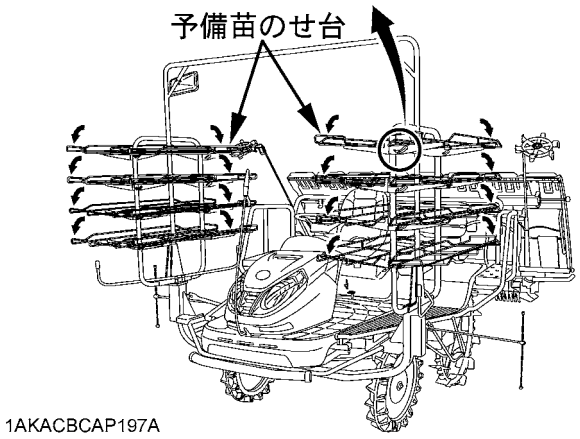
1AKACBCAP205B

［Y16 仕様］

[Y32 仕様]

1. 各予備苗のせ台の蝶ボルトを下段からゆるめて，各予備苗のせ台を下げて作業状態にセットします。(回転式予備苗のせ台の項参照)





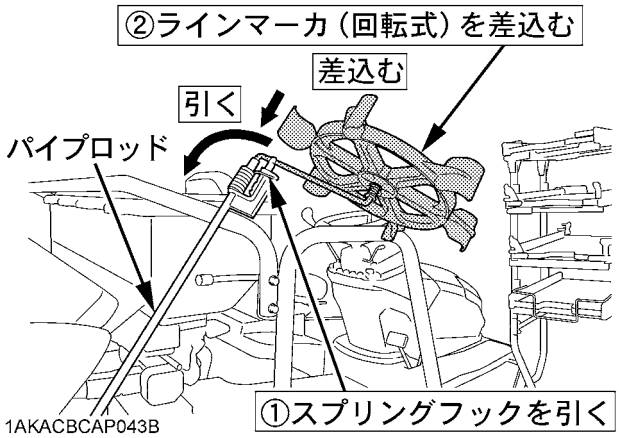
[Y32 仕様]

■収納式苗のせ台のセット

52 ページを参照して広げてください。

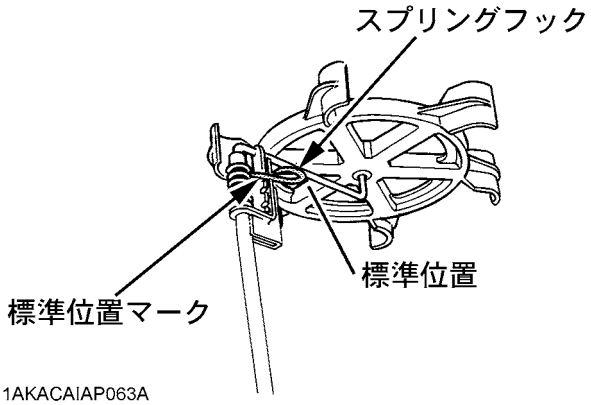
■ラインマーカのセット

スプリングフックを引きながらパイプロッドに差込みます。



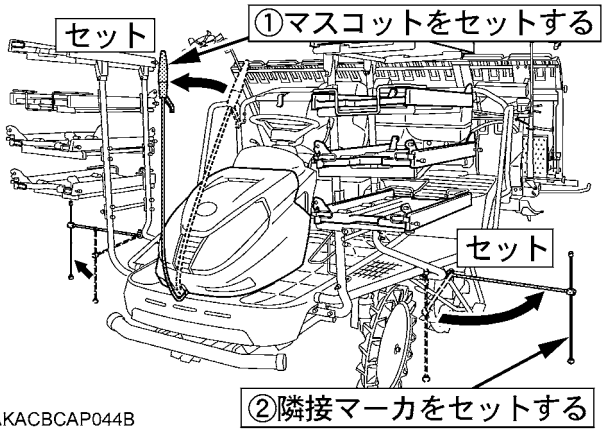
補　足

＊ マーカをパイプロッドに差込んだあと，スプリングフックを先端部の切欠溝（標準位置マーク）に左，右共ロックしてください。



■隣接マーカとマスコットのセット

隣接マーカとマスコットを作業状態にセットします。



■しゅう動板ガードのセット

収納状態になっている場合は，作業状態にします。

(52 ページ参照)

■各レバー・ダイヤルのセット

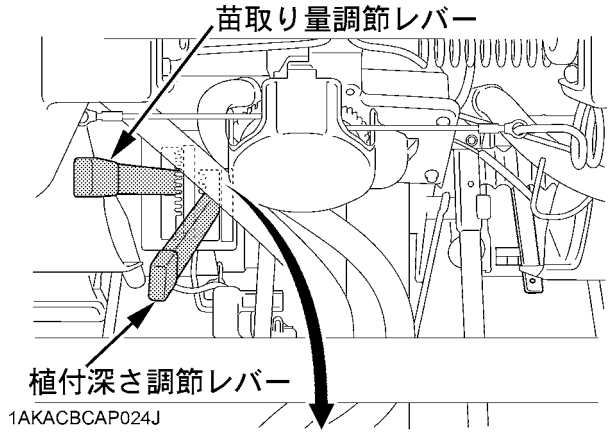
各レバー・ダイヤルの設定を行ないます。

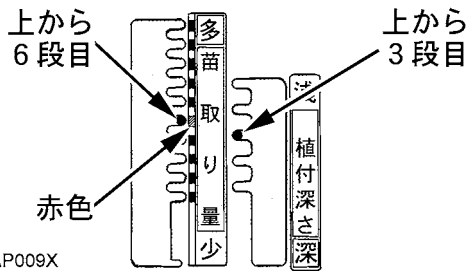
補　足

＊ 下記各レバー・ダイヤルの設定位置は目安です。

● 植付深さ調節レバー，苗取り量調節レバー

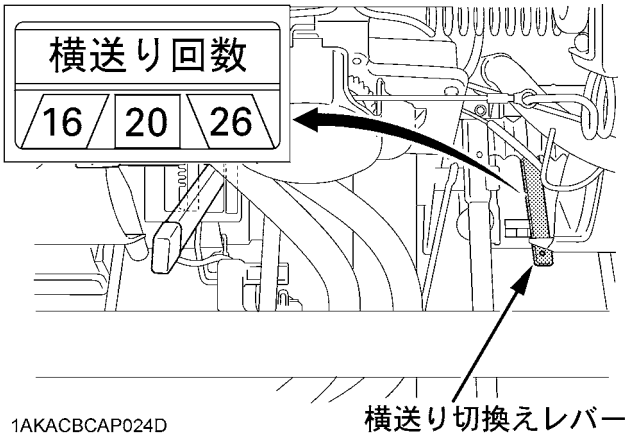
植付深さ調節レバーを上（**[浅]** い）から **3 段目**の（表示ラベルの中央）切欠位置にし，苗取り量調節レバーを上（**[多]** い）から **6 段目**（ラベルの**赤印**）の切欠位置にします。





● **横送り切換えレバー**

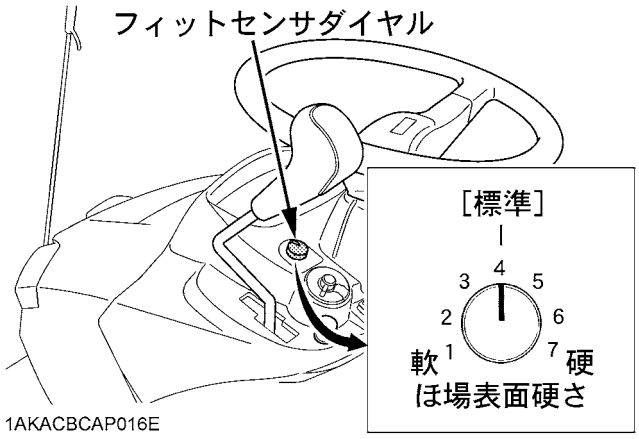
苗の状態により横送り切換えレバーを動かして横送り回数（**16 回**〔成苗〕・**20 回**〔中苗〕・**26 回**〔稚苗〕）を選択し設定します。



1AKACBCAP024D

● **フィットセンサダイヤル**

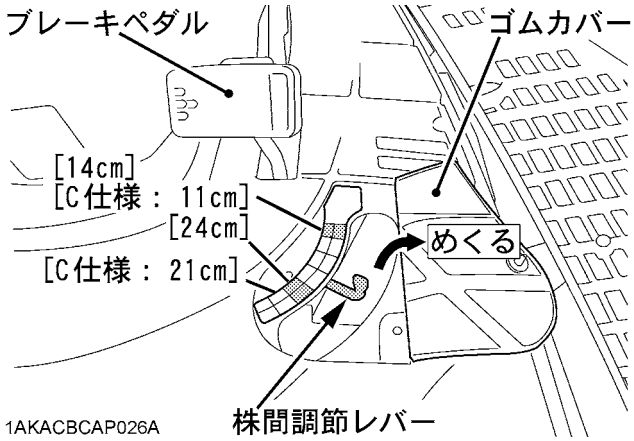
フィットセンサダイヤルを**［4］**（標準）の位置にします。



1AKACBCAP016E

● **株間調節レバー**

ステップ右側のゴムカバーをめくり株間調節レバーを動かして **14cm** から **24cm** の間（５段階）**［C 仕様：11cm から 21cm の間（６段階）］**から選択し，株間を設定します。



1AKACBCAP026A

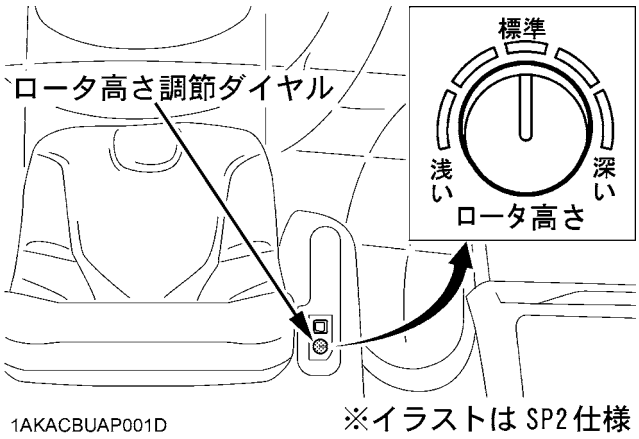
補　足

＊ レバーの位置を切換えるときは，副変速レバー **［N］（中立）**位置にしてください。

● **ロータ高さ調節ダイヤル**

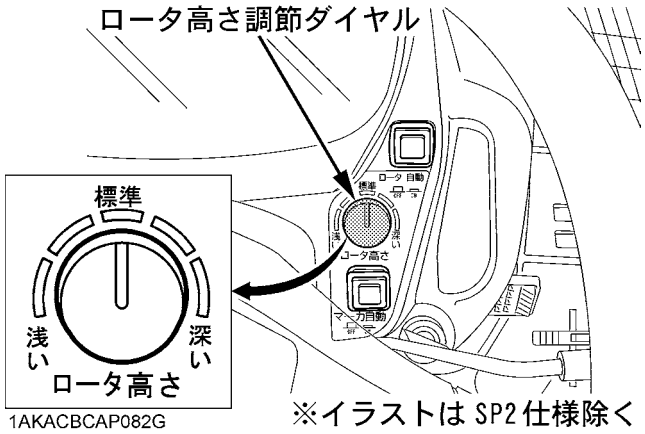
［R 仕様］

ロータ高さ調節ダイヤルを**［標準］**の位置にします。



1AKACBUAP001D

※イラストは SP2 仕様



1AKACBCAP082G

※イラストは SP2 仕様除く

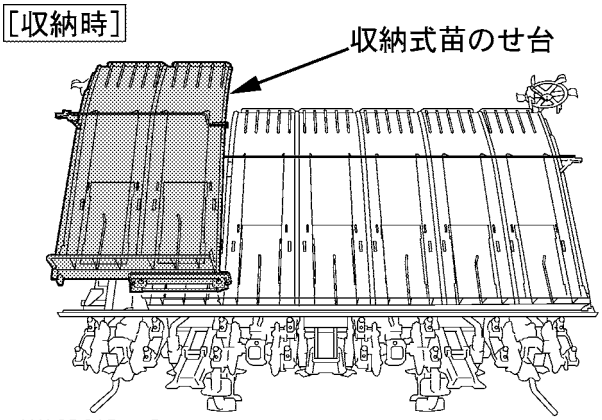
［R 仕様］

■苗のせ台の折りたたみ・広げかた

警 告

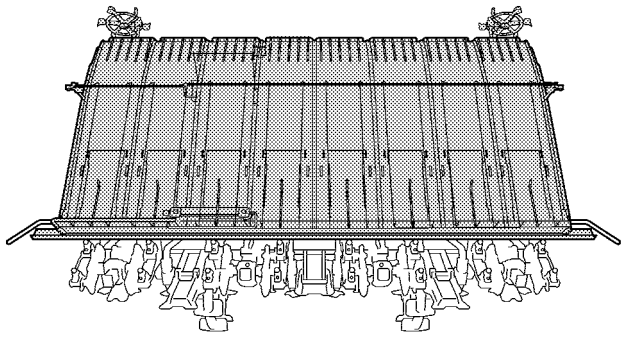
＊ 水平で平たんな場所で,駐車ブレーキを掛けて行なってください。

［収納時］



1AKACBCAP023B

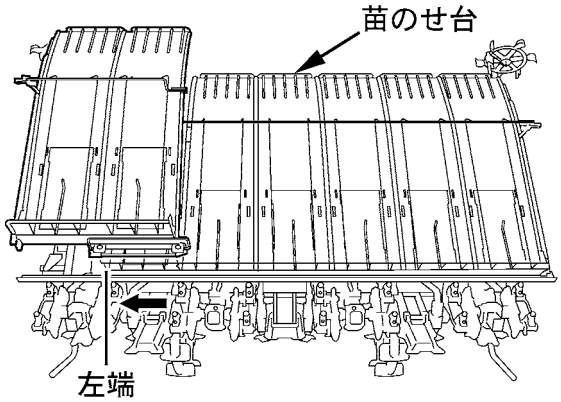
［作業時］



1AKACBCAP045A

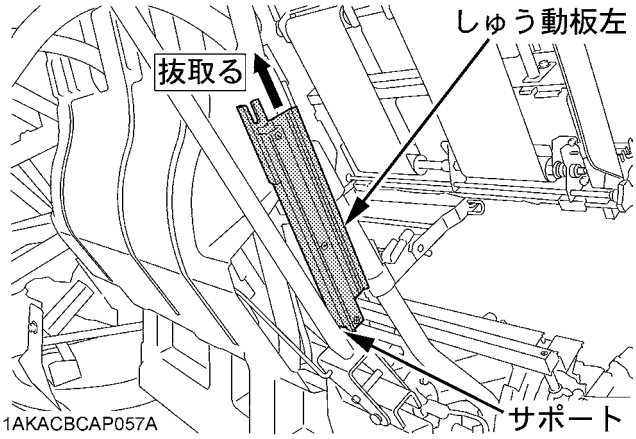
◆ 広げかた

1. 主変速レバーを**［N］（中立）**位置にし，駐車ブレーキを掛けたあと，エンジンを始動します。
2. 十字ポンパレバーを**［上］（上昇）**側に操作して植付部を上昇させたあと，油圧ロックレバーを**［閉］**位置にして植付部の下降防止を行ない，エンジンを停止します。
3. 苗のせ台が機体の**左端**の位置にあることを確認します。



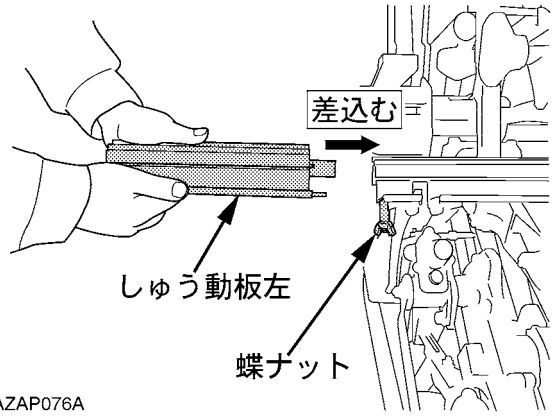
1AKACBCAP023C

4. 脱着式のしゅう動板左をサポートから抜取って，本体側に取付けます。
   (1) しゅう動板左を抜取ります。

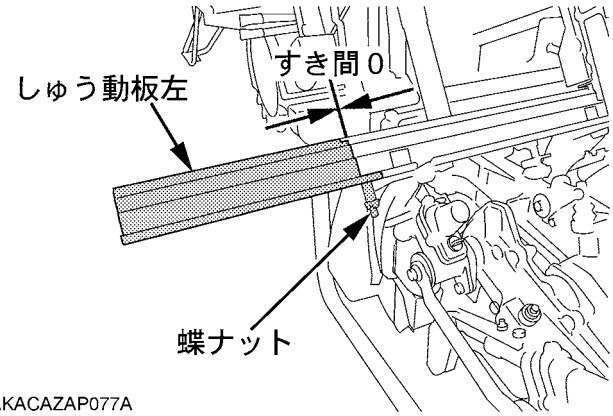


1AKACBCAP057A

(2) 蝶ナットをゆるめ，下図の方向にすき間のない（すき間０）ように差込み，蝶ナットで締付けます。

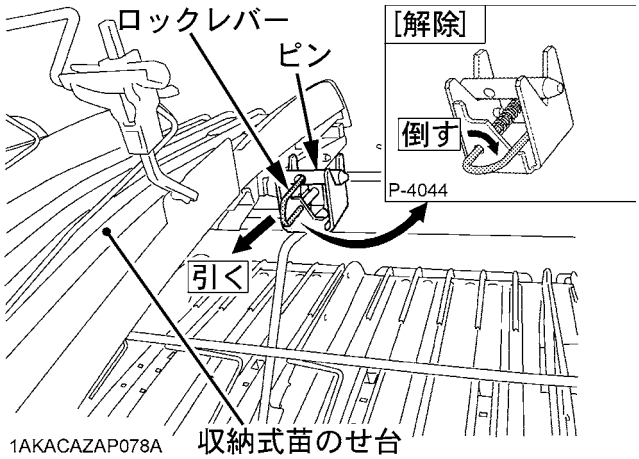


1AKACAZAP076A



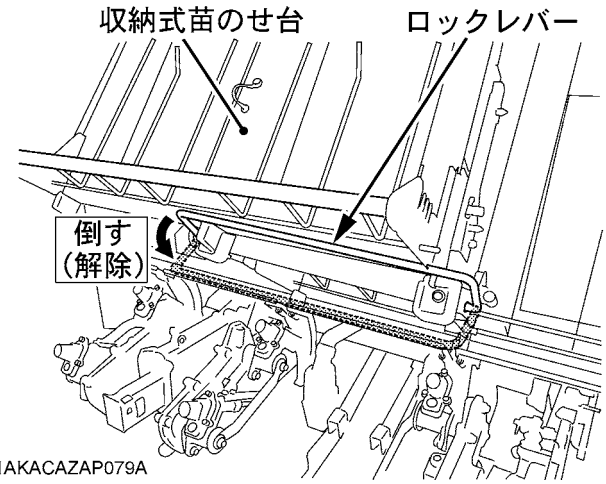
1AKACAZAP077A

5. 収納式苗のせ台のロックを解除します。
(1) 右上部ピン部を固定しているロックレバーを，下側に引きながら右側に倒して，ロックを解除します。



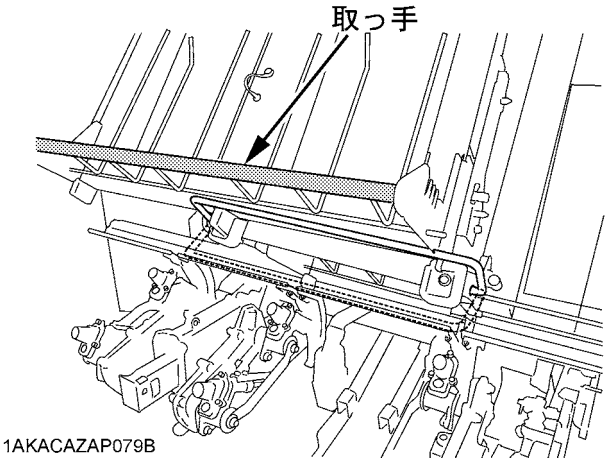
1AKACAZAP078A

(2) 下部を固定しているロックレバーを下側に倒してロックを解除します。

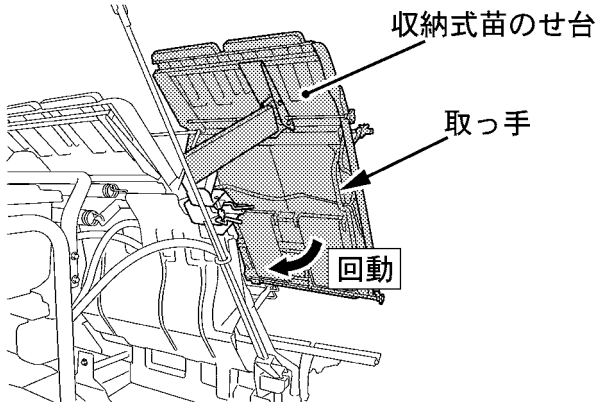


1AKACAZAP079A

6. 両手で収納式苗のせ台を持上げて左側に回動します。

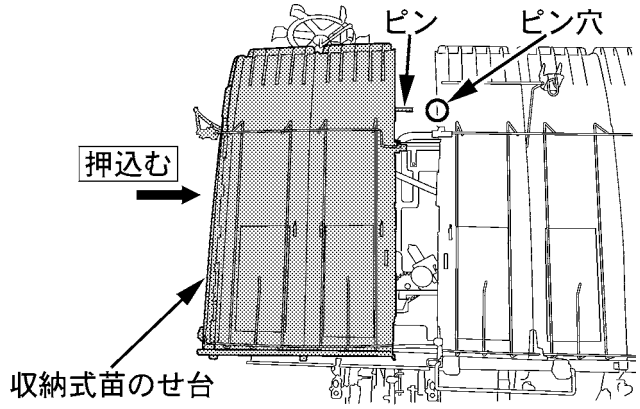


1AKACAZAP079B



1AKACBCAP062A

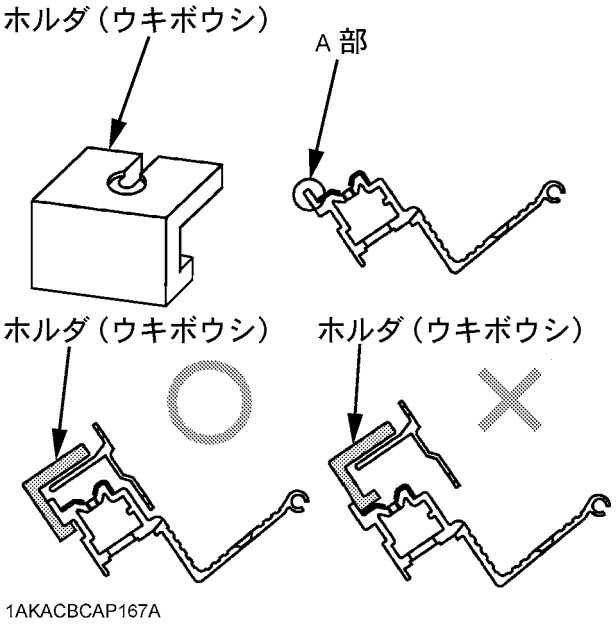
7. レバーグリップを握りながら収納式苗のせ台の外側端部の取っ手を持ち，中央側へ押込みます。このとき，本機側苗のせ台上部にあるピン穴にピンを差込み，苗のせ台上部**［収納位置（▲）］**ラベルに**［収納］**位置が合う位置まで押込みます。



1AKACBCAP063A

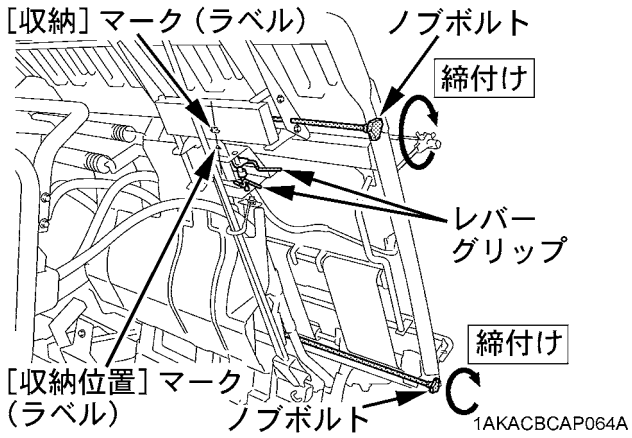
補　足

＊ ピン部がピン穴に確実に差込まれることを確認して押込んでください。
＊ ホルダ（ウキボウシ）がしゅう動板の A 部に乗り上げていないかを確認してください。



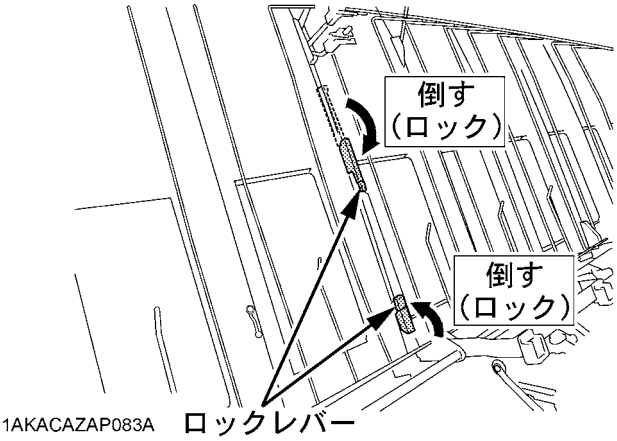
1AKACBCAP167A

8. 左端部にある上，下 2 箇所のノブボルトを締付けます。



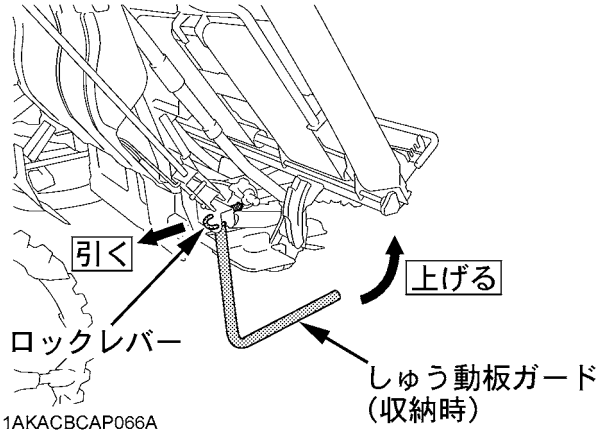
1AKACBCAP064A

9. 苗のせ台側にある 2 箇所のロックレバーで本機側と固定するためにそれぞれ倒してロックします。

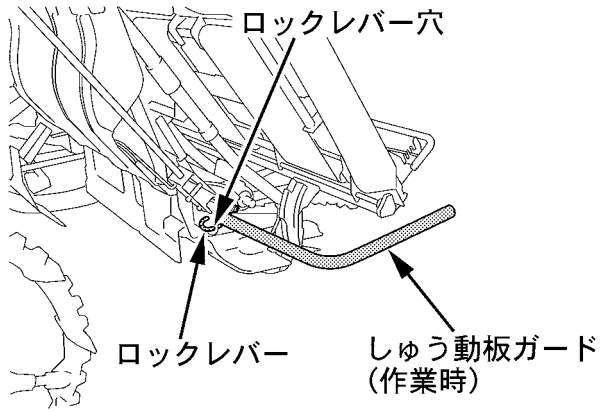


1AKACAZAP083A

10. 収納式のしゅう動板ガード左を作業状態の位置にします。
   (1) ロックレバーを前側に引きながらしゅう動板ガードを上げます。
   (2) しゅう動板ガード左の作業位置でロックレバーを穴に差込みます。



1AKACBCAP066A



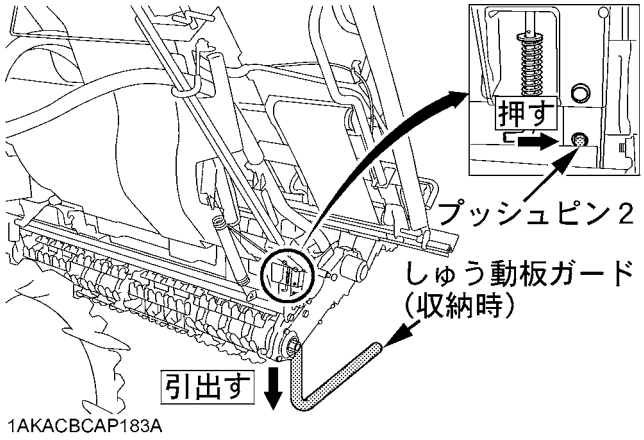
1AKACBCAP065A

補　足

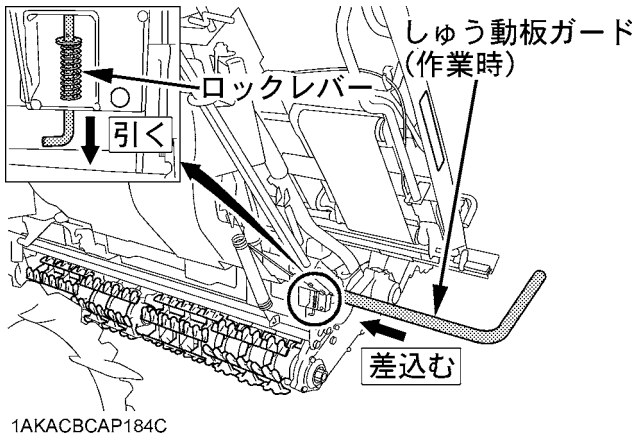
＊ 苗のせ台の折りたたみ・広げるときは，先にしゅう動板ガードを収納状態にしてください。

[R 仕様]

10. 収納式のしゅう動板ガード左を作業状態の位置にします。
   (1) プッシュピン２を押しながらしゅう動板ガードを下側に引出します。
   (2) ロックレバーを下側に引いている状態で，しゅう動板ガードのプッシュピン２を押しながら作業位置の穴に差込み，ロックレバーでセットします。



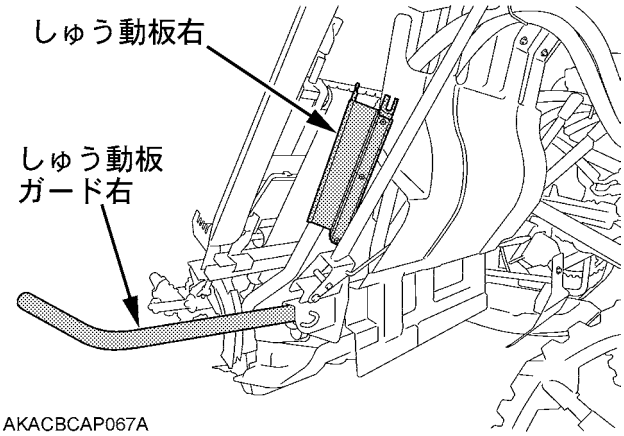
1AKACBCAP183A



1AKACBCAP184C

[R 仕様]

11. 右側のしゅう動板としゅう動板ガードを手順 4. と 10. と同じ要領でセットします。



1AKACBCAP067A

[R 仕様]

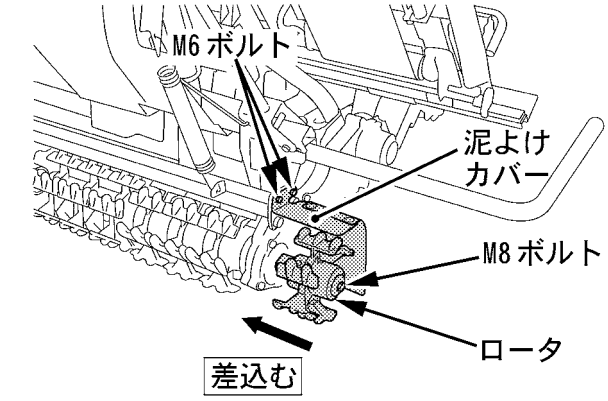
11. 右側のしゅう動板ガードを **[R 仕様]** の手順 10. と同じ要領でセットします。

補　足

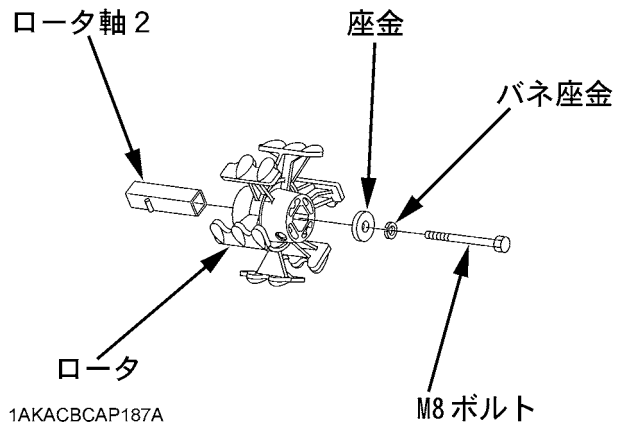
＊ 右側のしゅう動板は手順4. と同じ要領でセットします。

12. 延長ロータ**【右・左】**と泥よけカバー**【右・左】**を取付けます。

(1) 左側延長ロータの組付け
ロータ駆動ケース部の駆動軸にロータ軸２，ロータを組込み，M8 ボルト 1 本で組付けます。

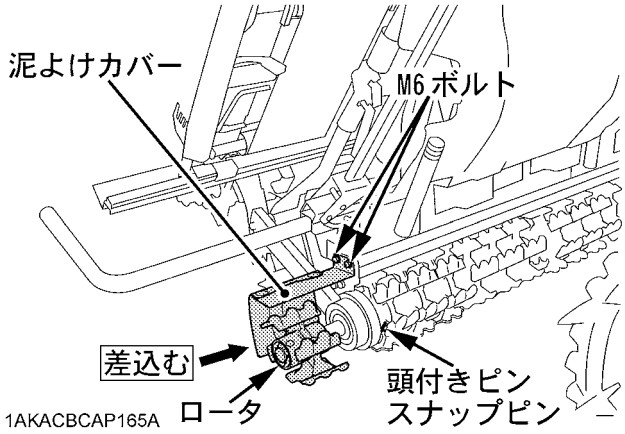


1AKACBCAP168A

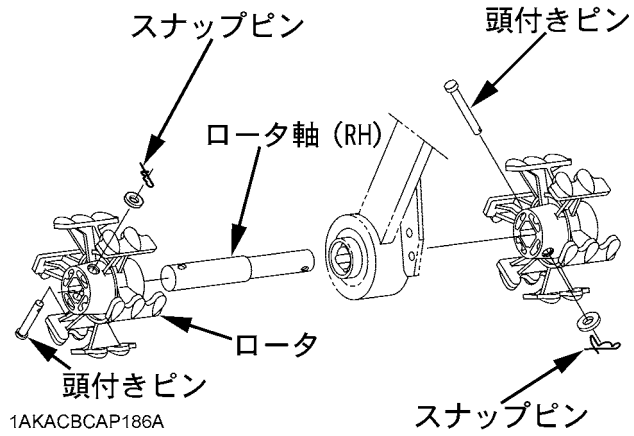


1AKACBCAP187A

(2) 右側延長ロータの組付け
本機セットの右端ロータの頭付きピンとスナップピンを取外します。延長ロータアッシ（ロータ軸と一体品）を側面から差込み，外した頭付ピンとスナップピンで再び組付けます。



1AKACBCAP165A



1AKACBCAP186A

(3) 泥よけカバーの組付け
泥よけカバー**【右・左】**は M6 ボルト各２本で取付けます。

補　足

＊ 通常は延長ロータを付けて作業します。
＊ 軟弱なほ場，水が深いほ場などで，植付速度を落としても隣接条に泥押しや水押しをする場合は，両サイドの延長ロータを外して植付けを行なってください。

[R 仕様]

◆ 折りたたみかた

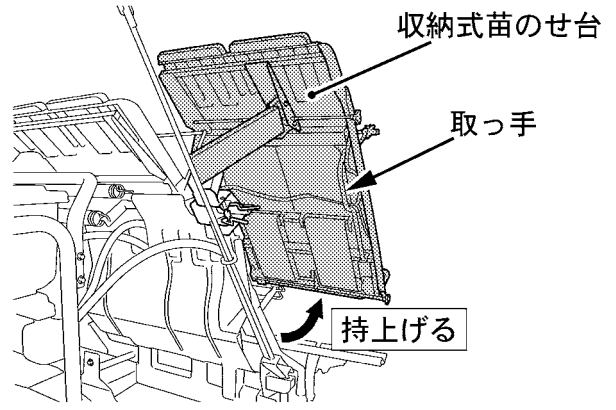
1. 広げかたの手順 1., 2. を行ないます。
2. 左端まで苗のせ台を寄せます。
(38 ページ参照)
3. 収納式のしゅう動板ガード左を収納します。

[R 仕様]

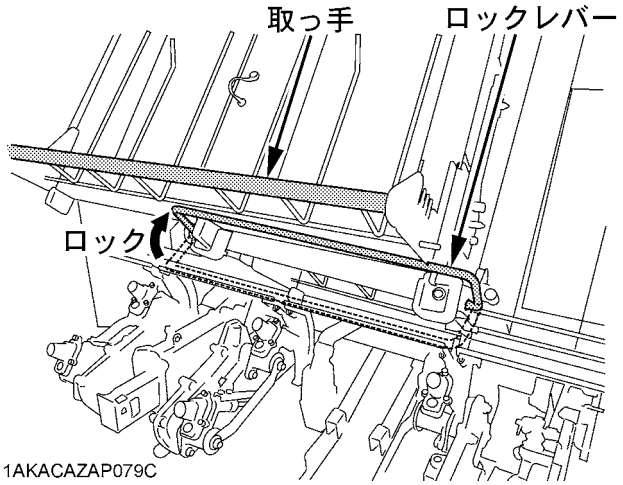
3. 収納式のしゅう動板ガード左を収納します。
   (1) しゅう動板ガード左の広げかた 10. と同様にしゅう動板ガード左を収納します。

[R 仕様]

4. 苗のせ台側にある 2 箇所のロックレバーを上げて，ロックを解除します。
5. 左端部にある 2 箇所のノブボルトをゆるめて外します。
6. 収納式苗のせ台の外側端部の取っ手を持ち，ロックする外側いっぱいまで引張ります。
7. 両手で収納式苗のせ台を持上げます。
8. 収納位置にしたあと，収納式苗のせ台の右上部と下部をロックレバーでロックします。



1AKACBCAP062B



1AKACAZAP079C

9. 脱着式のしゅう動板左を取外したあと，サポートに収納します。

補　足

＊ しゅう動板はなくさないように確実にサポートに収納してください。

10. 右側のしゅう動板ガードとしゅう動板を手順 3. と 9. と同じ要領で収納します。

[R 仕様]

10. しゅう動板ガード右を収納します。
    (1) しゅう動板ガード左の広げかた 10. と同様にしゅう動板ガード右を収納します。
11. 延長ロータ **[右・左]** と泥よけカバー **[右・左]** を広げかたの 12. の逆の手順で取外します。

補　足

＊ 取外した延長ロータ **[右・左]** と泥よけカバー **[右・左]** はなくさないよう保管してください。

[R 仕様]

植付作業のしかた

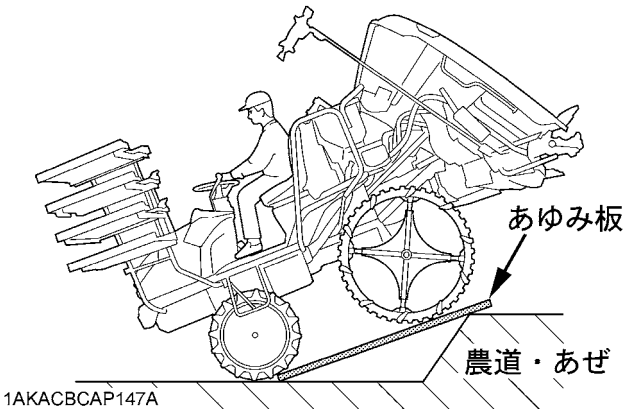
注　意

＊ 夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。
＊ 後進する場合，後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないようにじゅうぶん注意してください。
＊ 機体への乗り降りや機体の上で作業を行なうとき（苗や肥料の補給時など），主変速レバーに体の一部が接触すると，機体が発進するおそれがありますので，必ず駐車ブレーキを掛けてください。

■ほ場の出入りのしかた

注　意

＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。



＊ 暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので，あぜごえや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは，下記事項に注意してください。
- 副変速レバーが［圃場作業］位置になっていることを確認する。
- 走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する。）
- 主変速レバーで走行と停止を行なう。
- あぜや斜面に対して直角に走行する。
- あぜや斜面に対して上り方向は後進，下り方向は前進で走行し，前輪デフロックペダルを踏込む。
- あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込まない。

■植付作業の手順

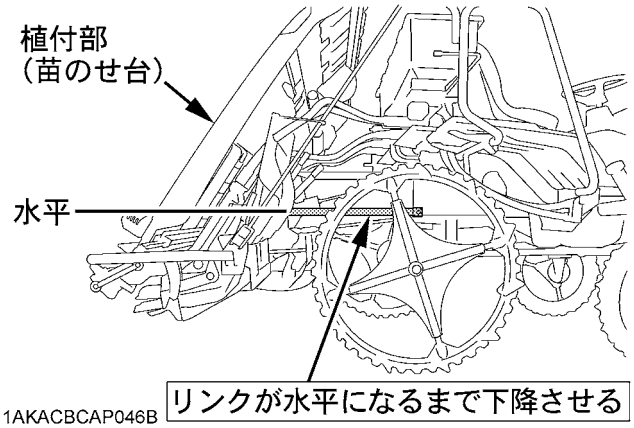
注　意

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊ ほ場の外で苗のせ台を移動させているときは，機体が動かないように水平で平坦な場所で必ず行なってください。

重　要

＊ 副変速レバーを**［路上走行］**位置にして植付作業はしないでください。トラブルの原因になります。

1. ほ場に入ったら平たんな場所で走行を停止します。
2. 十字ポンパレバーを**［下］（下降）**側に操作して植付部のリンクが水平状態になる程度まで下降させます。

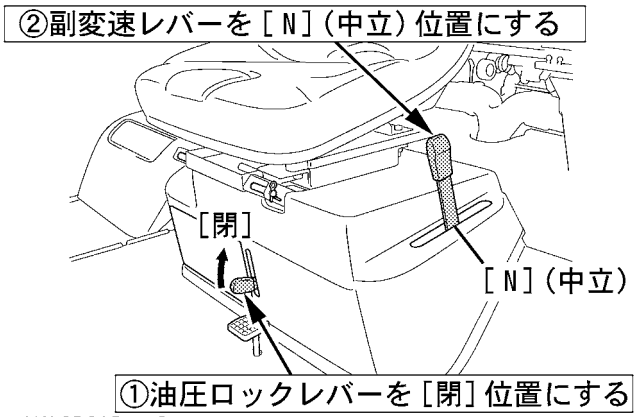


1AKACBCAP046B

補　足

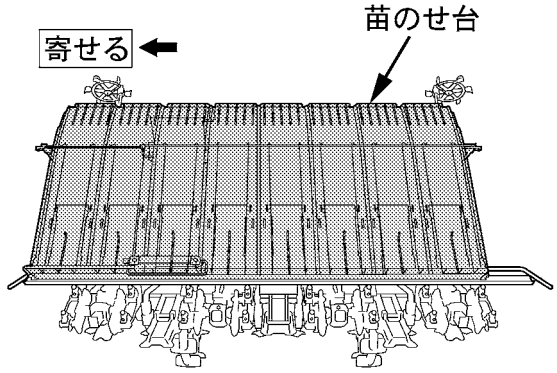
＊ 植付部が最上昇にあると植付部は横送りしないため，植付部は最上昇位置より下がった位置にしてください。

3. 油圧ロックレバーを**［閉］**位置にして下降防止をします。
4. 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを**［N］（中立）**位置にします。



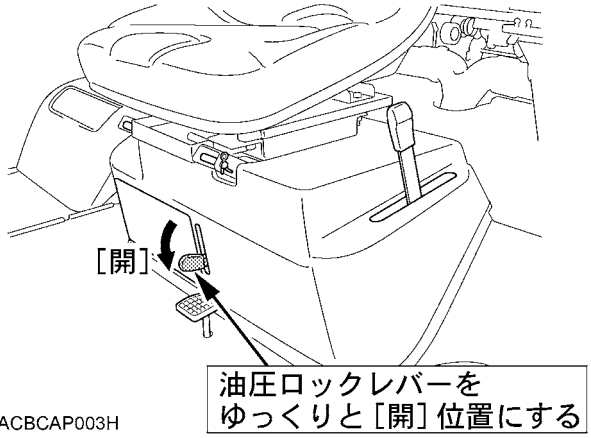
1AKACBCAP003G

5. 十字ポンパレバーを**［下］（下降）**側にピッと音が鳴るまで操作したあと，もう１度レバーを**［下］（下降）**側にピッピッと連続音が鳴るまで操作して，植付部の駆動の準備をします。
6. 主変速レバーをゆっくりと**［前進］側**に操作して，植付部を駆動させ，苗のせ台が**右端**又は，**左端**まで移動してシンクロベルト（縦送りベルト）が作動した直後に，十字ポンパレバーを**［上］（上昇）**側に操作して植付部の駆動を停止します。



1AKACBCAP008B

7. 主変速レバーを**［N］（中立）**位置に戻します。
8. 油圧ロックレバーをゆっくりと**［開］**位置にして，植付部を降します。

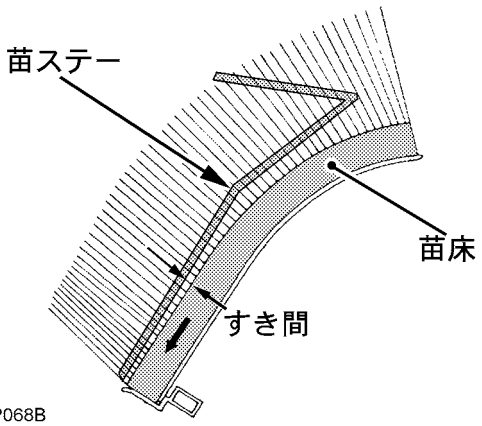


1AKACBCAP003H

9. エンジンを停止します。
10. 苗のせ台に苗をのせます。

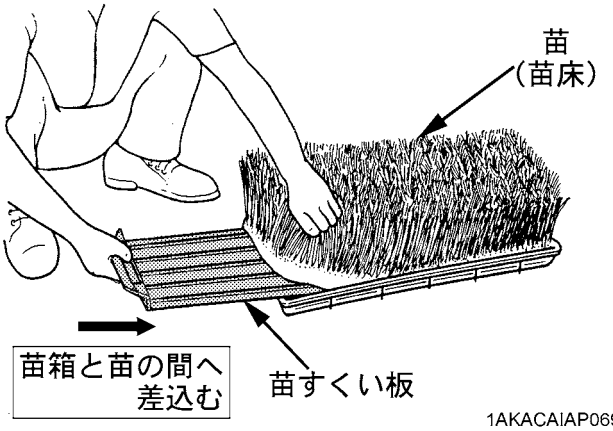
補　足

＊ 苗がくずれ落ちないように苗ステーとのすき間を確認してください（83 ページ参照）



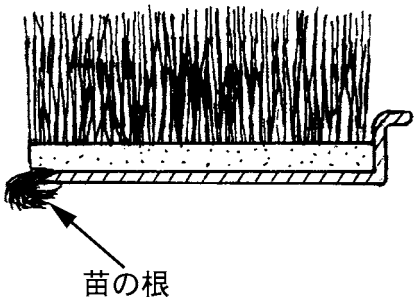
1AKACAIAP068B

＊ 苗箱から苗を取出すときは，苗床（苗マット）の端を持上げて，苗すくい板を苗床の下に差込み苗をすくい出してください。



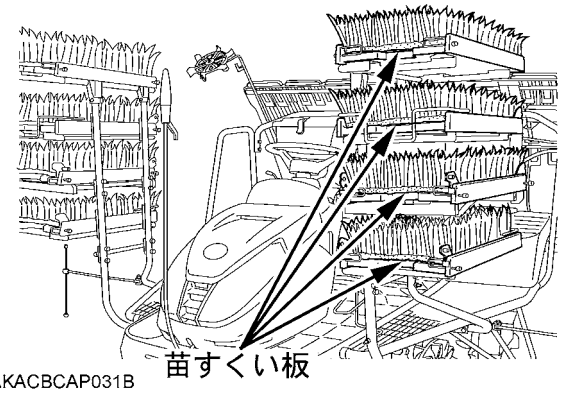
1AKACAIAP069A

＊ 苗すくい板の先端に苗の根がからみついて，固まりができることがあります。この根は必ず取除いてください。そのまま入れると，欠株の原因になります。



1AKACAIAP070A

＊ 苗すくい板のニギリ部を機体の後方にし，予備苗のせ台へのせてください。



1AKACBCAP031B

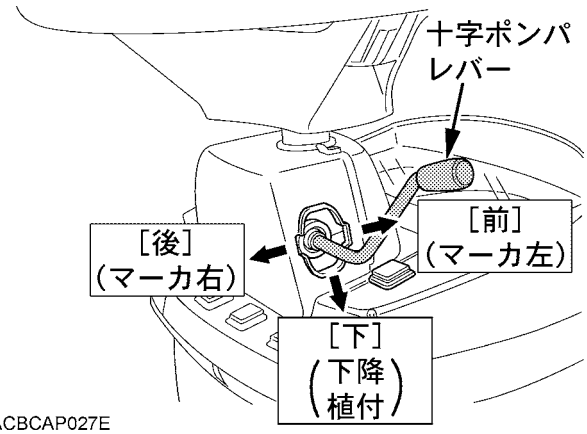
[F 仕様]

11. ホッパに肥料を入れます。

（71 ページ参照）

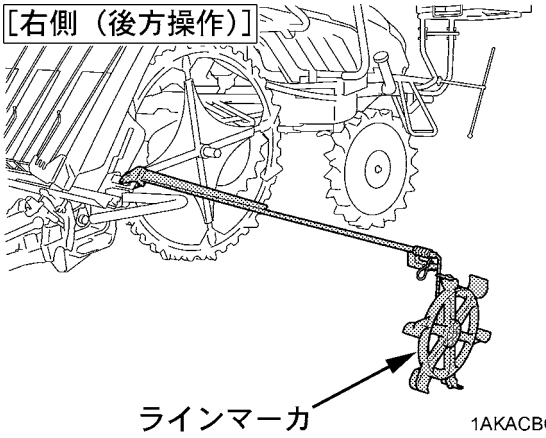
[F 仕様]

12. エンジンを始動し，十字ポンパレバーを操作して植付部の駆動準備とラインマーカのセットを行ないます。
    (1) 十字ポンパレバーを**上側**に 1 回押すと植付部が上昇します。
    (2) 十字ポンパレバーを**下側**にピッと音が鳴るまで 1 回押すと植付部が下降し，レバーを**前方 [マーカ左]** 又は，**後方 [マーカ右]** に押すとラインマーカが倒れます。さらに，**下側**にピッピッと音が鳴るまで押すと，植付部が駆動します。



1AKACBCAP027E

［右側（後方操作）］



重　要

＊ ポンパレバーを押したあとはすぐに離してください。また，強く押さないでください。故障の原因となります。

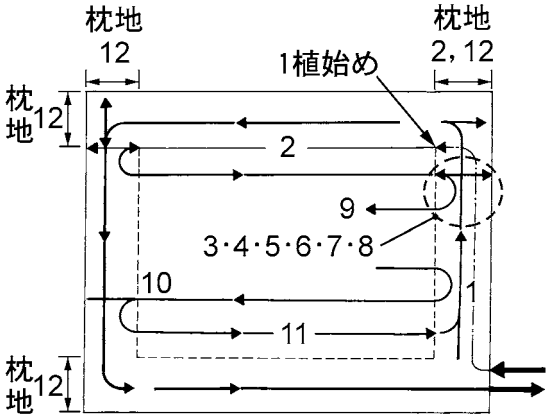
補　足

＊ ラインマーカを出さないとき（あぜぎわの植付など）は，ポンパレバーを再度下側に操作してください。植付部が駆動します。

13. 副変速レバーを**［圃場作業］**位置にし，主変速レバーを**［前進］**側へ操作して試し植えを行ないます。
14. 5 m 前後植付けたあと，主変速レバーを**［N］（中立）**位置にして走行を停止し，植付後の確認をします。異常がなければ植付作業を行ないます。
    - １株本数…　苗取り量調節レバー，横送り切換えレバー
    - 植付深さ…　植付深さ調節レバー，フィットセンサ，モンロー調節ダイヤル
    - 植付株間…　株間調節レバー
    - 植付姿勢…　フィットセンサ，苗ステー
    - 欠株……　苗押さえ棒
15. 作業終了後に，機械に異常が発生している場合がありますので運転席下部にあるコントローラの表示の有無を確認してください。
（96 ページ参照）

■植付けかたと旋回のしかた

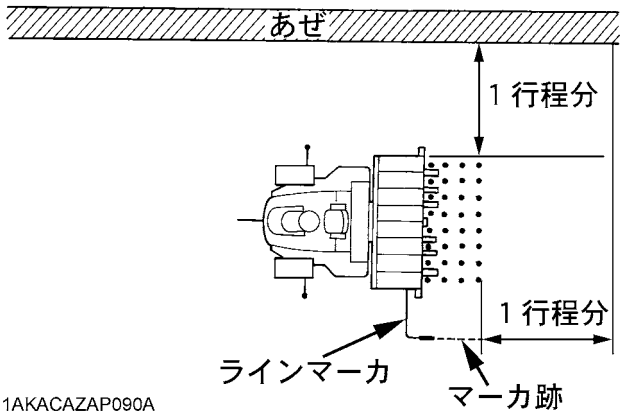
ほ場の大きさや形状によって植付方法は異なりますので作業を始める前に，植付手順を決めてから植付作業を行なってください。



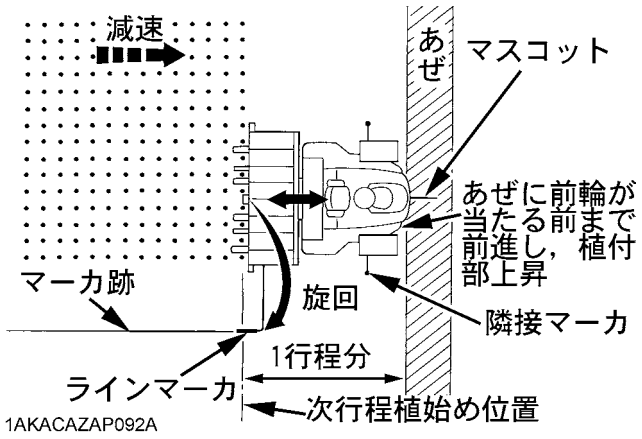
補　足

＊ 上図は，植付手順の一例です。また，上図内と下記手順の番号１～12を合わせて説明しています。

1. 植始めの位置まで植付けを行なわずに走行します。
2. 十字ポンパレバーを**下側**にピッと音が鳴るまで１回押して植付部を下降させ，十字ポンパレバーを**前方又は後方**に操作して，ラインマーカを左又は右にセットし，さらに，**下側**にピッピッと音が鳴るまでレバーを押し，後方と右側を各１行程分残すように植付けます。



3. あぜが前輪に当たる少し手前で減速し，主変速レバーを操作して停止します。そのあと，十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇させます。



4. 旋回しやすい位置まで後退します。
5. 次に植える条側にハンドルを回して旋回します。

補　足

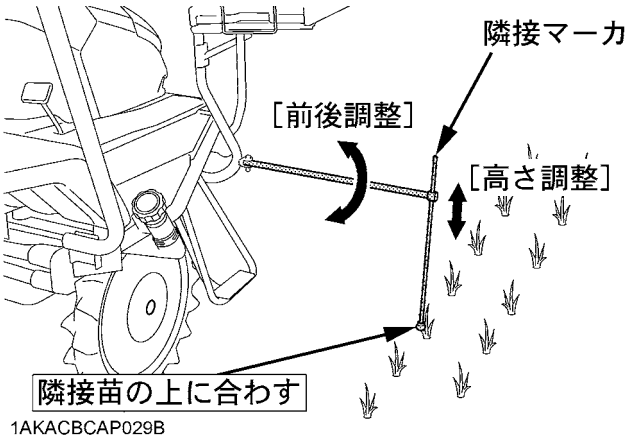
＊ あぜにボンネットが当たる場合は，あぜぎわ植えを行なってください。(68 ページ参照)
＊ 植付クラッチを切って前後進したとき，植付爪が正転方向又は，逆転方向に最大半回転程度回転する場合があります。

6. 旋回するときにマスコットを目印にして，マーカ跡の線とマスコットの位置を合わせながら機体をまっすぐにします。

補　足

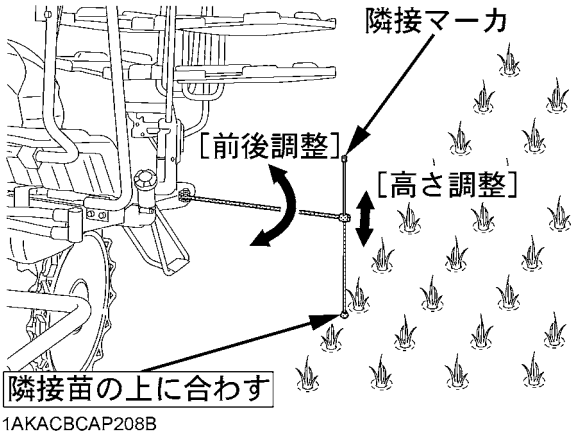
＊ マーカ跡の線が見えにくいときは，隣接マーカが植終わった隣の苗（隣接苗）の上になる位置に合わせてください。
＊ 隣接マーカは必要に応じて前後方向の角度及び上下方向の高さを調整してください。

[Y16・Y32 仕様除く]



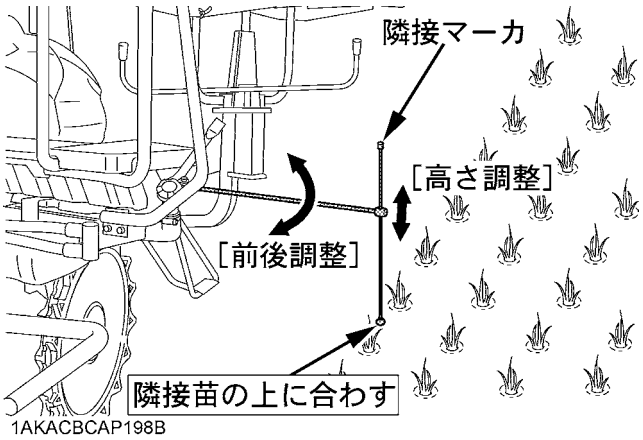
[Y16・Y32 仕様除く]

[Y16 仕様]



[Y16 仕様]

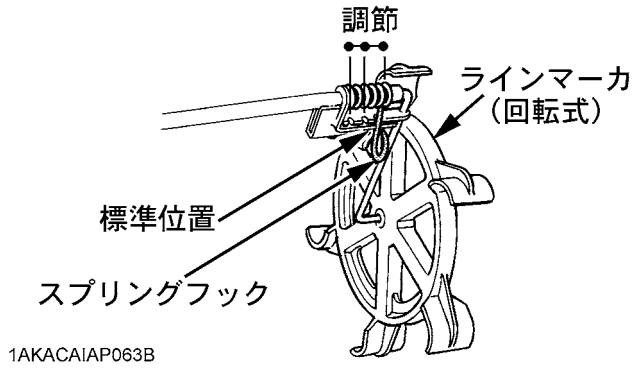
[Y32 仕様]



1AKACBCAP198B

[Y32 仕様]

＊ フロートの泥で苗が倒れているときや補助車輪を取付けているときは，ラインマーカの長さを調節してください。



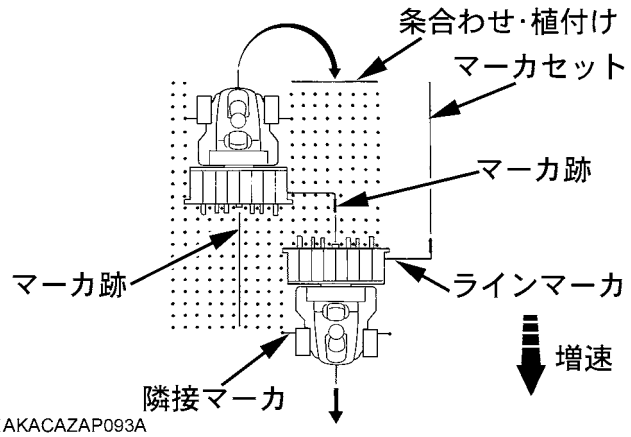
1AKACAIAP063B

7. 十字ポンパレバーを**下側**にピッと音が鳴るまで 1 回押して植付部を下降させます。
8. 植付部が接地したことを確認したあと，ラインマーカを次行程植付側にセットします。さらに，**下側**にピッピッと音が鳴るまで十字ポンパレバーを押して植付クラッチ**入**の状態にします。

補　足

＊ 植付部が接地していないときに，植付部が駆動すると植付爪から苗が落下します。

9. 主変速レバーを操作して植付速度を上げます。



1AKACAZAP093A

10. 次行程から同じ作業を繰返します。
11. 長辺方向の最終行程の前に条合わせが必要なときは，あぜぎわ植えを行ないます。

補　足

＊ 68 ページ参照

12. 枕地を 1 周植付けて出入口から出ます。

[R 仕様]

補　足

＊ 整地ロータを使用して作業するときは，ほ場や作業の条件によっては，下記のように機体や作業の設定を調整した方がきれいに植わる場合があります。

- 高速で植付作業を行なうと，植付不良が発生することがあります（ほ場の軟弱さ，水の多さ，苗の条件などによる影響）。
  その場合は適度な速度に落としてください。
- 速度を落としても，隣接条に泥押しや水流が影響する場合には，両端のロータだけ外して作業することも可能です。
  (ロータの脱着方法は 52 ページ参照)
- 特に軟弱なほ場は，整地ロータを上げた方がきれいに植付けができる場合があります。
  その場合は，ロータ自動スイッチを **[OFF] (切)** 位置にして作業してください。

＊ 極端にほ場が凸凹だったり，挟雑物が多過ぎると，きれいに整地できない場合がありますので，適正な代かきを行なってください。

[R 仕様]

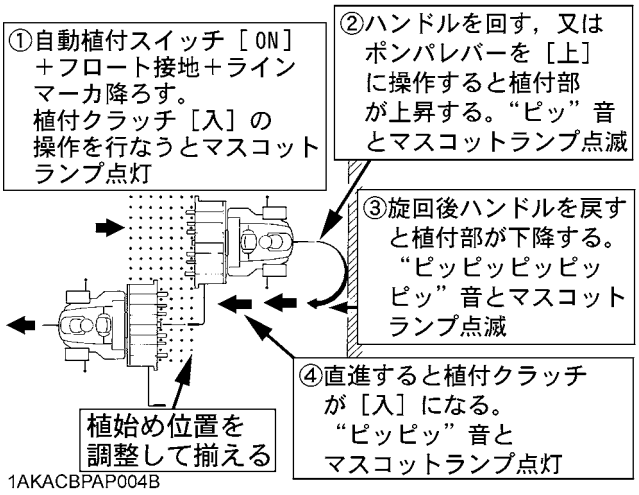
■自動植付作業のしかた

[R-SP2 仕様]

- 自動植付スイッチ…**［ON］（入）**
  スイッチのランプが点灯
- ポンパレバーを次の順に操作する。

1. **［下］**に操作 ……フロートを接地させる。
2. **［前･後］**に操作……マーカを降ろす。
3. 再度**［下］**に操作…植付クラッチ**［入］**

①上記の操作をすると，自動植付作業ができるようになります。このときマスコットランプが**点灯**して自動植付作業ができることを示します。
②自動植付作業中に「ハンドルを旋回方向に操作する」,「バックアップ機能を使う」,「ポンパレバーを**［上］**に操作する」のいずれかを行なうと，**ピッ**とブザーが鳴り植付部が上昇すると同時に植付クラッチが**［切］**の状態になります。このときマスコットランプが**点滅**してラインマーカが収納されて，植付クラッチが**［切］**であることを示します。
③マスコットランプが**点滅**している状態で，旋回後にハンドルを直進方向へ戻すと**ピッピッピッピッピッ**とブザーが鳴り植付部が下降します。
④植付部が下降後に直進すると**ピッピッ**とブザーが鳴り植付クラッチが**［入］**となると同時にラインマーカが降ります。このとき再びマスコットランプが**点灯**し自動植付作業ができることを示します。

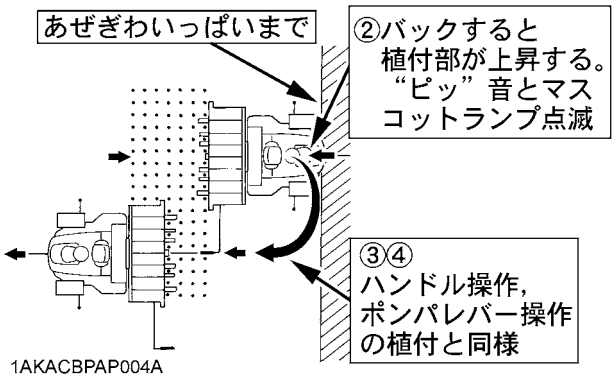


重　要

自動植付作業時は，次の昇降動作に注意して植付部をあぜなどに当てないようにしてください。

＊ 自動植付作業中に直進方向から 3/4 回転以上ハンドルを操作すると，植付部が上昇します。

＊ 旋回後に直進方向から 3/4 回転以下までハンドルを戻すと植付部が下降します。



補　足

＊ マーカを倒さず作業を行なったときは，自動植付が働きません。
枕地植え作業，路上走行，あぜでの出入り時などで不意に植付部が昇降しないようにしています。

＊ 自動植付スイッチ**［ON］**で，マスコットランプが点滅中に次のいずれかの作業を行なった場合は，自動植付が解除され，マスコットランプが消灯します。
- 10m 以上前後進を行なった。
- ポンパレバーを上下に操作した。

上記の場合，ポンパレバー操作で植付部を下降させて，ラインマーカを降ろし植付クラッチを**［入］**にすると，再び自動植付作業ができるようになります。

＊ 複雑な切返し，農道での旋回など特殊な旋回をするときは，自動植付スイッチを**［OFF］**にしてください。
そのときは，ポンパレバー操作で植付作業を行なってください。

＊ ①のとき植付クラッチ**［入］**のまま停止してメインキーを**OFF･ON**した場合は，植付クラッチが切れてマスコットランプが**点滅**します。
その状態から旋回する場合は，ポンパレバーで**［上］**操作をすると自動植付が**［切］**になります。バックアップ機能で植付部を上昇させてください。

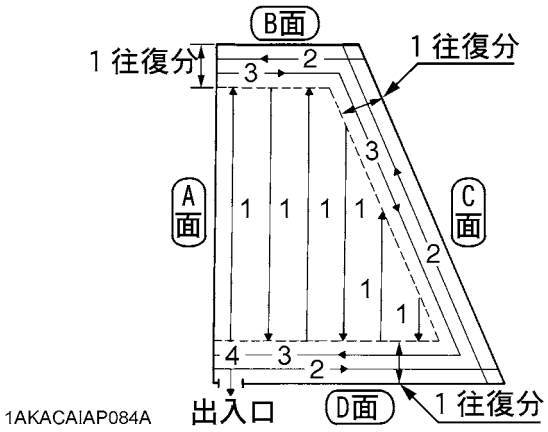
＊ ②のときメインキーを**OFF・ON**しても自動植付の状態は継続しています。エンジン再始動後も，そのまま自動植付作業ができます。

[R-SP2 仕様]

■変形田の植付けかた［参考］

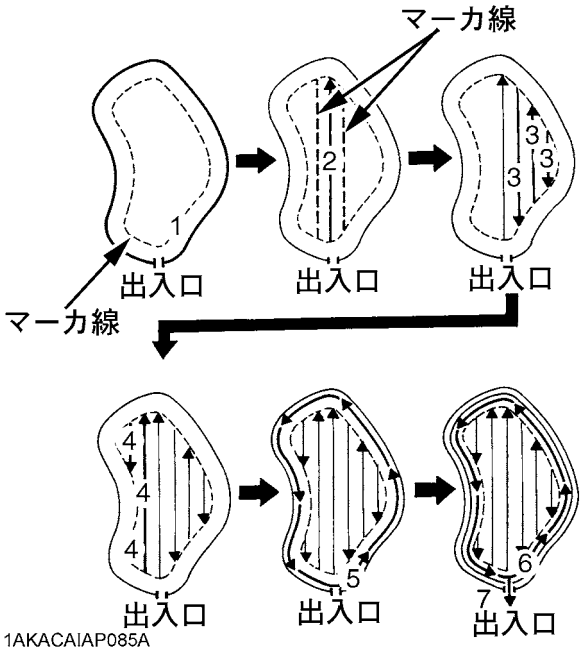
変形田を植付けるときの参考例です。

1. 台形田（A 面基準）



1. B 面，C 面，D 面に各 1 往復分の枕地を残して A 面（長辺方向）に植付けます。
2. D 面，C 面，B 面の順にあぜ側から植付けます。
3. B 面，C 面，D 面の順に残ったところを植付けます。
4. 出入口から出ます。

2. 変形田



1. あぜにそってマーカ線を引きます。（目安線）
2. 左，右共ラインマーカをセットして長辺部を植付けます。
3. 2. で植付けたところを基準に植付けます。
4. 反対面を植付けます。
5. あぜにそって 1 周を植付けます。
6. 5. の枕地残り分を植付けます。
7. 出入口から出ます。

[R-SP2 仕様]

◆ 変形田での植付作業

進行方向に対してあぜが垂直になっていない場合は，ポンパレバーでの植付作業を行なってください。

◆ 枕地での植付作業

ポンパレバーでの植付作業を行なってください。

[R-SP2 仕様]

■安全クラッチについて

注　意

＊ 安全クラッチがはたらいたときは，植付作業を中止してエンジンを停止してください。

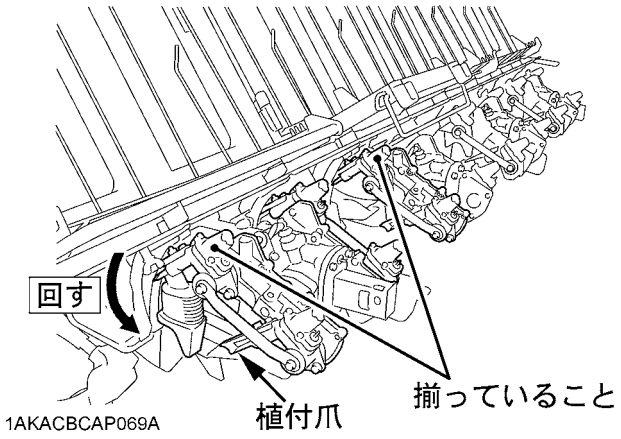
安全クラッチは，植付作業中の植付爪に石など硬い異物がはさまったときに，破損防止のためにはたらく機能です。植付部からガッガッと高い音がしたときは，作業をすみやかに中止し，エンジンを停止してから異物を取除いてください。

重　要

＊ 安全クラッチがはたらいている状態を続けると，植付爪や押出し金具が破損したり，安全クラッチの摩耗により安全クラッチがはたらきやすくなり，植付不良が起こりやすくなります。

補　足

＊ 安全クラッチがはたらいたとき，他の植付爪と位置ずれを起こすことがあります。位置ずれが起きたときは，植付部を上昇させたあと，油圧ロックレバーで下降防止を行ない，必ずエンジンを停止してから異物を取除き，位置ずれを起した植付爪を手で回して他の植付爪と位置をそろえてください。位置がそろうと手では回らなくなります。



＊ **異物を取除いたあとの処置**
異物を取除いたあと植付爪や押出し金具が破損や変形していないか確認し，異常があれば交換や修理を行なってください。(131 ページ参照)また，植付爪を手で回したときにしゅう動板に当たったり，重い場合は購入先に連絡してください。

[R 仕様]

注　意

＊ 安全クラッチがはたらいたときは，植付作業を中止してエンジンを停止してください。

R 仕様は，ロータ用の安全クラッチも別途装備しています。
この安全クラッチは，植付作業中に整地ロータが泥にもぐりこんだり，異物がはさまってロックしたときに，破損防止のためにはたらく機能です。植付部からガッガッと高い音がしたときは，作業をすみやかに中止し，エンジンを停止してから異物を取除いてください。
整地ロータが泥にもぐりこんだときは，機体を少し後進したあと，植付部を上げてください。

重　要

＊ 安全クラッチがはたらいている状態を続けると，安全クラッチの摩耗により安全クラッチがはたらきやすくなり，整地不良が起こりやすくなります。

＊ **異物を取除いたあとの処置**
異物を取除いたあと整地ロータが破損や変形していないか確認し，異常があれば交換や修理を行なってください。また，整地ロータに泥が詰まっている場合は水で洗い流すなどして泥を落としてください。

[R 仕様]

■苗の補給のしかた

苗が残り少なくなると苗のせ台のセンサがはたらいて，苗モニタのランプ及びマスコットランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。

補　足

＊ 警報ブザーは苗を補給しないと８回鳴ったあと停止します。また，苗を補給するとランプは消灯し，ブザーは停止します。

1. 主変速レバーを操作して走行を停止します。

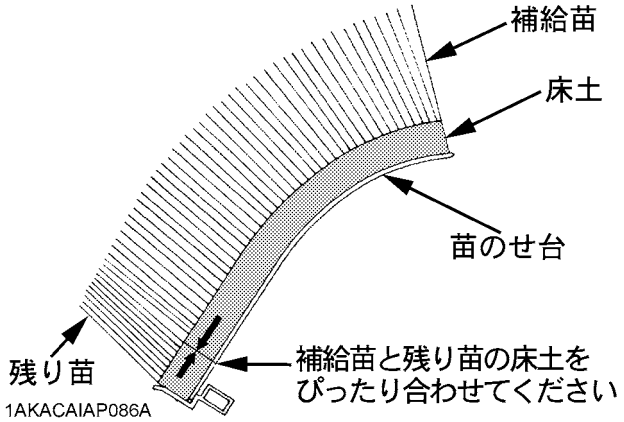
補　足

＊ マフラで苗をこがす場合がありますので，あぜぎわで苗のない場所に停止してください。

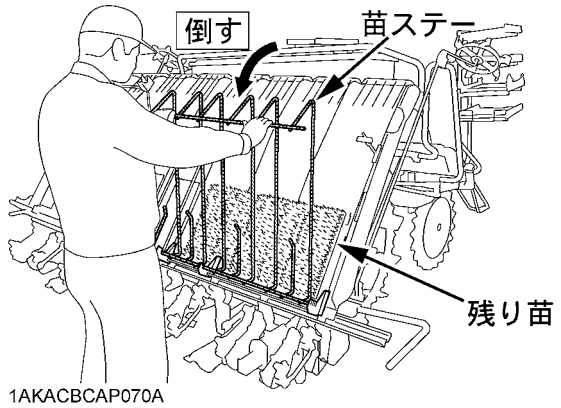
2. 駐車ブレーキを掛けます。
3. 予備苗のせ台の苗や準備した苗を補給します。

補　足

＊ 補給苗はていねいに扱い，補給苗と残り苗の床土にすき間のないようにぴったりと合わせてください。

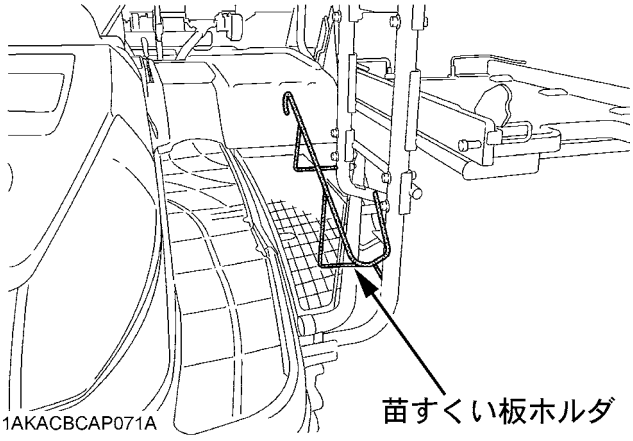


＊ 残った苗を取出すときは，エンジンを必ず停止して，苗ステーを後方に倒してください。



[Y16・Y32 仕様除く]

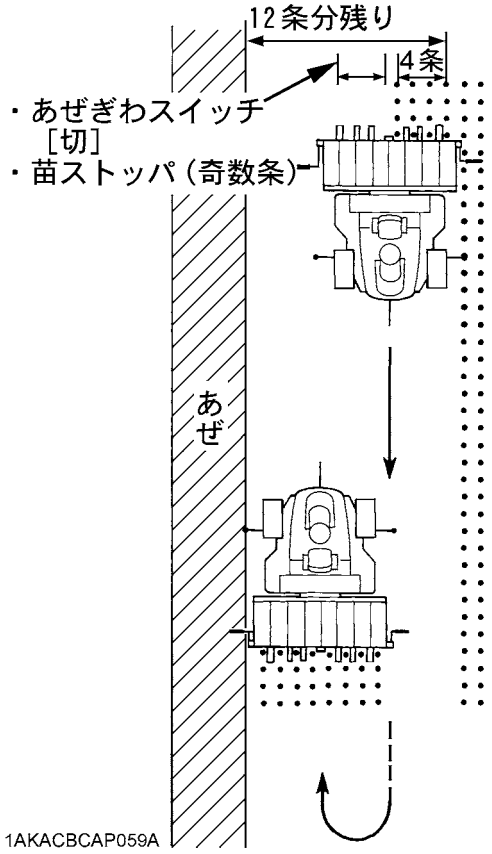
＊ スクイイタホルダを利用すると，苗すくい板を効率的に収納できます。



[Y16・Y32 仕様除く]

■あぜぎわの植付けかた

植付作業の最終段階で，最終の植付けを全条植えで終わらせるため，あぜぎわの調整の植付けを行なってください。



1. あぜぎわから 12 条分残ったとき，あぜぎわスイッチで右側４条分の植付けを停止し，４条分植付けをします。

補　足

＊ 奇数条分の植付けを行なうときは，オプションの苗ストッパを使用してください。(156 ページ参照)
＊ 苗ストッパを使用するときは，使用する条の肥料の繰出し**【F 仕様】**を停止してください。(86 ページ参照)
＊ クラッチは右端，又は左端のいずれかからの順番でしか切ることができません。
＊ 入れるときは最右か最左を押すと全条**【入】**に戻ります。内側の条のスイッチから順に押し，２条ずつ**【入】**に戻すこともできます。
＊ あぜぎわスイッチを使用するときは，植付爪が**【停止】**又は，**【低速回転時】**に行なってください。

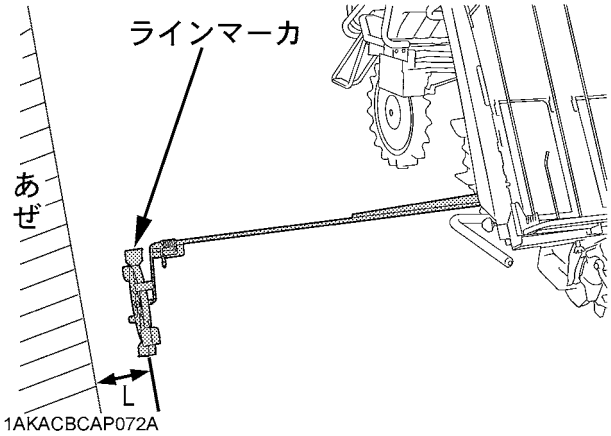
2. 最終はラインマーカを出さずに（収納状態）８条で植付けます。

3. 植付作業が終わるとあぜぎわスイッチを**【入】**位置にし，オプションの苗ストッパを使用している場合は，運転席下に収納します。

● 最終行程の前での植付条数の決めかた

マスコットと隣接マーカで条合わせを行なったあと，ラインマーカを出して植付条数を決めてください。

※あぜぎわ植付寸法が 30cm の場合の目安

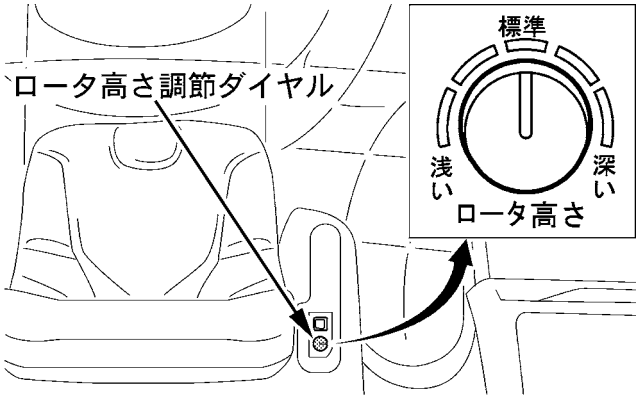


L の距離	前行程 植付条数
約 135cm	８条植え
約 75cm	６条植え
約 15cm	４条植え
ラインマーカを出さない	２条植え

[R 仕様]

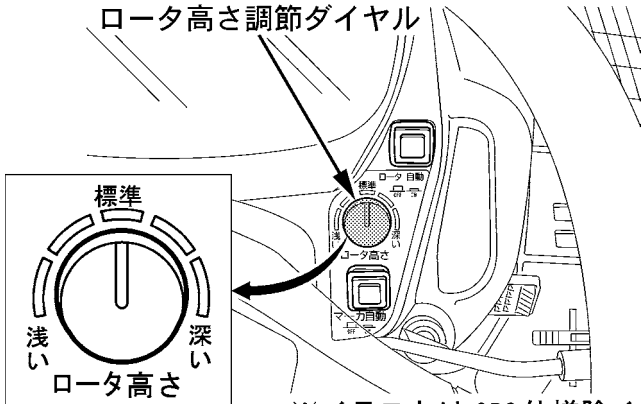
● ロータ高さ調節ダイヤルについて

ロータ高さ調節ダイヤル**【標準】**位置が一般的な作業での基準位置です。
ほ場の軟かさ，土の盛上り具合に応じて**【浅い】【深い】**の各方向にダイヤルで調節を行なってください。



1AKACBUAP001D

※イラストは SP2 仕様



1AKACBCAP082G

※イラストは SP2 仕様除く

補　足

＊ 出荷時は**【標準】**の位置です。

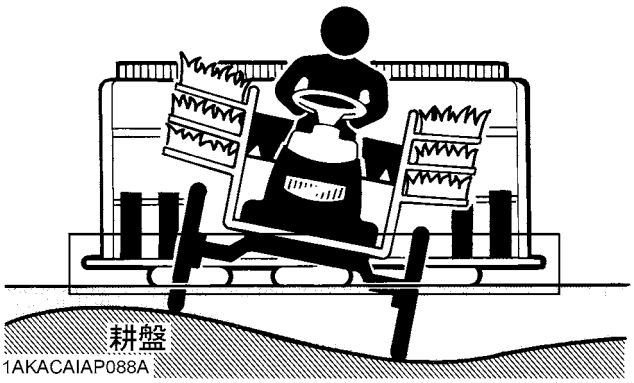
[R 仕様]

■モンロー調節ダイヤルについて

植付作業中に植付部が少し浮き気味になり，植付け状態が左右均等にならない場合は，モンロー調節ダイヤルで調節を行なってください。

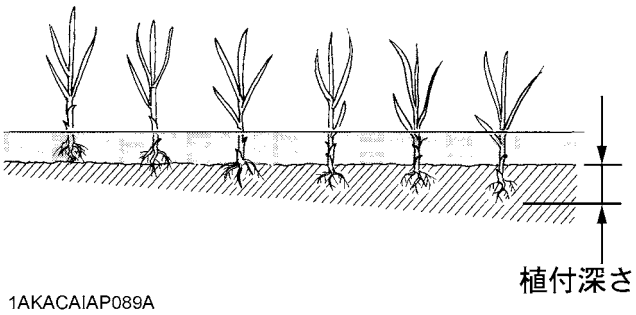
補　足

＊ 出荷時は**【中央】**（標準）の位置です。



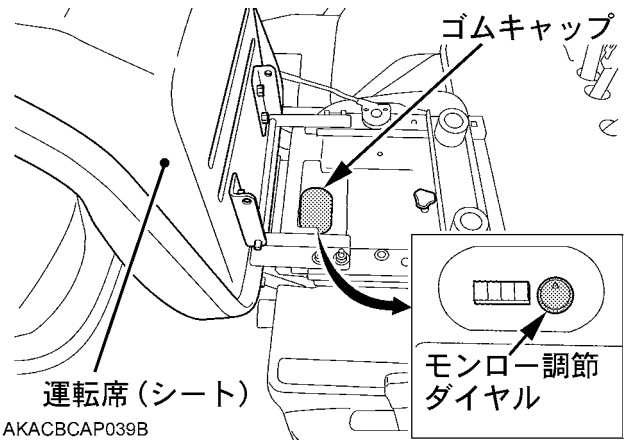
1AKACAIAP088A

［例］



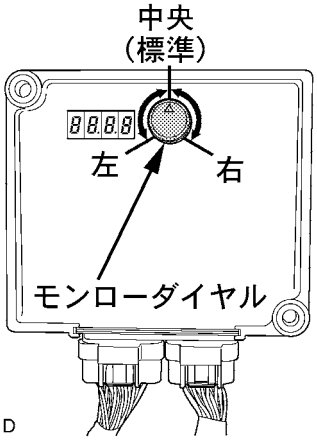
1AKACAIAP089A

1. 運転席下の前方にある黒いゴムキャップを取外します。
2. モンロー調節ダイヤルを回して植付部の傾きを調節します。（上図の場合は，左にダイヤルを回す。）



1AKACBCAP039B

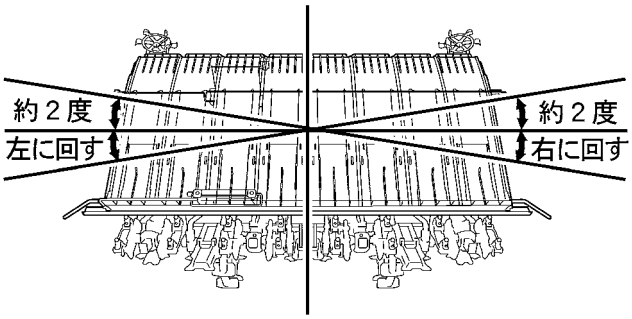
● **機体後方から見たとき**
右に回す…植付部が右下がりになります。
左に回す…植付部が左下がりになります。



1AKACAZAP051D

補　足

＊ ダイヤルは，左，右にそれぞれ最大約 150 度回ります。また，植付部は，左，右にそれぞれ最大約２度傾きます。



1AKACBCAP045B

3. あぜぎわの植付作業が終わると，モンロー調節ダイヤルを**中央**(標準)に戻し，ゴムキャップを取付けます。

施肥作業のしかた

[F 仕様]

■ほ場と肥料について

ほ場や肥料が施肥作業に適さなければ，苗の発育が正常に行なわないことがありますので，施肥機に合ったほ場条件や肥料を使用してください。

■施肥作業時のほ場条件

施肥作業を行なうとき，田植作業のほ場条件と合わせて下記事項を守ってください。

1. 夾雑物（わら，刈株，堆肥，雑草など）は施肥田植え時の障害になるので，耕うん・代かき時に下層部に埋込むようにしてください。

補　足

＊ 耕うん･代かき装置は購入先とご相談のうえ，夾雑物を下層に埋込む働きができる機種を選んで使用してください。
＊ 夾雑物が表層部(地表面～深さ８ cm 程度の範囲）にあると，溝切板や作溝器に引っかかって，施肥ムラ（生育ムラ）をおこすおそれがあります。
＊ 収穫時コンバインのカッタで，わらを切断散布したときは，その上に石灰窒素を散布して秋のうちによくスキ込んで，腐らせておくようにしてください。

2. 耕うん・代かき時の化学肥料の基肥散布は，絶対にしないでください。

補　足

＊ 基肥を全層施肥と側条施肥に分施する農法を行なう場合には，その指定要領に従ってください。

3. ほ場の深さは，10 ～ 25cm が適しています。30cm 以上（補助車輪の場合は 35cm）の深さでは使用できません。
4. 代かき時の均平度をよくして，地表面からの水深が，なるべく一定になるようにしてください。
   代かき後，田面に凹凸がある場合は凸の部分が水面から露出していると土壌硬度が硬くなるので，じゅうぶん湛水して，地表面の凹凸にかかわらず土の硬さを一定に保つようにし，田植えの直前にじゅうぶん落水するようにしてください。

補　足

＊ 土壌の硬軟差が大きいとふく土性能に影響します。

5. 作業時の水の深さは，浅水とし 0.5 ～ 2 cm 程度が適当です。
   (1) 田面の水が皆無（水深 0 cm）の場合には作業が困難ですから必ず走り水をしてください。水が皆無の場合には下記のような現象が起こります。
      - 車輪スリップが増し，株間が狭くなります。
      - 作溝器に泥詰まりを生じ，肥料が詰まって 無施肥区ができ，生育ムラの原因となります。
      - 車輪による泥のかき上げやフロートの泥押しを生じます。
   (2) 田面の水が多すぎる（水深 2 cm 以上）場合には，作溝器内の上部やホース内に水が浸入し肥料の落下状態が悪くなり，所定の深さに埋設できなくなります。また肥料詰まりや肥料詰まり予知センサの誤作動も発生しやすくなります。

6. ほ場の土の硬さは泥を指でかいてみて跡が少しふさがれる程度が適当です。
   (1) ほ場の土壌硬度（125g のサゲフリを地表面上 1 m の高さから落下させて，地表面から土中に入った深さ）は 7 ～ 18cm の範囲内とします。
   (2) ほ場が軟かすぎるとフロートによる泥押しのため隣接条間の確保が困難になるばかりでなく，植付け姿勢も乱れます。
   (3) ほ場が硬すぎると車輪のスリップが増し，株間が狭くなるばかりでなく，作溝施肥跡のふく土が不完全となり，肥料溶出のおそれがあります。

補　足

＊ 特殊な条件のほ場（基盤整備直後の田や湿田など）では，作業に支障をきたすことがありますので，あらかじめ購入先の技術員にご相談ください。

■肥料について

1. 肥料は市販の粒状肥料の中から施肥作業に適したものを選んでください。

重　要

＊ 施肥作業に適さない肥料を使用した場合は，下記のような不具合が発生することがあります。
- 肥料詰まりにより施肥機の故障が発生する。
- 繰出し精度が不良となり施肥量に誤差が生じる。
- 肥料詰まりや施肥ムラが生じる。

＊ 最近，側条施肥田植機専用肥料が市販されていますので，使用をお薦めしますが，中には適さない物も含まれていますので，注意してください。

※吸湿性について

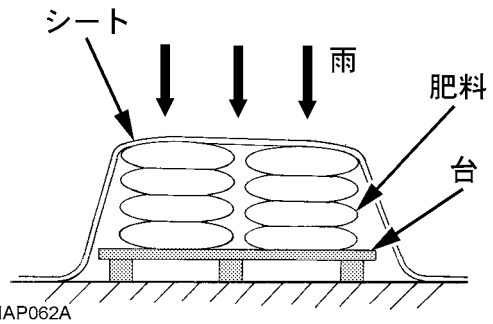
吸湿性の少ない肥料を選んでください。
〔参考〕

吸湿性の少ない	吸湿性の多い
● 硫安系化成 ● 硫化燐安系高度化成 ● 塩化燐安系高度化成 ● IB 化成	● 尿素系高度普通化成 ● 硝安系高度普通化成 ● CDU 化成

2. 肥料は開封していない，新しい物を使用してください。
3. 湿気を帯びた肥料や長期保存していた肥料は，使用を避けてください。

補　足

＊ 雨天時，肥料や肥料袋がぬれないように台の上に肥料を置き，上からシートを掛けてください。



4. 光を通し易い透明な肥料（硫安単肥など）は，残量センサが誤作動しますので，使用を避けてください。
5. ホッパに肥料を補給するときは，ふるい網を通してください。

■一発肥料使用時の注意

一発肥料をご使用の際は，以下の項目をご確認のうえ，あらかじめ農業改良普所などの農業指導機関と良くご相談し，適切な施肥設計に基づいた肥培管理を行なってください。

- **繰出し量が調量ツマミの位置の標準値と異なる場合があります。**

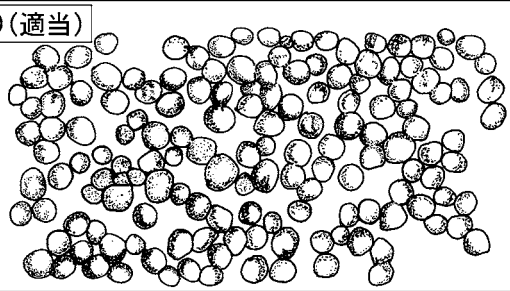
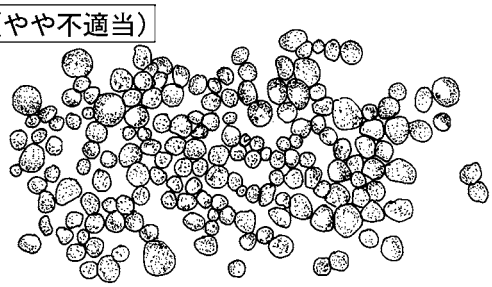
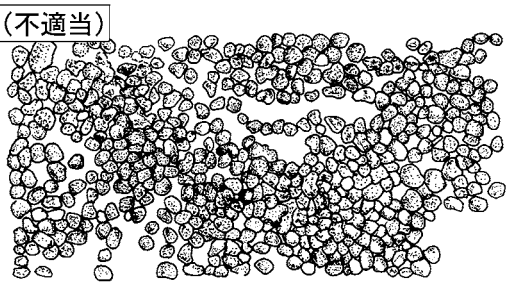
繰出しテストを行なって目標とする施肥量に調整してください。

- **粒形が不揃いなものや砕けやすいものがあります。**

このような肥料は側条施肥機では使用しないでください。

- **被覆肥料の溶出は施肥後の気温変化によって大きく左右されます。また，品種，土壌の影響も受けることがあります。**

例えば，平年より暑い日が続くと早く溶出が終了するため，過繁茂になったり，肥料切れによって予期せぬ追肥が必要になったりすることがあります。

使用条件の目安	粒の硬さ	粒の大きさ・形状・ばらつき			
		大きさ	形状	ばらつき	見本（実物大）
○（適当）	※硬い（吸湿性が少なくべとべとしない）	2～4㎜	円形	少ない	○（適当） 
					△（やや不適当） 
×（不適当）	軟い（吸湿性が多くべとべとする）	2㎜以下（粉状含む）	角ばっている	多い	×（不適当） 

■施肥作業前の準備

注　意

＊ 平たんな場所で行なってください。

1. 各部の点検を行ない，汚れや詰まりがあるときは，掃除を行ないます。(108 ページ参照)
   また，破損や摩耗があるときは，交換を行なってください。(117 ページ参照)

重　要

＊ 雨天時に作業を行なったあと長時間放置すると肥料が固着し，翌日以降の施肥作業に異常が発生（施肥がされないなど）するおそれがあります。

補　足

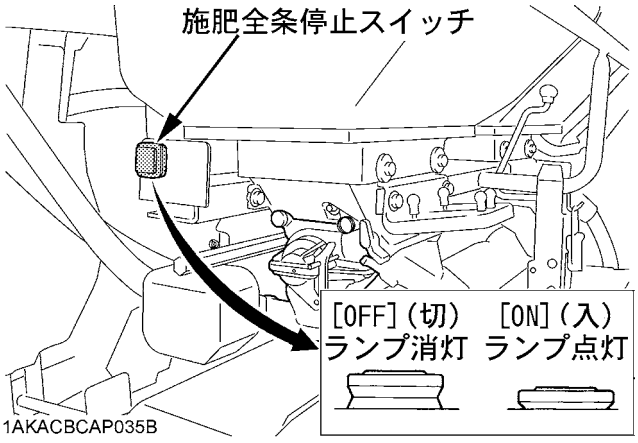
＊ ロールやブラシを取外して掃除やブラシの点検などを行なったときは，エアもれが発生しないように正しく取付けてください。(106 ページ参照)

2. 下記項目に異常がないか点検・確認し，異常があれば正しく取付けて各部を作業状態にします。

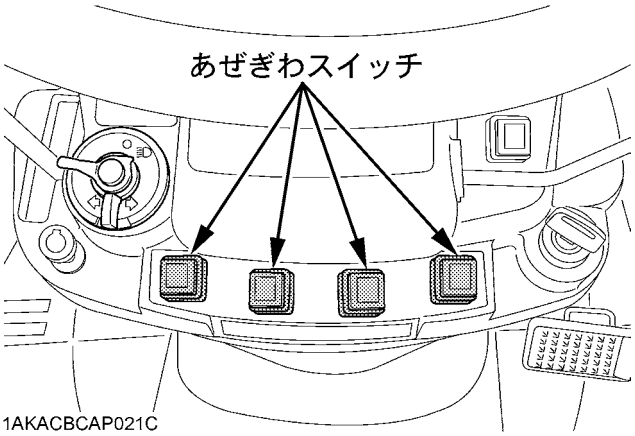
補　足

＊ 各部品はエアもれが発生しないように正しく取付けてください。

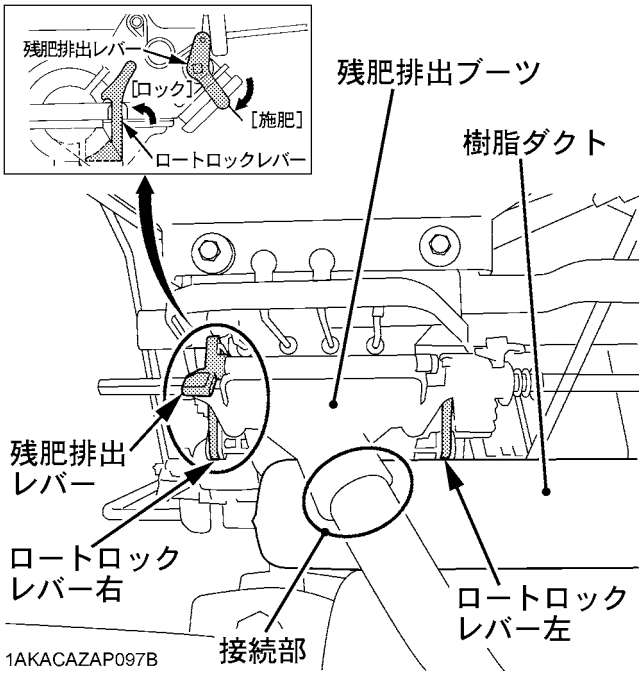
(1) 全条停止スイッチのランプが消えていることを確認します。



(2) あぜぎわスイッチが**【入】**状態になっているか全条確認します。

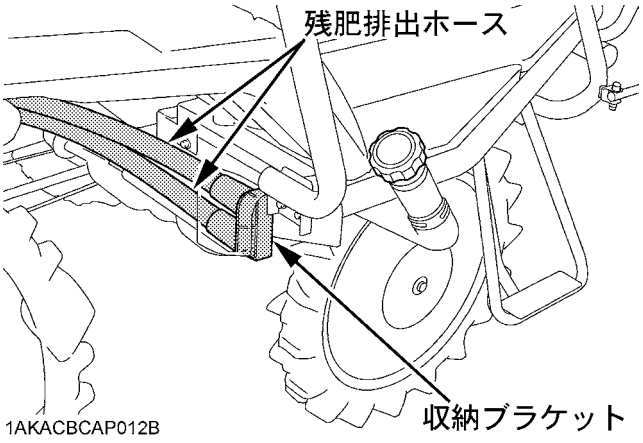


(3) 残肥排出レバーが**［施肥］**位置，左，右のロートロックレバーが**［ロック］**位置にあることを確認します。



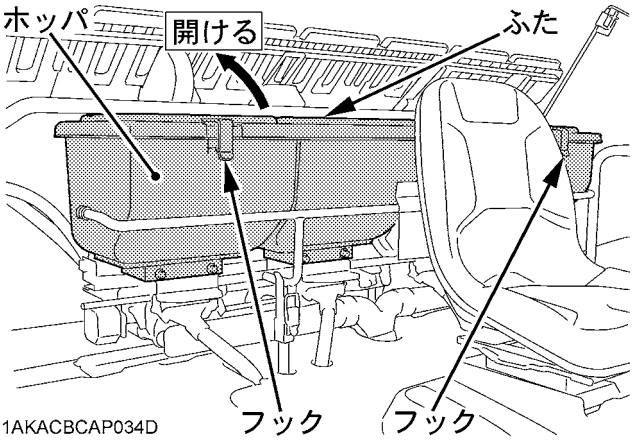
(4) 各ホースや各ダクト，残肥排出ブーツが正しく接続されているか確認します。

(5) 各残肥排出ホースが収納ブラケットに収納されているか確認します。



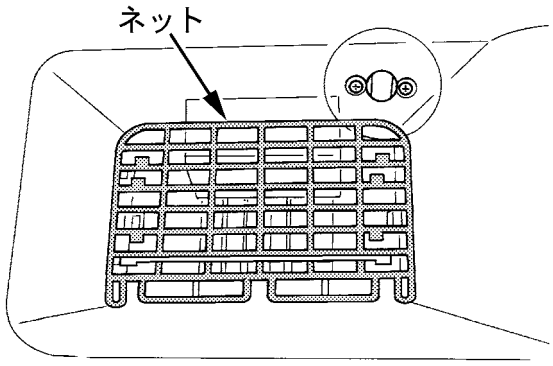
3. 施肥量を決めて，繰出し量を調節します。(86 ページ参照)

4. 左，右２箇所のフックを外し，ホッパのふたを開いて肥料を入れます。



重　要

* フックを片方だけ外して無理に開けると，もう片方のフック部やふたが破損することがあります。
* ホッパ内には肥料以外のものは入れないでください。また，ホッパ，カバー（ホッパ）の上に強い力をかけないでください。破損の原因になります。
* ネットを取外した状態では肥料を入れないでください。肥料のかたまりがロール溝に入り，詰まりの原因になります。



＊ 肥料が原因で目詰まりを起こし，成育ムラが生じないようにするため下記の事項に注意してください。

- ネットに残った大きな肥料は取除く。
- ホッパ内に雨水や掃除時に水が入らないようにする。
- 連日の作業を行なうときでも必ず肥料を排出する。
- 1 晩置いて露が発生したときは，ホッパ内，ネット，ロール部の露を拭取る。
- 開封後しばらくして湿気を吸った肥料で，固まったものは使用しない。
- 運搬時にホッパ内の肥料は空にする。
(振動により目詰まりが発生することがあるため)
- ロール溝に肥料粉が付着しているときは，必ず掃除してください。

補　足

＊ 重さ(kg)は肥料の種類によって異なる場合がありますが，ホッパ容量（L）は 88L（約 80kg）です。

5. エンジンを始動し，ブロワ，各ダクト，各ホースの接続部からエアもれしていないか確認します。

補　足

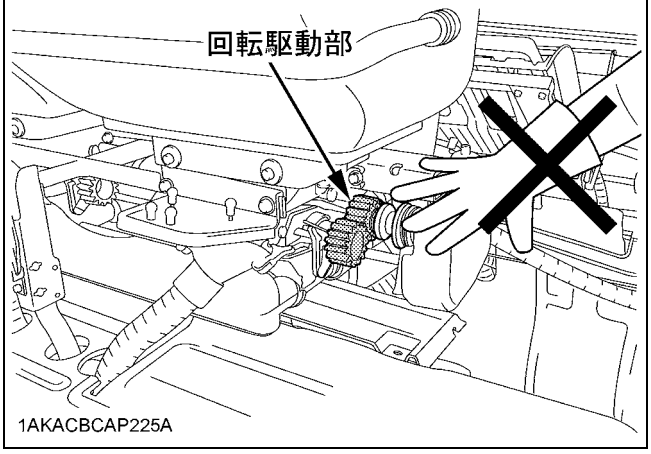
＊ エアもれしていると，詰まりの原因にもなります。

6. ロール溝，ロート内部に肥料が付着していないか確認してください。

■施肥作業のしかた

注　意

＊ 施肥作業中は回転駆動部に触れないように注意してください。



エンジンを始動すると同時にブロワが回転し，主変速レバーを**【前進】**側に動かすと苗の植付クラッチと同時に，施肥クラッチが入ります。また，ブロワはエンジン回転中は，常時回転します。(植付部最上昇位置のときと，施肥全条停止スイッチが **【ON】** 点灯のときブロワは停止します。)

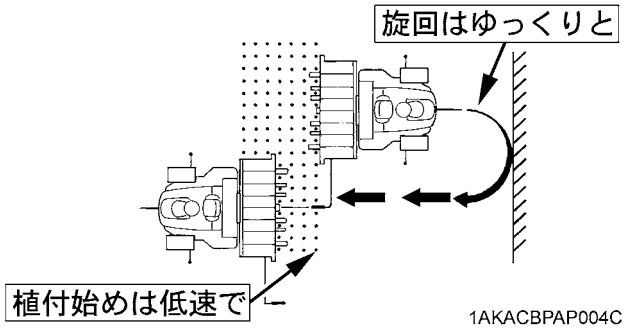
◆ 施肥ムラ（成育ムラ）の防止

施肥ムラがあると，苗の成長異常となりますので下記事項に注意してください。

(1) **植付始めは低速で行なってください。**

重　要

＊ 施肥始めは，植付始めより，少し遅れる傾向となります。
＊ 高速で植付を始めると施肥遅れが顕著になり施肥ムラが発生します。
＊ 主変速の２，３速（２，３ノッチ）くらいで，植付を始めたほうが施肥効果が安定します。



(2) 必ず**減速**してから停止してください。急停止すると多肥になる場合があります。
(3) 植付速度は一定の速さで，真直ぐ行なってください。施肥ムラや覆土異常の原因となります。
(4) 枕地の植付や変形田での植付け時，交差植えや無植箇所を少なくしてください。多肥になったり，肥料がムダになる場合があります。
(5) 肥料切れのセンサが点灯したら早目に肥料を補給してください。
(6) 肥料は側条施肥専用のものを使用してください。吸湿性の多い肥料，やわらかい肥料，不揃いの肥料は使用しないでください。詰まりの原因となります。
(7) 田面に水気が無く硬くなっている場合は，ふく土がされにくいので，田植作業に適したほ場条件で作業を行なってください。

◆ 施肥作業中の確認

作業中のふく土状態やホッパ内の肥料の減り具合がいつもと比べて異常がないか確認し，処置をします。(86 ページ参照)

重　要

＊ 植付部を降ろした状態で旋回すると作溝器の破損の原因となったり，詰まりの原因となります。

補　足

＊ 蛇行運転をすると，ふく土が正しくされないことがあります。

◆ 肥料の補給のしかた

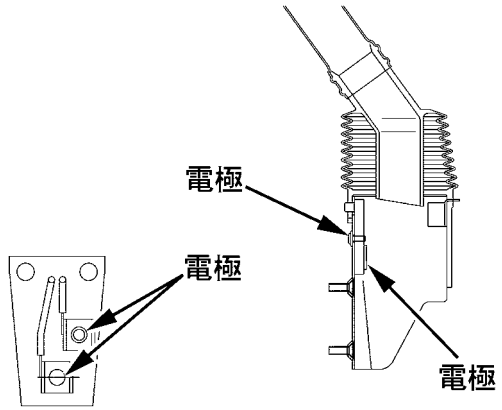
肥料が少なくなると肥料切れのセンサがはたらいて，施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーがなります。警報ブザーが鳴ったときは，早目に肥料を補給してください。

補　足

＊ 警報ブザーは断続で８回鳴ったあと停止し，肥料を補給するとランプは消灯します。
＊ 肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し，なるべく枕地で行なってください。

◆ 肥料詰まりの予知センサについて

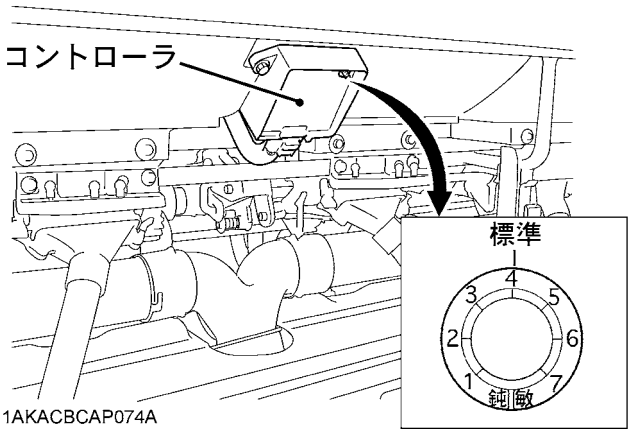
肥料詰まり予知センサは，作溝器内に泥水や小粒肥料，肥料粉などの異物が付着して発生する肥料詰まりを予知するセンサです。センサがはたらくと，施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったときは，作溝器内の異物を取除き，全条の作溝器の点検と掃除を行なってください。



1AKACAIAP400D

補　足

＊ 深水ほ場で，苗補給や肥料補給などで一時停止したときに，詰まっていないのに警報がでる。点検して，詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを**［鈍］**側**（鈍感）**の方向に調節して作業を続けてください。



1AKACBCAP074A

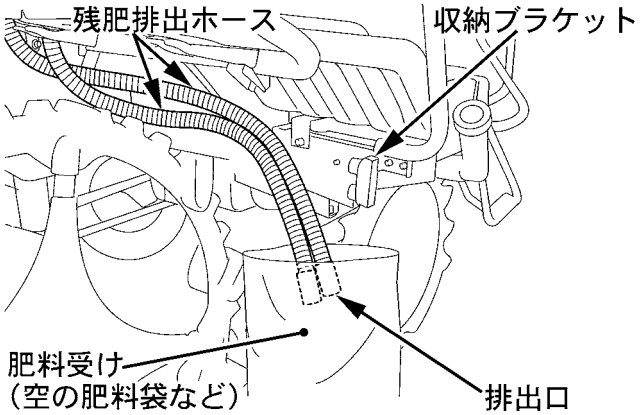
＊ 乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。ときどき，作溝器内を点検してください。
＊ 作溝器内の後側（センサと反対側）に肥料が付着しても警報が出ない場合があります。
＊ ほ場の水位が高いほど予知センサがはたらきやすくなりますので注意してください。

■ホッパ内の肥料の排出のしかた

注　意

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。

1. エンジンを停止します。
2. 残肥排出ホースを収納ブラケットから取外します。
3. 肥料受け（空の肥料袋など）を準備して残肥排出ホース排出口を入れて排出します。

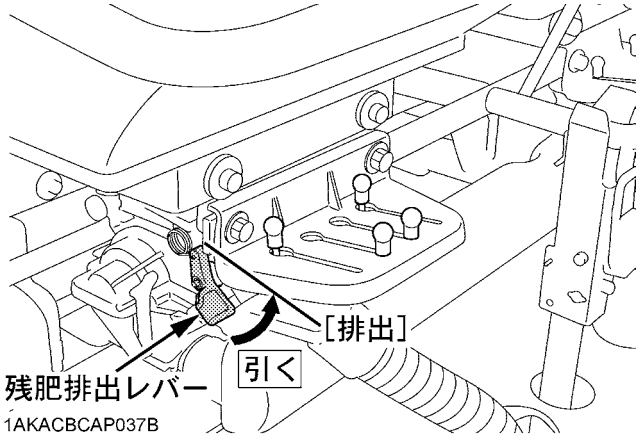


1AKACBCAP075A

補　足

＊ 肥料受け（空の肥料袋など）は，残量が入る大きさのものを選んでください。残肥排出ホース 1 本から排出される最大量は，満杯時の 22L（約 20kg）です。また，残肥排出ホースは，左，右に各２本あります。
＊ 洗車後などで排出ホース内に水がたまっていることがありますので注意してください。

4. 残肥排出レバーを前方に引く（**[排出]** 位置）と同時に肥料が排出されます。



1AKACBCAP037B

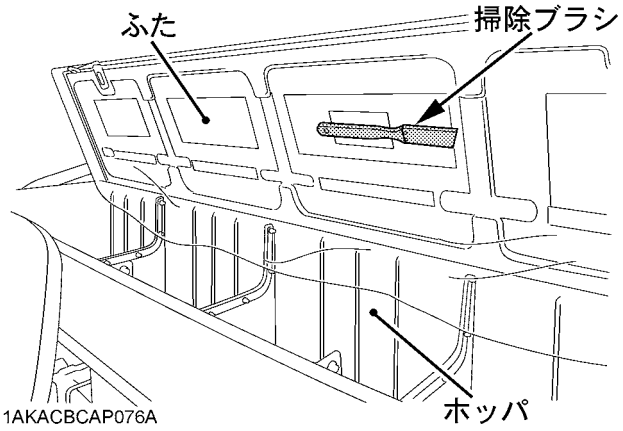
補　足

＊ 排出ホースを少し引っ張ってたるみをなくすと，肥料の流れがよくなります。このとき，ホースを強く引っ張りすぎるとホースが継ぎ手から外れるおそれがあります。
＊ 一度排出ホース内で肥料が滞留すると，肥料の流れが悪くなります。

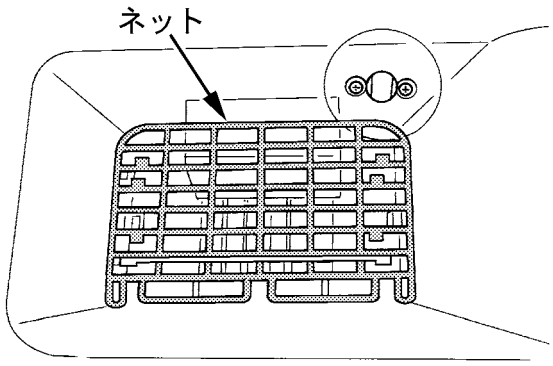
5. 排出が終わるとホッパを開き，ネットの上に肥料や異物が残っている場合は取除き，ネットを取外して，付属の掃除ブラシで，ホッパ，ロールケース内の掃除をします。

補　足

＊ 掃除ブラシは出荷時，ホッパのふたの裏側に取付けています。なくさないように保管してください。

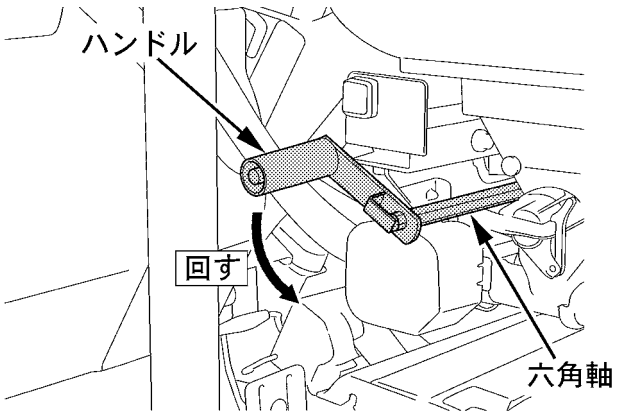


1AKACBCAP076A



1AKACBCAP060A

6. ネットを取付けたあと，ホッパを閉じて残肥排出レバーを **[施肥]** 位置にします。
7. エンジンを始動します。
8. 肥料を繰出し用の六角軸に付属の繰出し用ハンドルの六角穴を合わせて左回転方向（矢印方向）に回し，ロールケースを回して（86 ページ参照）ロール溝に残った肥料を排出します。



1AKACBCAP077A

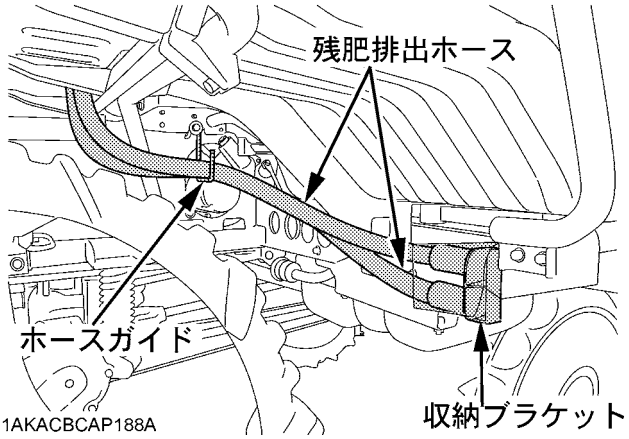
補　足

＊ ロール溝内に肥料が残っていると湿気などで固まり，目詰まりの原因となります。
＊ ロール溝内やブラシの毛の中に肥料や肥料粉が残ったまま作業を続けると，施肥量が変化するなどの異常が発生するおそれがあります。
＊ ブロワを作動させるため，植付部を最上昇位置から少し下げて作業してください。

9. 排出した肥料の袋の口を閉じたあと，残肥排出ホースを収納ブラケットに取付けます。

補　足

＊ ホースガイドにホースをのせてください。



1AKACBCAP188A

重　要

＊ 肥料にはさびを発生させる成分が含まれているため，1 日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いをじゅうぶん行なってください。特にエア抜き，植付フレーム，植付ケース各周辺（108 ページ参照）は必ず行なってください。

[F 仕様]

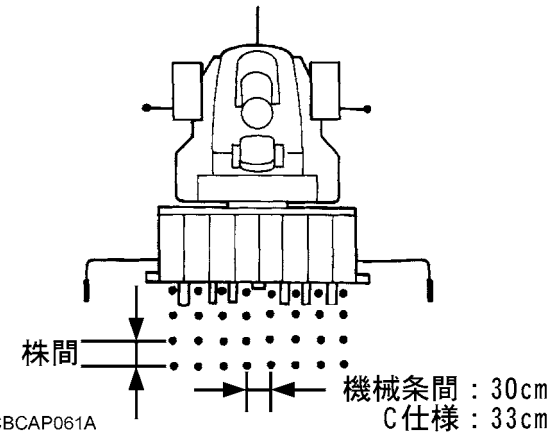
作業に合わせた各部の調節・調整

注　意

＊ 平たんな場所で行なってください。

■植付株数の調整

植付株数は，株間調節レバーを切換えて行なってください。調節は 5 段階行なえます。植付株数は，株間が狭くなると多くなり，株間が広くなると少なくなります。



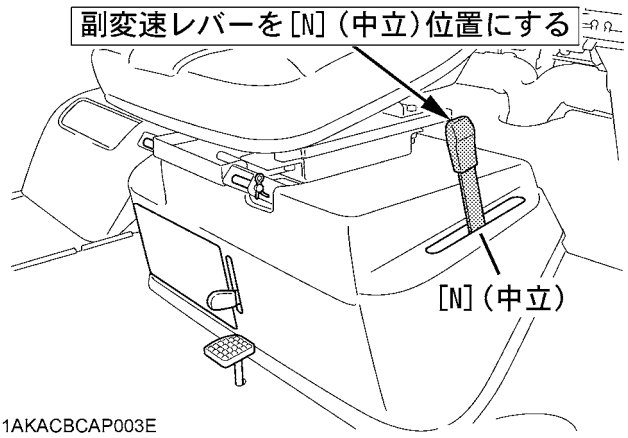
1AKACBCAP061A

1. 植付作業中のときは，植付けを停止したあと，走行を停止します。

重　要

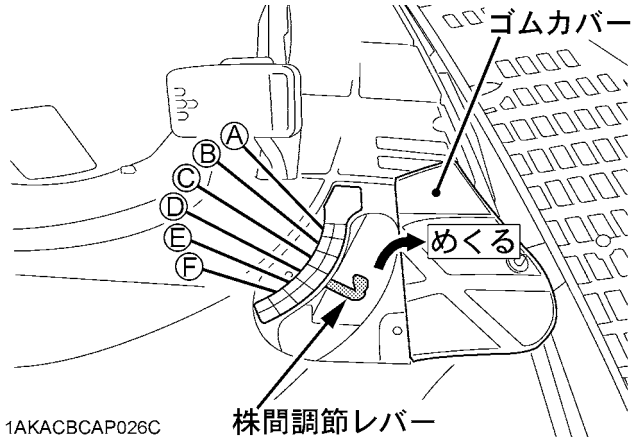
＊ 植付部が駆動していると，株間を調節するときに機械が損傷するおそれがあります。

2. 主変速レバーを **[N]（中立）** 位置にします。
3. 副変速レバーを **[N]（中立）** 位置にしたあと，エンジンを停止します。



1AKACBCAP003E

4. ステップ右側にあるゴムカバーをめくり，株間調節レバーを切換えて調節します。



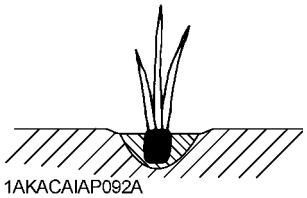
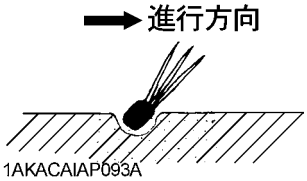
1AKACBCAP026C

レバー位置		Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	Ⓕ
株間（cm）	C 仕様以外	14	16	18	21	24	—
	C 仕様	11	12	14	16	18	21
株数（株/3.3m²）	C 仕様以外	80	70	60	50	45	—
	C 仕様	90	80	70	60	50	45

補　足

＊ レバーが切換わりにくいときは，エンジンを始動させたあと，いったん主変速レバーを**［前進］**側に操作し，再度**［N］（中立）**位置に戻してからエンジンを停止してください。

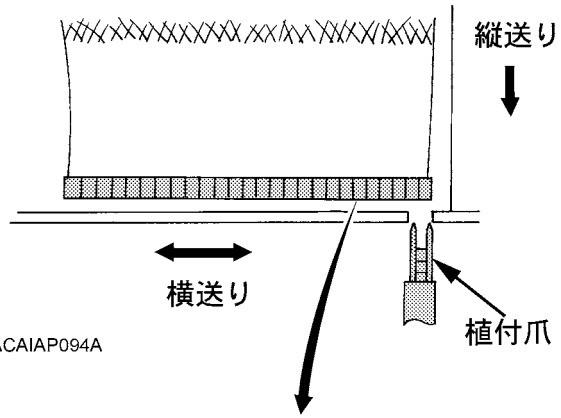
● ほ場の状態

○：良い状態	×：悪い状態
表面がやわらかく爪跡がすぐに消える。	爪跡が残る。
 1AKACAIAP092A	 1AKACAIAP093A
爪が移動するとき，苗に抵抗が掛かっても泥によって苗が支えられて倒れない状態	爪が移動するとき，苗に抵抗が掛かると苗が倒れる状態

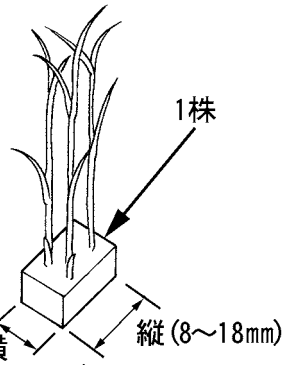
5. 調節が終わるとゴムカバーを閉じます。
6. 植付作業と植付後の確認を行なって，異常がなければ作業を続けます。

■苗取り量（１株本数）の調節

植付爪が取出す１株あたりの本数を，横送り切換えレバー（苗取り量）と苗取り量調節レバー（縦取り量）で調節を行なってください。



1AKACAIAP094A



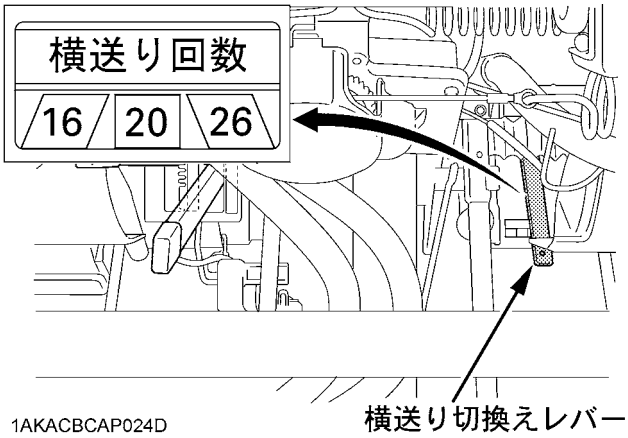
1AKACAIAP095A（18・14・11mm）

補　足

＊ １株あたりの本数は条件によって異なりますが，３～５本が標準です。

■横送り切換えレバーの調節

横送り回数は苗の成長状態によって切換えてください。調節は３段階行なえます。



16 回	20 回	26 回
成　苗	中　苗	稚　苗

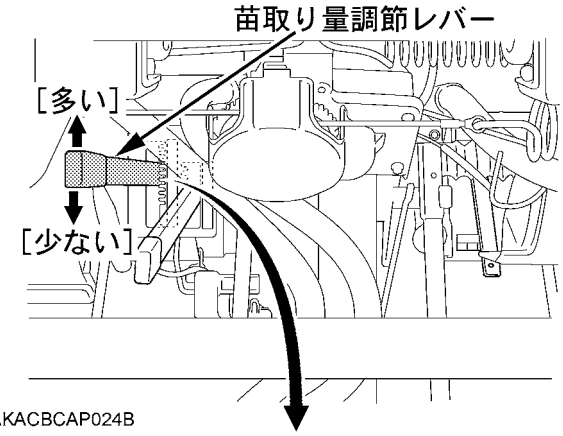
補　足

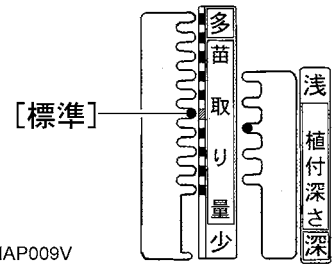
＊ 横送り量は，16 回で 18mm，20 回で 14mm，26 回で 11mm です。

1. 主変速レバーを **[N]（中立）** 位置にします。
2. 苗の状態に合わせて，レバーを切換えます。
3. エンジンを始動して，主変速レバーをゆっくり操作し，植付爪が２～３回転回ったことを確認して植付作業を行なってください。

■苗取り量調節レバーの調節

苗や苗床によってレバー調節してください。調節は８～18mm まで 10 段階行なえます。





横送り量と合わせて１株本数を，レバーで調節します。レバーは切欠溝に確実にセットしたあと植付作業を行なってください。

■植付株数と苗の使用量について

10 アール（a）あたりの苗の使用量は，栽植密度（植付株数）と１株あたりの苗取り量によって決まります。下記の表を参照して，苗箱（箱）の使用量の目安にしてください。

● 苗箱（箱）使用量目安表

横送り回数（回）	苗の種類	苗取り量レバー位置	3.3㎡当り株数					
			45	50	60	70	80	90
16	成苗	３段目	24	27	32	36	41	48
20	中苗	３段目	19	22	26	30	33	38
26	稚苗	６段目	12	14	16	18	21	23

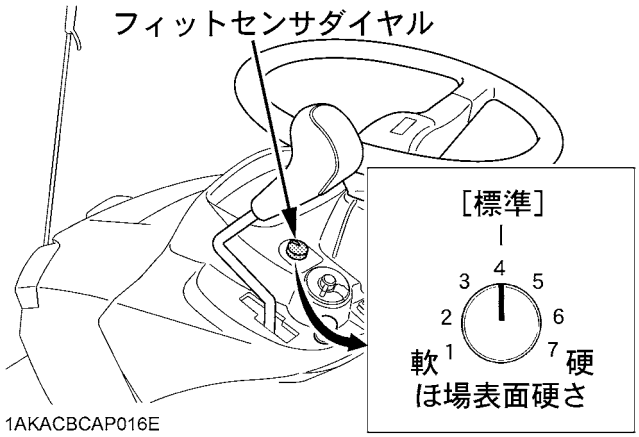
＊ 苗取り量レバー位置は，上（**[多] い**）から数えた位置
＊ 太枠内は，目安の苗箱（箱）の使用量

補　足

＊ 苗取り量（縦取り量）のレバーを１段変更すると，苗箱は６～８％増減します。
＊ 上表はあくまで目安ですから苗箱は多めに準備してください。

■フィットセンサダイヤルの調節

植付部の下側にあるフロートが，植付速度に応じて植付深さを一定に保つため，高速作業時にフロートの浮上りによる浅植えのないように制御していますが，ほ場の状態により，泥を押したり，凹凸がじゅうぶん整地されないときは，ダイヤルでフロートの感度調節を行なってください。調節は７段階行なえます。



1AKACBCAP016E

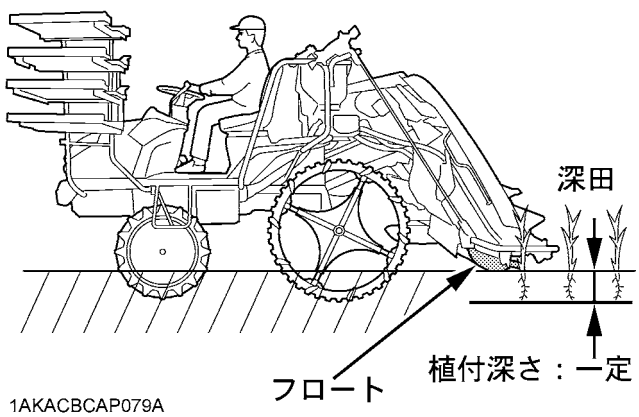
● 設定位置

ほ場状態を確認しながら，ダイヤルで下記の表を目安に感度調節を行なってください。

ほ　場　状　態		設定位置
軟い ⬆ 標準 ⬇ 硬い	● トロトロした状態で，泥押しをする。	1～3
	● 整地も良く，泥押しが少ない。	4
	● 硬くて整地が悪い。 ● 凹凸が激しく，荒れている。 （車輪跡や足跡が残る。）	5・6 7

補　足

＊ 調整を行なったときは，植付深さの調節も同時に行なってください。



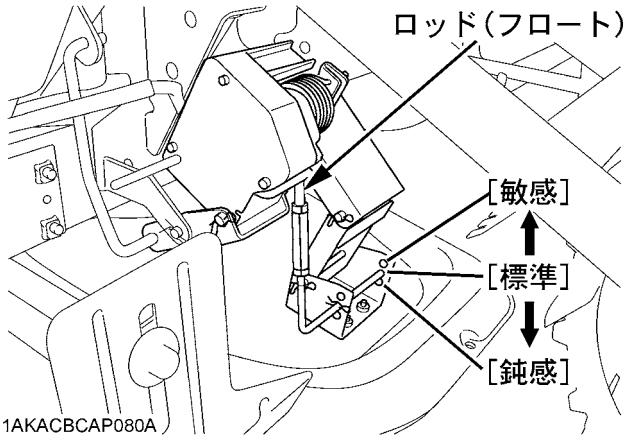
1AKACBCAP079A

■フィットセンサの感度調節

[R 仕様除く]

フィットセンサダイヤルを**【1】**に設定しても，フロートの沈下が大きく泥押しをする**軟いほ場**の場合は，センサ金具を**【敏感】**の位置に変更してください。また，フィットセンサダイヤルを**【7】**に設定しても整地が不じゅうぶんな場合は，センサ金具を**【鈍感】**位置に変更してください。

1. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックレバーを**【閉】**位置にし，下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
3. センサロッドを取外します。
4. ロッドを**【標準】**位置から**【敏感】**位置または**【鈍感】**位置に差換えて取付けます。



1AKACBCAP080A

補　足

＊ **【敏感】**側の穴に移すと，感知が敏感になり，浮き苗が出たり植付深さが浅くなったりする恐れがありますので，できるだけフィットセンサダイヤルをこまめに調節して対応してください。

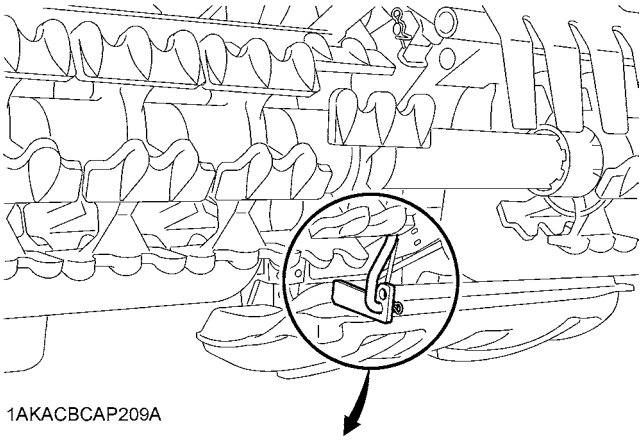
＊ 出荷時は**【標準】**位置です。

[R 仕様除く]

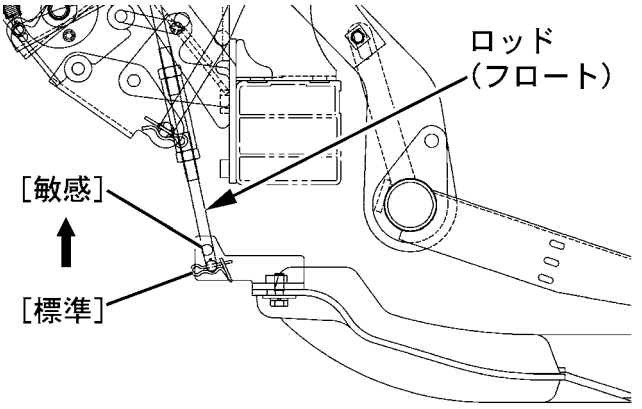
[R 仕様]

フィットセンサダイヤルを**【1】**に設定しても，フロートの沈下が大きく泥押しをする**軟いほ場**の場合は，センサ金具を**【敏感】**の位置に変更してください。

1. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックレバーを**【閉】**位置にし，下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
3. センサロッドを取外します。
4. ロッドを**【標準】**位置から**【敏感】**位置に差換えて取付けます。



1AKACBCAP209A



1AKACBCAP210A

補　足

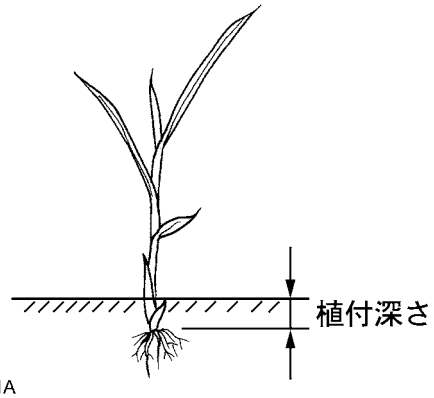
＊ **【敏感】**側の穴に移すと，感知が敏感になり，浮き苗が出たり植付深さが浅くなったりする恐れがありますので，できるだけフィットセンサダイヤルをこまめに調節して対応してください。

＊ 出荷時は**【標準】**位置です。

[R 仕様]

■植付深さの調節

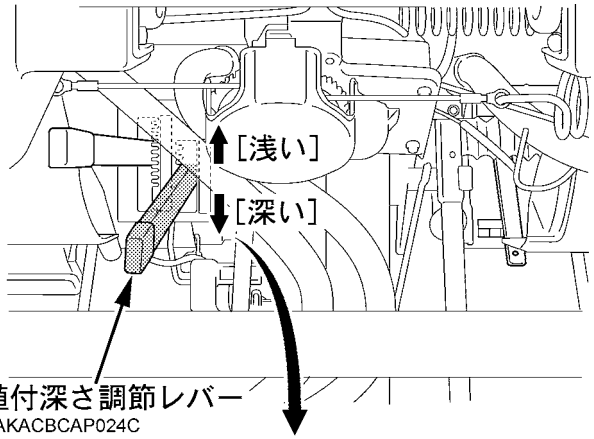
ほ場や苗の条件に合わせて，苗の植付深さの調節をレバーで行なってください。調節は1.4～4.7cmまで５段階行なえます。



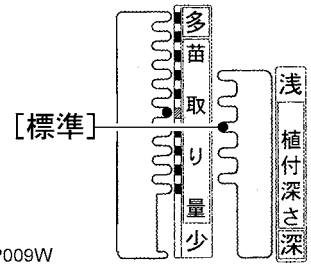
1AKACAIAP151A

補　足

＊ 植付深さは２～３ cm が適正です。



1AKACBCAP024C



1AKACAIAP009W

1. 植付部を上昇します。
2. レバーで調節し，切欠溝に確実にセットします。
3. 植付部を降して植付作業を行なってください。

補　足

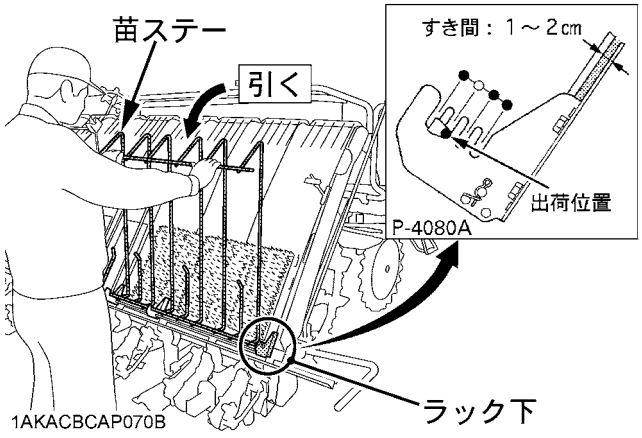
＊ 調節を行なったあと，ほ場状態を確認し，異常があれば整地板の高さ調節を行なってください。(84 ページ参照)

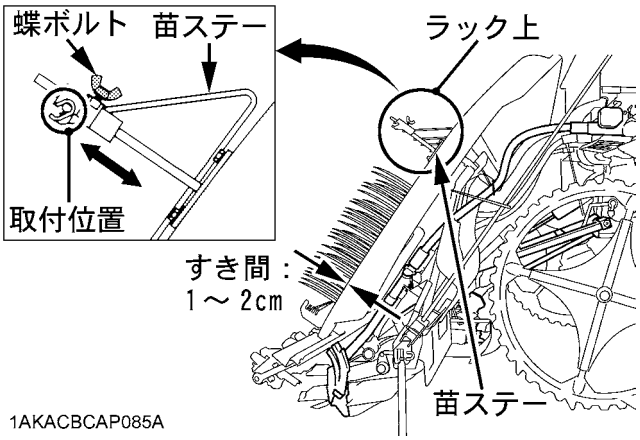
■苗ステー・苗押さえ棒の調節

苗のせ台に苗をのせたとき，苗ステーとのすき間が大きかったり，苗床の状態が悪く（薄くて軟弱な苗や根張りの悪い苗など）て，くずれ落ちによる欠株が発生したり，苗が前，後に倒れるときは調節を行なってください。

◆ 苗ステー

1. 植付部を下降したあと，エンジンを停止します。
2. 苗ステーの上側を横にずらして引張り，上側のラックの取付部から外します。
3. 苗床とのすき間が１～２cmになる位置に下側のラック位置の変更をします。
4. 苗ステーを上側のラックの取付位置に戻します。
5. 上側のラックの左，右両端にある蝶ボルトをゆるめて，苗床と苗ステーのすき間が平均になるように調整します。

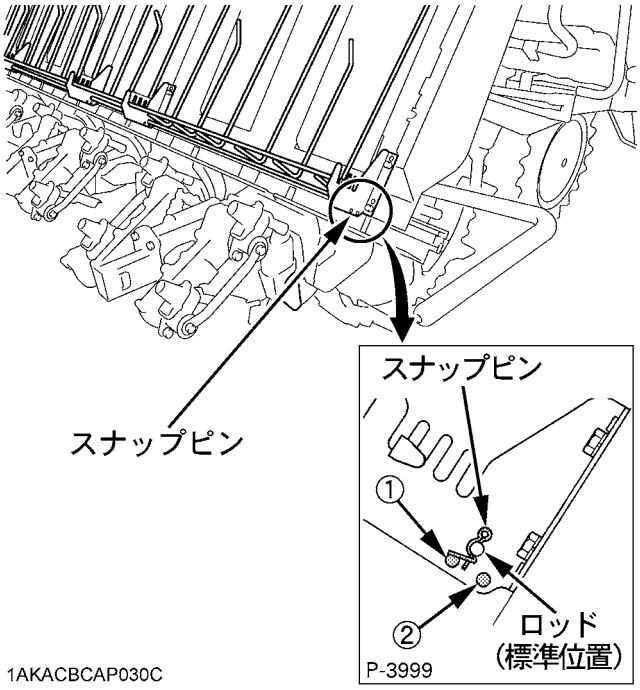




6. 蝶ボルトを締付けます。

◆ 苗押さえ棒

1. 植付部を下降したあと，エンジンを停止します。
2. スナップピンを取外したあと，ロッドを抜取ります。
3. 穴の位置を変更してロッドを差込んだあと，スナップピンを取付けます。



● 調節位置

現　　象	取付穴位置
● 苗が短い。 ● 植付けたとき，苗が後に倒れる。 ● 苗床が軟弱で，植付けるとバラケやすい。	標準➡② 又は， ①➡標準
● 苗が長い。 ● 植付けたとき，苗が前に倒れる。 ● 苗が押さえ棒に引掛かり，しゅう動板まで降りてこない。	標準➡① 又は， ②➡標準

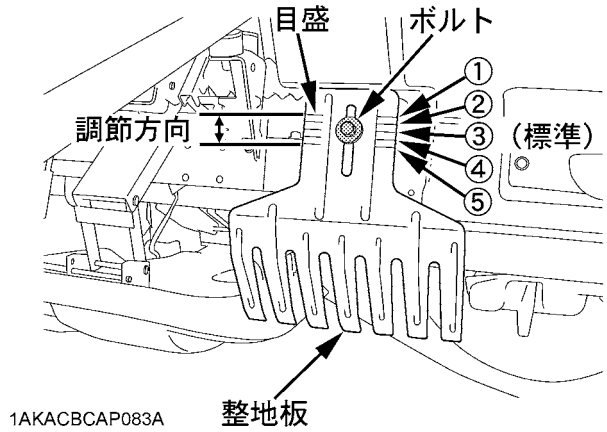
■整地板の調節

[R 仕様除く]

調節は上，下方向に 6 段階（①～⑤＋収納位置）行なえます。
植付深さレバーを調節したとき，（**[深] 植え ⟷ [浅] 植え**）ほ場状態に合わせて，整地板の高さを①～⑤の範囲で調節してください。

※目安

ほ　場　状　態	硬い ⟷ 軟い
整　地　板	① ⟷ ⑤



補　足

＊ 整地板は内側･外側，各 2 箇所あります。

1. ボルトをゆるめます。
2. 目安の表を参照して，上又は下に調節します。

補　足

＊ 各目盛の中心とボルトが合うようにしてください。

3. ボルトを締付けます。
4. 同じ要領でもう片方も同じ高さに調節します。

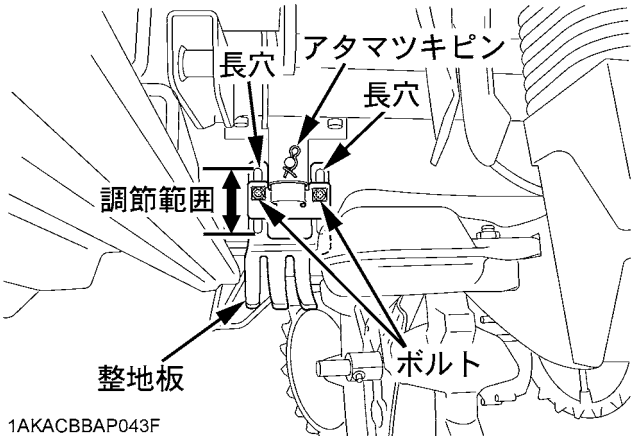
補　足

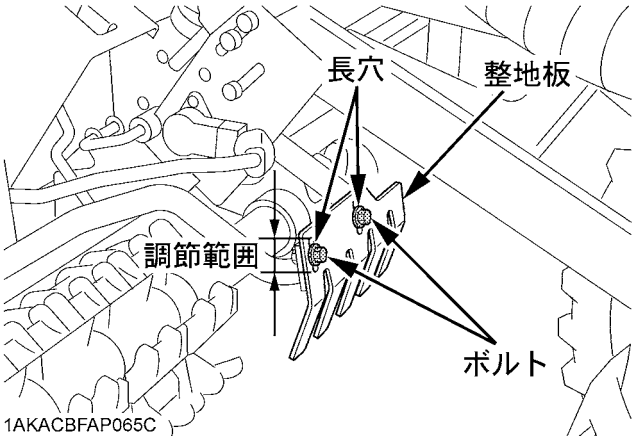
＊ 左，右で高さが異なると整地が正しく行なえないことがあります。

[R 仕様除く]

[R 仕様]

整地板は標準位置で出荷しています。
植付深さレバーを調節したとき，（**[深] 植え ⟷ [浅] 植え**）ほ場状態に合わせて，整地板の高さを長穴の範囲で調節してください。





1. ボルトをゆるめます。
2. 整地板を，上又は下に調節します。
3. ボルトを締付けます。
4. 同じ要領でもう片方も同じ高さに調節します。

補　足

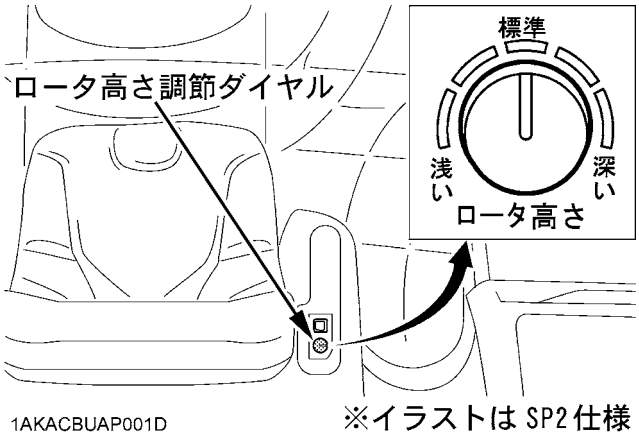
＊ 左，右で高さが異なると整地が正しく行なえないことがあります。
＊ 整地板にわらがたまり植付けに影響するときは，アタマツキピンを外し整地板を外して作業してください。

[R 仕様]

■整地ロータの調節

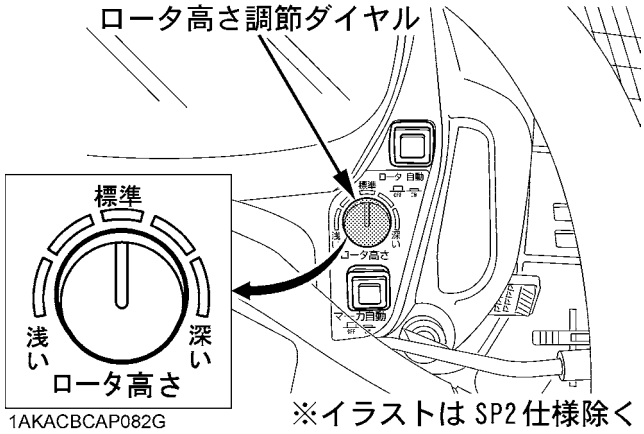
[R 仕様]

一般的なほ場ではロータ高さ調節ダイヤルは**【標準】**位置に合わせますが，ほ場条件や作業状態により，整地ロータが泥押ししたり，整地が悪い場合はロータ高さ調節ダイヤルで調節を行なってください。



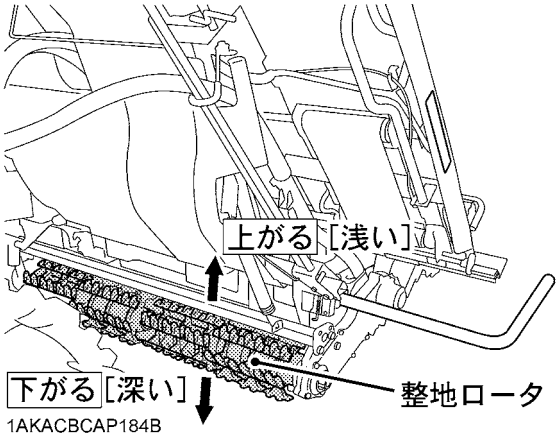
1AKACBUAP001D

※イラストは SP2 仕様



1AKACBCAP082G

※イラストは SP2 仕様除く



1AKACBCAP184B

● **調節位置**

整地状態	高さ調節ダイヤル調節位置
● 整地ロータが泥押しをする。	ラベル表示の**【浅い】**の方向に調節
● 表土の整地が悪い(馴らし状態が悪い)	ラベル表示の**【深い】**の方向に調節

補　足

＊ フィットセンサダイヤルを調節すると，整地状態が変わることがあります。また，フィットセンサダイヤルを**【硬い】**方向に調節すると整地ロータが泥に沈みやすくなります。

＊ ロータ高さ調節ダイヤルの調節範囲は，**【浅い２段】～【深い２段】**（５段階）です。

＊ トロトロほ場などで車輪跡が残りにくい場合は，ロータを浅い方向に調節してください。

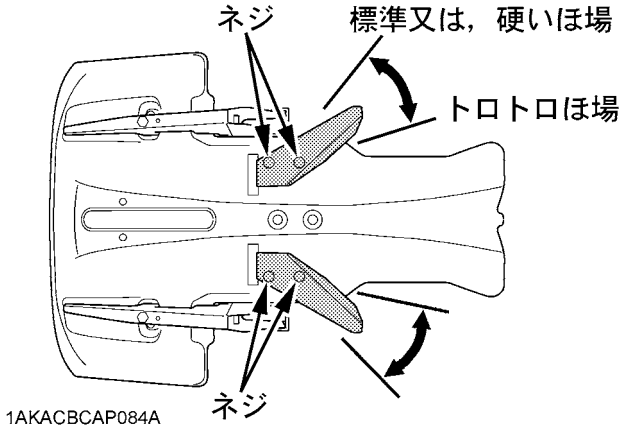
[R 仕様]

■ふく土板の調節

[F 仕様]

各フロート下面にあるふく土板をほ場状態に合わせて調節を行なってください。

1. エンジンを始動したあと，植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックレバーを**［閉］**位置にし，下降防止をしたあと，エンジンを停止します。
3. トロトロとしたほ場で隣接の苗を倒すときは，ネジをゆるめて内側にせまくします。また，標準又は，硬いほ場は外側に広げます。



1AKACBCAP084A

補　足

＊ 調節は全箇所共同じ角度になるようにしてください。

4. ネジを締付けます。

[F 仕様]

■施肥量の調節

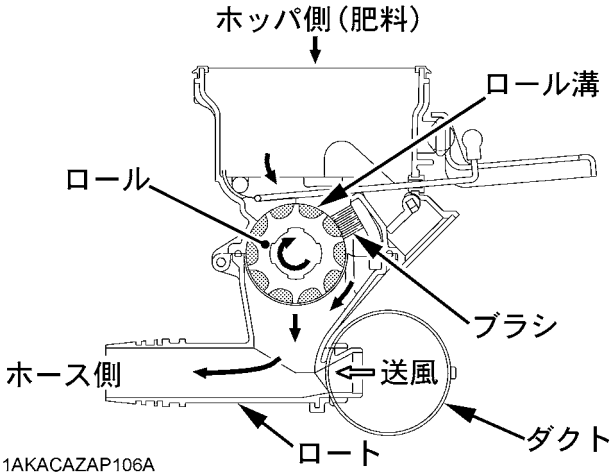
[F 仕様]

使用する肥料により施肥（繰出し）量が異なることがありますので，肥料を入れる前によく確認してから調節を行なってください。

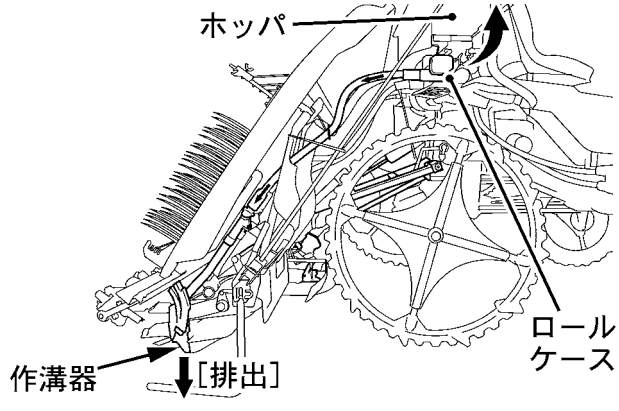
◆ 肥料の流れ

1. ホッパ内の肥料がロールケース内に入ってきます。
2. ロールケース内のロールの溝に肥料が入ります。
3. ロールが回転し，肥料が落ちます。
4. ブロワからの送風により，ロートからホースを通り作溝器から排出されます。

［ロールケース内］



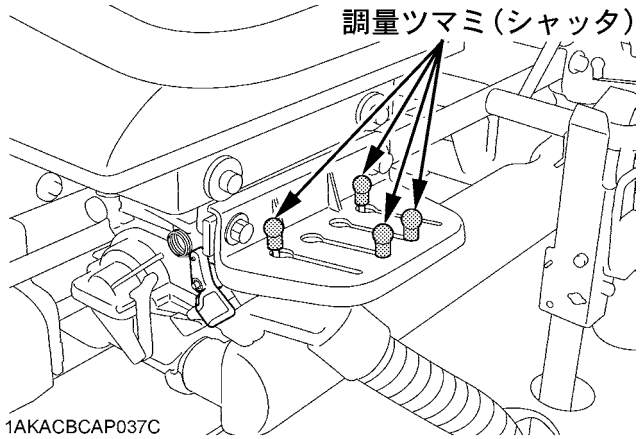
1AKACAZAP106A



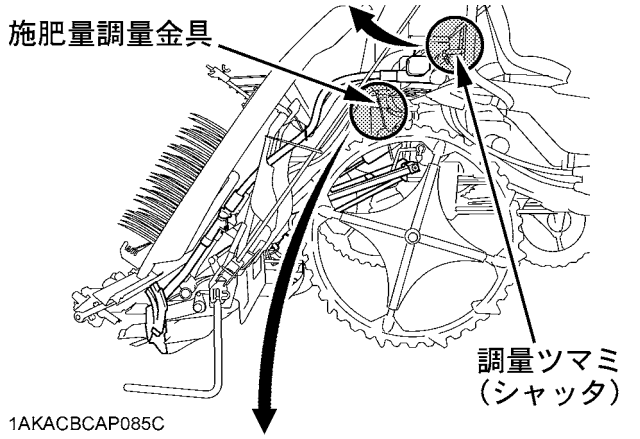
1AKACBCAP085B

◆ 調節のしかた

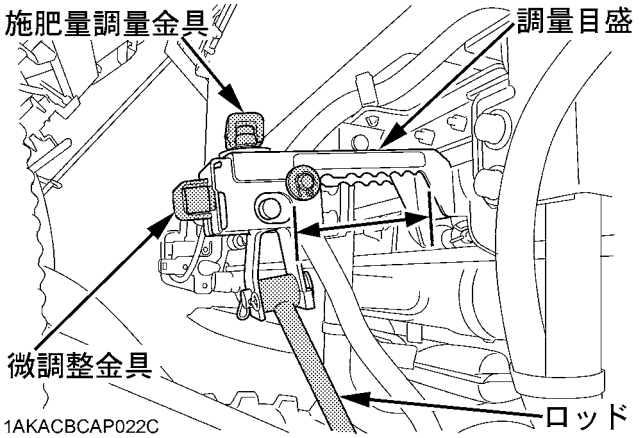
本機で調節できる施肥量（肥料の繰出し量）は，10 ～ 80kg/10a です。目標とする施肥量に調節するには，**調量ツマミの調節で２段階**（範囲：20 ～ 45kg/10a〔標準〕・50 ～ 80kg/10a〔多い〕）と**調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の組換え**（範囲：10 ～ 20kg/10a〔少ない〕）でいずれかの範囲内に調節し，繰出しテストを行なったあと，施肥量調量金具の調節を行なってください。



1AKACBCAP037C



1AKACBCAP085C



1AKACBCAP022C

1. 平たんな場所に機械を止めてエンジンを停止します。
2. 施肥量（10ａ 当りに播く量）を決めます。

補　足

＊［例］春風肥料 S273 の場合
チッソ成分 12%（成分 12-17-13）のとき，チッソ成分で 3.0kg/10a 施肥すると計算では，
3.0(kg/10a) ÷ 12(%) × 100 ＝ 25(kg/10a) となり，施肥量（製品重さ）は 10a 当り 25kg となります。

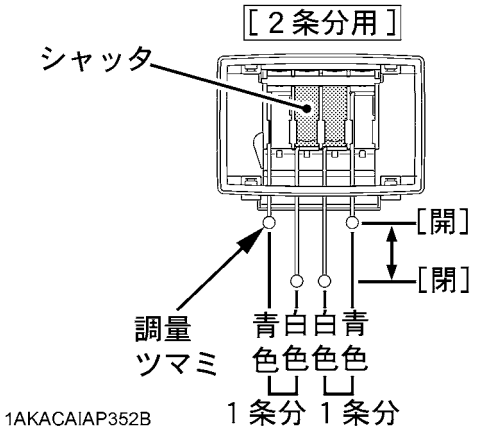
3. 調量ツマミの調節と肥料繰出し六角軸駆動ロッドの組換えで目標とする施肥量の範囲に調節します。

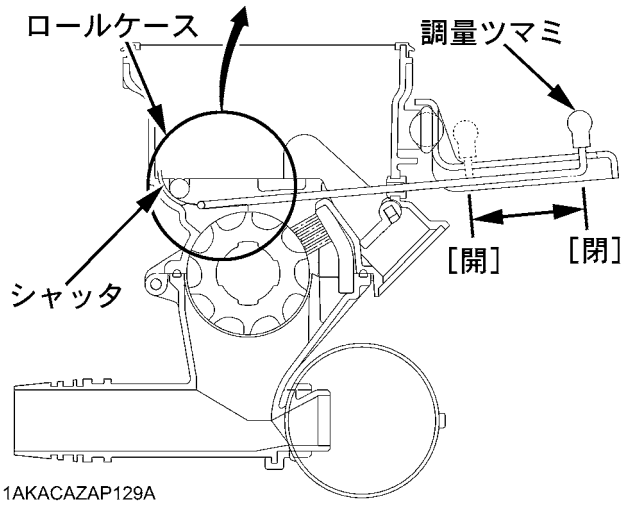
補　足

＊ 出荷時の調量ツマミと肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置は，一般的に多く使用される範囲の 20 ～ 45kg/10a です。また，調量ツマミの調節は，施肥量が 50 ～ 80kg/10a のとき又は，１条分の繰出しを停止するときに行なってください。

● **調量ツマミ**

調量ツマミの調節は，ツマミを押し引きすることによりロールケースのシャッタが開閉し，繰出し範囲が決まります。シャッタは調量ツマミを押している状態が**[開]**，引いている状態が**[閉]**です。





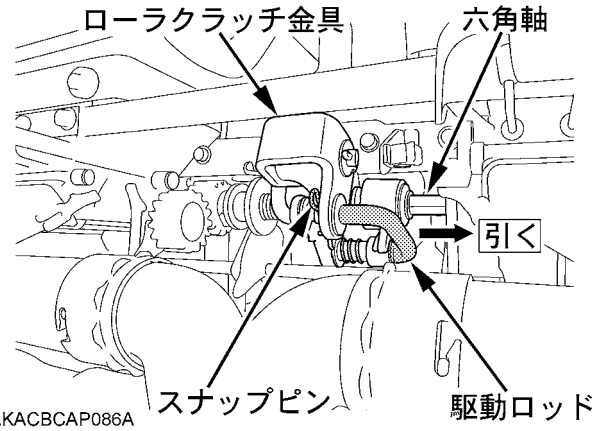
補　足

＊ 調量ツマミは必ずいっぱいまで押し引きしてください。設定した施肥量が出なくなる場合があります。
＊ ホッパ内に肥料があるときにツマミを押し引きするとホッパ内が空のときよりも重くなります。
＊ 調量ツマミは真直ぐ押引きしてください。

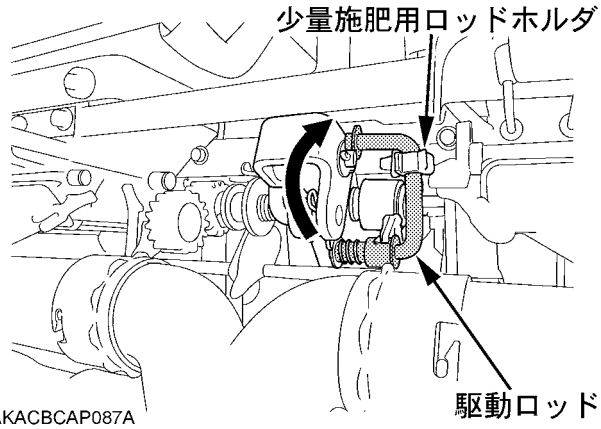
● **肥料繰出し六角軸駆動ロッド位置の変更（10～20kg/10a範囲のみ）**

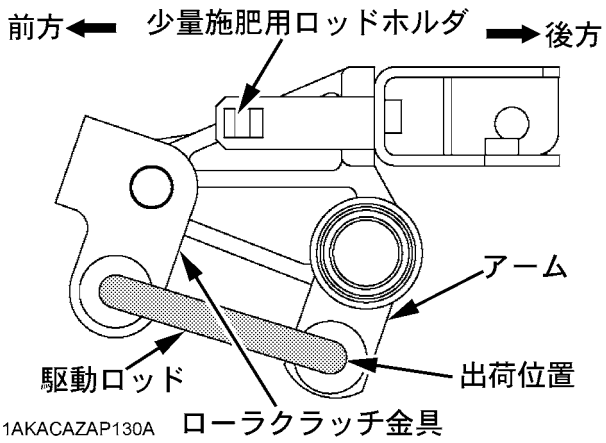
少量施肥（10 ～ 20kg/10a の範囲内）のときは，肥料を繰出すときに六角軸を回転させる駆動ロッドの取付位置の変更を行なってください。

(1) ローラクラッチ金具に取付けている駆動ロッドのスナップピンを取外し，駆動ロッドをローラクラッチ金具から外します。



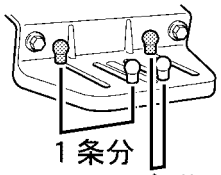
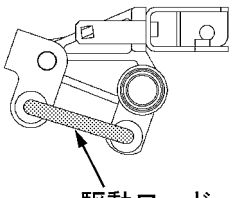
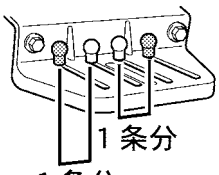
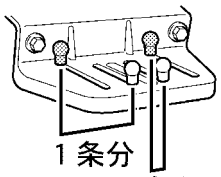
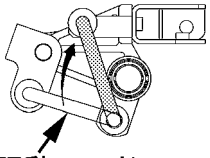
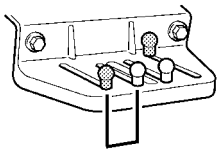
(2) 取外した駆動ロッドを後方に動かして，少量施肥用ロッドホルダに取付けたあと，駆動ロッドにスナップピンを取付けます。





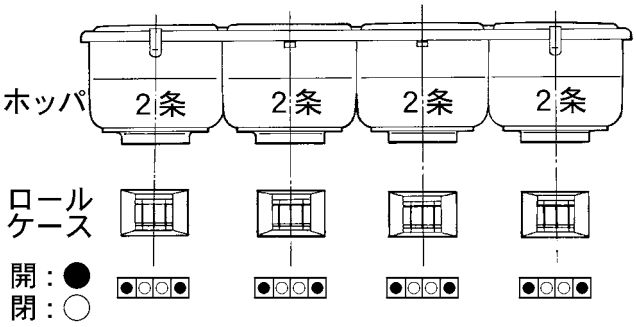
補　足

＊ 調量ツマミと駆動ロッドの位置は，下表を参照してください。例えば施肥量が 25kg/10a のときは，20 ～ 45kg/10a，60kg/10a のときは，50 ～ 80kg/10a，15kg/10a のときは，10 ～ 20kg/10a に調節してください。

範囲 (kg/10a)	調量ツマミ位置	駆動ロッド位置
20 ～ 45	 ※出荷位置	 1AKACAZAP130B ※出荷位置
50 ～ 80		
10 ～ 20	 ※出荷位置	 1AKACAZAP153A
0 （停止）		—

＊ 全条とも同じ位置に設定してください。

【例】 20 ～ 45kg/10a のとき（出荷状態）



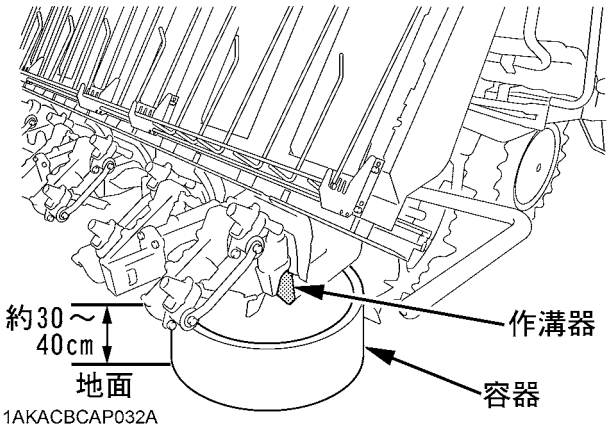
1AKACAIAP157B

4. 繰出しテストを行ないます。
   (1) 肥料を全条のホッパに入れます。
   (2) エンジンを始動し，植付部を上昇させます。
   (3) 十字ポンパレバーを**下側**に操作し，**下１段目**位置で保持しながら，植付部を地面から約 30 ～ 40cm の位置まで降ろします。

補　足

＊ **下１段目**位置より下側にポンパレバーを下げると，ピッと音が鳴ると同時に，植付部が最下降しますので注意してください。

   (4) 油圧ロックレバーを**【閉】**位置にします。
   (5) エンジンを停止します。
   (6) 肥料を受ける容器の重量を測ったあと，作溝器の下側に全条分置きます。



1AKACBCAP032A

補　足

＊ 容器が全条分ないときは，ホッパが２条の場合は２個置き，測定箇所以外のあぜぎわクラッチを全て切ってください。

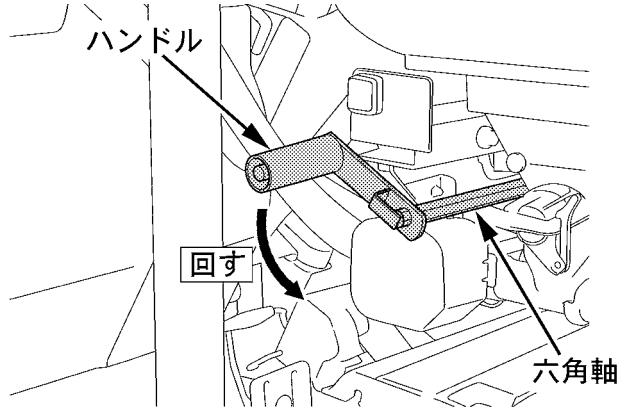
   (7) エンジンを始動します。

補　足

＊ ブロワが回転していることを確認してください。また，ホースやダクトが正しく組付けられているか確認してください。

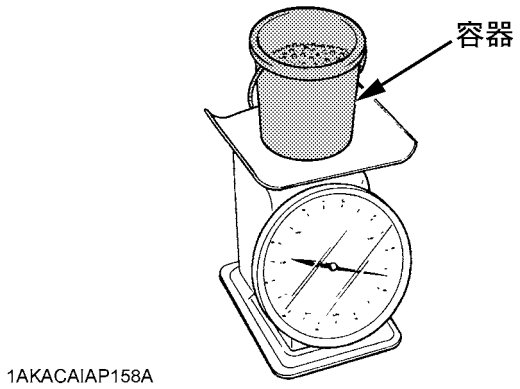
(8) 付属の手動操出し用のハンドルを六角軸に六角穴を合わせます。

(9) ハンドルを左回転方向（矢印方向）に **10回**回転させて，容器に肥料を操出します。このとき，目安として 8 ～ 10 秒間でハンドルを 10 回転させます。



1AKACBCAP077A

(10) 重量を測定し，測定した重量から容器の重量を差引くと，繰出した肥料の重量となります。



1AKACAIAP158A

(11) 実際に測った繰出し量と調量ツマミの位置の標準値と比較します。

● 10 回転繰出し量の標準値

調量ツマミの設定位置	標　準　値
20 ～ 45kg/10a（標準）	100g/10 回転
10～20kg/10a(少ない)	100g/10 回転
50 ～ 80kg/10a（多い）	200g/10 回転

補　足

＊ 使用する肥料により標準値と実際の繰出し量に極端に差があるときは，調量金具で調節してください。

＊ 調量ツマミの設定位置により10回転後の繰出し量は異なります。

● 調量ツマミの設定位置が20～45kg/10aの場合

標準値	実測値	施肥量調量金具で調節
100g	90g (1 割少ない)	調量目盛を 1 目盛分多くする。
	110g (1 割多い)	調量目盛を 1 目盛分少くする。

＊ 実際の施肥量は，ほ場条件などにより車輪のスリップで変化することがありますので，施肥作業を実際行ない再調整してください。

重　要

＊ ハンドルが六角軸に取付けられた状態で機械を動かすと，ハンドルが回転して破損の原因になります。

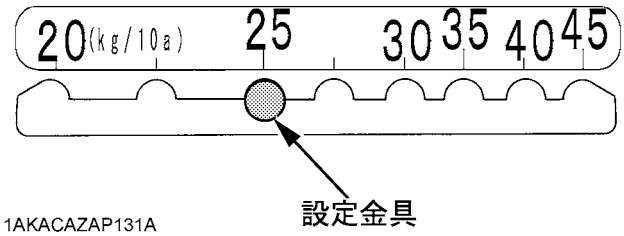
補　足

＊ ハンドルは失くさないでください。

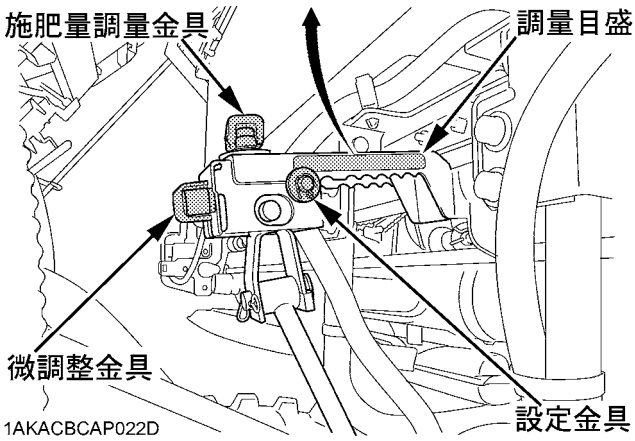
5．調量金具を調節して施肥量を設定します。

［例］施肥量 25kg/10a の場合

(1) 調量金具をゆるめます。
(2) 調量目盛の **[25]** のところに設定金具を合わせます。
(3) 調量金具を締付けます。



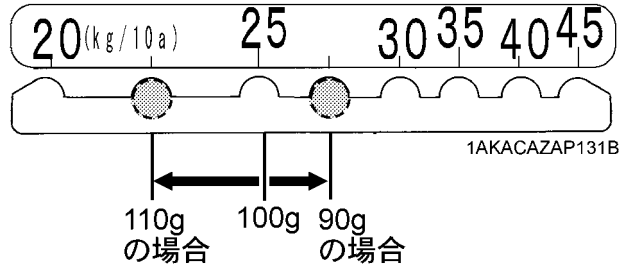
1AKACAZAP131A



1AKACBCAP022D

補　足

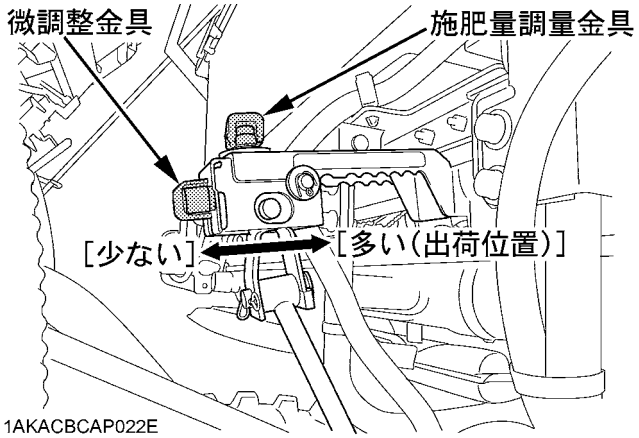
＊ 出荷時は，**[20]** 位置です。
＊ 4．の（11）の工程で，肥料条件により実測値が標準値の 100g に対し，１割少ない（90g）ときは，**[25]** の位置から１目盛分多く（**[28]**）し，逆に１割多い（110g）ときは，１目盛分少なく（**[23]**）してください。



＊ 施肥量が変化するおそれがあるので調量金具をしっかりと締付けてください。

● **微調整の方法**

＊ 施肥量を目盛より少なくしたいときは，微調整金具で調整してください。



1AKACBCAP022E

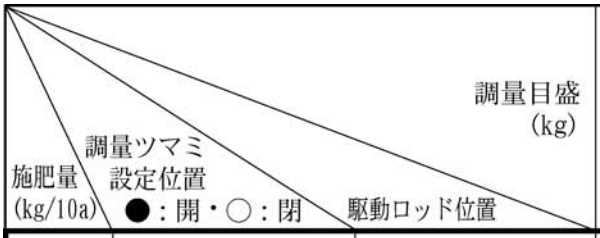
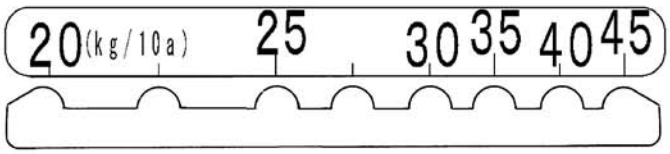
(1) 施肥量調量金具をゆるめます。
(2) 微調整金具を回し，少ない方へピンの位置をずらしてください。

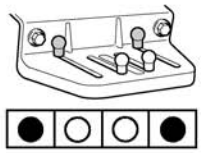
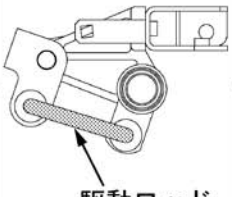
補　足

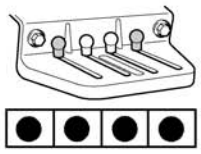
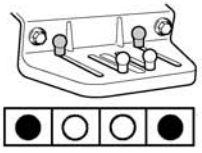
＊ 設定金具の位置，施肥量範囲によって減り量が異なります。

■肥料繰出し量目安一覧表

[C 仕様除く]

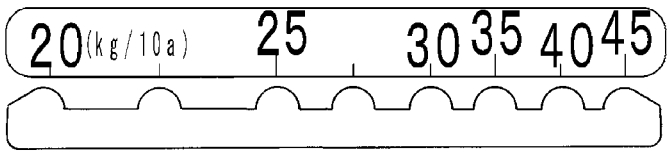
<table>
<tr><td colspan="2"> 
</td><td colspan="2"> 

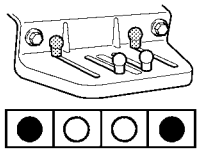
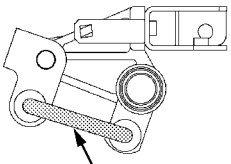
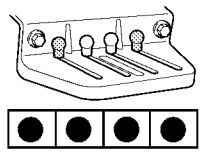
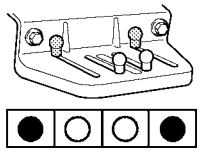
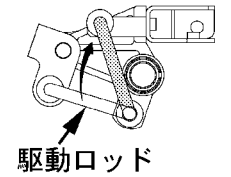
※数値は施肥量（kg/10a）</td></tr>
<tr><td>20～45
(標準)</td><td>標準位置（出荷時）
  </td><td rowspan="2"> 

※出荷位置</td><td>50
40
30
20</td><td>20 (22.5) 25 (27.5) 30 35 40 45</td></tr>
<tr><td>50～80
(多い)</td><td>  </td><td>80
70
60
50</td><td>繰出し量：標準の２倍
50 55 60 70 80</td></tr>
<tr><td>10～20
(少ない)</td><td>標準位置（出荷時）
  </td><td>
</td><td>20
10</td><td>繰出し量：標準の半分
10 (11.5) 13 (14) 15 18 20</td></tr>
</table>

[C 仕様除く]

[C 仕様]

<table>
<tr><td colspan="2">施肥量 (kg/10a)
調量ツマミ設定位置 ●：開・○：閉
駆動ロッド位置</td><td>調量目盛 (kg)</td><td colspan="2"> 

※数値は施肥量（kg/10a）</td></tr>
<tr><td>20～45
(標準)</td><td>標準位置（出荷時）
  </td><td rowspan="2"> 
駆動ロッド
1AKACAZAP130B
※出荷位置</td><td>50
40
30
20</td><td>18 (20) 22 (24.5) 27 31 36 40</td></tr>
<tr><td>50～80
(多い)</td><td>  </td><td>80
70
60
50</td><td>繰出し量：標準の２倍
45 49 54 63 72</td></tr>
<tr><td>10～20
(少ない)</td><td>標準位置（出荷時）
  </td><td> 
駆動ロッド
1AKACAZAP153A</td><td>20
10</td><td>繰出し量：標準の半分
9 (9.5) 11 (12) 13 16 18</td></tr>
</table>

[C 仕様]

補　足

＊ 肥料の種類により繰出し量が異なる場合がありますので，実際に繰出しテスト又は，施肥作業を行なって，目標とする施肥量に調節してください。

[F 仕様]

メインパネルによる異常と処置

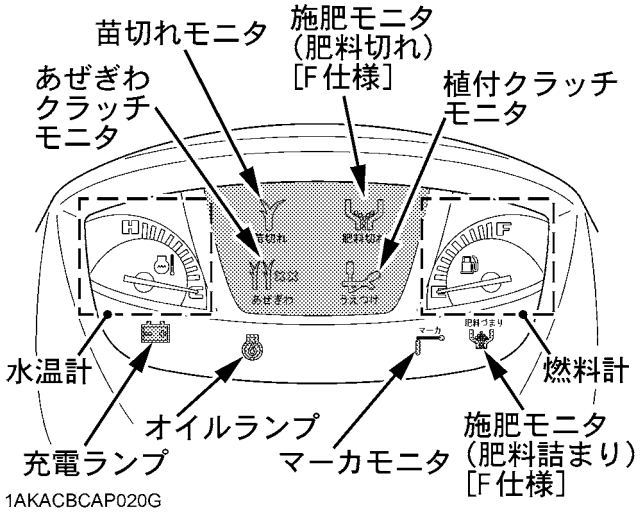
警　告

＊ エンジン回りの点検や処置を行なうときは，エンジンを必ず止めてください。

注　意

＊ エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。
＊ 苗や肥料［F 仕様］を補給するときは，走行を停止して行なってください。

ブザーが鳴り，パネル内のランプが点灯又は，点滅したときや計器が異常を示したときは，下表の処置を行なってください。



ランプ・計器	警報			現象	処置	参照ページ
	ランプ表示		ブザー			
	メインパネル	マスコット				
充電ランプ（充電警報）	点灯	—	—	● バッテリに充電されていません。 ● そのまま作業を続けると… **バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。**	● オルタネータ駆動ベルト ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 ● 購入先へ連絡してください。	129 129 －
水温計	—	—	—	指針が上昇し**［H］**のときは ● 水温が上昇しています。 ● そのまま作業を続けると… **オーバヒートします。**	● エンジンを停止後，30分以上たってから点検と処置をします。 ①冷却水量 不足……リザーブタンクに清水を補給 水もれ…ラジエータ排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増締め ②ラジエータフィン 汚れ・詰まり…掃除して取除く	123 123，127 125

ランプ・計器	警報			現象	処置	参照ページ
	ランプ表示		ブザー			
	メインパネル	マスコット				
オイルランプ（油圧警報）	点灯	—	—	● エンジンのオイル圧力が不足しています。 ● そのまま作業を続けると… **エンジンが動かなくなります。**	● エンジンを停止後，オイル量の点検と処置をします。 ● エンジンが焼付きを起こしていますので，購入先へ連絡してください。	121 －
植付クラッチモニタ（植付クラッチ入忘れ警報）	点滅	※点滅	—	● 植付クラッチが入っていません。	● 十字ポンパレバーを下側に２回操作（ピッピッと連続音が鳴る）します。	12
マーカモニタ（マーカ出し忘れ警報）	点滅	—	—	● マーカが出ていません。	● 十字ポンパレバーを操作して，マーカを出します。	12
あぜぎわクラッチモニタ（あぜぎわクラッチ入忘れ警報）	点滅	—	—	● あぜぎわクラッチが切れています。	● あぜぎわスイッチを**【入】**位置にします。	15
苗切れモニタ（苗切れ警報）	点滅	※点滅	断続（8 回）	● 苗が残り少なくなっています。	● 苗を補給します。	67
施肥モニタ（肥料切れ警報）**【F 仕様】**	点滅	※点滅	断続（8 回）	● 肥料が残り少なくなっています。	● 肥料を補給します。	75
施肥モニタ（肥料詰まり警報）**【F 仕様】**	点滅	※点滅	断続（8 回）	● 肥料が詰まっています。	● 作溝器内を確認してセンサに付着している異物を取除きます。また，異物がないときは，コントローラ（感度調整用）を調整します。	75，108

※**【SP2 仕様】**はマスコットランプの点滅はありません。

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡してください。

補　足

＊ 警報ランプは，異常を処置すると消灯します。
＊ 警報ブザーは断続で８回鳴りますが，警報ブザーが鳴っている最中に他にも異常が発生したときは，そのときから断続で８回ブザーが鳴ります。
＊ 警報ブザーが鳴り終わったあと，警報モニタのランプが**点滅中**に主変速レバーを**【後進】**位置にすると，バックブザーが鳴ります。そのあと，主変速レバーを**【N】（中立）**位置にすると警報（異常）確認のため，警報ブザーが再度８回鳴ります。

コントローラ（自己診断）による異常と処置

警　告

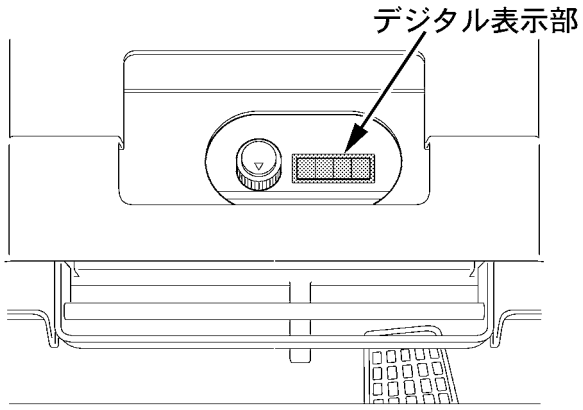
＊ 点検や処置を行なうときは，エンジンを必ず止めてください。

注　意

＊ 外したカバー類は必ず取付けてください。

コントローラは，機体に異常が発生したときに，故障を未然に防ぐためマイコンが判断して自動装置の働きを制御します。
自動装置が停止しても作業は行なえますが，作業終了後は，購入先に次頁の表示内容を連絡して処置してください。

コントローラによる異常に気づかないことがありますので，作業前，後に運転席下部のゴムキャップを外してコントローラのデジタル表示部を確認してください。



1AKACBCAP025B

表示内容 デジタル表示	異　常　内　容	異常箇所	処　　置
E001	植付部の自動水平制御がはたらかない。(モンローがはたらかない。)	ローリングセンサ又は，配線	購入先に連絡してください。
E002	泥押し又は，植付姿勢の悪い状態が続く。(フロートセンサがはたらかない。)	フロートセンサ又は，配線	購入先に連絡してください。
E005	各条クラッチ（苗のせ台）が動かない。	各条クラッチセンサ（苗のせ台）又は，配線	購入先に連絡してください。
E006	各条クラッチ（施肥機）が動かない。	各条クラッチセンサ（施肥機）又は，配線	購入先に連絡してください。
E007	植付部が昇降しない。	リンクセンサ又は，配線	購入先に連絡してください。
E009	十字ポンパレバーを操作しても植付部が上昇又は，下降しない。	ポンパ強制上昇・下降スイッチ又は，配線	購入先に連絡してください。
E010	十字ポンパレバーを操作しても植付部が上昇又は，下降しない。	ポンパスイッチ（上昇）又は，配線	購入先に連絡してください。
E011	十字ポンパレバーを操作しても植付部が上昇又は，下降しない。	ポンパスイッチ（下降）又は，配線	購入先に連絡してください。
E012	十字ポンパレバーでマーカ右を出そうとしても，マーカ右が出ない。	ポンパマーカ右スイッチ又は，配線	購入先に連絡してください。
E013	十字ポンパレバーでマーカ左を出そうとしても，マーカ左が出ない。	ポンパマーカ左スイッチ又は，配線	購入先に連絡してください。
E020	モンロー調節ダイヤルを回しても植付部が傾かない。	モンロー角度調節ボリューム又は，配線	モンロー調節ダイヤル水平セット状態で自動水平制御がはたらいています。 植付状態に問題がなければ作業を継続してください。また，作業終了後に購入先に連絡してください。
E040	植付部が昇降しない。	配線，コントロールバルブ又は，コントローラ	購入先に連絡してください。
E041	PTO モータがショートしている。	配線又は，PTO モータ	購入先に連絡してください。**【SP2 仕様除く】**
E050	植付部の自動水平制御がはたらかない。(モンローがはたらかない。)	ST センサ又は，配線	購入先に連絡してください。
E051	植付部の自動水平制御がはたらかない。(モンローがはたらかない。)	モンロー位置センサ又は，配線	購入先に連絡してください。
E052	自動植付が作動しない。	切れ角センサ又は配線	購入先に連絡してください。**【SP2 仕様のみ】**
E055	植付部の自動水平制御がはたらかない。(モンローがはたらかない。)	モンローモータ又は，配線	購入先に連絡してください。
E070	自動制御が正常に作動しない。	機種コードの設定が行なわれていません。	購入先に連絡してください。
E071	自動制御が正常に作動しない。	ローリングセンサの微調整が行なわれていません。	購入先に連絡してください。
E072	自動制御が正常に作動しない。	フロートセンサの微調整が行なわれていません。	購入先に連絡してください。
E073	自動制御が正常に作動しない。	STセンサの微調整が行なわれていません。	購入先に連絡してください。
E074	自動制御が正常に作動しない。	リンクセンサの微調整が行なわれていません。	購入先に連絡してください。
E075	自動制御が正常に作動しない。	モンロ位置センサの微調整が行なわれていません。	購入先に連絡してください。
E076	自動制御が正常に作動しない。	昇降バルブの微調整が行なわれていません。	購入先に連絡してください。
E077	自動制御が正常に作動しない。	マイコンが異常	購入先に連絡してください。
E078	自動制御が正常に作動しない。	切れ角センサの微調整が行なわれていません。	購入先に連絡してください。**【SP2 仕様のみ】**

各部のオープン（開閉）と脱着のしかた

警 告

＊ 平坦で安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

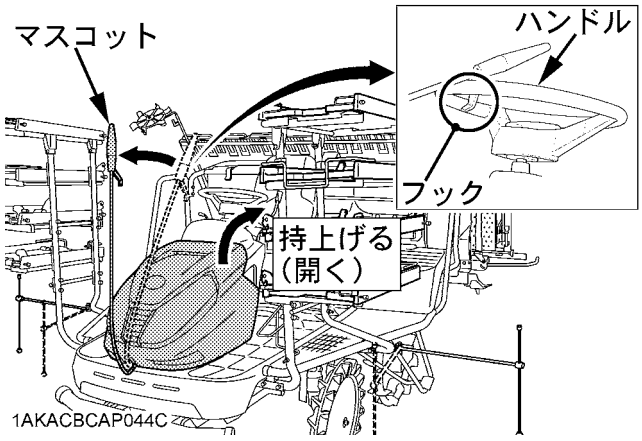
■ボンネットのオープン

注 意

＊ オーバヒートなどでボンネットを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) 作業を中止する。
(2) エンジンを約５分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。
(3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
(4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊ エンジンが冷えてないとき，ボンネットを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

◆ 開きかた

マスコットを前方に倒したあと，持上げると開きます。また，ボンネットを開いた状態で固定するときは，ハンドルにマスコットのフックを引掛けてください。



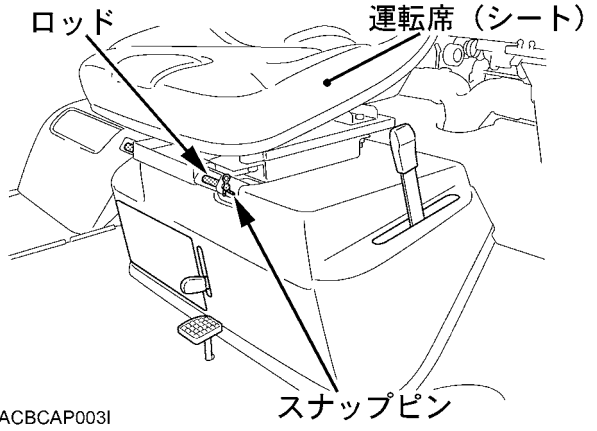
◆ 閉じかた

ハンドルからマスコットのフックを取外したあと，閉じます。閉じたときは，カチッと音がします。このとき，ボンネット後のフックをボンネットウシロに差込んでください。

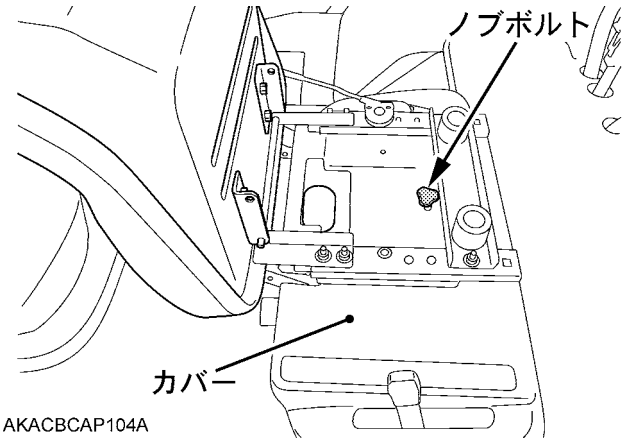
■運転席下カバーの脱着

◆ 取外しかた

1. スナップピンを取外し，ロッドを抜いたあと運転席（シート）をハンドル側に倒します。



2. ノブボルトを取外し，運転席（シート）を取外します。
3. 副変速レバー，油圧ロックレバーとカバーガイド部の引掛かりに注意しながら，カバーを外します。



◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

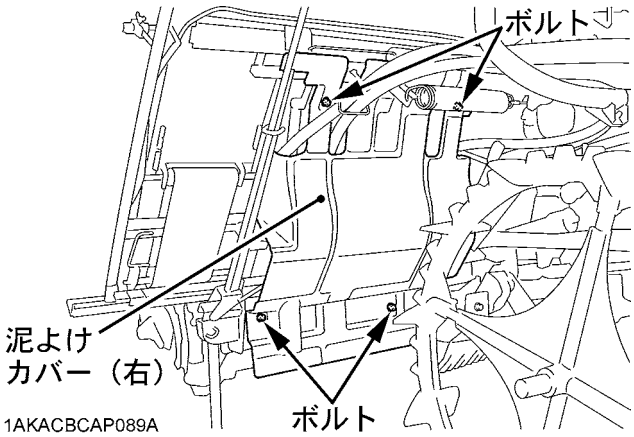
■苗のせ台のオープン

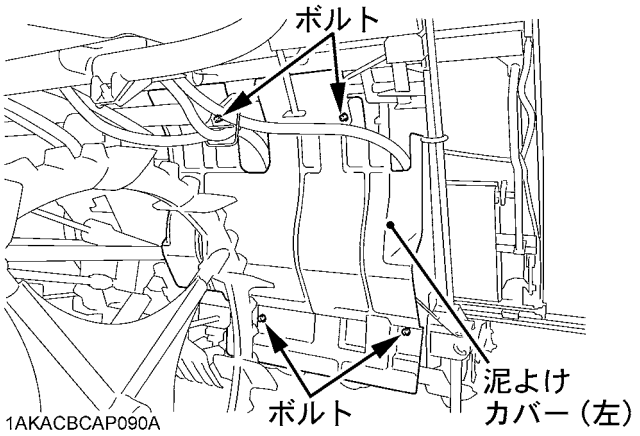
注 意

＊ 作業をするときは，苗のせ台を中央付近に寄せて，平坦で安全な場所で行なってください。

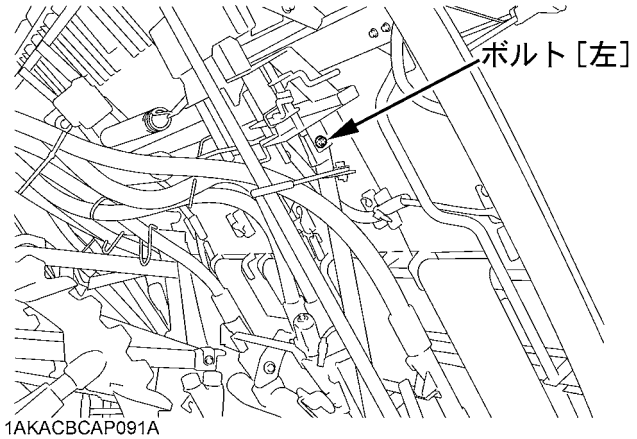
◆ 開きかた

1. 苗のせ台泥よけカバー（右）ボルト４箇所，（左）ボルト４箇所を外し，左右の泥よけカバーを外します。

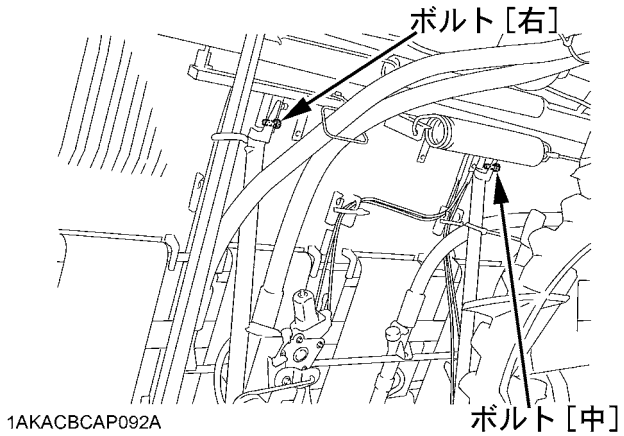




2. 苗のせ台左中右３箇所のボルトを外します。

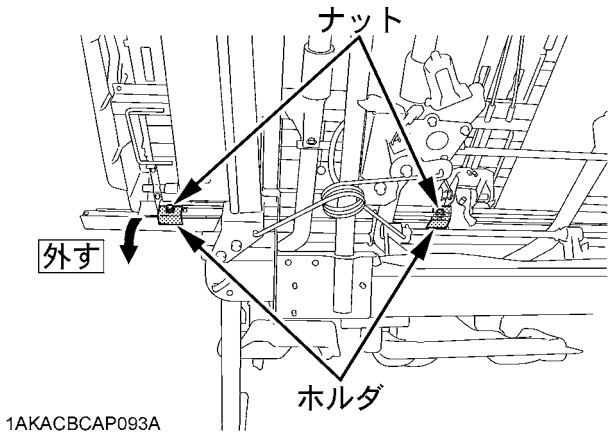


1AKACBCAP091A



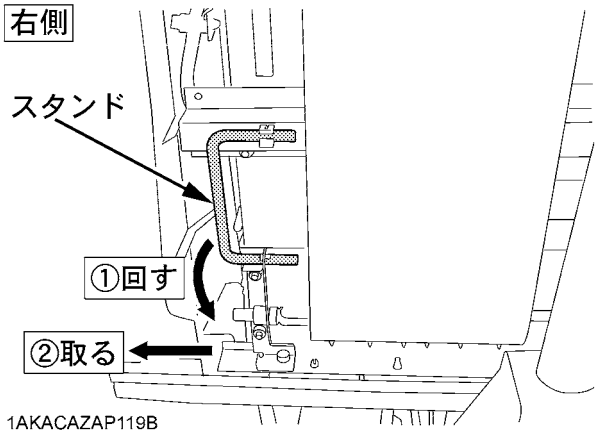
1AKACBCAP092A

3. ホルダ４個を固定してあるナットをゆるめ外します。

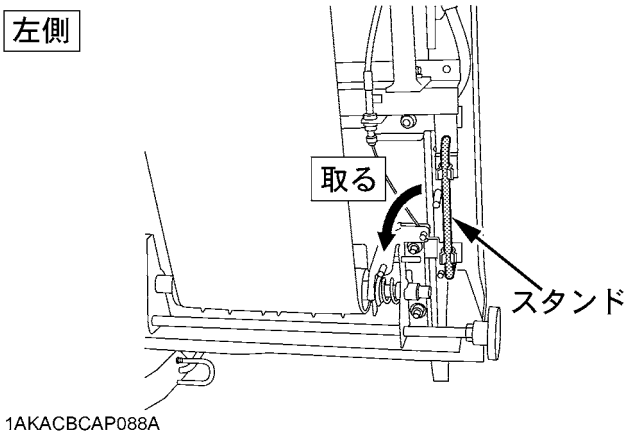


1AKACBCAP093A

4. 苗のせ台の左右端２箇所についているスタンドを外します。

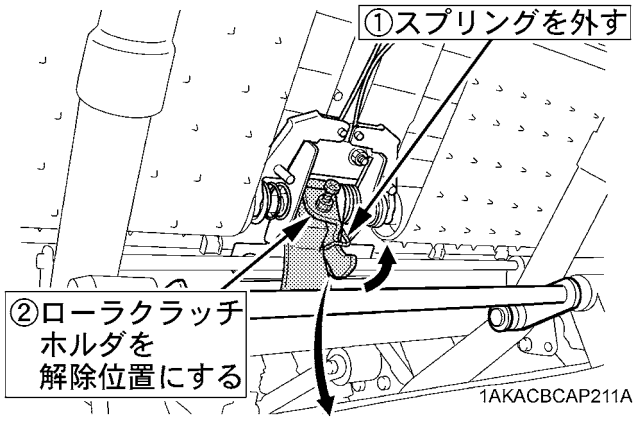


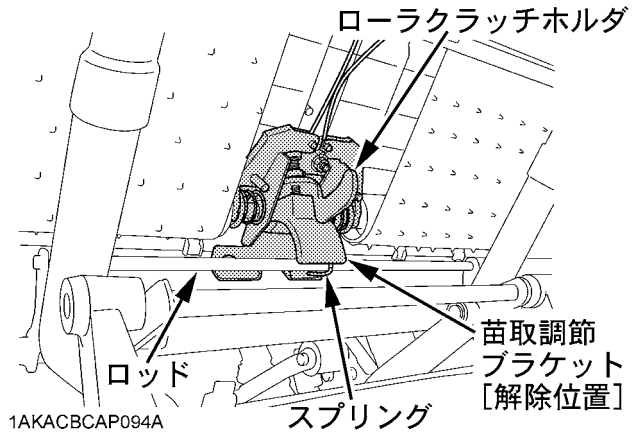
1AKACAZAP119B



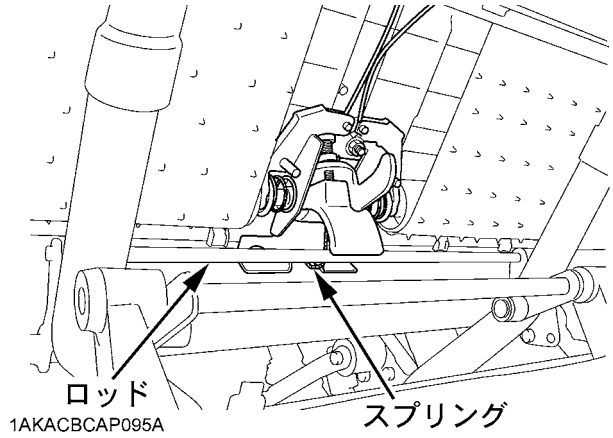
1AKACBCAP088A

5. ローラクラッチホルダのスプリングのフックを外し，ローラクラッチホルダと苗取調節ブラケットを解除位置（ロッドより上側）にセットします。

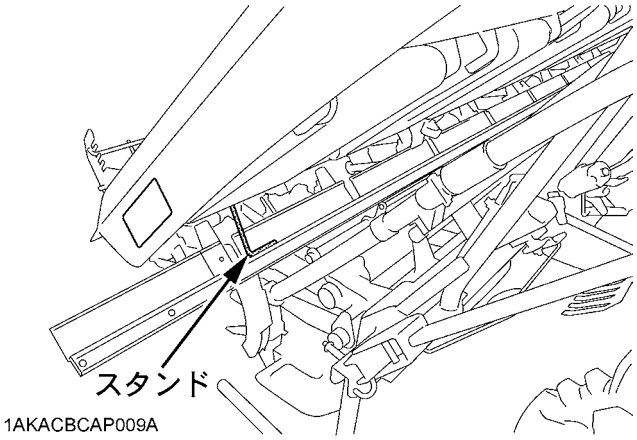




6. ロッドよりスプリングを外します。



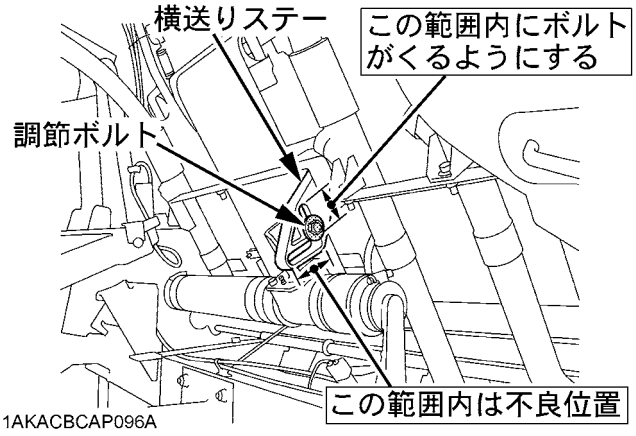
7. 苗のせ台としゅう動板の間へ，スタンドを左右端にセットします。



8. しゅう動板，苗のせ台受け，スポンジの泥や汚れを除去し，摩耗状態を確認します。その後，適量の油を注油します。

重　要

＊ 作業終了後は，ブラケットを必ず通常状態に戻してください。
＊ 横送りステーの振分け調節ボルトの位置を確認してください。



◆ 閉じかた

取外しの逆の手順で行なってください。

重　要

＊ 苗のせ台を下げるときは，苗取調節ブラケットをロッドの前側（上側）の位置にしてください。

■植付部の脱着

[Y32 仕様除く]

警 告

＊ 転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部など）を取外して，本機単独で移動走行やトラックの積降し，運搬作業は行なわないでください。

注 意

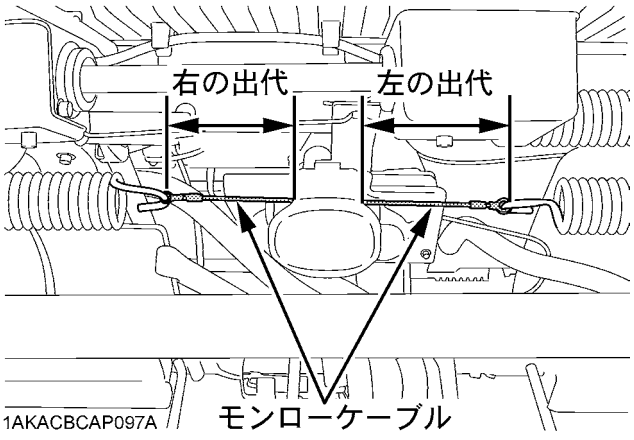
＊ 作業機の脱着は平坦で凹凸のない場所で行なってください。また，風が強く吹いているところで脱着作業は行なわないでください。
＊ 周囲に人がいないことを確認してください。脱着時は特に，本機側と作業機に人が挟まれるおそれがあります。

重 要

＊ 植付部の脱着を行なう場合は，オプションの植付部脱着用スタンド（別売品）を購入してから行なってください。

◆ 取外しかた

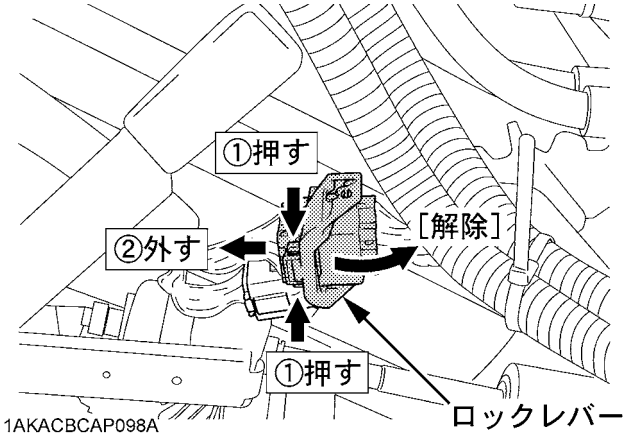
1. キースイッチを**［運転］**位置にし，十字ポンパレバーを操作して**［植付］**状態にし，モンロー調節ダイヤルでモンローケーブルの出代を左右同じにします。



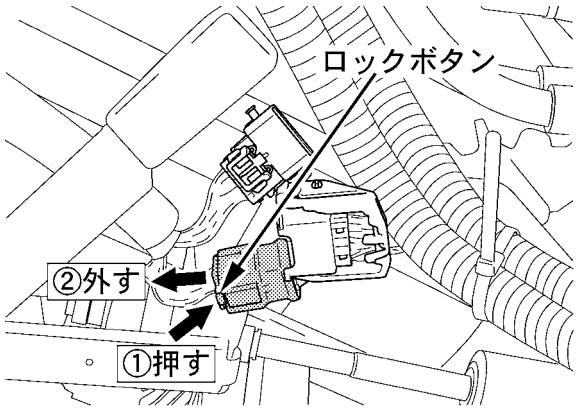
補 足

＊ 調整が終わった後は，キースイッチを**［停止］**位置にし，モンロー調節ダイヤルを中央位置に戻してください。

2. 作業機のハーネスのカプラ２個（RF 仕様は３個）を外します。
   (1) ロックボタンの上下を押しながらロックレバーを解除し外します。



   (2) ロックボタンを押して外します。



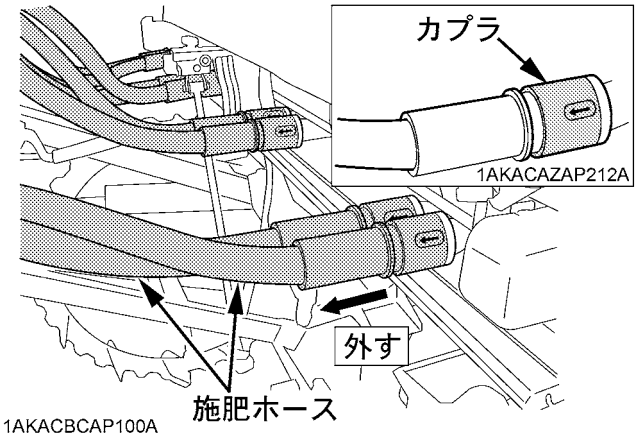
重 要

＊ カプラを外すときは，必ずキースイッチを**［停止］**位置にしてください。
機械が破損するおそれがあります。

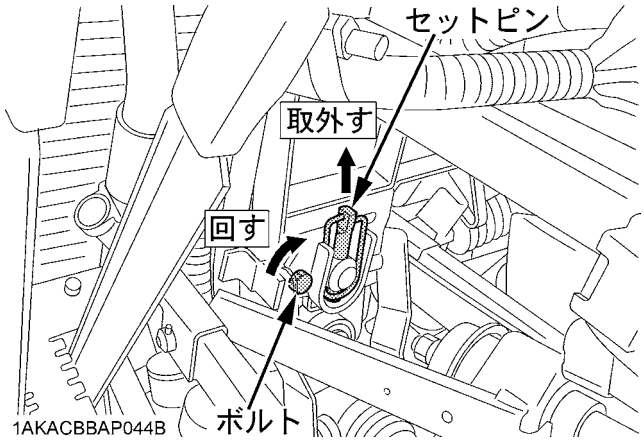
補 足

＊ 植付部を除くアタッチメントを使用するときは，付属部品のダミーカプラを使用してください。

3. **[F 仕様]**（施肥機付）の場合，施肥ホースのカプラを矢印方向に引き，ロックを解除して本機から外します。



4. 植付部のセットピンを取外します。



補　足

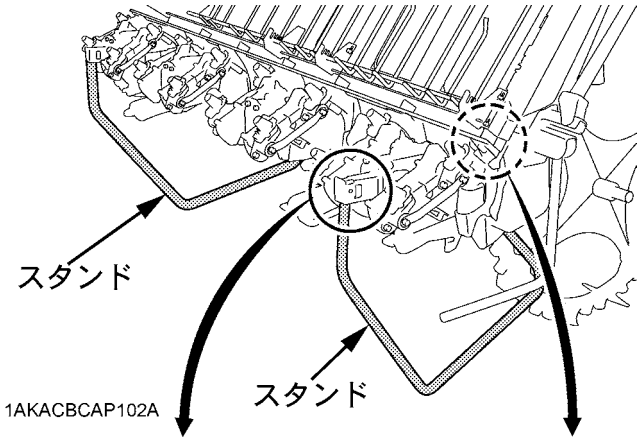
＊ 取外したセットピンは植付部を外した後，植付部側に取付けてください。

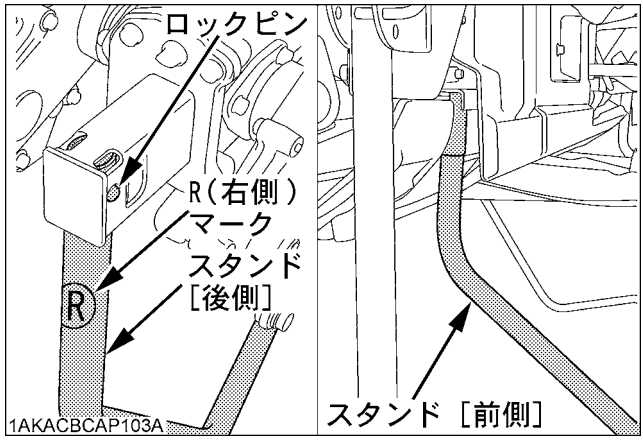
＊ ピンが抜けにくいときは，植付部を少し下げて，ボルトを右回り（時計方向）に回してください。

5. 植付部にスタンド（オプション）を取付けます。

[R 仕様] 整地板アッシを取外します。

※ホルダ部分の頭付きピンを抜いて取外します。（84 ページ参照）

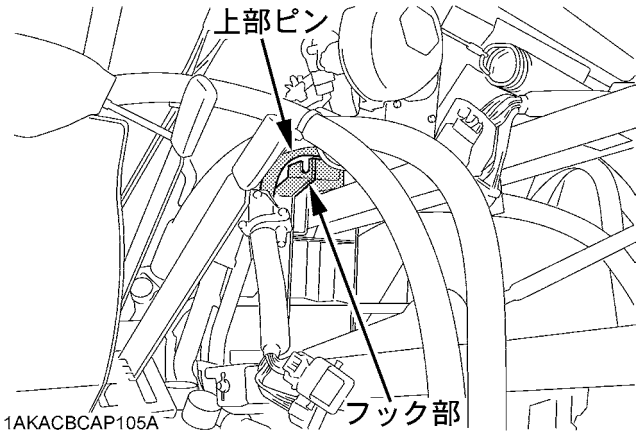


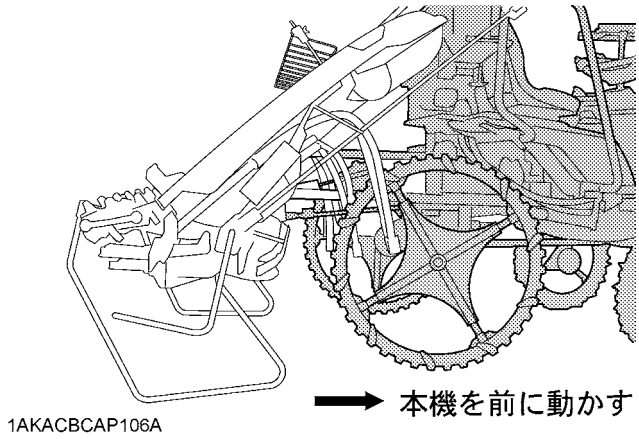


重　要

＊ スタンドを取付ける場合，L（左側），R（右側）マークをよく確認して取付けてください。

6. エンジンをかけて植付部を降し，エンジンを切ります。上部ピンがフック部から外れていることを確認し，本機を前に動かし植付部を外します。



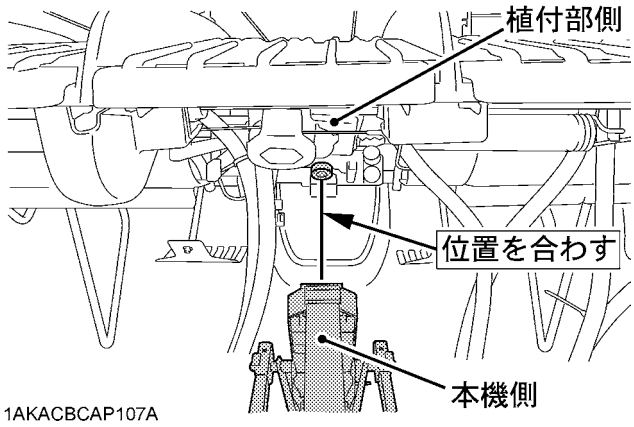


補　足

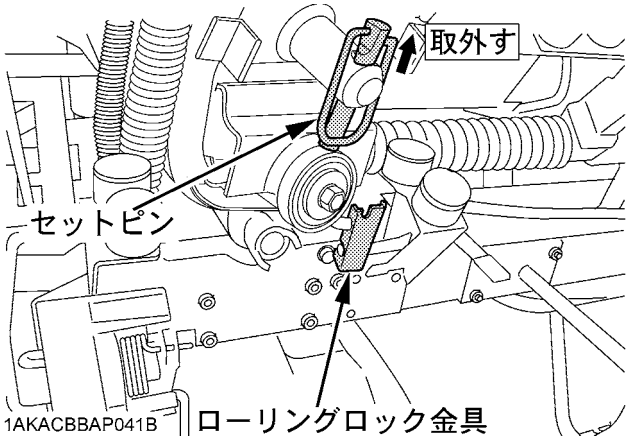
＊ 脱着後にローリングロック金具が掛かっていることを確認してください。外れている場合は掛けてください。

◆ 取付けかた

1. 本機単体の機体後部の取付部後端から少し離した位置に植付部を準備します。その後，本機側と植付部の取付位置の中心部の位置合わせを行ないます。



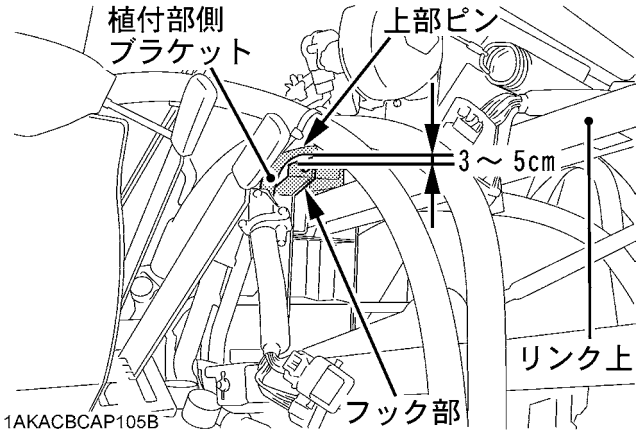
2. 植付部側に取付けたセットピンを外します。



補　足

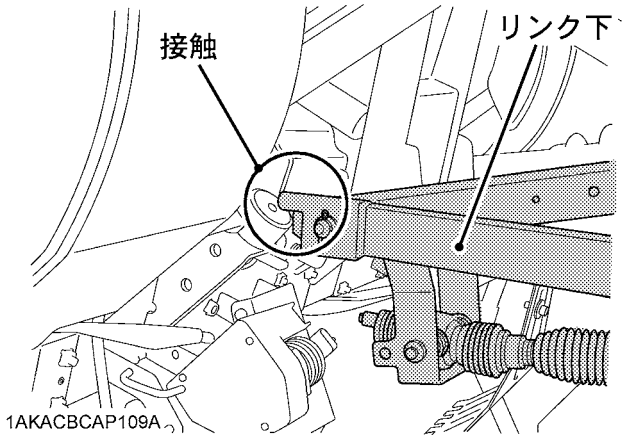
＊ 着脱前にローリングロック金具が掛かっていることを確認してください。外れている場合は掛けてください。

3. 本機を植付部の取付部に接触する手前まで押します。
4. エンジンを始動し十字ポンパレバーを操作して，本機側のリンク（上）を少しずつ上げながら，植付部側の上部ピンの下側３～５ cm の位置にフックを合わせます。



補　足

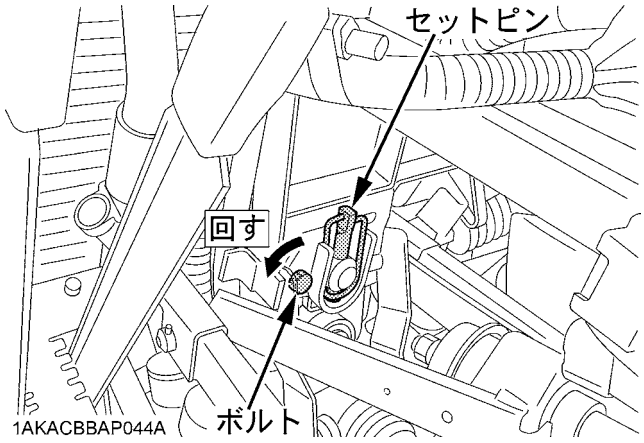
＊ 植付部を取付けるときは，本機側のリンク（上）が下側にあると，下図のようにリンク（下）が当り，取付けができません。



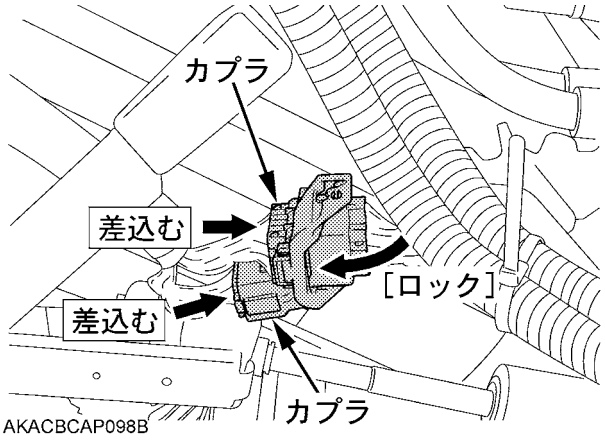
5. 本機を少し押し，本機側のリンク（上）真上に植付部側ブラケットの上部ピンを合わせた後，十字ポンパレバーを**【上】**（上昇）側に操作すると植付部が取付けられます。
6. 2. の工程で取外したセットピンを同じ所に取付けます。

補　足

＊ 取付けたセットピンにがたつきがあるときは，ボルトを左に回し，がたつきをなくしてください。



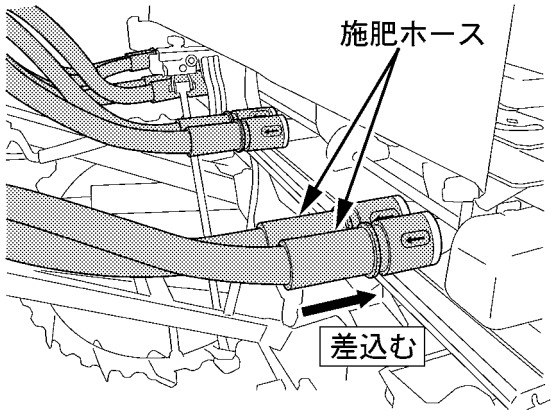
7. キースイッチを**【停止】**位置にして，植付部のカプラ２個（RF 仕様は３個）を取付けます。



重　要

＊ カプラを接続するときは，必ずキースイッチを**【停止】**位置にしてください。
機械が破損するおそれがあります。

8. **【F 仕様】**（施肥機付）の場合，施肥ホースを本機に取付けます。（カチッ音が鳴るまで）



補　足

＊ 脱着カプラに肥料が付着していると，奥まで差込めずカチッ音が鳴らない場合があります。ブラシなどでじゅうぶんに取除き，差込んでください。
＊ 施肥ホースの差込む位置には注意してください。

9. 植付部のスタンドを外します。

10. **[R 仕様]** 整地板アッシを元通り取付けます。

[Y32 仕様除く]

■ロール・ブラシの取付け・取外し方法

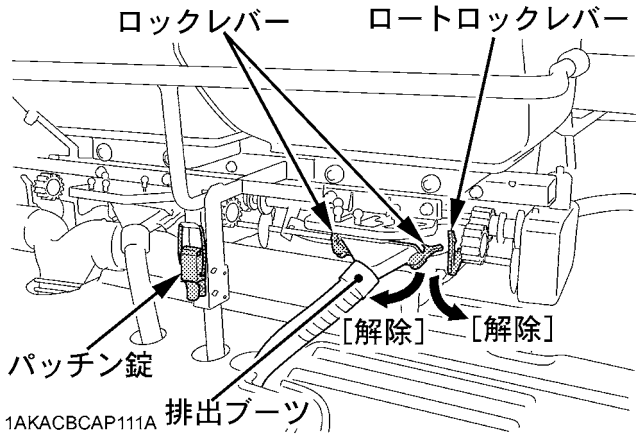
[F 仕様]

◆ 外しかた

重　要

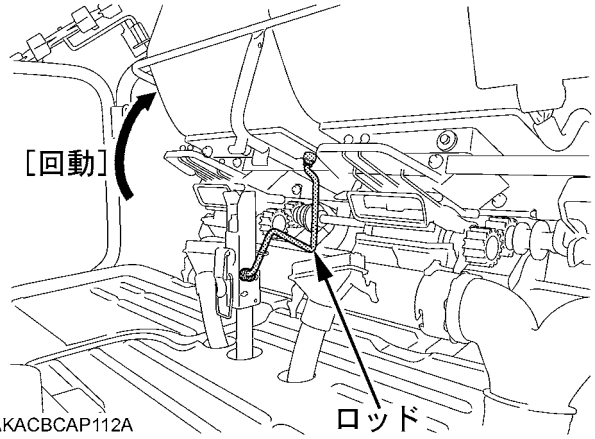
＊ 田植機を平たんな場所に置き，エンジンを停止させ，肥料をすべて排出してください。

1. ホッパ内の肥料を空の状態にします。又はシャッタを全条閉めます。
2. 排出ブーツのロックレバー８箇所をロック解除し，ブーツを外します。
3. 施肥機後方の施肥ホースをロートから外してください。
4. ロールケースのロートロックレバー８箇所，パッチン錠のロック２箇所を解除します。



1AKACBCAP111A

5. 調量金具を 20kg/10a の位置にし，施肥機本体を後部へ回動します。(20kg/10a 以外で行なうと，後部へ回動しにくい場合があります)

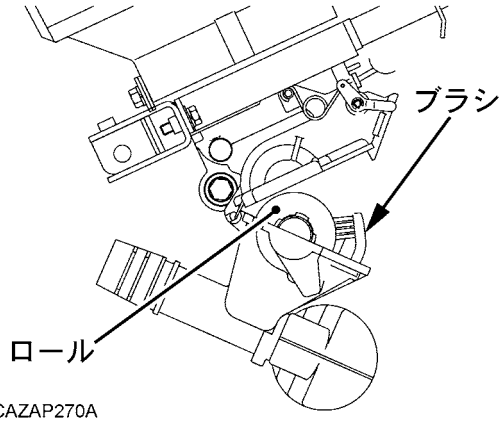


1AKACBCAP112A

補　足

＊ 施肥機本体を後部へ回動すると，フレームにロッドが引掛かり固定されます。
＊ **[C 仕様]** でガードを 50mm 下げてセットしているときは，ホッパをオープンしたときにガードに当たりますので，ガードを取外してください。

6. ブラシを外してからロールを外します。



1AKACAZAP270A

◆ 取付けかた

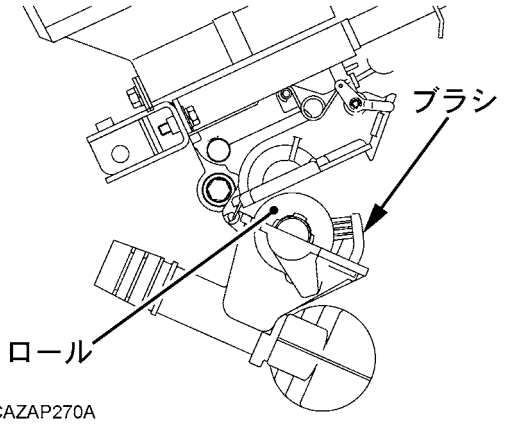
取外しの逆の手順で行なってください。

1. ロートにロールとブラシを取付けます。

補　足

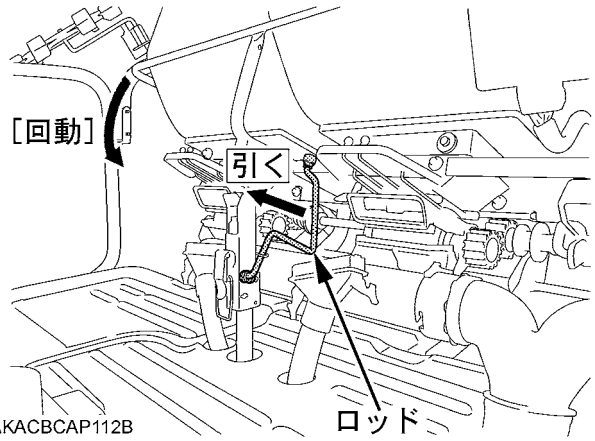
＊ ロールに注意してください。(134 ページ参照)
＊ 各ロールを取付けるときは，必ずそれぞれ取外したところへ取付けてください。

2. ロールを組付けてからブラシを組付けます。



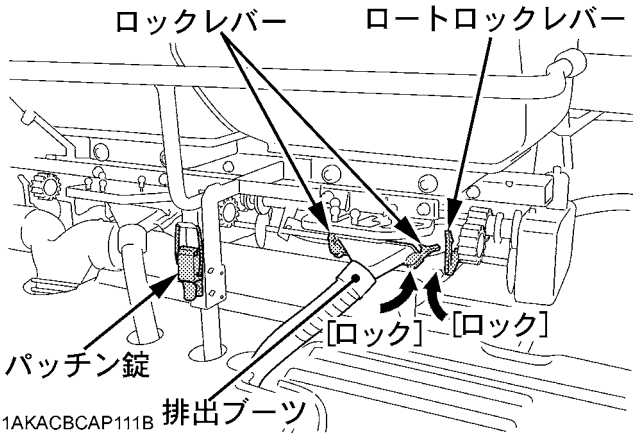
1AKACAZAP270A

3. 施肥機本体を支えてロッドを手前に引き，施肥機本体をゆっくり下ろします。



1AKACBCAP112B

4. パッチン錠２箇所とロールケースのロートロックレバー８箇所をロックします。
5. 排出ブーツをはめ込み，レバーでロックします。

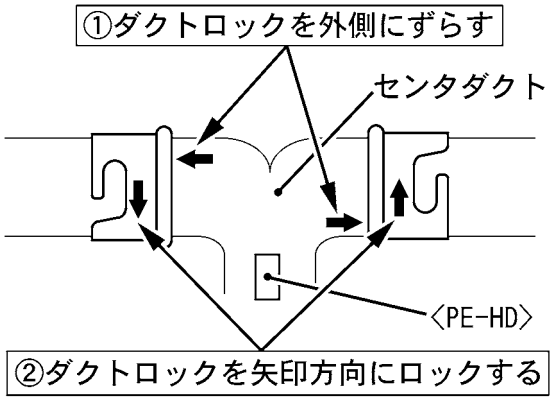


1AKACBCAP111B

補　足

＊ ギヤがかみ合わずロールケースがロックできないときは，ロールを少し動かしてギヤをかみ合わせてください。

6. センタダクト両側のパイプ（ダクト）がロックしているか確認してください。



1AKACAIAP408E

重　要

＊ センタダクトの文字（〈PE-HD〉）がある方を前にして組付けてください。

7. 作業前に空気のもれがないか確認してください。

[F 仕様]

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊ エンジンを必ず止めてください。
＊ 取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

注　意

＊ 植付部を上げた状態で作業するときは，油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ 空運転するときには必ず植付部を上昇させてください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊ 植付爪の爪先には注意してください。

■掃除のしかた

一日の作業が終わったあとは，各部の泥やごみ，施肥部の掃除 **[F 仕様]** を必ず行なってください。

重　要

＊ ボンネット内部や運転席下部の電装品には水を掛けないでください。故障の原因となります。
＊ 取外したボルト，ナットは，必ず締付けてください。
＊ 肥料には錆を発生させる成分が含まれているため，１日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いをじゅうぶん行なってください。特にエア抜き，植付フレーム，リンク支点，植付ケース各周辺（108 ～ 111 ページ参照）は必ず行なってください。

◆ 施肥部

[F 仕様]

重　要

＊ シャッタに肥料が付着した状態で長時間放置すると錆が発生したりして破損するおそれがありますのでロールケース内の肥料は必ず排出し，掃除を行なってください。
＊ 水洗い後すぐに作業しないでください。詰まりや施肥異常の原因になります。
＊ 施肥部を高圧水で洗浄しないでください。ゴム部のすき間から水が入り，詰まりの原因になります。

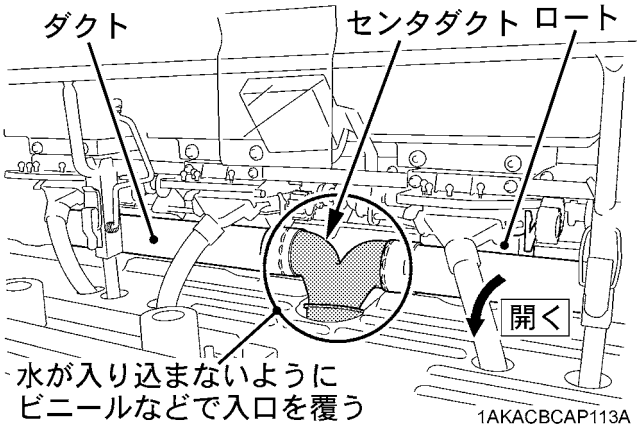
1. ホッパ内，ロールケース内のロールやブラシ，ロートの肥料を取除き，湿っているときは，乾いた布などでふき取ってください。
2. ホッパ，ロールケース，ロート内部を水洗いするときは必ずロートを開き，ロール，ブラシを取外してブロワ内に水が入らないようにしてください。

重　要

＊ ブロワ内に水が入ると，モータに錆が発生し故障するおそれがあります。

[水洗いのしかた]

(1) ダクトロックを内側にずらします。(106 ページ参照)
(2) ロートを開き（下側に傾ける）ます。(106 ページ参照)
(3) 水が入り込まないようにビニールなどでセンタダクトの入口を覆います。
(4) 水洗いをします。



(5) 水洗い後は施肥部（ホッパ，ロールケース内のロール，ブラシ，ダクト）をよく乾燥させてください。

重　要

＊ 乾燥させないと肥料が残り固着して，施肥ムラや詰まりの原因となります。

補　足

＊ 中央部のロートは，肥料の粉が特にたまりやすいので必ず掃除してください。また，水洗いを行なったときは，ロート，ブラシを必ず乾燥させてください。

3. ブラシは毛の間にはさまった肥料を取除き，お湯で洗ったあと，水分をふき取り乾燥させてください。

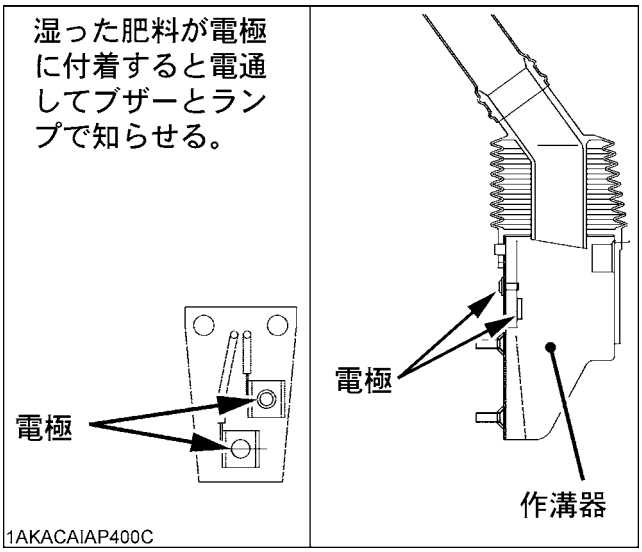
重　要

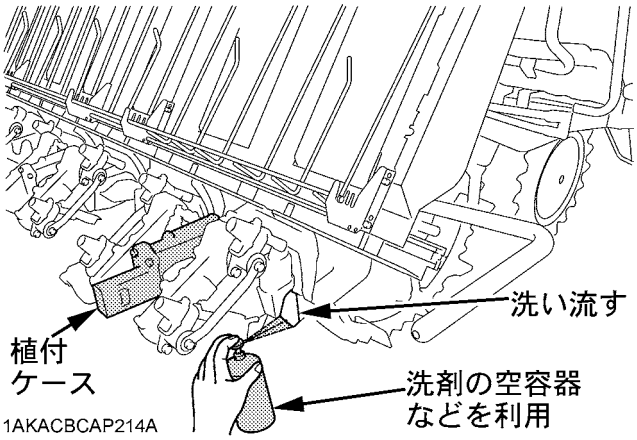
＊ ブラシを乾燥させるとき，直接太陽光があたらないようにしてください。ブラシが変形するおそれがあります。

4. 作溝器や詰まりセンサ部の泥や水はよく取除いてください。

補　足

＊ 洗剤の空容器などを利用して水を入れ，電極部分などに付着した肥料を洗い流してください。(ホース内はぬらさないこと)



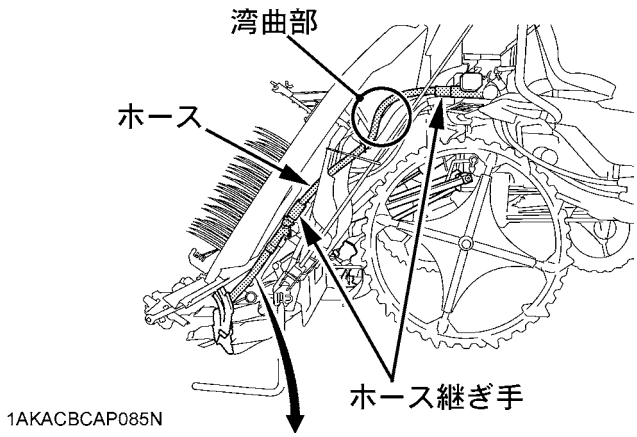


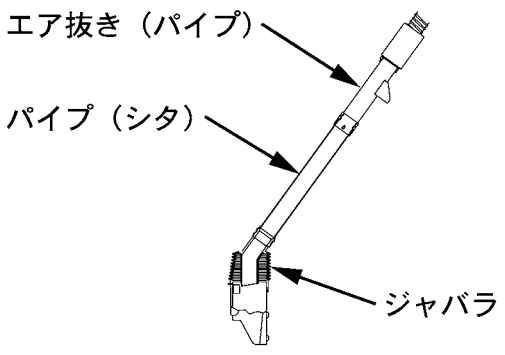
＊ ホースの中も同時に掃除してください。

5. 各パイプ（シタ）の掃除をするときは，エア抜き（パイプ），パイプ（シタ），ジャバラをセットした状態で外してください。掃除が終わったあとは，必ず取付けてください。

重　要

＊ エア抜き（パイプ），パイプ（シタ），ジャバラを分解しないでください。破損するおそれがあります。





補　足

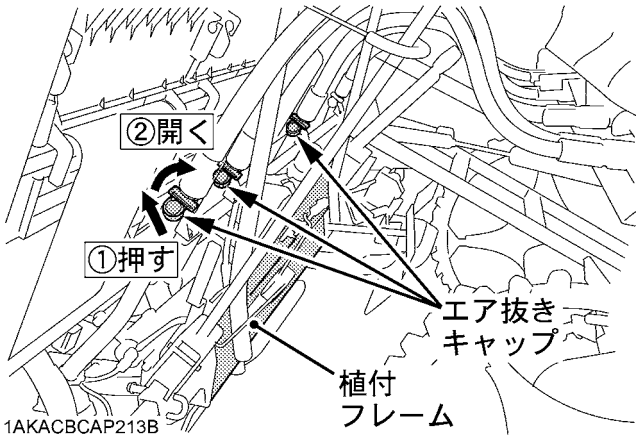
＊ 湾曲部を上側にして取付けてください。

6. エア抜きキャップ下側の出口に付着している肥料を取除いてください。(全条分)

8 箇所

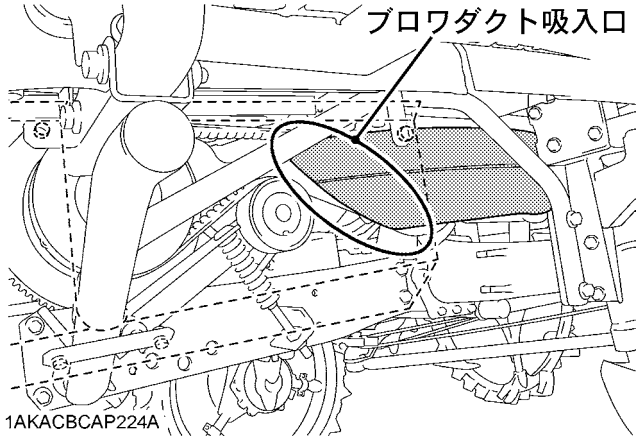
補　足

＊ 泥よけカバー左・右を外し，エア抜きキャップを奥に押してから開いてください。



◆ ブロワダクト吸入口の掃除

ブロワダクト吸入口に泥などの詰まりが発生すると，ブロワからの風量が低下し，肥料の排出が悪くなったり，施肥ホースへの詰まりの原因になります。定期的に掃除を行なってください。

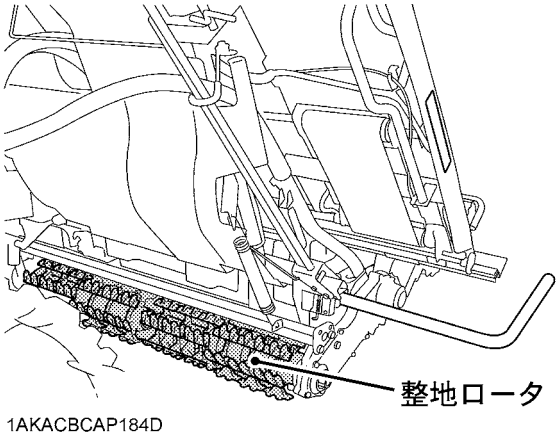


[F 仕様]

◆ 整地ロータ

[R 仕様]

異物がはさまったり，巻付いているときは取除いてください。



[R 仕様]

■注油のしかた

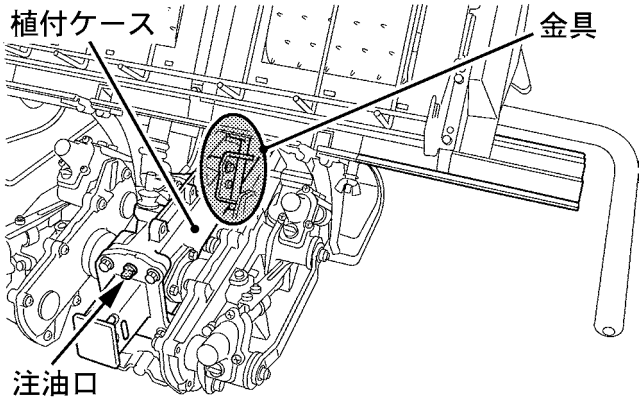
機体各部の掃除が終わったあと又は，田植作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布又は，注入を行なってください。

補　足

＊ 注油やグリース塗布をする前に，水が付着しているときは，ふき取って行なってください。

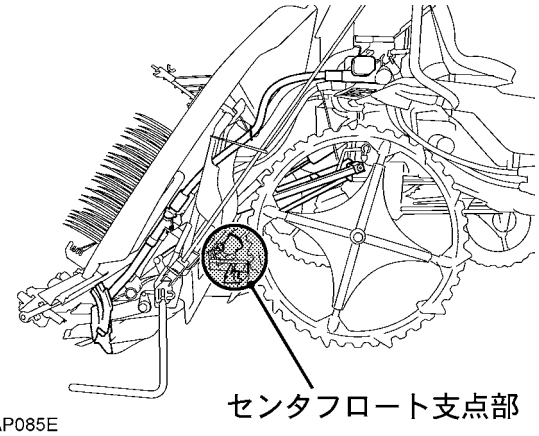
■注油，グリース塗布・注入箇所

● 植付ケース（注油）と金具（グリース塗布）



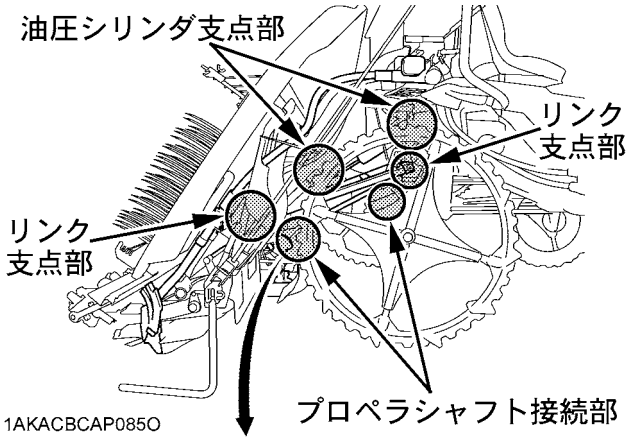
1AKACBCAP116A

● センタフロート支点部（グリース塗布）

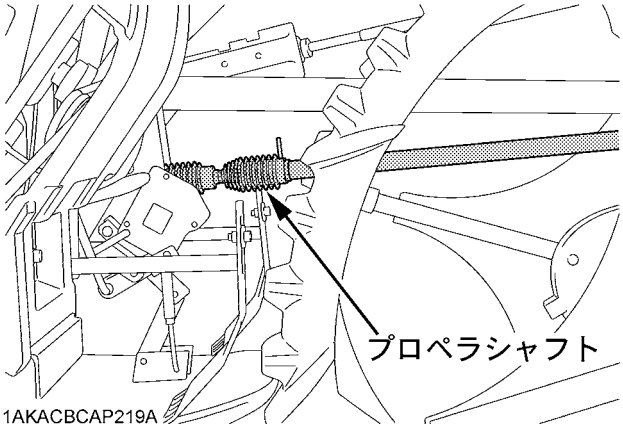


1AKACBCAP085E

● 油圧シリンダ支点部（グリース塗布･注入）
● リンク支点部（グリース塗布・注入）
● プロペラシャフト接続部（グリース塗布）
● ジャバラホース内（グリース注入）

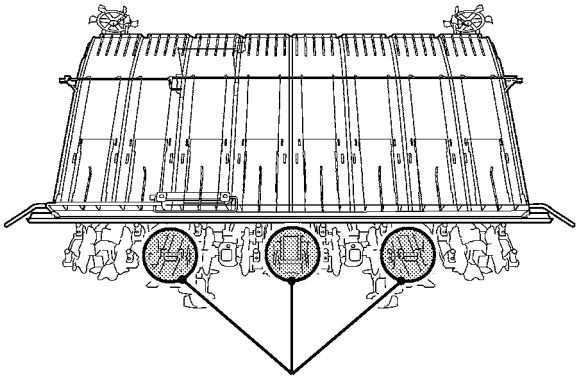


1AKACBCAP085O

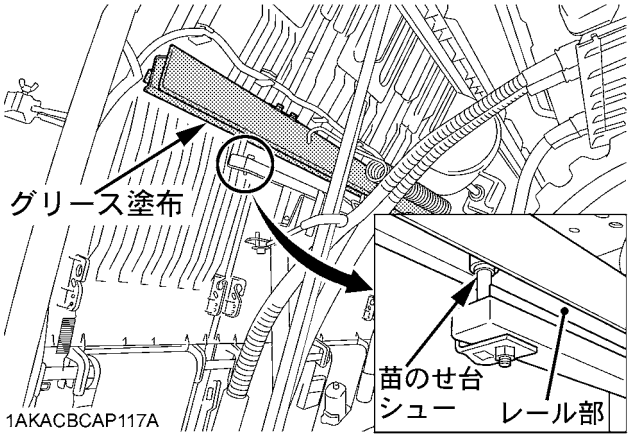


1AKACBCAP219A

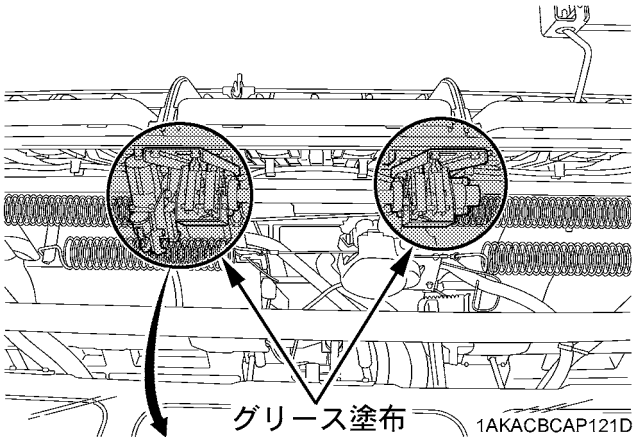
● **フロート支点部（グリース塗布）**

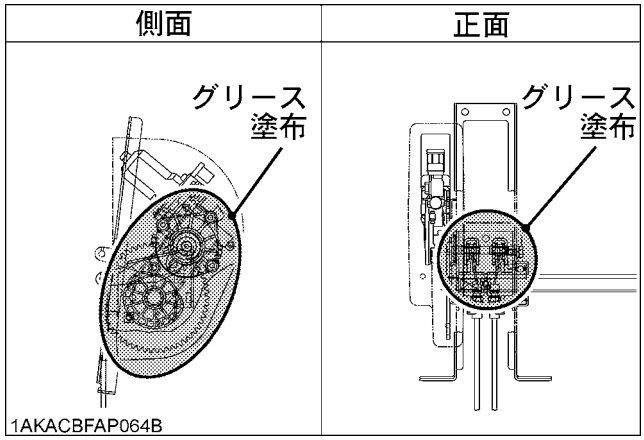


● **苗のせ台シュー・レール部（グリース塗布）**

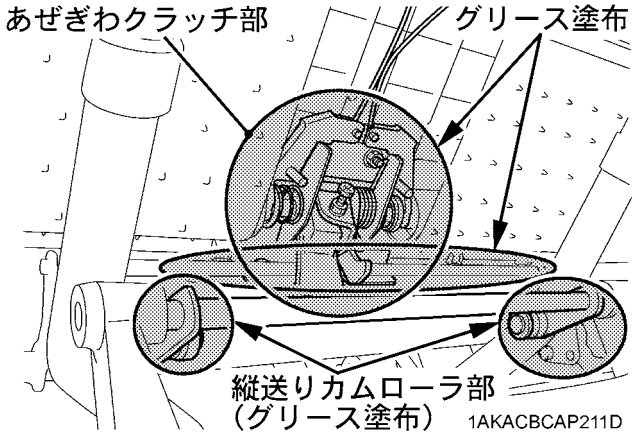


● **電動各条クラッチユニット部**
（各条ごとにグリース塗布）

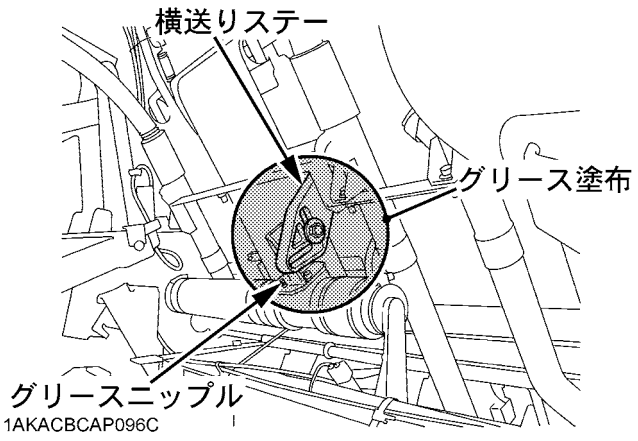




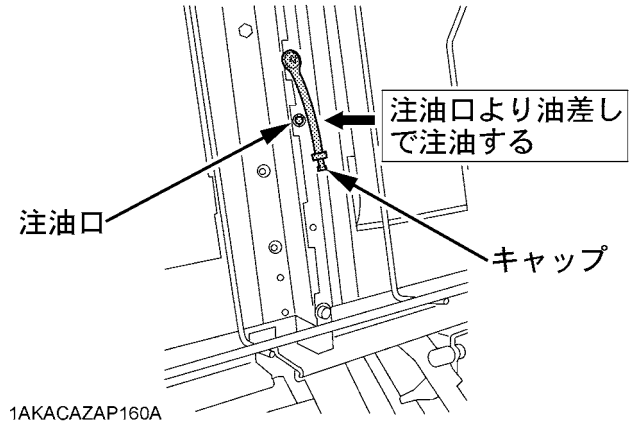
● **縦送りカムローラ部（グリース塗布）**
● **苗のせ台縦送りあぜぎわクラッチ部**
（あぜぎわクラッチごとに六角軸とのしゅう動部グリース塗布）

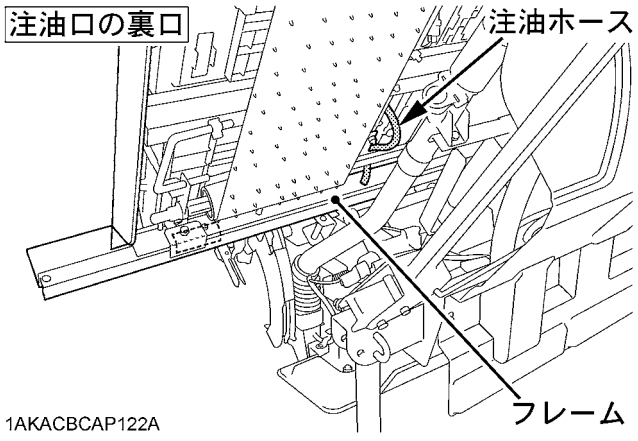


● **横送りホルダのグリースニップル**
● **横送りステー（グリース塗布）**

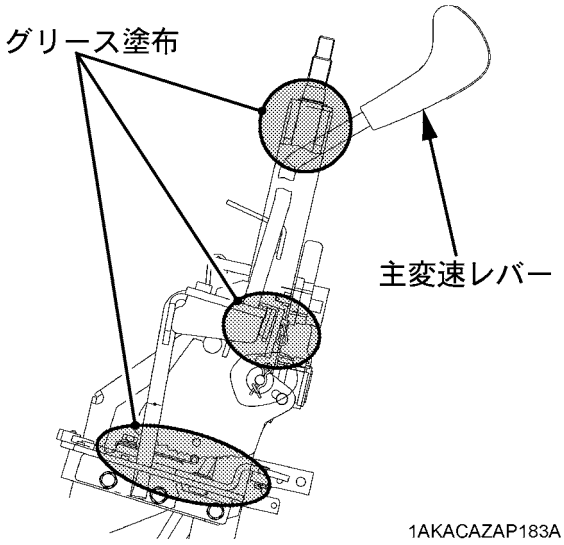


● **苗のせ台受け・しゅう動板（注油）**
● **苗のせ台下面しゅう動部（注油）**

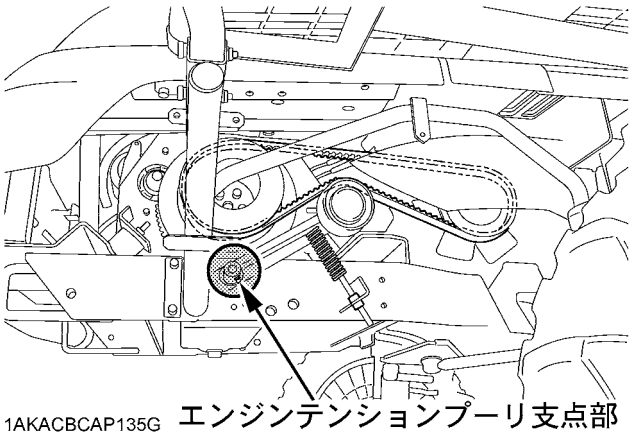




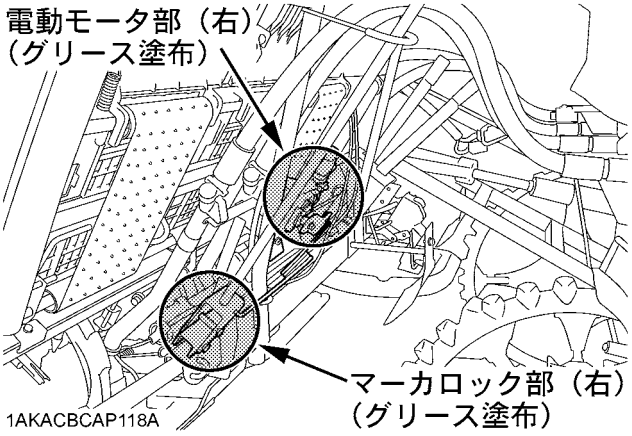
● **主変速レバー支点部**
デテント部（グリース塗布）



● **エンジンテンションプーリ支点部**
（グリース注入）

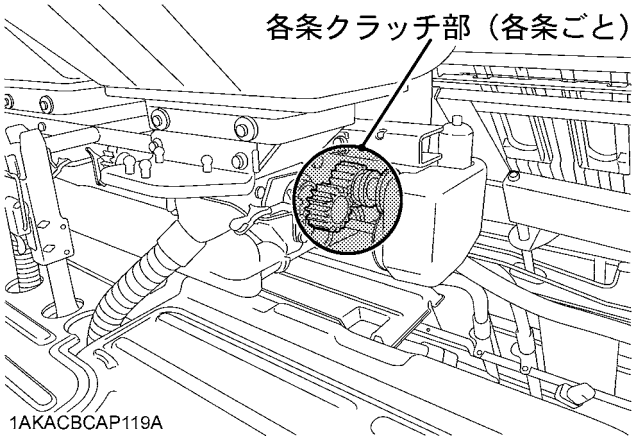


● **マーカロック部（右・左）（グリース塗布）**
● **電動モータ部（右・左）（グリース塗布）**

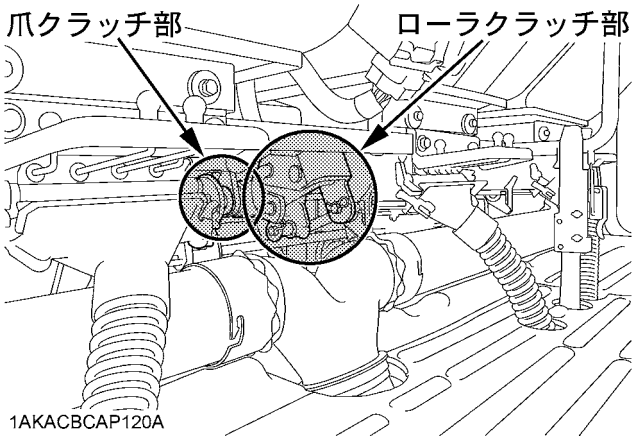


[F 仕様]

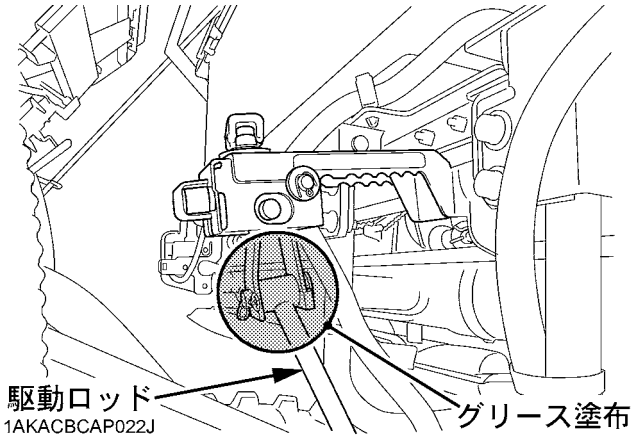
● **各条クラッチ部（グリース塗布）**



● **ローラクラッチ部（グリース塗布）**
● **爪クラッチ部（グリース塗布）**
（六角軸とのしゅう動部･ジャバラホース内グリース塗布）

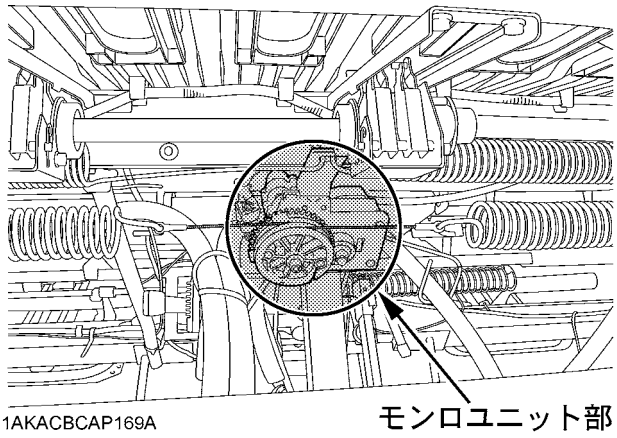


● **施肥駆動ロッド部（グリース塗布）**



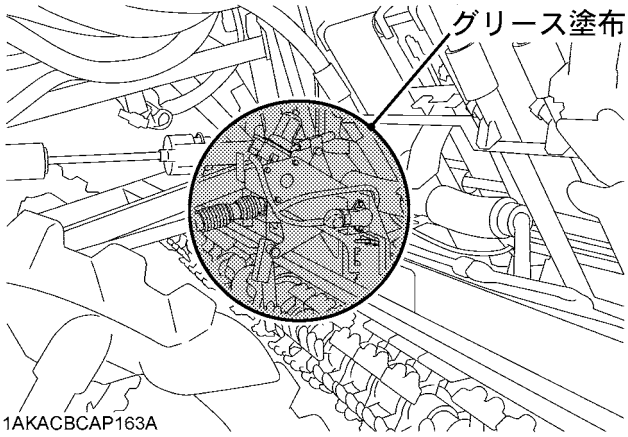
[F 仕様]

● **モンローユニット部（グリース塗布）**



[R 仕様]

● **電動モータ部（グリース塗布）**
● **センサ支点部（グリース塗布）**



[R 仕様]

定期点検

定期点検は，田植作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
田植作業は，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。
田植機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警　告

＊ 各部の点検・調整・交換作業を行なうときは，平坦な場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて，各レバー類を［切］位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがありますので，点検後はカバー類を必ず取付けてから作業をしてください。
＊ 燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁。

注　意

＊ 各部の点検・調整・交換作業を行なうときは，平坦な場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。
＊ 植付部を上げた状態で作業を行なうときは，油圧昇降ロックレバーで油圧をロックし，植付部の下降防止を行なってください。
＊ ボンネットを開けるときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイルの補給中は火気厳禁。
＊ 燃料やオイルがこぼれたときは，きれいにふき取ってください。

補　足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。
＊ 点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早めの点検をお願いします。

■廃棄物の処理について

警　告

＊ 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意

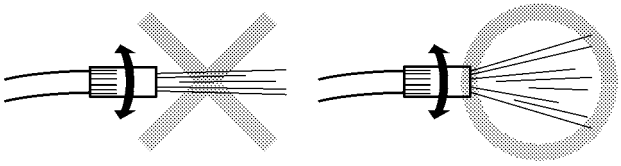
高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注 意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1. **電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。**
2. **油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**
3. **機械の破損・損傷・故障の原因になります。**
   例）(1) シール・ラベルの剥がれ
   (2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内等への浸入による故障
   (3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂部品，ガラス等の破損
   (4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

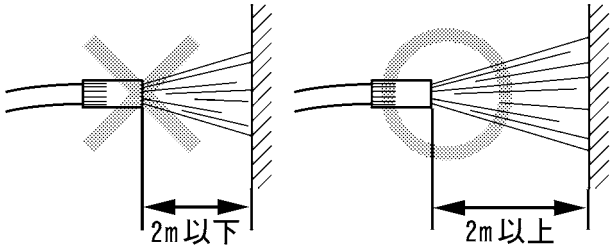
直射洗車厳禁



直射　　拡散

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- コントローラ（マイコン）や電気系統（自動制御関係）の機器や部品
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 植付部の動力系統

■定期点検一覧表

○：点検と調整　△：交換　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期										対象型式・仕様	参照ページ
		作業前後	シーズン前後	50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	400時間	1500時間	2年ごと		
エンジン部													
オルタネータ駆動ベルト	調整・交換				○		△					全型式	129
エアクリーナエレメント	掃除・交換	○：100時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除） △：1年ごと又は6回清掃後										全型式	126 ☆
インレットパイプ（エアクリーナ）	点検・交換						○				△	全型式	127
インレットマニホルド	点検						○					全型式	☆
燃料タンクの燃料こしあみ	掃除		○				○					全型式	120 ☆
燃料噴射管	掃除						○					全型式	☆
燃料パイプ	点検・交換						○				△	全型式	127 ☆
		（作業前後点検し，燃料もれしているときは締付けバンドの締付け又は，交換）											
燃料フィルタアッシ	交換								△			全型式	126
燃料噴射ノズル開弁圧	点検									○		全型式	☆
オイルフィルタカートリッジ	交換	△：200時間ごと										全型式	125 ☆
ラジエータホース	点検・交換	○									△	全型式	127 ☆
		（作業前後点検し，水もれしているときは締付けバンドの締付け又は，交換）											
ラジエータフィン	掃除				○							全型式	125
各バンド	点検・交換						○				△	全型式	127 ☆
走行・操作部													
ミッションオイルフィルタカートリッジ	交換			▲	△：100時間ごと							全型式	129 ☆
ミッション駆動ベルト	交換	△：摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れが発生したとき										全型式	129 ☆
タイヤ	点検・交換	○										全型式	130 ☆
		△：8mm以上摩耗したとき											
植付部													
植付爪	点検・交換	○										全型式	131
		△：3mm以上摩耗したとき（植付時に苗取りができないとき）											
押出し金具	点検・交換	○										全型式	131 ☆
		△：破損や変形がひどいとき（うき苗，ころび苗，ばらけ苗が発生）											
縦送りベルト	掃除・交換	○										全型式	☆
		△：破損や摩耗がひどいとき											
しゅう動板・苗のせ台受け	点検・交換	○										全型式	133 ☆
		△：1mm以上摩耗したとき											
各ワイヤ	調整・交換	○										全型式	☆
		△：破損時											

点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期										対象型式・仕様	参照ページ
		作業前後	シーズン前後	50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	400時間	1500時間	2年ごと		
施　肥　部													
施肥ブラシ	点検・交換	○										**F仕様**	134
		△：摩耗がひどいとき											
ホース	点検・交換	○										**F仕様**	108 ☆
		△：破損時											
ロート・ロール	掃除	○										**F仕様**	134
駆動部（ワンウエイ）	点検・交換	○										**F仕様**	☆
		△：施肥量が極端に少なくなったとき											
ブロワダクト吸入口	掃除	○										**F仕様**	108
電　装　部													
バッテリ	充電・交換	○：セルモータが回りにくい，ライトが暗いときなど										全型式	135 ☆
		△：バッテリ上り（セルモータが回らない）とき											
ワイヤハーネス・バッテリコード	点検・交換	○										全型式	138 ☆
		△：破損時											
ヒューズ・スローブローヒューズ	交換	△：破損時（ヒューズ切れ）										全型式	138 ☆
ランプ（電球）	交換	△：破損時（球切れ）										全型式	139 ☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目の交換については，購入先に連絡又は，整備工場で行なってください。

補　足

＊ 上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって，消耗部品の調整や交換時期は異なります。

＊ 使用時間については，コントローラのデジタル表示を参照して確認してください。

■給・注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は，作業後	―	●容量 約17	ディーゼル軽油	120
オイル	エンジン	補給・交換	作業前又は，作業後	●初回 …35時間目 ●2回目以降 …100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** ●容量……約3.7	クボタ純オイルD30又はD10W-30	121

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量(L)	種類	参照ページ
			点検	交換			
オイル	ミッションケース	補給・交換	作業前又は，作業後	●初回 …50時間目又は3年経過後 ●2回目以降 …100時間ごと又は3年経過後	＊規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** ●容量……約9.3	クボタ純オイルスーパーUDT-2	122
	後車軸ケース	補給・交換	作業前又は，作業後		＊規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** ●容量……約4.9		123
	植付ケース	補給	作業シーズン前，後	●初回 …50時間目 ●2回目以降 …100時間ごと	＊規定量 200～250cc		111
	しゅう動板	補給	作業前又は，作業後	●適宜（目安20～30時間ごと）	＊適量		111
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水	作業前又は，作業後	冬季停止時は排出又は，35%不凍液を入れる。[C仕様 50%]	＊規定量 タンク側面の**LOW（下限）とFULL（上限）の間**	清水又は，クボタ不凍液	123
グリース	植付アーム	補給	作業シーズン前，後及び50時間ごと	—	適量	クボタ田植機ツメ用グリース	☆
	植付回転ケース	補給	作業シーズン前，後	—	適量	クボタ純グリースNo.2	
	ブレーキペダル支点						
	横送りコマホルダ						
	エンジンテンションプーリ支点部						
	モンローユニット部						
	ローラクラッチ部**[F仕様]**						
	電動モータ部 **[R仕様]**						
	ロータチェーンケース **[R仕様]**						

＊ 参照ページに☆印のある整備（分解作業）については，購入先に連絡してください。
＊ 使用時間については，コントローラのデジタル表示を参照して確認してください。

重 要

各部への補給と交換

＊ 点検するときは，機械を平たんな場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ エンジンオイル量の点検は，エンジン停止後，5分以上経過してから行なってください。
＊ ミッションケース，後車軸ケースは，使用開始から50時間に満たない場合でも，3年経過後オイル交換をしてください。
＊ 使用するオイル・グリースは，指定のクボタ純オイル・純グリースを使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ごみや水が混入しないようにしてください。

■燃料・オイルの点検・補給・交換

警　告

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ エンジン停止直後は，エンジン回りや各部オイルが熱くなっているため，引火火災やヤケドをするおそれがあります。

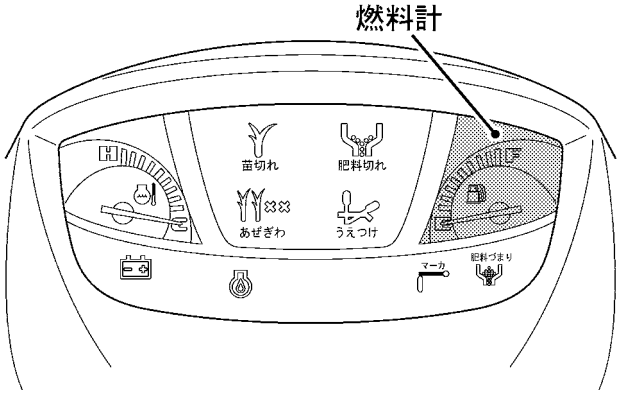
重　要

＊ 補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
- 使用するオイルは**クボタ純オイル**を使用してください。

＊ 点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

■燃料の補給

燃料計の指針が**[E]**（空）に近づいたら早めに燃料を補給してください。



1AKACBCAP020D

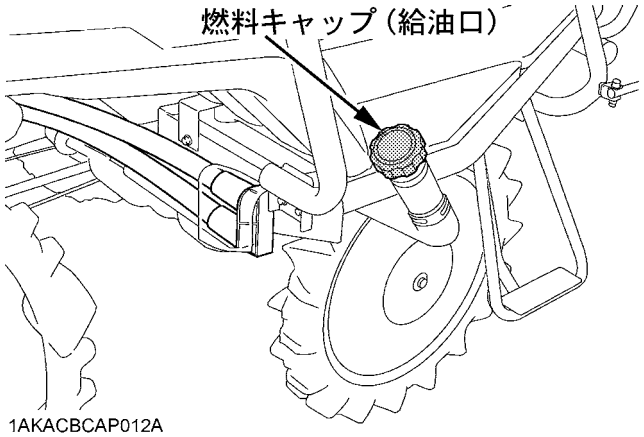
重　要

＊ 燃料は，ディーゼル軽油を必ず使用してください。また，下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり，エンジンの不調や故障の原因になります。
- 水やごみの混入した燃料
- くさった古い燃料
  (昨年使用した燃料はなるべく新しい燃料に交換してください。)

◆ 給油

燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。

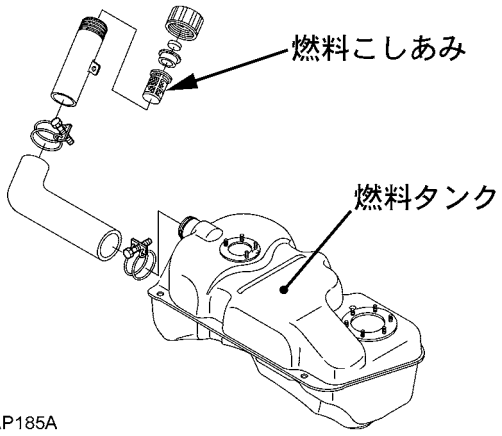
燃料の種類	燃料タンクの容量
ディーゼル軽油	約 17L



1AKACBCAP012A

重　要

＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

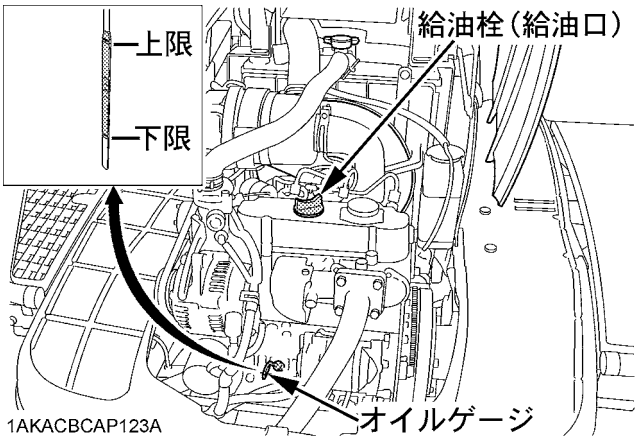


1AKACBCAP185A

■エンジンオイルの点検・補給・交換

◆ 点検・補給

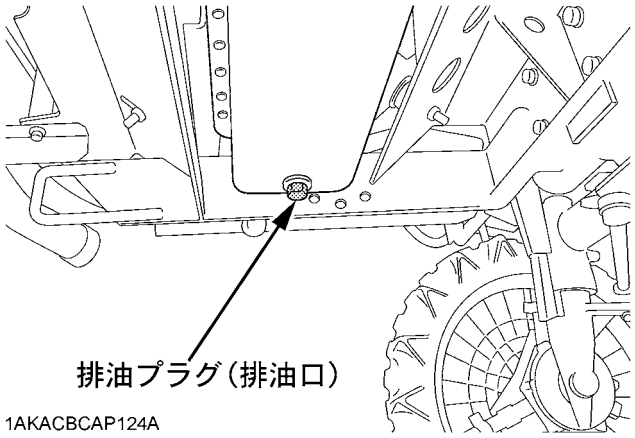
ボンネットをオープンしたあと，オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



◆ 交換

● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。



● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。

重　要

＊ エンジンオイルを補給･交換するときに，ごみなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

＊ 指定以外のオイルは使用しないでください。指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15 ℃以下のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W-30	約 3.7L
15 ℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30 又は D10W-30	

＊ クボタ純オイルの入手が困難な場合はCD級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

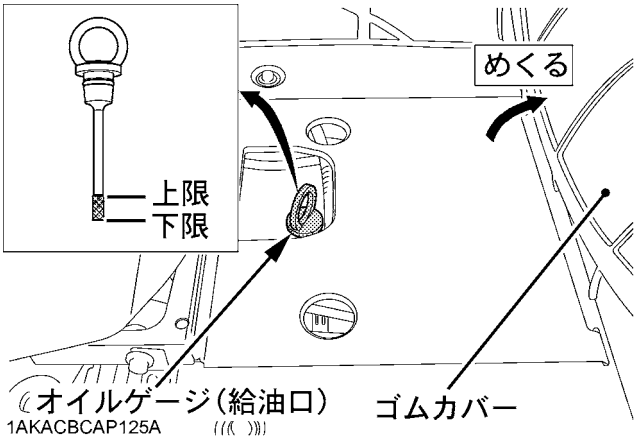
気温	オイルの種類
0 ℃以下	SAE10W 又は 10W-30
0 ～ 25 ℃	SAE20 又は 10W-30
25 ℃以上	SAE30 又は 10W-30

※ 10W-30 はオールシーズン用です。

■ミッションオイルの点検・補給・交換

◆ 点検・補給

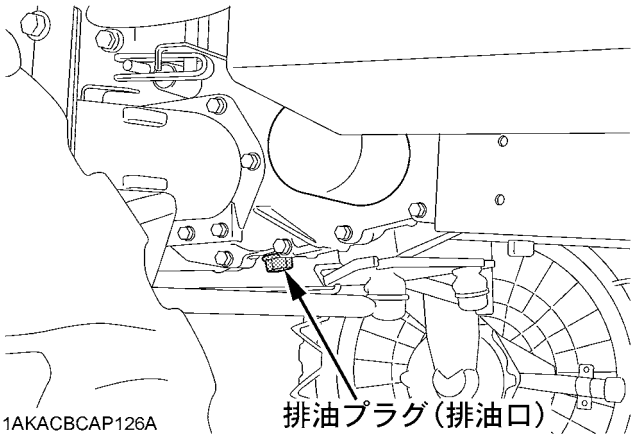
植付部を下降させたあと，副変速レバーを**［圃場作業］**位置にします。そのあと，ステップ前方にあるゴムカバーをめくり，オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込み，いっぱいまで押込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



◆ 交換

● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。



● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 9.3L

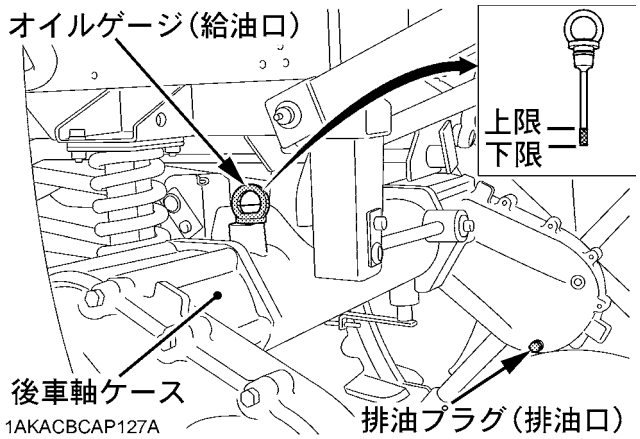
重　要

＊ 給油したあとエンジンを約 1 分回転させて，再度点検を行ない不足しているときは，オイルを追加補給してください。

■後車軸ケースオイルの点検・補給・交換

◆ 点検・補給

オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



◆ 交換

● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 4.9L

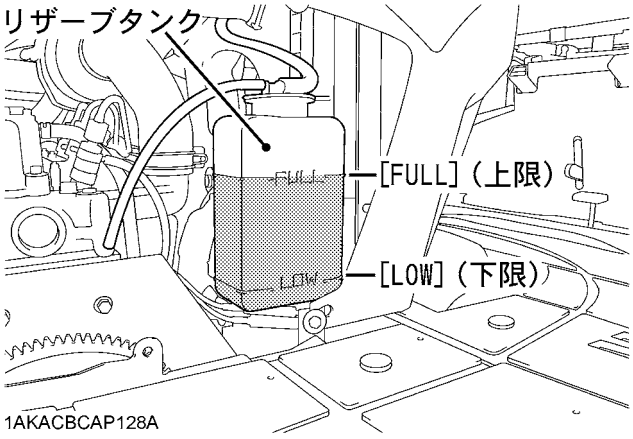
■ラジエータ冷却水の点検・交換

注 意

＊ ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。
＊ 異なるメーカの不凍液を混用しないでください。

◆ 点検

ボンネットをオープンしたあとリザーブタンクの水量が**[LOW]**（下限）と**[FULL]**（上限）の間にあるか確かめます。**[LOW]**（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。



重 要

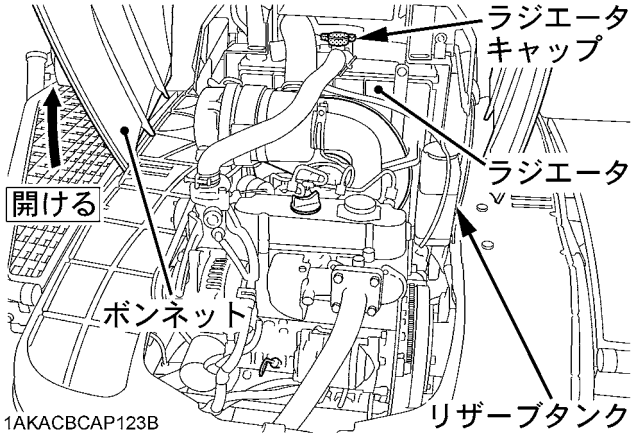
＊ 冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

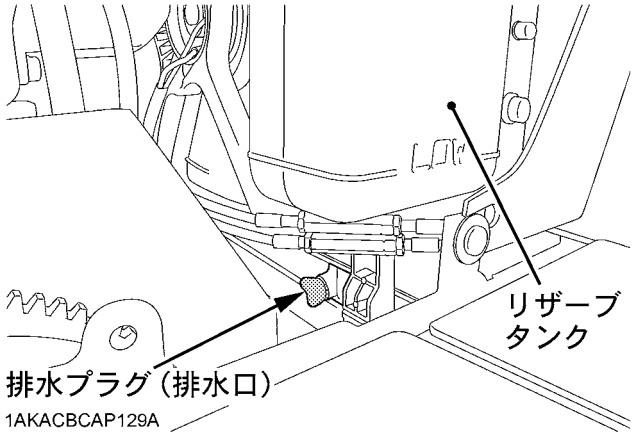
補 足

＊ **[FULL]**（上限）の線以上は補給しないでください。

◆ 交換

1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。
2. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと，ステーからリザーブタンクを外して排水します。
3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。





4. 排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

＊ 不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。
＊ 排水プラグを締め忘れると水もれが発生するおそれがあります。

補　足

＊ 不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● 不凍液混合比率表

外気温（℃）		-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40
比率	水（%）	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	25	30	35	40	45	50	55

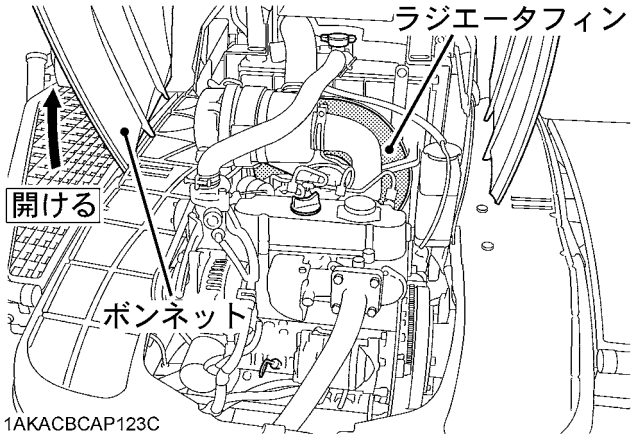
＊ 出荷標準不凍液 35%［C 仕様 50%］
＊ ラジエータ容量…約 2.5L（エンジン内含む）
＊ 新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

5. ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。

■ラジエータフィンの掃除

◆ 掃除

ボンネットをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどしてラジエータ部及びエンジンに付着しているごみや泥などを掃除してください。



重　要

＊ ヘラやドライバなど固いものを使用して，ラジエータフィンは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

＊ エンジンの不調又は，故障の原因となりますので，水を掛けないでください。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

エンジンオイルの交換（121 ページ参照）と同時に交換してください。交換するときは，エンジンルームをオープンしてください。

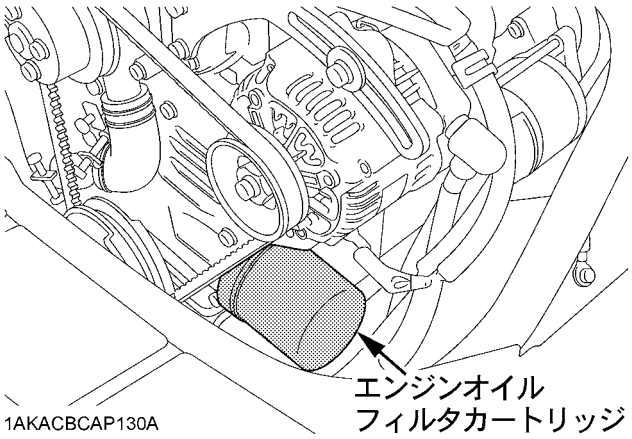
◆ 交換

1. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

2. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
3. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



重　要

＊ 新しいカートリッジはＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

＊ エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ごみなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

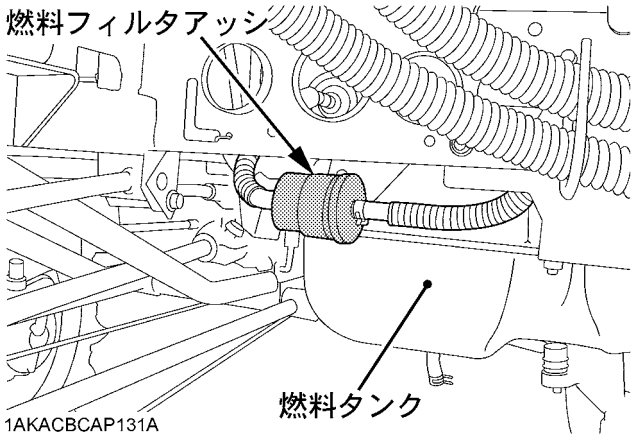
補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

■燃料フィルタアッシの交換

◆ 交換

運転時間が400時間ごとに燃料フィルタアッシを交換してください。燃料フィルタアッシは燃料タンクの後側にあります。



1AKACBCAP131A

重　要

＊ フィルタ下部に水が溜まっているときは，早目に交換してください。
＊ 燃料タンクにごみなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

補　足

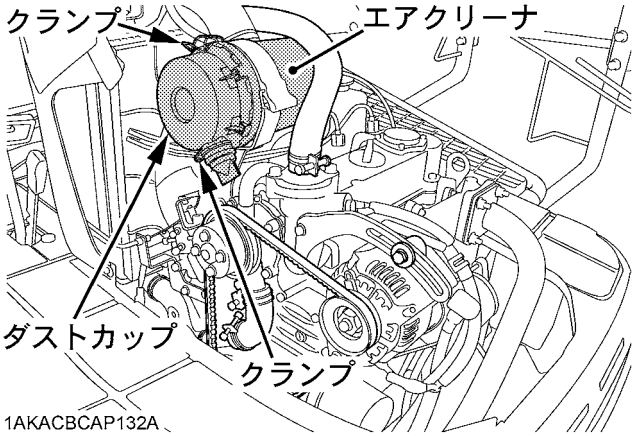
＊ 交換後は，キースイッチを**【運転】**位置にすると５～ 10 秒で自動的にエア抜きされます。

■エンジンバルブクリアランスの点検

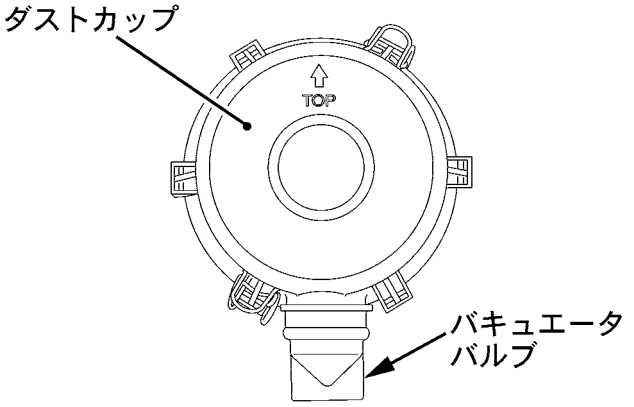
運転時間が800時間ごとに購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換

ボンネットをオープンし，クランプ２箇所を外してダストカップを取外してください。ダストカップ内側のごみはバキュエータバルブをつまんで取除いてください。



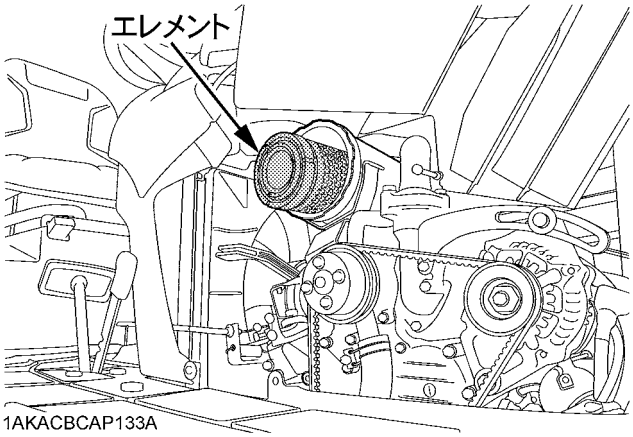
1AKACBCAP132A



1AKACBCAP134A

◆ 点検･掃除・交換

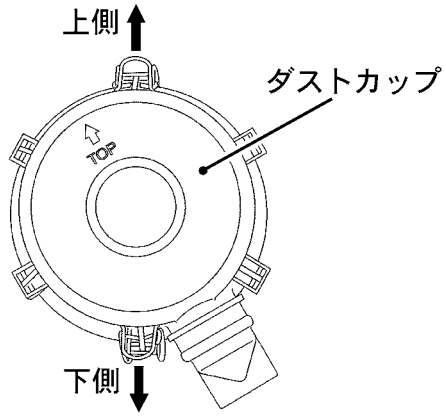
エレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってごみを取除いてください。汚れのひどい場合は，交換してください。



1AKACBCAP133A

重　要

＊ 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
＊ エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除前は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
＊ エレメントを取付けたあと，ダストカップの取付け方向に注意してください。



1AKACBCAP134B

＊ エレメントを掃除する場合，エアの圧力は205kPa（2.1kgf/cm²）をこえないよう注意し，エアーガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。

■パイプ・ホース類の点検・交換

注　意

＊ 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆ 点検

エンジン，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

＊ 油もれや水もれをしていなくても，**２年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。

◆ 交換

交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

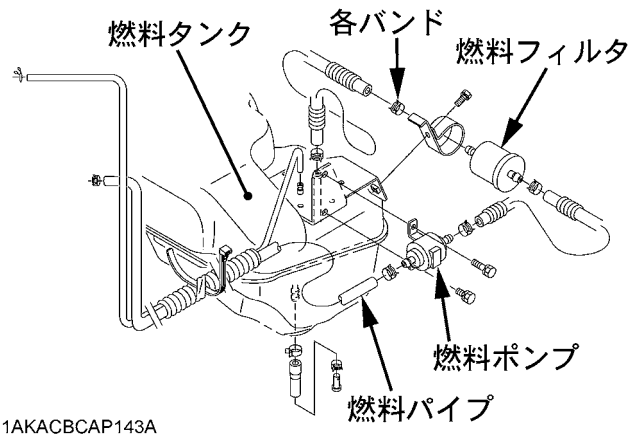
重　要

＊ 交換時にパイプや噴射ポンプなどにごみが入らないように注意してください。

補　足

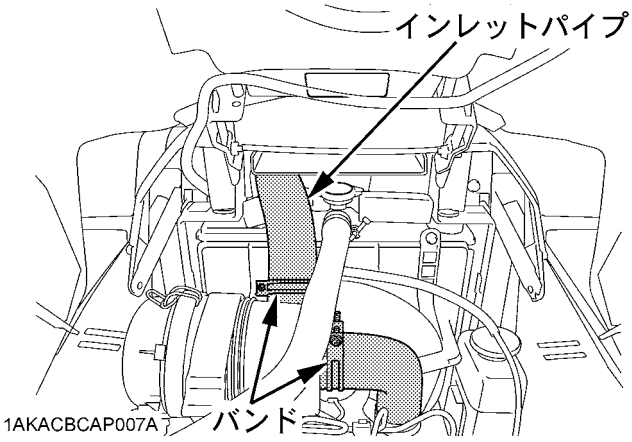
＊ 交換を行なうときは，購入先に連絡してください。
＊ 燃料パイプ交換後は，キースイッチを**［運転］**位置にすると５～10秒で自動的にエア抜きされます。

● 燃料パイプ

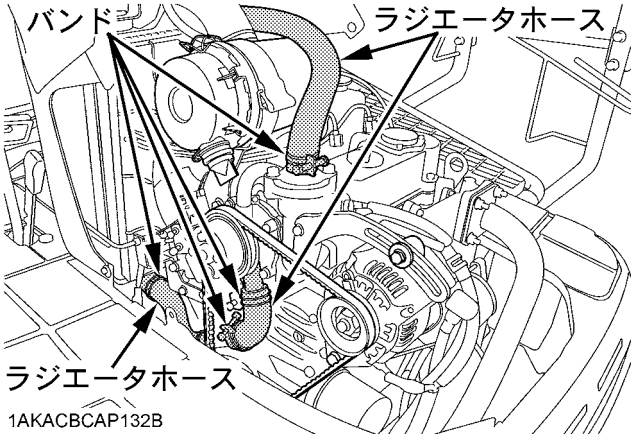


1AKACBCAP143A

● **エアクリーナホース**



● **ラジエータホース**

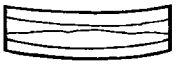
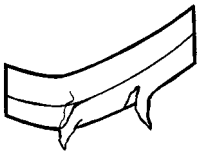
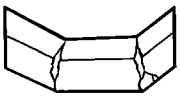


■各部ベルトの点検・調整

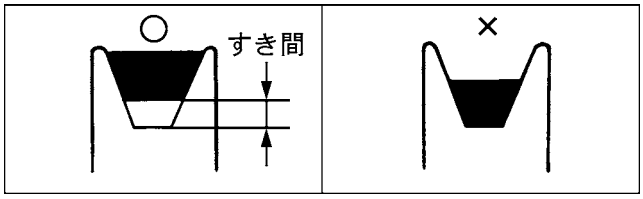
◆ 点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

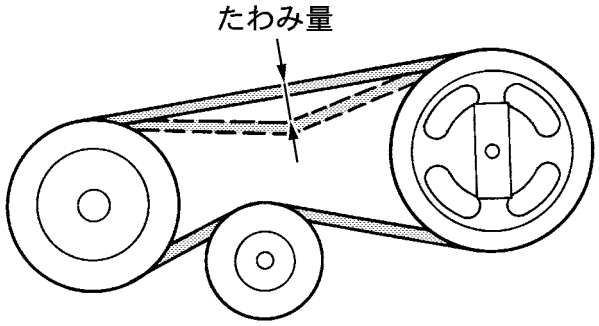
1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



3. ベルトの伸び（たわみ量）



1AKACAIAP171A

上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

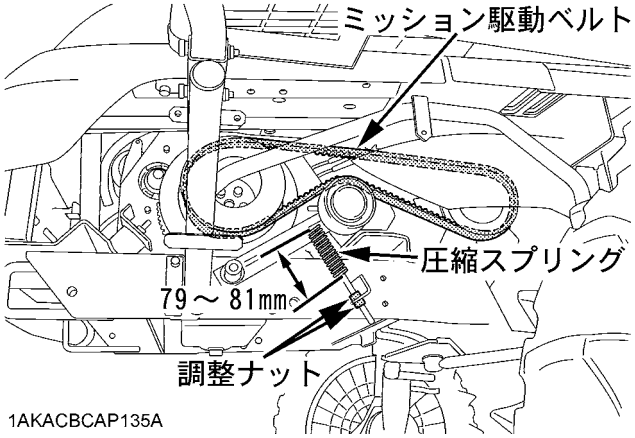
重　要

＊ ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

■ミッション駆動ベルトの点検・調整

圧縮スプリングの長さを79～81mmに調整します。

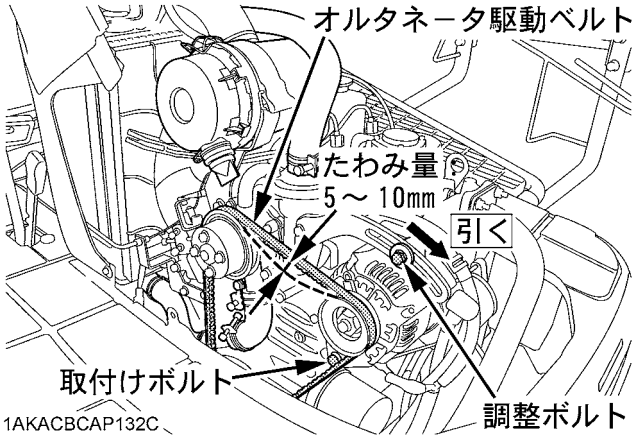
1. 調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。
2. 調整ナットを締付けます。



■オルタネータ駆動ベルトの点検・調整

指先でベルトの中央部を押したとき(約 60 ～ 70N {6 ～ 7kg} の荷重）のたわみ量を５～ 10mm に調整します。

1. ボンネットをオープンします。
2. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. オルタネータを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けたあと，取付けボルトを締付けます。



5. ボンネットを閉じます。

■ミッションオイルフィルタカートリッジの交換

◆ 交換

1. 植付部を降ろします。
2. ミッションオイルを排出します。
(122 ページ参照)
3. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

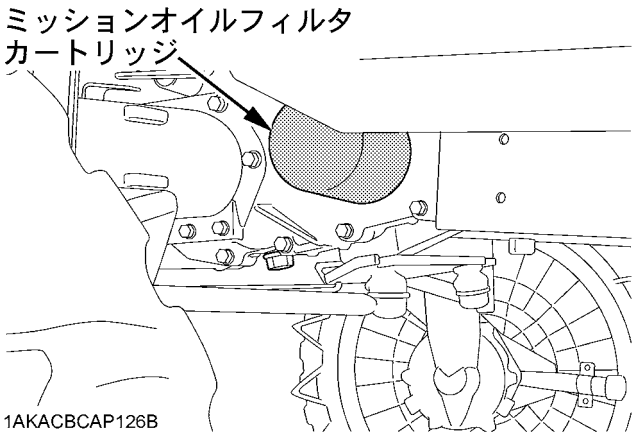
補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

4. 新しいカートリッジはＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
5. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけミッションオイルの油面が下がります。



重　要

＊ ミッションオイルを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，ミッションの故障の原因となります。
＊ 給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

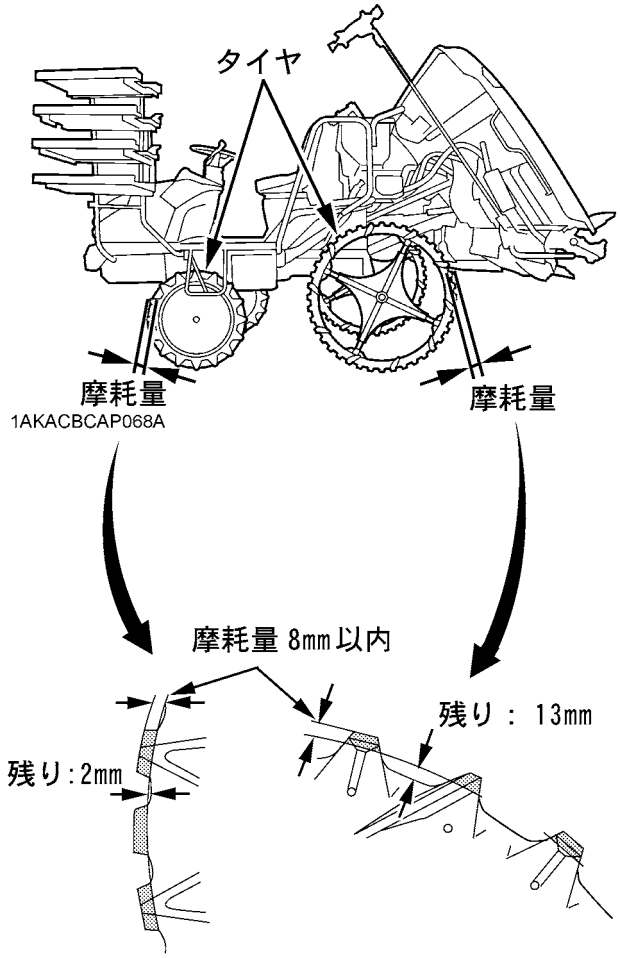
■タイヤの点検

警 告

＊ タイヤが摩耗するとスリップを起こしやすくなるため，あゆみ板の上などで脱輪して転倒するおそれがあります。

◆ 点検

前輪・後輪共にタイヤの摩耗や破損（ひび割れなど）を点検し，8㎜ 以上摩耗している場合や，破損がひどい場合は，購入先に連絡して交換してください。



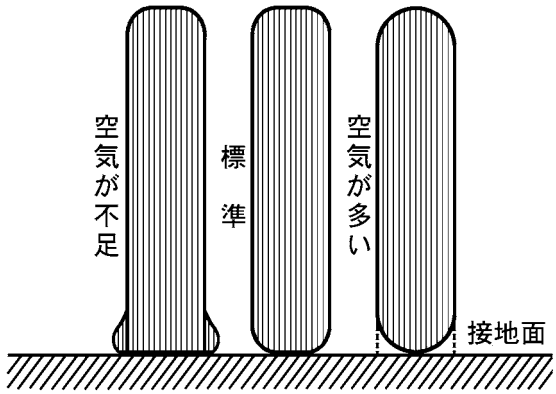
■後輪タイヤ空気圧の点検・調整

[エアタイヤ装着時]

警 告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

タイヤの空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



◆ 標準空気圧

空 気 圧	314kPa (3.2kgf/cm²)

重 要

＊ 自動車と違い，タイヤチューブの容量が小さいので，空気圧は絶えず点検してください。
＊ 空気が不足するとパンクの原因になります。

[エアタイヤ装着時]

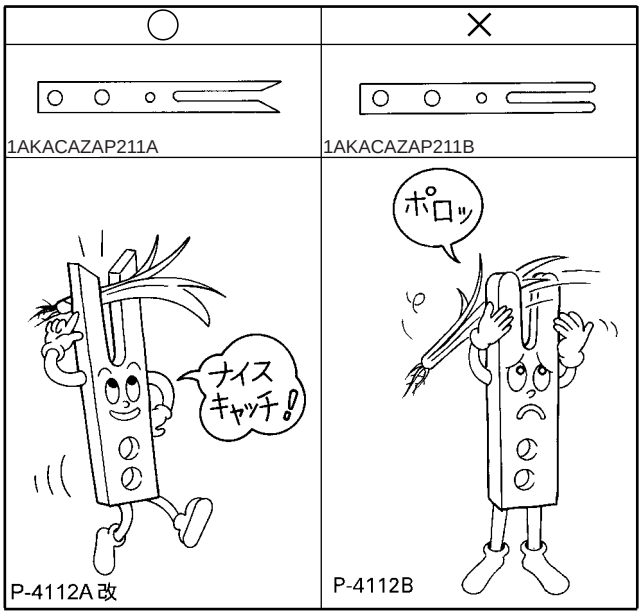
■植付爪・押出し金具の点検・調整・交換

警　告

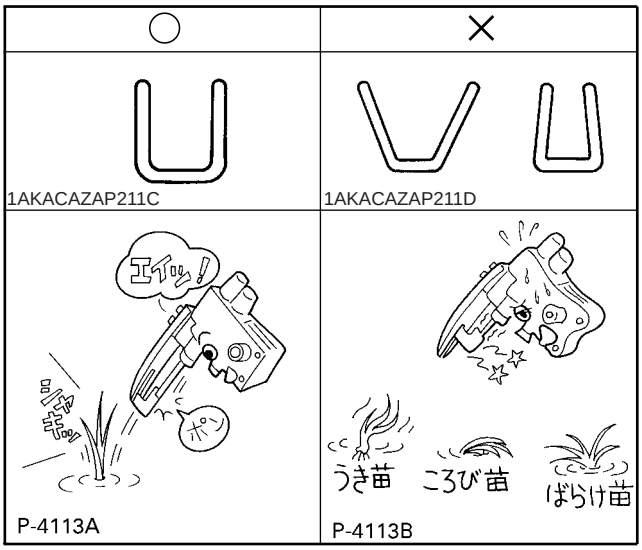
＊ 植付爪に接触すると手を傷つけるおそれがあるので，植付爪の交換・調整・清掃，苗取出し口の異物の除去，残り苗の取出しなどを行なうときは，エンジンを必ず止めてください。

植付爪が摩耗や破損すると，苗の取出しができなくなるため，植付不良となり，押出し金具が変形や破損をすると，うき苗・ころび苗・ばらけ苗などの植付不良となりますので，定期点検を良く行なってください。

● 植付爪

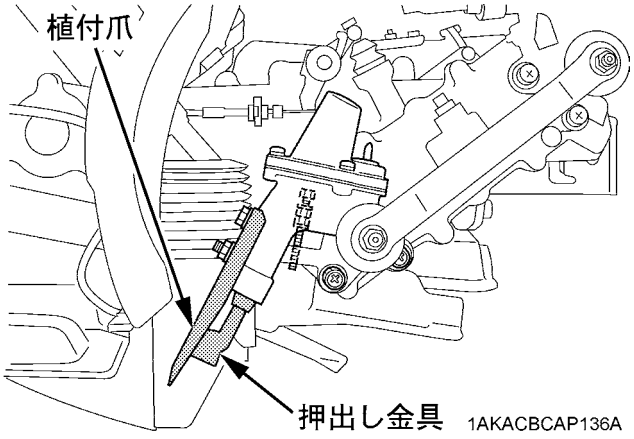


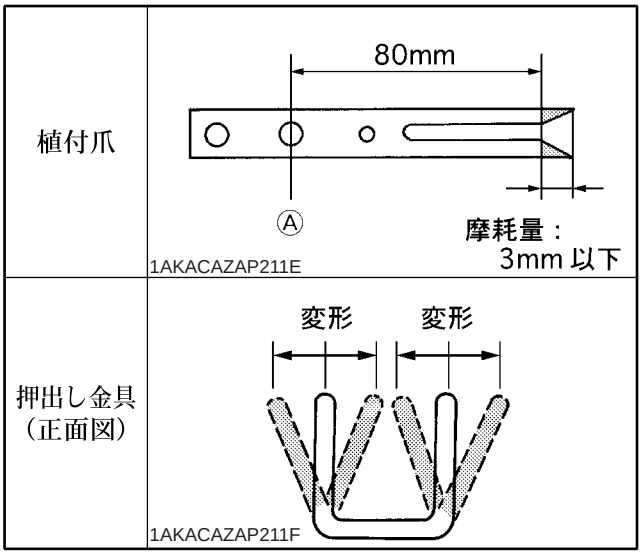
● 押出し金具



◆ 点検

1. 機体を平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
2. 植付爪の摩耗状態や押出し金具の変形状態を確認します。
3. 植付爪の摩耗状態が３ ㎜ 以内のときは，苗取りゲージで高さ調整を行ない，３ ㎜ 以上（A 位置から残り 80㎜）摩耗しているときは交換してください。また，押出し金具の変形量により，押出し金具の押出し確認又は，購入先に連絡して交換してください。





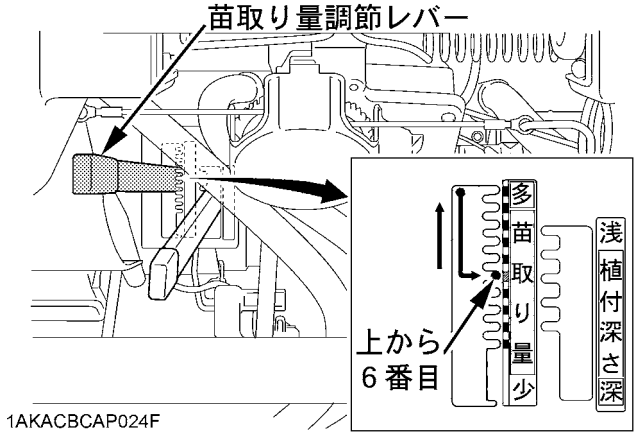
◆ 植付爪の調整

1. エンジンを始動したあと，十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇したあと，少し植付部を下げ，油圧ロックレバーを**［閉］**位置にし，植付部の下降防止を行ないます。
2. 十字ポンパレバーを**［下］（下降）**側に２回操作して，植付部の駆動の準備をしたあと，エンジンを停止します。

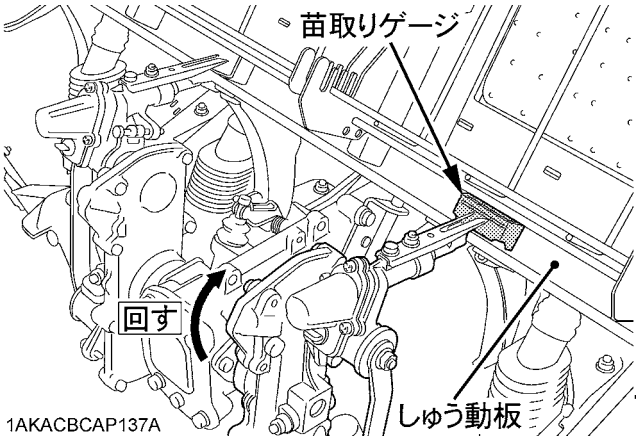
補　足

＊ 植付部が最上昇にあると植付クラッチが入らないため，植付爪を手で回すことができなくなります。

3. 苗取り量調節レバーをいったん一番上まで動かしたあと，**［多］**い方から６段目の切欠溝にセットします。

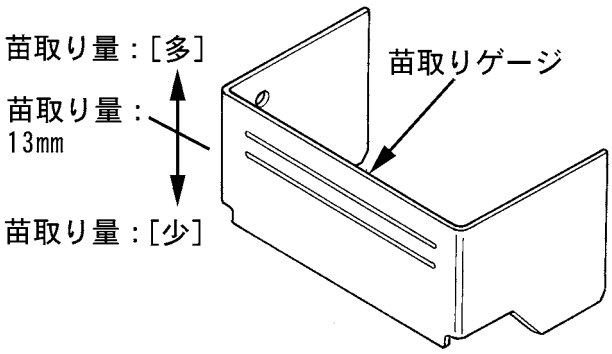


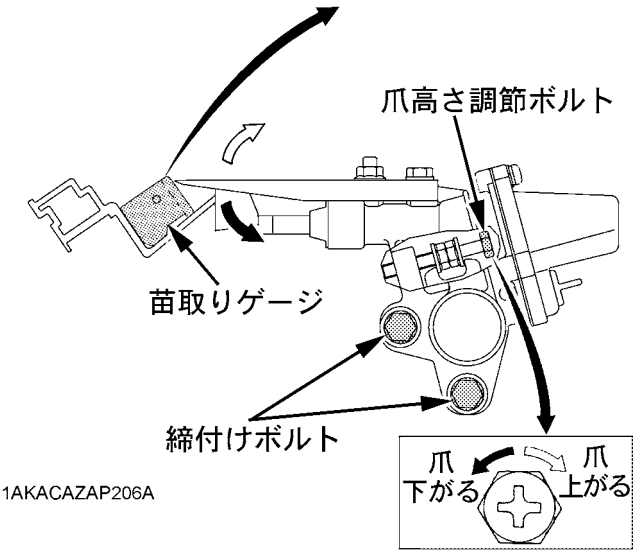
4. しゅう動板の切欠部に苗取りゲージを図のようにセットし，植付爪がゲージに当たるまで手で回します。

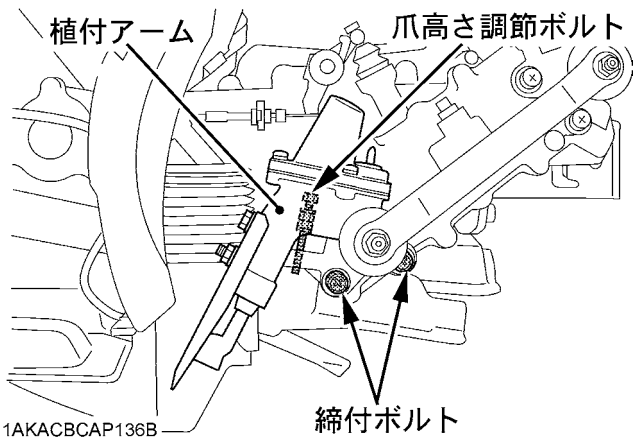


5. 植付アームの締付ボルト２本をゆるめます。

6. 植付爪を苗取りゲージに軽く接触させ，上下方向に爪を動かすとガタがあるため，爪を上に持上げた状態で爪高さ調節ボルトをドライバやスパナで右又は，左に回して爪の先端を苗取りゲージの**［苗取り量 13］**（13㎜）の線に合わせます。







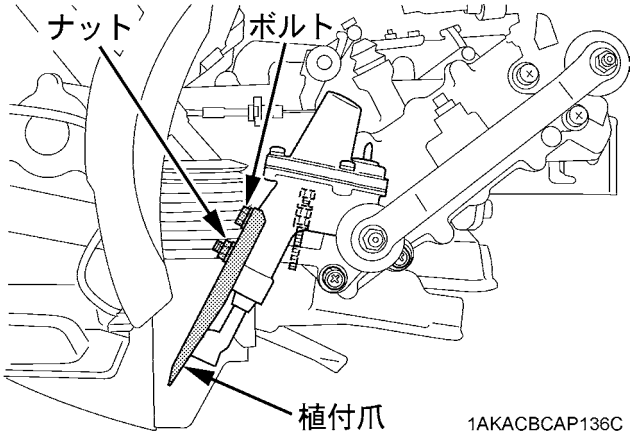
7. 植付アームの締付ボルト２本を締付けたあと，爪高さ調節ボルトを軽く締付けます。
8. 植付爪を回転させたあと，もう１つの植付爪も同じ要領で調節します。

補　足

＊ 他の植付爪も同じ要領で行なってください。

◆ 植付爪の交換

1. **植付爪の調整**の 1. と 2. を行ないます。
2. 植付爪を取付けているボルトとナットを取外します。



3. 新しい爪と交換します。

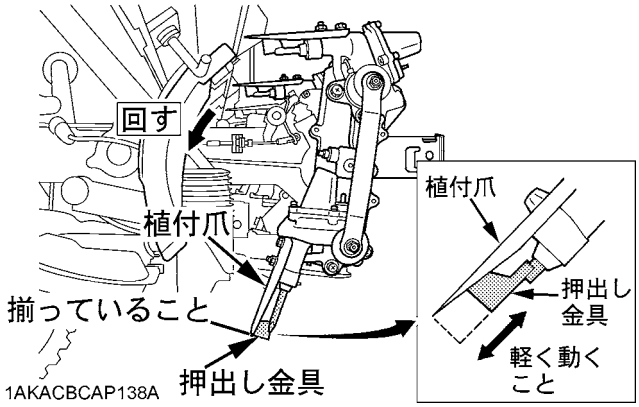
補　足

＊ 植付爪は，常に 1 台分の予備を準備しておいてください。

4. ボルトとナットを締付けます。
5. **植付爪の調整**の 3. ～ 8. を行なって爪の高さ調節を行ないます。

◆ 押出し金具の動作確認

1. **植付爪の調整**の 1. と 2. を行ないます。
2. 植付爪を手で回して，最下端のときに押出し金具と植付爪のそれぞれの先端が揃っていることを確認します。



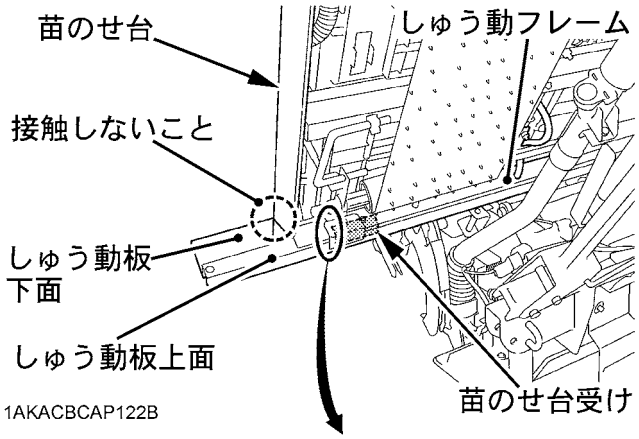
3. 押出し金具の変形や破損で動かないときは，購入先に連絡して交換してください。

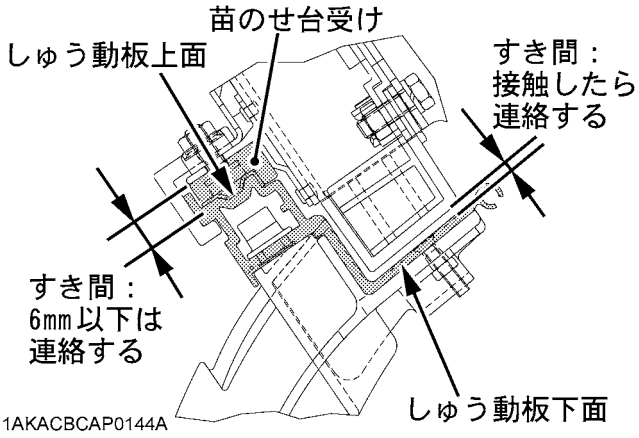
■苗のせ台のしゅう動板と受けの点検

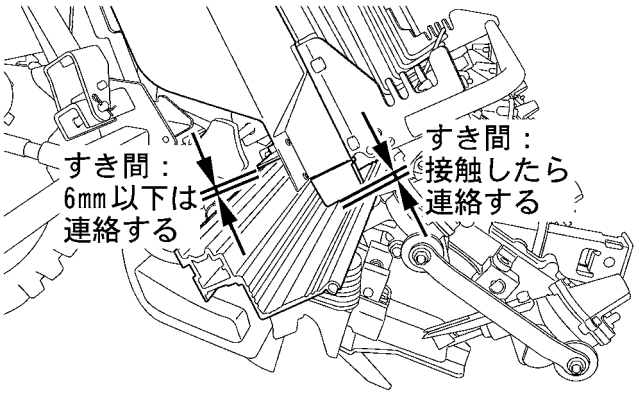
苗のせ台のしゅう動状態が悪くなると，正常な植付作業が行なえないおそれがありますので点検してください。

◆ 点検

しゅう動板上面と苗のせ台受けの入っているしゅう動フレーム終端のすき間を測り，6 mm 以下のときは苗のせ台としゅう動板下面が接触しますので購入先に連絡してください。







■施肥ブラシの点検・掃除・交換

[F 仕様]

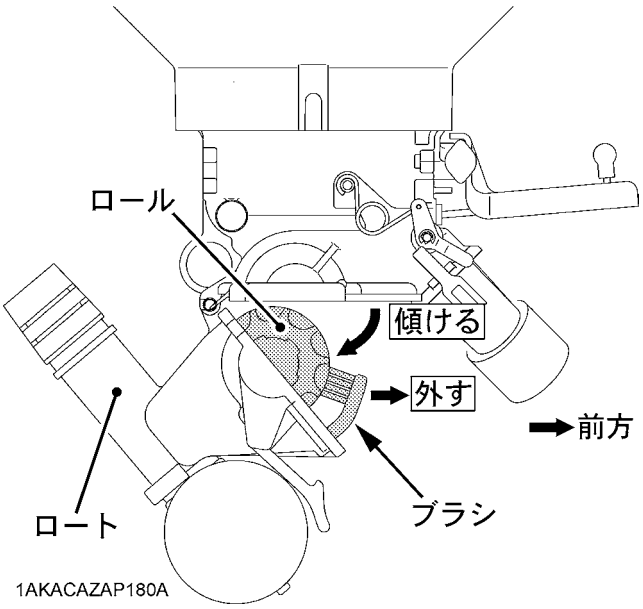
施肥ブラシが摩耗や変形をすると，肥料の繰出し量にバラツキが発生しますので，掃除を行なうと同時に，ブラシの点検を行なってください。

◆ 点検・掃除

施肥ブラシとロールを取外して掃除してください。また，施肥ブラシの摩耗や変形がひどい場合は，新しい施肥ブラシを購入して交換してください。

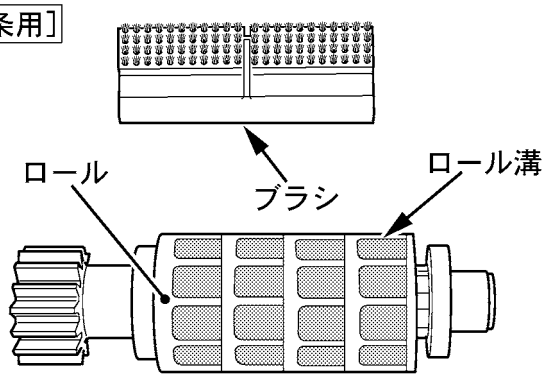
重　要

＊ ブラシを購入して長期間保管しておく場合は風通しが良く，湿気が少なく，日があたらない場所で保管してください。
（ブラシが変形するおそれがあります。）

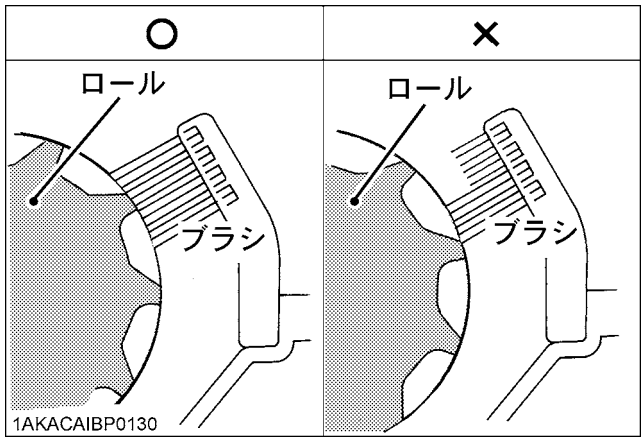


1AKACAZAP180A

[２条用]



1AKACAIAP371A

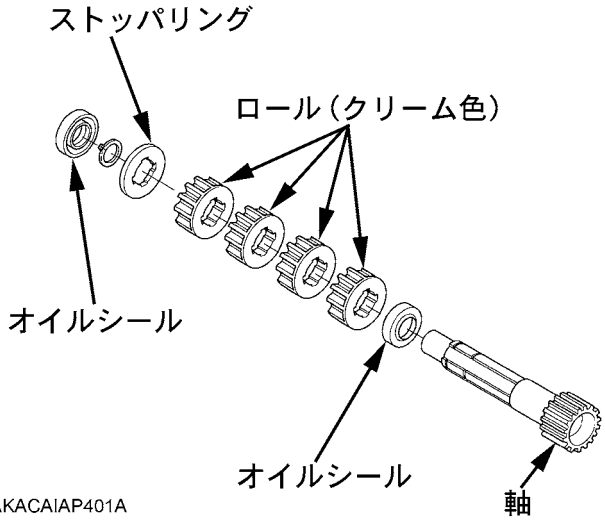


1AKACAIBP0130

補　足

＊ 施肥ブラシやロールの取付方向に注意してください。

＊ ロートを分解掃除するときは，オイルシールを抜取ったあと，ストッパリングを取外してください。また，組付けるときは，逆の手順でロールの取付け方向に注意して組付けてください。

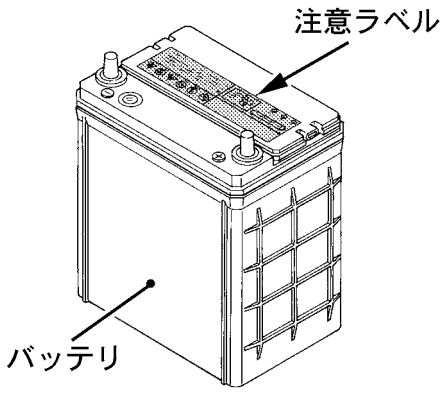


1AKACAIAP401A

[F 仕様]

■バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



1AKACBCAP162A

危　険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊ バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。
＊ 充電器やブースタケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。
＊ この12Vバッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ 急速充電は厳禁です。
＊ 開封は厳禁です。（密封タイプ）

警　告

＊ バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

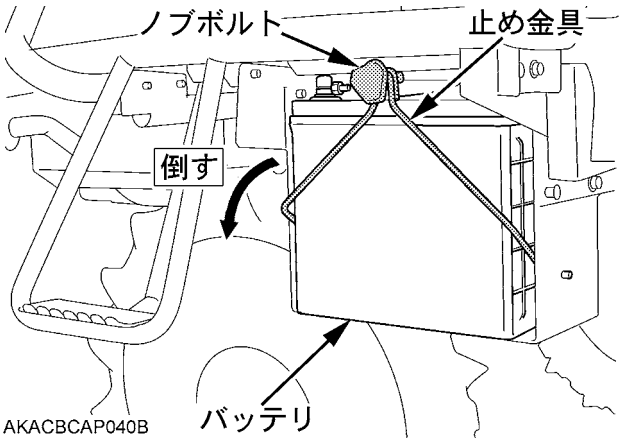
＊ 出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆ 点検

危　険

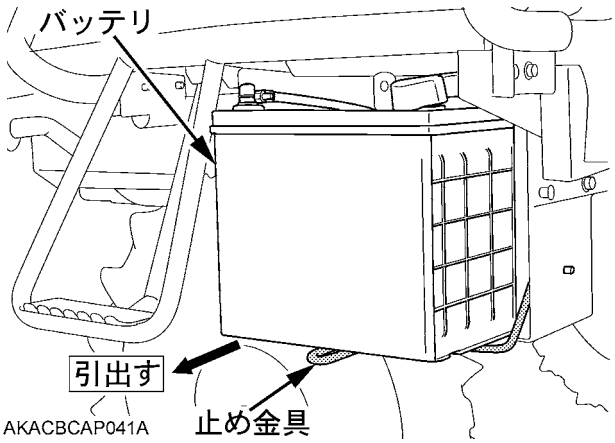
バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき……
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。
＊ バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

1. ノブボルトを取外したあと，バッテリ止め金具を倒します。



1AKACBCAP040B

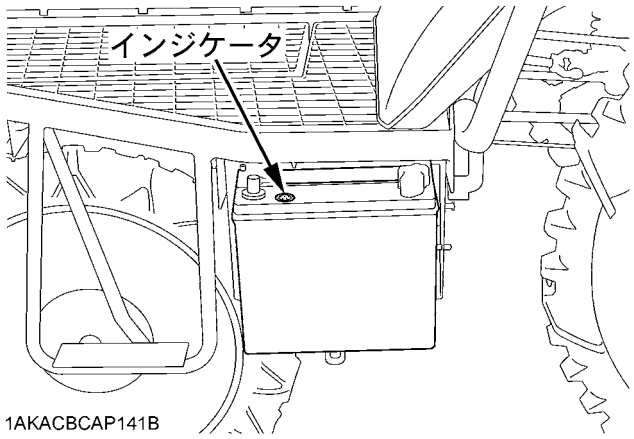
2. バッテリを手前側にスライドします。



1AKACBCAP041A

3. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
   (1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



1AKACBCAP141B

補　足

＊ インジケータは真上から確認してください。

   (2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

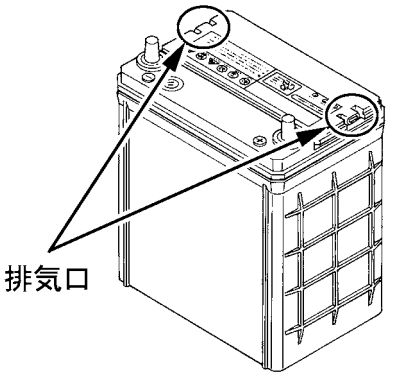
重　要

＊ 液もれが発生すると車体が腐蝕する原因となります。

   (3) ふたの排気口にごみなどが付着しているときは掃除してください。

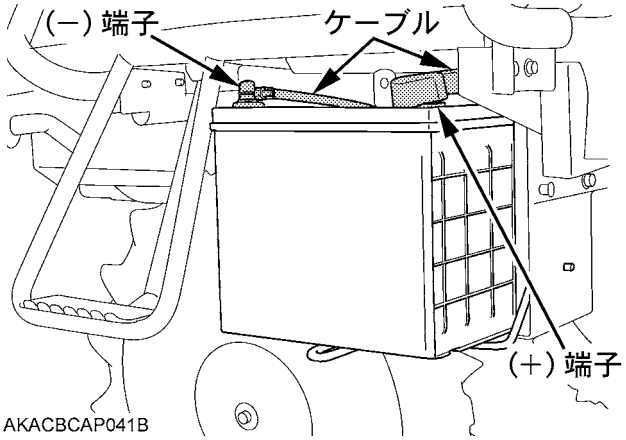
重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



1AKACBCAP162B

   (4) バッテリケーブルの破損や（＋）端子，（－）端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



1AKACBCAP041B

◆ 補充電・交換

警 告

＊ バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
- **取外し…(−) 端子側（アース側）から外す。**
- **取付け…(−) 端子側（アース側）を最後に接続する。**

＊ バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。

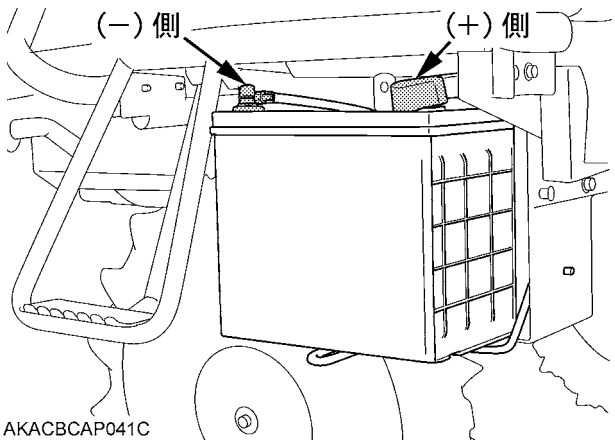
＊ バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

＊ バッテリの取付け方向を間違えないでください。(+) と (−) が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

＊ バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。
- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。

1. バッテリを機体から取外します。
   (1) ノブボルトを取外し，バッテリ止め金具を倒し，バッテリを手前側にスライドします。
   (2) ケーブル端子のボルトとナットを取外し，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず**（−）端子**側から取外します。
   (3) バッテリを取外します。



重 要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの (+) を充電器の (+) 側に，バッテリの (−) を充電器の (−) 側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重 要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ型式：**50B24L-MF**

＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。

＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

■ワイヤハーネス（配線）・ヒューズの点検・交換

注　意

＊ ワイヤハーネス被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆ ワイヤハーネスの点検･交換

コネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。
また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，購入先に連絡して交換してください。

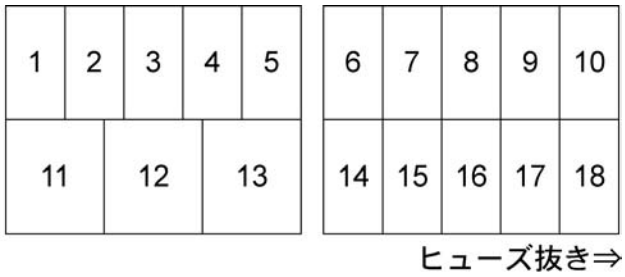
◆ 各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重　要

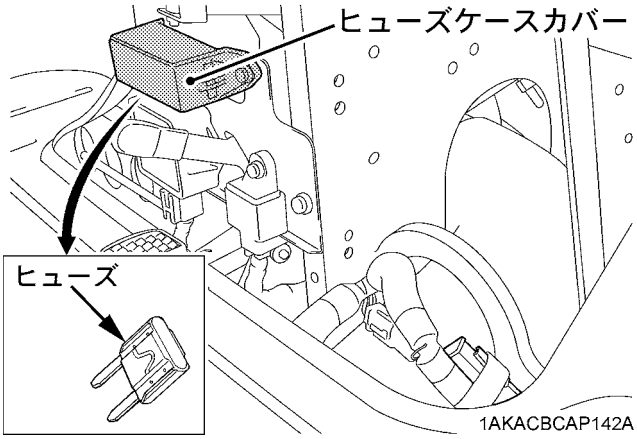
＊ ヒューズを交換してもすぐに切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡してください。

1. キースイッチを**【停止】**位置にしエンジンを止めます。
2. 運転席を取外します。
3. 運転席下部のカバーを取外します。
   (99 ページ参照)
4. ヒューズケースのカバーを取外します。
5. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを予備ヒューズから選んで交換します。



1AKACBCAP164A

図番	回　　路	容量（A）
1	マイコン（バッテリ）	5
2	あぜぎわモータ	20
3	マーカモータ	20
4	エンジン	20
5	(予備)	15
6		
7	停止ソレノイド	20
8	オプション	20
9	マイコンポンパレバー	5
10	ロータモータ（R 仕様のみ）	20
11	メインヒューズ	30
12	モンロモータ	30
13	ブロワモータ（F 仕様のみ）	40
14	PTO モータ	20
15	メータパネル	15
16	施肥ユニット E ナビ	5
17	フューエルカットリレー	5
18	オルタネータ	10

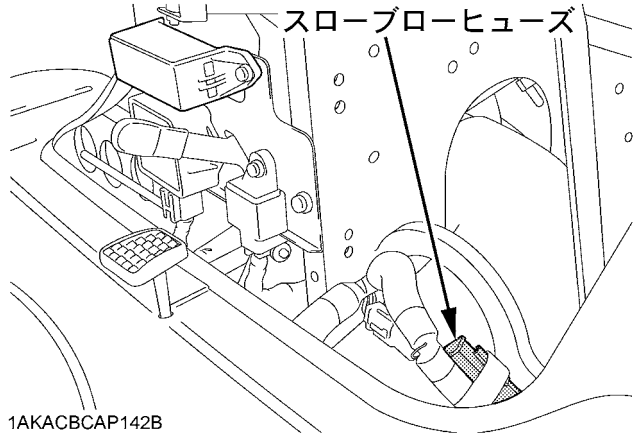


補　足

＊ ヒューズケースカバー表面のラベルで容量（A）を確認してください。
＊ ヒューズを交換するときは，ヒューズケース右下に設置してあるヒューズ抜きを使用してください。

● スローブローヒューズの点検・交換

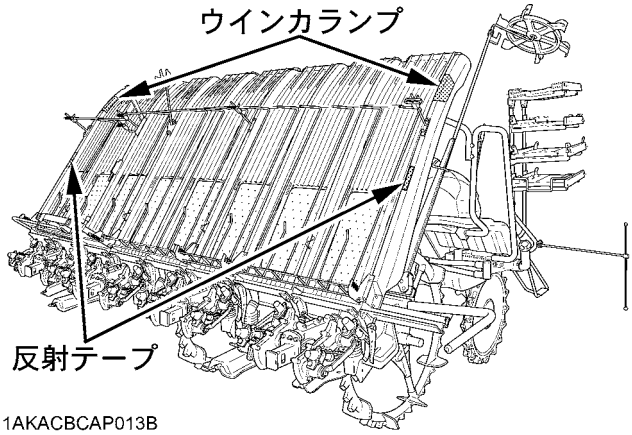
スローブローヒューズ（65A）は，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは付属部品の中にある予備のヒューズと交換してください。また，**[F 仕様]** にはブロワモータ用のスローブローヒューズ（40A，ミニ）があります。ブロワが動かなくなったときに点検し，切れているときは購入先に連絡して交換してください。

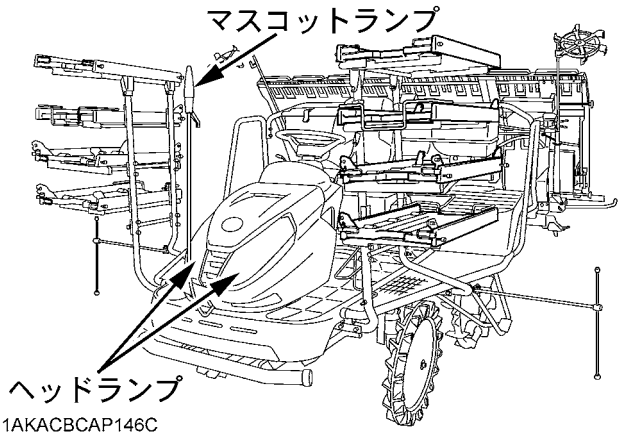


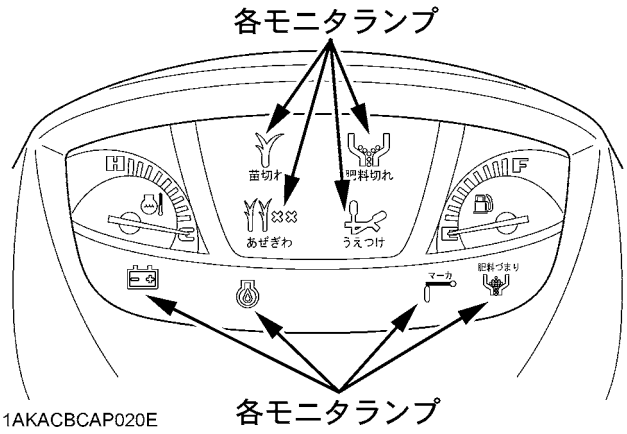
＊ ブロワ用スローブローヒューズ（40A，ミニ）はヒューズボックス内にあります。

■ランプ（電球）の点検・交換・反射テープの点検・交換

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，反射テープに汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。







植付作業後の手入れ

植付作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の田植作業に備えてください。

■毎日の作業後の手入れ

注　意

＊ 掃除する場合は，必ずエンジンを停止させてから行なってください。
＊ 燃料抜取り時は火気厳禁。

1. 平たんな場所に田植機を停めます。
2. 機体各部の泥などを取除いたあと，必要に応じて各部に注油を行ないます。
（108 ページ参照）
3. 格納場所に格納します。

重　要

＊ しゅう動板ガードや収納式苗のせ台を収納位置にしてください。

● しゅう動板ガード（左，右）

しゅう動板ガードを次の要領で収納時の位置にします。(52 ページ参照)

● 収納式苗のせ台

収納式苗のせ台を収納位置にします。(52 ページ参照)

4. 植付部を降ろします。
5. メインスイッチのキースイッチを抜取ります。
6. 駐車ブレーキを掛けます。

■長期格納時

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 水洗い後，ごみ・水滴をじゅうぶん拭取り，油をしみこませた布で清掃してください。
- 各グリース塗布箇所にはグリース，注油箇所には注油を行なってください。
- 塗布したグリースや油が縦送りベルトに付着したら，必ずふき取ってください。
- 植付爪の先端など，錆やすい所にはグリースを塗ってください。
- 各部のゆるみを調べ，増締めを行なってください。

重　要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

◆ ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。(123 ページ参照)

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比 35%［C 仕様 50%］），よく水と混ぜ合せてからお使いください。
（ラジエータ容量…約 2.5L〔エンジン内含む〕）
＊ 不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

◆ バッテリ

危　険

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊ バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを［切］にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１ヵ月，冬は２ヵ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，（－）側のケーブルを必ず取外してください。

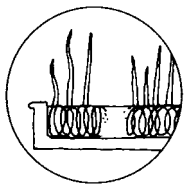
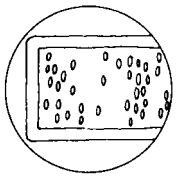
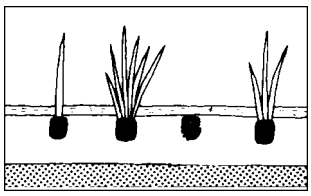
◆ 各レバー・その他

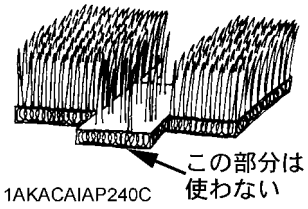
点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは植付部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

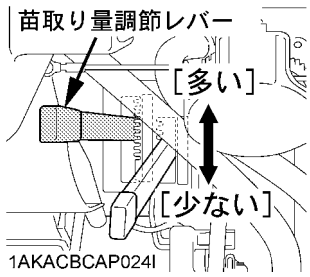
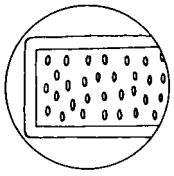
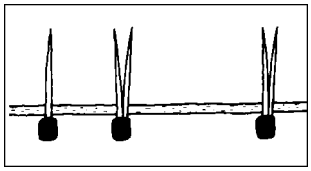
- メインスイッチのキースイッチは，必ず抜取って保管してください。
- 駐車ブレーキを掛けてください。

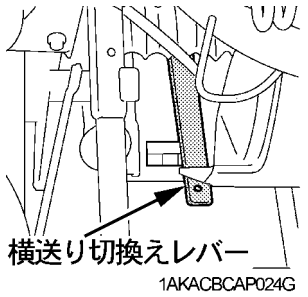
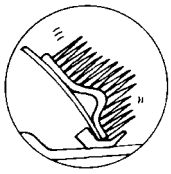
植付作業の不調と処置

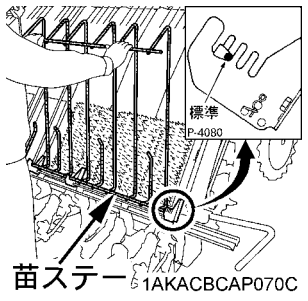
欠株が出る

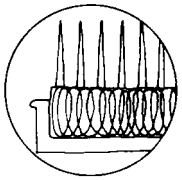
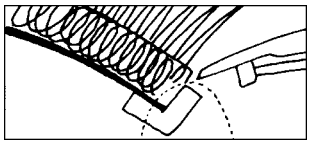
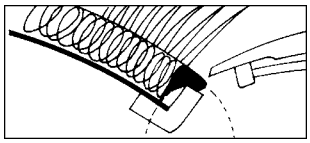
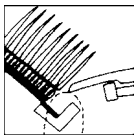
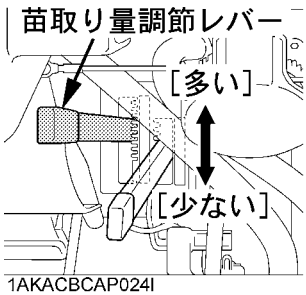
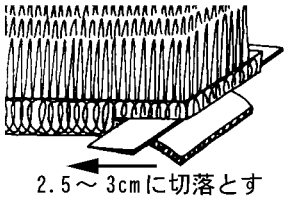
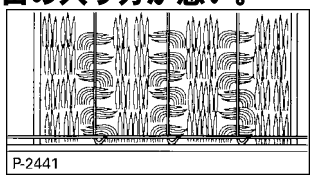
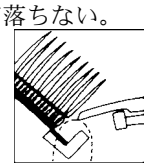
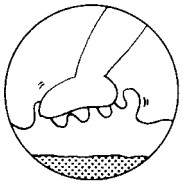
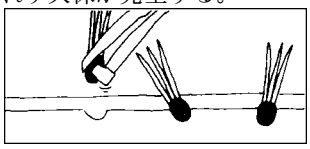
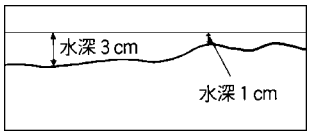
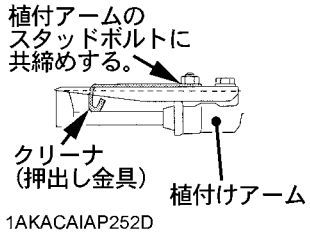
<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>苗に生育ムラやハゲた部分がある苗
 
苗の播種ムラがひどい苗
  </td>
<td>●植付けの本数がバラついたり欠株が出る
  </td>
<td>苗の処置
①生育の悪い部分やハゲたところを切取って植付ける。
②悪い苗は，使用しない。
（補植えに使用する）

機械の処置
苗取り量は多く，横送り回数は少なくする。
（横送り量を多くする）
（80, 80 ページ参照）</td>
<td> 

 
</td>
</tr>
<tr>
<td>播種量が少ない苗
  </td>
<td>●植付け本数が少なくなり欠株が出る。
  </td>
<td>苗の処置
中苗用成苗用の育苗指針を守り播種ムラのない苗をつくる。

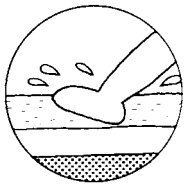
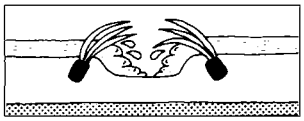
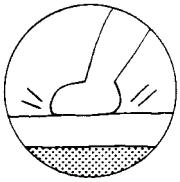
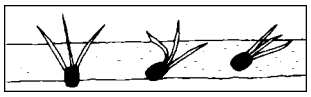
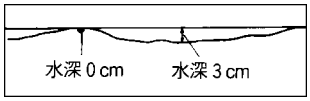
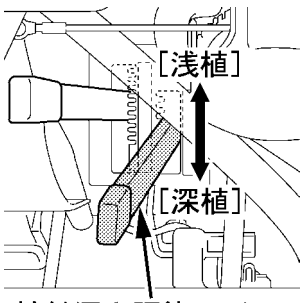
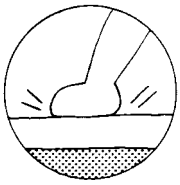
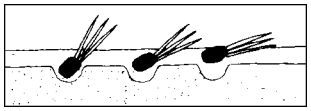
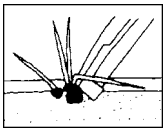
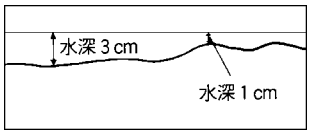
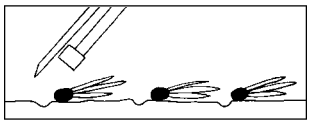
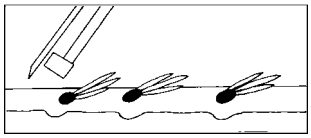
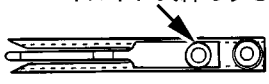
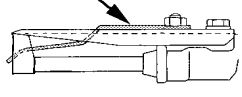
機械の処置
苗取り量は多く，横送り回数は少なくする。
（横送り量を多くする）
（80, 80 ページ参照）</td>
<td> 
</td>
</tr>
<tr>
<td>苗床がうすく又根張りが悪い苗
苗床が軟らかすぎる苗</td>
<td>苗のせ台上で苗がくずれて植付けできない。
  </td>
<td>機械の処置
苗ステーと苗との間隔を狭くして苗のせ台からのずり落ち，くずれを防止する。
（83 ページ参照）

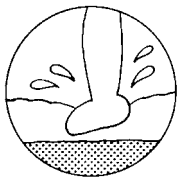
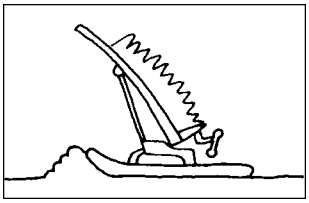
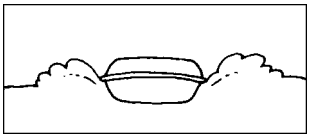
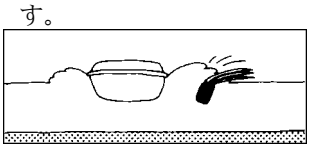
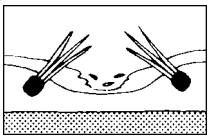
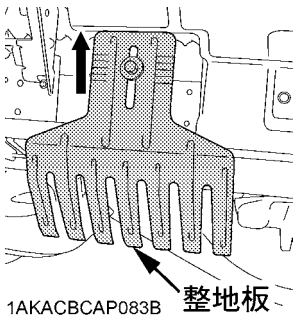
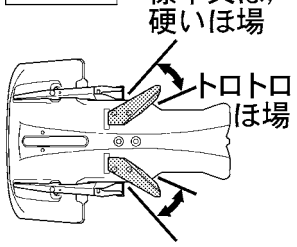
苗の処置
①苗床厚が 2 cm 以上の苗を使用する。
②苗床を乾かして硬めにする。</td>
<td> 
</td>
</tr>
</table>

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
苗床が厚い苗 	①苗がうまく取れないため，苗取量が少なかったり欠株が出る。  ②爪の軌跡より外れた部分が残ってダンゴ状になり苗の縦送りができなくなる。  ③苗のせ台上で苗のすべりが悪く欠株がでる。 	**機械の処置** ①苗取り量を多少多くして苗を取るようにする。 (80 ページ参照) ②苗ステーを調節して苗床とのすき間をあける。 (83 ページ参照) **苗の処置** ①苗床厚（マット厚）が 2.5 ～ 3 cm になるように切落とす。切落とせない場合はその苗は使用しない。 ②植付け前にかん水してすべりを良くする。	 1AKACBCAP024I  1AKACAIAP246A
苗の入り方が悪い。 	苗が苗ステーに引っかかって落ちない。 	**苗の処置** 引っかかった苗を取除いてきちんと入れ直す。	
床土が粘土質で粘りが強い苗。 **粘土質のほ場でしかも水が少ない。** 	植付け時，苗が植付爪より離れず欠株が発生する。 	**苗の処置** 苗床を乾き気味にする。又は水につけじゅうぶん水分をもたせる。 **ほ場の処置** ほ場に水を１～３ cm 程度張り苗が爪より離れやすくする。 **機械の処置** クリーナ（押出し金具）を取付ける。	  1AKACAIAP252D

植付作業の不調と処置

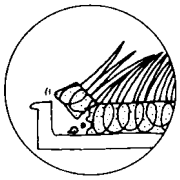
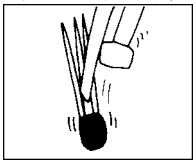
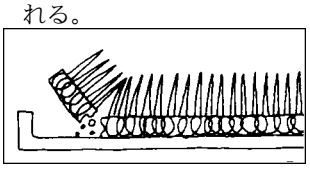
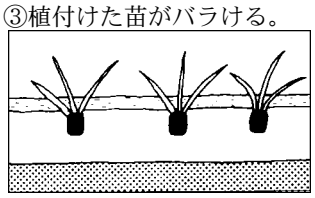
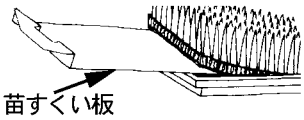
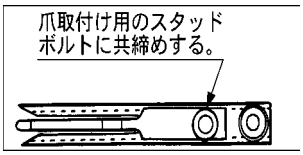
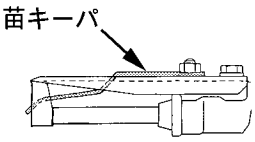
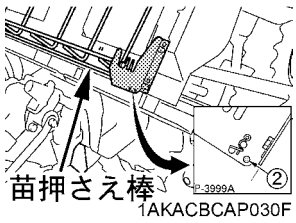
浮苗が出る・植付けが乱れる

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
水深が３ ㎝以上あるほ場。 	①フロート通過跡に水が流れ込んで植付けた苗又は，隣接苗が倒れる。   ②植付け姿勢が悪い又は浮苗が発生する。 	**ほ場の処置** 水を落す。水深０～３ ㎝にする。 **機械の処置** ①植付速度を遅くして水の移動をゆるやかにする。 ②植付深さを許せる範囲で深めにする。	  1AKACBCAP024H
ほ場が硬い。 	①爪で開けた穴がふさがらず水を入れたときに苗が浮く。  ②苗を押込むとき，苗が傷んだりバラける。 	**ほ場の処置** ①再度代かきして植えやすい硬さにする。 ②水を１～３ ㎝入れ軟らかくして植える。 **機械の処置** ●植付速度を遅くして苗をゆっくり土中に押込むようにする。	
根張りが悪く，床土が砂質の苗で，しかも苗が爪から離れやすく，水につかると床土が溶ける苗。	①苗がころぶ。  ②水がある場合，浮苗がでる。 	**ほ場の処置** 水が多い場合は水を落とす。 **苗の処置** ①根張りのよい床土がブロックになる苗にする。 ②床土は水に溶けにくい土質のものにする。 ③植付け前に苗床に少し水気をもたせる。 **機械の処置** 別売り（オプション）の苗キーパを爪に付ける。	爪取付け用のスタッドボルトに共締めする。  苗キーパ 

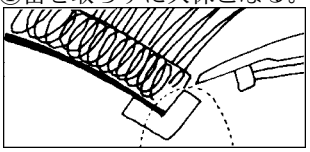
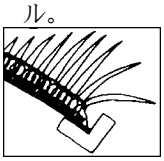
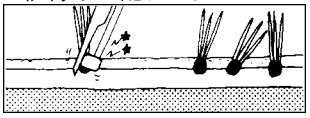
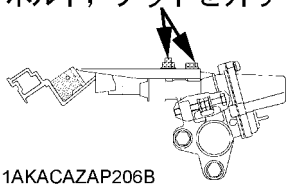
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
表面がトロトロで軟らかいほ場。 	①フロートが沈み，泥を押す。   ②泥を押して，隣接苗を倒す。  ③フロート通過跡が大きくなり，そこに土が流れ込むとき，植えた苗が内側に倒れる。  ④ふく土板で泥を押す。**[F 仕様]** ⑤車輪がスリップして調整した施肥量と異なる。**[F 仕様]**	**ほ場の処置** ●水を落として表面を硬くする又は表面を落ち着かせる。 （植付けを延期する。） **機械の処置** ①フィットセンサダイヤルを軟らかい方へ移動させ泥を押さないようにする。 ②植付速度を遅くする。 ③左，右の整地板の高さを高くしてください。 ④ロータ高さ調節ダイヤルを**【浅い】**の方向に調節する。**[R 仕様]** ④各フロート下面の各ふく土板の取付角度（位置）を狭くする。（**[F 仕様]**） ⑤施肥量を再調整してください。	 [F 仕様] 

植付作業の不調と処置

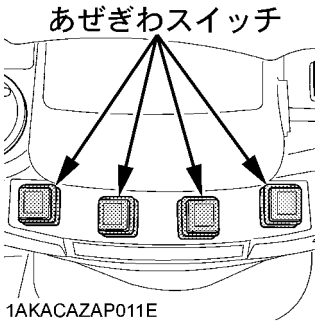
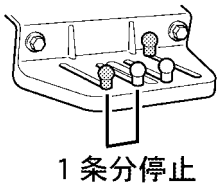
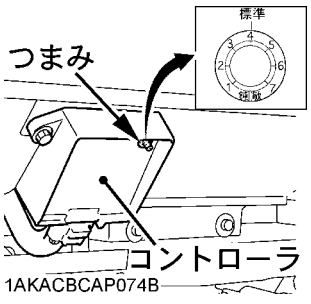
浮苗が出る・植付けが悪い

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
根張りの悪い苗 **床土に粘りがなくくずれやすい苗** 	①苗が植付けになる前に植付爪から落ち浮苗となる。  ②苗を取出すとき苗がくずれる。  ③植付けた苗がバラける。 	**苗の処置** ①苗床に少し水気をもたせる。 ②苗すくい板を使用して苗がくずれないようにする。 **機械の処置** ●植付速度を遅くする。 ●別売品（オプション）の苗キーパを使用する。 ●苗押さえ棒を②（内側）の穴に差替える。	    1AKACBCAP030F

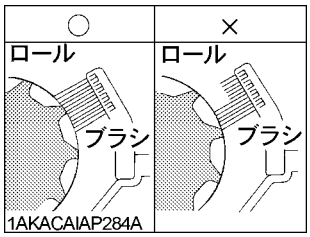
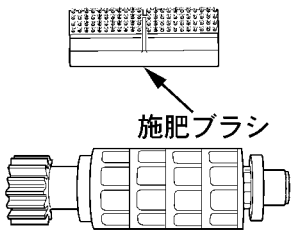
植付けが乱れる・欠株が出る

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
植付爪の異常 ●爪の摩耗 ●爪の変形 ●押出し金具の変形 ●押出し金具がじゅうぶん押出さない。	①苗を取らずに欠株となる。  ②苗取り後残りの苗がバラケル。  ③押出し金具が押しきらず植付けが乱れる。 	**機械の処置** ①植付爪と押出し金具の点検。 ●爪の曲がりを直す。 ●押出し金具の曲がりを直す。 ②爪，押出し金具などの部品を新品と交換する。	ボルト，ナットを外す  1AKACAZAP206B

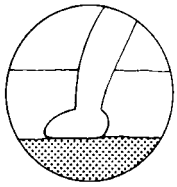
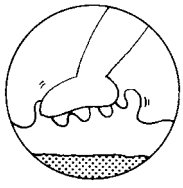
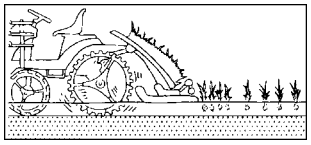
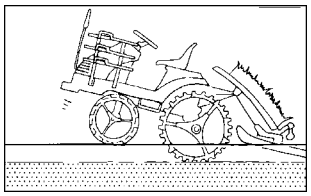
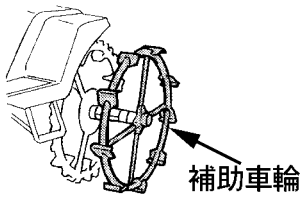
施肥をしない・施肥量がばらつく

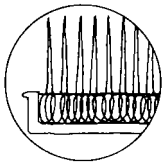
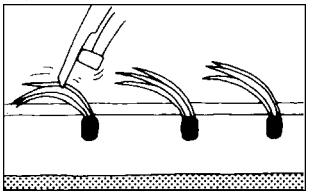
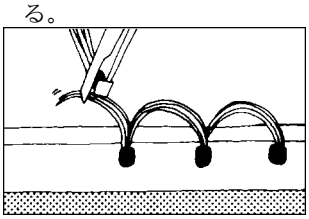
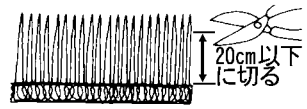
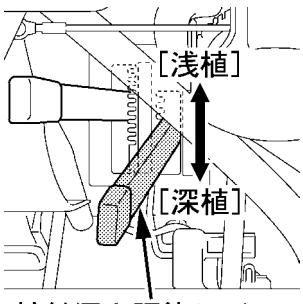
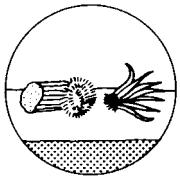
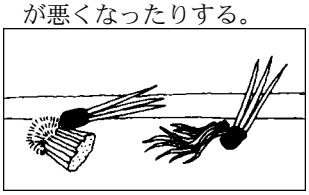
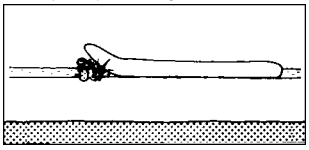
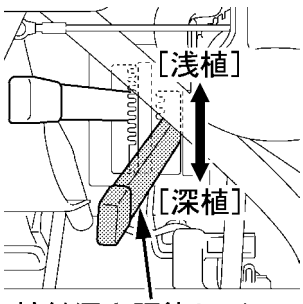
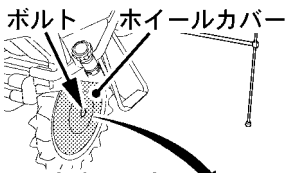
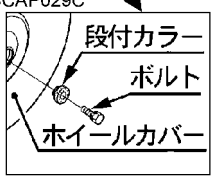
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
施肥に適さない肥料	①施肥量にバラツキがある。 ②ホッパ内の肥料の減り方にバラツキがある。 ③施肥をしない。 ④残量センサが誤作動する。	**肥料の処置** ①条件に合った肥料を選ぶ。（71 ページ参照） ②固まった（湿った）肥料は使わない。	
機械の設定		**機械の処置** ①あぜぎわスイッチが**【切】**位置のときは，**【入】**位置にする。	
機械の設定		②１条分の調量ツマミを３本共引いているとき（繰出し停止状態）は，他の施肥量と同じ位置に調節する。（86 ページ参照）	
各部の詰まり		**機械の処置** ①ホッパ内に肥料の詰まりがあれば取除く。 ②ホッパ内，ロールケース内，各ホース，作溝器内に付着した肥料は取除く。（108 ページ参照） **補　足** ＊深水ほ場で，苗補給や肥料補給などで一時停止したときに，詰まっていないのに警報が出る場合があります。点検して，詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを**【鈍】**（鈍感）の方向に調整して作業を続けてください。 ＊乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。ときどき，作溝器内を点検してください。	

植付作業の不調と処置

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
施肥ブラシの摩耗・損傷 [F 仕様]	●施肥量が多くなる。 ●ホッパの肥料の減りが早くなる。	**処置** ①施肥ブラシを交換する。 （134 ページ参照）	  1AKACAIAP371B
ブロワが回転していない。	●ロート，ホース内で肥料が詰まる。	**機械の処置** ①スローブローヒューズ切れのときは，交換する。 （138 ページ参照） ②カプラが入っているか確認する。	

苗・ほ場条件による，その他の不具合

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
株間が狭くなる **深いほ場**  **強粘土質のほ場** 	①走行抵抗が大きく車輪がスリップして株間が狭くなる。   ②機体前部が浮き上りスリップする。	**機械の処置** ①補助輪をとりつけてスリップを少なくする。 ②株間を一段広くして坪当たり株数を確保する。	 1AKACAIAP293A

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
苗の草丈が長すぎる。 **草丈が20cm以上ある苗の植付け。** 	①植付けた苗が爪に押されて傾く。  ②植付けた苗がアーチ状になる。 	**苗の処置** 葉先を 20cm 以下に切りそろえる。 **機械の処置** ①植付深さを深めにする。 ②植付速度を遅くする。 ③苗おさえ棒の位置を一番上にあげる。	 1AKACAIAP294A  1AKACBCAP024H
夾雑物の多いほ場 代かき後も刈株，ワラ，雑草などが多量に露出しているほ場。 	①夾雑物の上では，苗が植わらなかったり，植付け姿勢が悪くなったりする。  ②夾雑物がフロート，整地板や作溝器（**[F 仕様]**）で押されてたまる。 	**ほ場の処置** ①代かき時，夾雑物をすき込む。 ②耕うん前に夾雑物をできるだけ取除く。 **機械の処置** ①植付深さをやや深くする。 ②植付速度を遅くする。 ③整地板をあげ夾雑物の掘起しを少なくする。 ④ロータ高さ調節ダイヤルを適度な位置に調節する。 **[R 仕様]**	 1AKACBCAP024H
強粘土質のほ場	前輪ホイールカバーに泥が付着し，隣接苗に泥を落す。	**機械の処置** ●前輪ホイールカバーを取外す。 ※組付けるときは段付カラーを反対に向けて，ボルトに接着剤を付けて，締付けてください。	 1AKACBCAP029C 

付表

主要諸元

名称				ウエルスターロイヤルビップ
型式				NSD8
区分				― 〈F〉
駆動方式				４輪駆動
機体寸法	全長(mm)			3400
	全幅(mm)			2860〈折りたたみ時：2220〉［C仕様：3030〈折りたたみ時：2400〉］
	全高(mm)			2030［Y32仕様：2680］
	最低地上高(mm)			455
機体質量(kg)				850〈900〉［Y16仕様：870〈920〉］［Y32仕様：955〈1005〉］［CY32仕様：990〈1040〉］
エンジン	型式名			D902-E3-P
	種類			水冷４サイクル３気筒立形ディーゼルエンジン
	総排気量(L{cc})			0.898{898}
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)			15.4{21.0}/ 3000
	使用燃料			ディーゼル軽油
	タンク容量(L)			17
	始動方式			セルスタータ式
	バッテリ(V・Ah)			12・36［50B24L］
走行部	かじ取り方式			アッカーマン方式
	車輪 種類		前輪	ノーパンクタイヤ
			後輪	ゴムラグタイヤ
		外径×幅	前輪(mm)	650×95
		外径×幅	後輪(mm)	950×50
		輪距(mm)	前輪	1200［C仕様：1320］
			後輪	1200［C仕様：1320］
	変速方式			油圧式トランスミッション［HST］
	変速段数(段)			主変速：前進無段･後進無断［副変速：２段］
植付部	植付方式			ロータリ式強制植付け
	植付条数(条)			8
	植付条間(cm)			30［C仕様：33］
	植付株間(cm)			※14,16,18,21,24［C仕様：11,12,14,16,18,21］
	植付株数(株/3.3m²)			※80,70,60,50,45［C仕様：90,80,70,60,50,45］
	植付深さ(cm)			1.4～4.7［５段階］
	1株本数調節	横送り量(mm)/横送り回数		11/26, 14/20, 18/16［３段］
		縦かき取り量(mm)		8～18
苗の条件	苗の種類			マット苗
	草丈(cm)			8～25
	葉令(葉)			2.0～4.5
施肥装置	肥料の種類			粒状化成肥料
	施肥方式			側条作溝施肥･強制埋設
	施肥位置(cm)			苗の側方：4.5, 深さ：5
	肥料ホッパ容量(L{kg})			88{約80}
	繰出方式			溝付ロール式
	繰出量調節方式			ロール切替え式＋ロール回転数調節式
	繰出量調節範囲(kg/10a)			10～80
	ふく土方式			フロートとふく土板
予備苗とう載数(箱)				8［Y16仕様：16］［Y32仕様：32］
警報装置				充電警報[ランプ], 油圧警報[ランプ], 後進時[ブザー], 燃料計, 水温計, マーカ出忘れ警報[ランプ], 植付クラッチ入忘れ警報[ランプ・ブザー], 苗切れ警報[ランプ・ブザー], あぜぎわクラッチ入忘れ警報[ランプ] マスコットランプ, 肥料切れ警報[ランプ・ブザー]**[F仕様]**, 肥料詰まり警報[ランプ・ブザー]**[F仕様]**
作業速度(m/s)				0～1.83 ※0～1.65［C仕様：0～1.7 ※0～1.53］
作業能率［計算値］(a/h{分/10a})				～86{7～}〈～75{8～}〉
安全鑑定番号				32149

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。
＊〈F〉：施肥機付仕様
※車輪スリップ率 10%

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊ 保証書	1	
＊ メンテナンスブック	1	
＊ 取扱説明確認カード	1	
＊ 取扱説明書	1	
＊ スローブローヒューズ（65A）	1	
＊ スローブローヒューズ（30A，ミニ）	1	
＊ スローブローヒューズ（40A，ミニ）	1	
＊ 苗取りゲージ	1	
＊ 苗すくい板	8	
＊ 回転マーカ	2	
＊ 隣接マーカ	2	
＊ ハンドル	1	**[F 仕様]**
＊ ダミーカプラ	1	**[8-FR]**
＊ 軸（ロータ，２）	1	**[8-R]**
＊ ロータ	1	**[8-R]**
＊ 平座金	1	**[8-R]**
＊ バネ座金	1	**[8-R]**
＊ ボルト	1	**[8-R]**
＊ 軸完備（RH）	1	**[8-R]**
＊ ガイド完備（8，RH）	1	**[8-R]**
＊ ガイド完備（8，LH）	1	**[8-R]**
＊ ボルト（6 × 16）	4	**[8-R]**

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

■苗キーパ

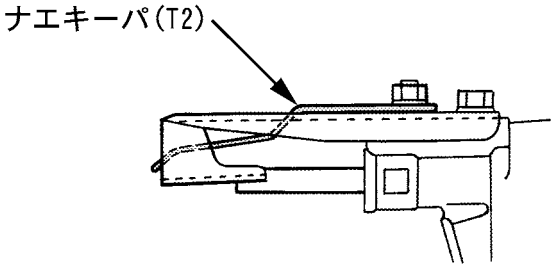
苗キーパは，苗こぼれによるバラケ，浮苗を防止します。

※アッシ（セット）の場合

品　名	品　番	数量	対象型式
キット（ナエキーパ T2,8）	PL851-9851-0	16	全型式

※単品の場合

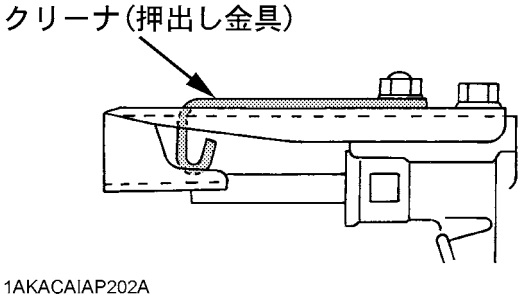
品　名	品　番	対象型式
ナエキーパ（T2）	PA401-5372-0	全型式



1AKACAIAP201A

■クリーナ

クリーナは，苗を詰まらなくする効果があります。爪の間に苗が詰まり，植付姿勢が乱れたときなどに有効です。



1AKACAIAP202A

※アッシ（セット）の場合

品　　名	品　　番	数量	対象型式
クリーナ，アッシ（押出し金具 8）	PR201-9390-0	16	全型式

※単品の場合

品　　名	品　　番	対象型式
クリーナ（オシダシカナグ）	PR001-9391-0	全型式

■補助車輪

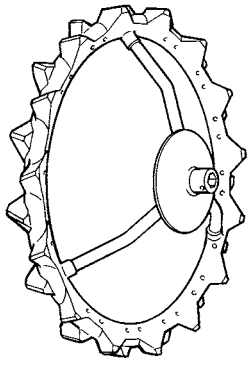
ほ場に合った補助車輪を使用してください。

● ゴムラグタイヤ

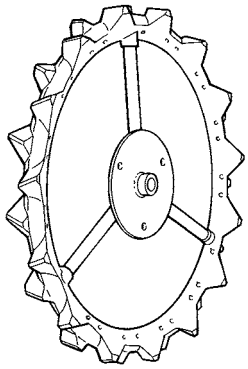
ほ場条件…耕盤が軟弱で泥炭地のようなほ場

品　　名	品　番	仕　　様			対　象　型　式
		内側／外側	車輪径（mm）	整地板の有無	
車輪，キット（補助，内ゴム）	PM808-9880-0	内側	φ900	—	全型式
車輪，キット（補助，外ゴム）	PM808-9890-0	外側	φ900	—	

ゴムラグ内


1AKACAIAP203A

ゴムラグ外


1AKACAIAP204A

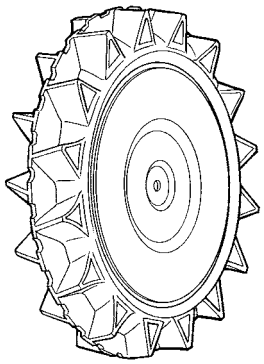
● エアタイヤ

品　　名	品　番	仕　　様			対　象　型　式
		内側／外側	車輪径（mm）	整地板の有無	
キット（補助車輪，T，外）	PF801-9840-0	外側	φ900	—	全型式

■広幅前輪タイヤ

ほ場の耕盤が軟弱で，後進時に前輪が沈下する条件で沈下を少なくできます。

品　名	品　番	仕　様	対象型式
車輪，キット (F,650-120)	PL503-2350-0	幅 120mm 径 ϕ 650 ノーパンクタイヤ ホイールキャップ付	全型式 (C 仕様標準)
車輪，キット (F,650-140)	PM807-9820-0	幅 140mm 径 ϕ 650	C 仕様



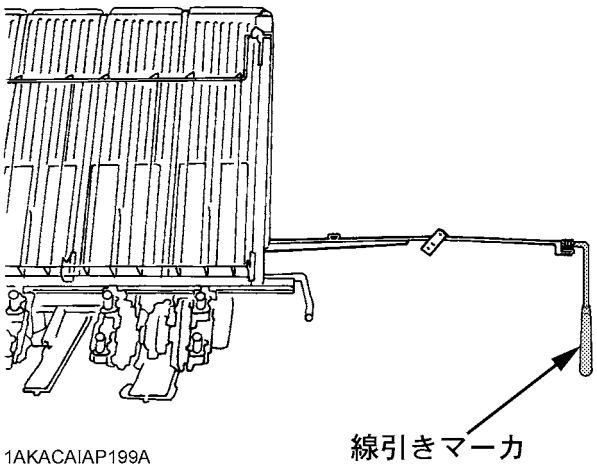
1AKACAIAP205A

■後輪エアタイヤ

品　名	品　番	対象型式
後輪エアタイヤ	PF801-2490-0	全型式

■線引きマーカ

品　名	品　番	対象型式
マーカ，キット (ライン)	PL651-9840-0	全型式



1AKACAIAP199A

■整地板

● R 仕様

品　名	品　番	仕　様	対象型式
整地板，アッシ (NSU-R，ウチ)	PR107-9810-0	外側補助車輪用	R 仕様 Q・Q2 仕様

※ R 仕様に補助車輪を装着し，ロータを上げて使用する場合は，整地板を取付けてください。

■バックミラー

品　名	品　番	対象型式
ミラー，キット (サイド)	PR001-9883-0	全型式 (Y32 仕様標準)

■薬剤散布機［こまきちゃん］

粒状の薬剤（除草剤など）の散布を行ないます。

- 田植えと同時作業などで，時間と人手の省力化ができます。
- 機械散布なのでムダ・ムラがなく，すぐれた除草効果が得られます。また，薬剤が体につかず安心で快適な作業が行なえます。

品　名	品　番	対象型式
こまきちゃんCS-20	4M201-9002-0	全型式 (C 仕様除く)

■薬剤散布機［箱まきちゃん］

粒状の薬剤（殺虫剤・殺菌剤など）の散布を行ないます。

- 田植えと同時作業などで，時間と人手の省力化ができます。
- 機械散布なのでムダ・ムラがなく，すぐれた殺虫・殺菌効果が得られます。また，薬剤が体につかず安心で快適な作業が行なえます。

品　名	品　番	対象型式
箱まきちゃんHSY80	4F811-9002-0	全型式 (C 仕様除く)

■除草剤散布機［滴下マン］

液体除草剤(フロアブル剤)の散布を行ないます。

- 田植えと同時作業なので，時間と人手の省力化ができます。
- 植付け速度にあった散布や散布量の過不足がない均等な散布を行ない，すぐれた除草効果が得られます。
- 田植え前の散布が必要ないので，落水による流失がなく環境保全に有効です。

品　名	品　番	対象型式
滴下マンLS-10	4D101-9003-0	全型式(C仕様除く)
NSU キット	4P101-9003-0	

※上記セット購入が必要です。

■延長予備苗台

品　名	品　番	対象型式
ナエノセダイ， キット(エンチョウ)	PR251-9881-0	全型式 (Y16・Y32 仕様，Q・Q2 仕様除く)

※キャノピとの装着はできません。

■植付部脱着用スタンド

品　名	品　番	対象型式
キャスタ，キット	PR201-9211-0	全型式 (Y32 仕様除く)

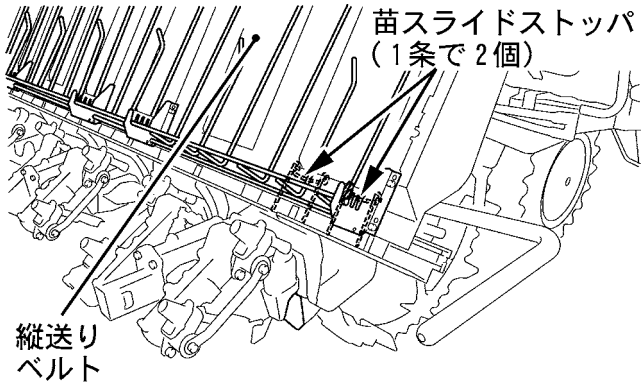
※外側補助車輪装着時は外して利用してください。

■すくい板ホルダ

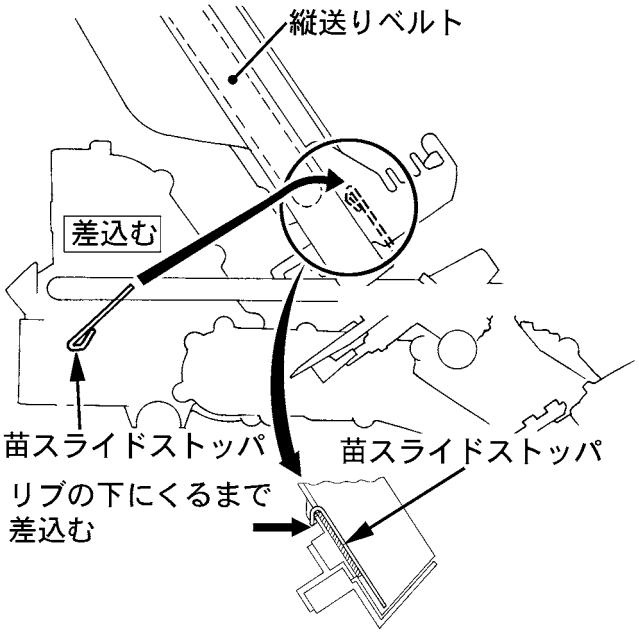
品　名	品　番	対象型式
ホルダ，キット (スクイイタ)	PR001-8670-0	全型式 (Y16・Y32 仕様除く)

■苗スライドストッパ

1. 植付部を上昇させたあと，エンジンを止めます。
2. 苗のせ台に下図のような方向から，苗スライドストッパを縦送りベルト下端のすきまから差込みます。

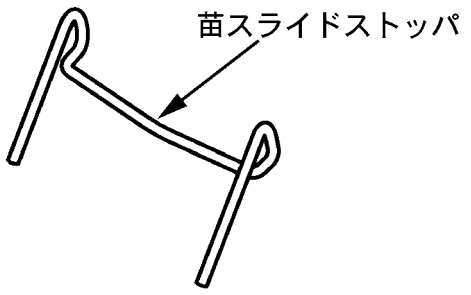


1AKACBCAP030E



＊苗スライドストッパは苗のせ台裏側から差込んでください。

1AKACAZAP181A



1AKACAZAP161A

※単品の場合

品　　名	品　　番	対象型式
ストッパ（ナエスライド）	PR001-9841-0	全型式

補　足

＊ 苗スライドストッパは，１条分あたり２個使用します。
＊ 苗ストッパを差込んだあとは，きっちりとはめ込んでください。

3. 同じ要領で苗のせ台全条に取付けます。

補　足

＊ 植付作業時に，植付爪と苗スライドストッパが接触しても支障はありません。

※アッシ（セット）の場合

品　　名	品　　番	数量	対象型式
ストッパ，キット（8，苗スライド）	PR201-9842-0	16	全型式

■増量ロール

[F 仕様]

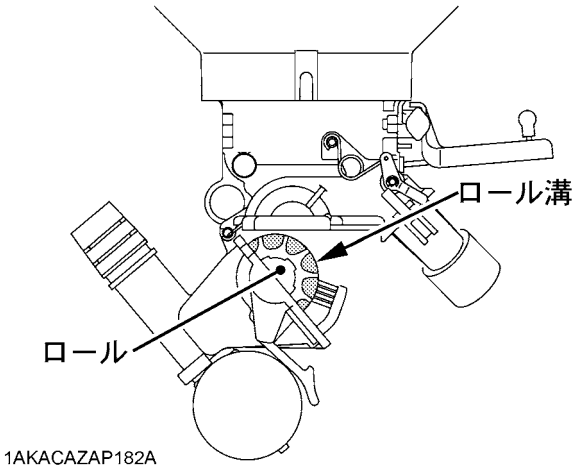
実際の施肥量が設定した施肥量より少なく（肥料の比重が小さいため）80kg/10a 繰出しを行ないたい場合は，標準よりロール溝が深い増量ロールを使用してください。

※アッシ（セット）の場合

品　　名	品　　番	対象型式
クリダシロール，キット（8Y）	PP851-9590-0	F 仕様全型式

※単品の場合

品　　名	品　　番	対象型式
クリダシロール（Y）	PP501-9154-0	F 仕様全型式



[F 仕様]

■苗箱ホルダ

品　　名	品　　番	対象型式
ホルダ，キット（ナエバコ，8）	PR201-8660-0	全型式（Y16・Y32 仕様除く）

※延長予備苗台との共着は不可。

■疎植キット

品　　名	品　　番	対象型式
ギヤ，アッシ（ソショク，8D）	PR251-9850-0	全型式（C 仕様除く）

■本機カバー

品　名	品　番	対象型式
カバー（ホンキ）	PL871-9713-0	全型式

■周り植えマーカ

品　名	品　番	対象型式
マーカ，キット (マワリウエ)	PR201-9880-0	全型式

■苗ストッパ

品　名	品　番	対象型式
ナエストッパ,アッシ	PP501-4712-0	全型式

■フラットローラ

品　名	品　番	対象型式
ローラ，キット (フラット)	PR001-9885-0	全型式（R 仕様， Q・Q2 仕様以外）

※ C 仕様は標準装備。

■キャノピ

品　名	品　番	対象型式
キャノピ PD-3	4E203-0000-0	全型式 (Y32 仕様除く)

※延長苗のせ台とは共着できません。

■ペースト施肥増量スプロケット

品　名	品　番	対象型式
スプロケット (ゾウリョウ，Q2)	PR006-9590-0	Q2 仕様

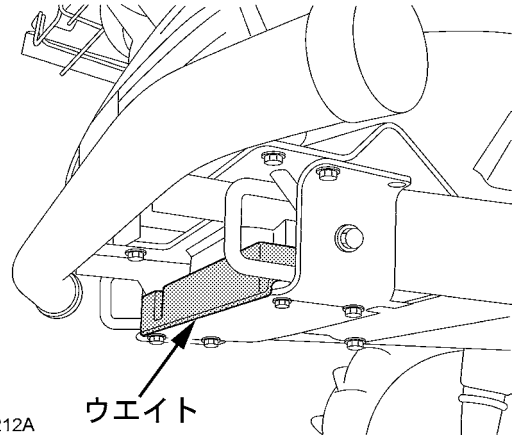
■アクセルレバー

品　名	品　番	対象型式
レバーキット， (アクセル)	PR251-8680-3	全型式

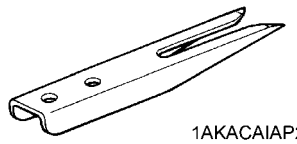
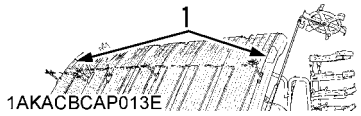
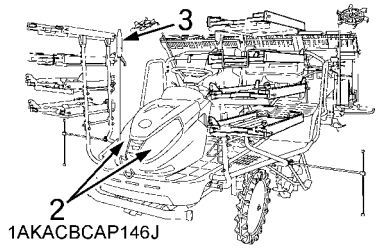
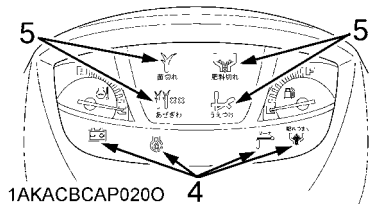
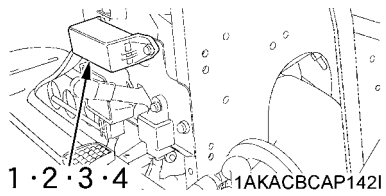
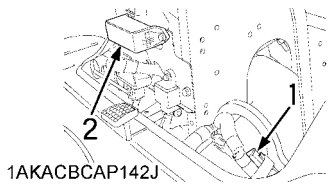
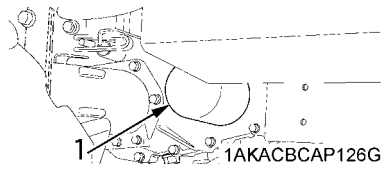
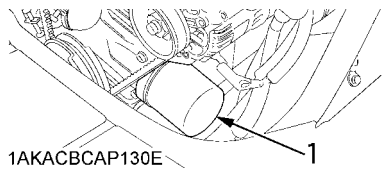
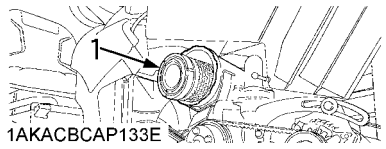
■前部ウエイト

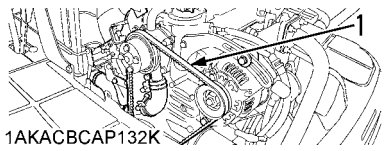
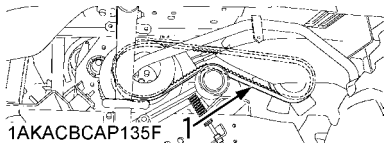
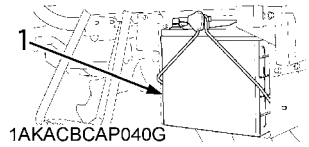
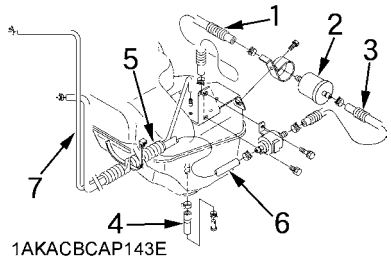
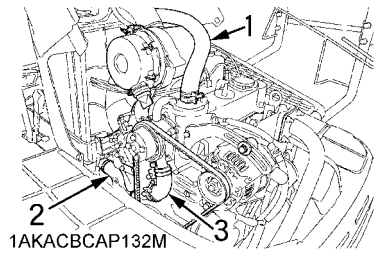
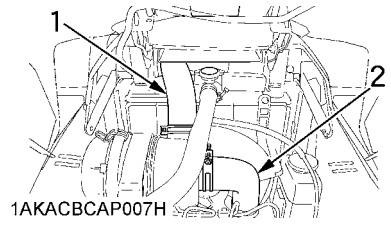
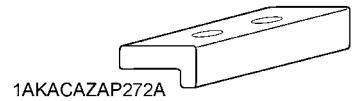
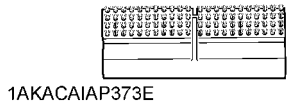
品　名	品　番	対象型式
ウエイト，キット (NSD)	PR251-9940-0	全型式

※＃50741～のR・Q・Q2仕様は標準装備しています。(但し,Q・Q2 仕様及び Y16・Y32 の R 仕様は機体前部が重いので標準装備していません。)



消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）

形　状	品　名	品　番	形式	個数	参　照 ページ
	ウエツケヅメ（RIS13）	PA401-5171-0	全型式	16	131
	1. フラッシャーランプ （ウインカ用）	PR001-6863-0	全型式	1	139
	2. ランプアッシ （ヘッドランプ用）	PM808-6841-0		1	
	3. バルブ（12V10W） （マスコットランプ用）	PP501-8526-0		1	
	4. ランプアッシ （モニタランプ用）	PL501-6848-0		1	
	5. ランプアッシ （モニタランプ用）	38240-3146-0		1	
	1. ヒューズ（5A）	T2050-3047-0	全型式	1	138
	2. ヒューズ（10A）	T2050-3048-0		1	
	3. ヒューズ（15A）	T2050-3049-0		1	
	4. ヒューズ（20A）	T2050-3050-0		1	
	1. スローブローヒューズ（65A）	PR251-6874-0		1	
	2. スローブローヒューズ （30A，ミニ）	RN201-6875-0		1	
	2. スローブローヒューズ （40A，ミニ）	3C581-7717-0	F 仕様	1	
	1. フィルタ （オイル，カートリッジ） （ミッションオイル用）	PL501-7547-0	全型式	1	129
	1. フィルタ （オイル，カートリッジ） （エンジンオイル用）	15853-3243-4	全型式	1	125
	1. エレメント，アッシ （エアクリーナ）	6A100-8263-0	全型式	1	126

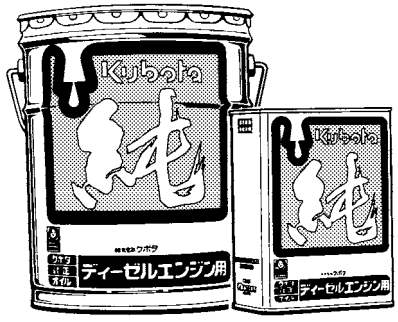
形　状	品　名	品　番	形式	個数	参　照 ページ
	1.HM35.0　ブイベルト （オルタネータ駆動ベルト）	1G739-9701-0	全型式	1	129
	1.V ベルト（48IN） （ミッション駆動ベルト）	PR251-8116-0	C 仕様 以外	1	129
	1.V ベルト（49IN） （ミッション駆動ベルト）	PR254-8116-0	C 仕様	1	
	バッテリ	07908-25040	全型式	1	135
	1. フューエルチューブアッシ（3）	PR251-8253-0	全型式	1	127
	2. フューエルフィルタアッシ	12581-4301-2		1	
	3. フューエルチューブアッシ（1）	PR251-8251-0		1	
	4. フューエルチューブ	09661-60040		1	
	5. チューブ（2，コルゲート）	PR251-8257-0	Q 仕様 以外	1	
	6. フューエルチューブ	09661-71200		1	
	7. フューエルチューブ	09661-41350		1	
	5. チューブ（コルゲート，1100）	PR255-8257-0	Q 仕様	1	
	6. フューエルチューブ	09661-71350		1	
	7. フューエルチューブ	09661-41500		1	
	1. ホース （ウエ，ラジエータ）	PR251-8217-0	全型式	1	127
	2. ホース （シタ，ラジエータ）	PR251-8218-0		1	
	3. ホース （3，ウォータ）	16805-7287-0		1	
	1. チューブ （1，インレット）	PR251-8242-0	全型式	1	127
	2. チューブ （2，インレット）	PR251-8243-0		1	
	苗のせ台受けガイド (L，ナエノセダイ)	PR001-4623-0	全型式	6	133
	ブラシ （ロールケース用）	PP501-9171-2	F 仕様	1	134
	リンクボール 1	52300-7517-0		1	☆

クボタ純オイル

オイルは，田植機の開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切な田植機の寿命を縮めることがあります。

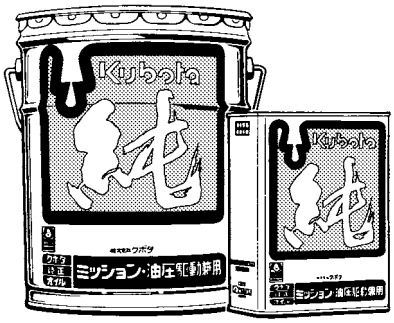
お買求めは，購入先へご用命ください。

- **D30 又は D10W-30（ディーゼルエンジン用）**



1ARADAFAP393A

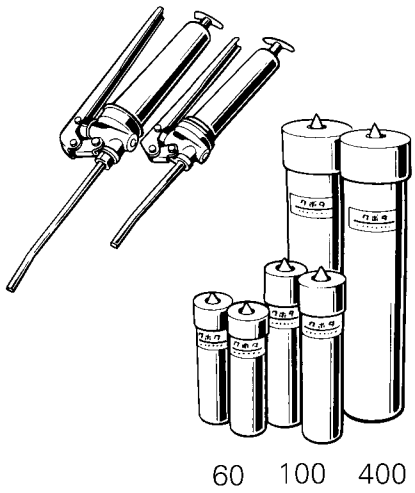
- **スーパー UDT-2**
  （油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）



1ARADAFAP394A

■クボタ純グリース

- **No. 2（グリースアップ用）**
- **クボタ田植機ツメ用グリース（植付アーム用）**



1ARADAFAP397A

索引

あ

アクセルレバー 156
あぜぎわクラッチモニタ
（あぜぎわクラッチ入忘れ警報） 24
あぜぎわスイッチ 15
あぜぎわの植付けかた 68
安全クラッチについて 66

一発肥料使用時の注意 72
移動走行について 35
移動走行前の準備 36

植付けかたと旋回のしかた 61
植付株数と苗の使用量について 80
植付株数の調整 78
植付けが乱れる・欠株が出る 146
植付クラッチモニタ
（植付クラッチ入忘れ警報） 24
植付作業後の手入れ 140
植付作業のしかた 58
植付作業の手順 58
植付爪・押出し金具の点検・調整・交換 131
植付深さ調節レバー 15
植付深さの調節 82
植付部脱着用スタンド 154
植付部の脱着 102
植始め調節ダイヤル 13
浮苗が出る・植付けが乱れる 144
浮苗が出る・植付けが悪い 146
運転席（シート） 11
運転席下カバーの脱着 99
運転前の点検 27

エアクリーナエレメントの点検・
掃除・交換 126
エンジンオイルの点検・補給・交換 121
エンジンオイルフィルタカートリッジ
の交換 125
エンジンストップノブ 8
エンジンの始動と停止のしかた 31
エンジンバルブクリアランスの点検 126
延長予備苗台 154

オイルランプ（油圧警報） 11
オプション（別売品） 151
オルタネータ駆動ベルトの点検・調整 129

か

回転式予備苗のせ台 21
回動式予備苗のせ台 20
各装置の名称 3
各部のオープン（開閉）と脱着のしかた 98
各部の掃除と注油のしかた 108
各部ベルトの点検・調整 128
各レバー・ダイヤルのセット 50
株間調節レバー 16
寒冷時の始動のしかた 33

機体方向説明 2
キャスタ .....
キャノピ..... 156
給・注油（水）点検一覧表 118

クボタ純オイル 159
クボタ純グリース 159
クリーナ 152

欠株が出る 142

後車軸ケースオイルの点検・補給・交換 123
後輪エアタイヤ..... 153
後輪タイヤ空気圧の点検・調整 130
コントローラ 25
コントローラ（自己診断）による
異常と処置 96
コンビネーションスイッチ 11

さ

作業装置の名称とはたらき 12

自動植付作業のしかた 64
自動植付スイッチ 13
始動のしかた 32
十字ポンパレバー 12
充電ランプ（充電警報） 11
しゅう動板ガードのセット 50
収納式苗のせ台のセット 49
主変速レバー 9
主要諸元 150
使用者が行なってはいけない修理 116
消耗部品 157
除草剤散布機［滴下マン］ 154
新車時の扱いかた 31

水温計 11
すくい板ホルダ 154

整地板 153
整地板の調節 84
整地ロータの調節 85
施肥作業時のほ場条件 70
施肥作業のしかた 70
施肥作業のしかた 75
施肥作業前の準備 73
施肥全条停止スイッチ 22
施肥ブラシの点検・掃除・交換 134
施肥モニタ（肥料切れ警報）[F 仕様] 24
施肥モニタ（肥料つまり警報）[F 仕様] 25
施肥量調量金具 23
施肥量の調節 86
施肥をしない・施肥量がばらつく 147
旋回のしかた 40
洗車時の注意 116
線引きマーカ 153
前部ウエイト 156
前輪デフロックペダル 10

走行装置の名称とはたらき 8
掃除のしかた 108
増量ロール 155
疎植キット 155

た

タイヤの点検 130
田植作業前の準備 46
暖機運転について 32

駐車ブレーキレバー 10
注油・グリース塗布箇所 111
注油のしかた 111
長期格納時 140

ツインモードマーカ 14

定期点検 115
定期点検一覧表 117
停止のしかた 34
停車・駐車のしかた 41

トラック上での処置 43
トラックとあゆみ板の準備 41
トラックへ積込み時の田植機の準備 41
トラックへの積込み・積降しのしかた 41

な

苗キーパ 151
苗切れモニタ（苗切れ警報） 23
苗条件 45
苗ステー・苗押さえ棒 19
苗ステー・苗押さえ棒の調節 83
苗ストッパ 156
苗スライドストッパ 154
苗取り量（１株本数）の調節 79
苗取り量調節レバー 14
苗取り量調節レバーの調節 80
苗のせ台の移動のしかた 38
苗のせ台のオープン 99
苗のせ台の折りたたみ・広げかた 52
苗のせ台のしゅう動板と受けの点検 133
苗の補給のしかた 67
苗箱ホルダ 155
苗・ほ場条件による，その他の不具合 148
ならし運転について 31

日常点検項目 28

燃料・オイルの点検・補給・交換 120
燃料切れ後の再始動のしかた 33
燃料計 11
燃料の補給 120
燃料フィルタアッシの交換 126

は

廃棄物の処理について 115
パイプ・ホース類の点検・交換 127
バックミラー 153
発進のしかた 39
バッテリが上がったときの始動のしかた 33
バッテリの点検・交換 135
パワーステアリングハンドル 9

肥料繰出し量目安一覧表 92
肥料について 71
広幅前輪タイヤ 153

フィットセンサダイヤル 13
フィットセンサダイヤルの調節 81
フィットセンサの感度調節 81
ふく土板の調節 86
副変速レバー 9
付属部品 151
フラットローラ 156
ブレーキペダル 10
ブロワ 22

ペースト施肥増量スプロケット 156
変形田の植付けかた［参考］ 65

ほ場条件 44
ほ場と苗の条件 44
ほ場と肥料について 70
ほ場の出入りのしかた 58
補助車輪 152
ホッパ 22
ホッパ内の肥料の排出のしかた 77
本機カバー 156
ボンネットのオープン 98

ま

マーカモニタ（マーカ出し忘れ警報） 23
毎日の作業後の手入れ 140
マスコット 18
マスコット（安心マスコット） 18
周り植えマーカ 156

ミッションオイルの点検・補給・交換 122
ミッションオイルフィルタカートリッジ
の交換 129
ミッション駆動ベルトの点検・調整 129

メインスイッチ 8
メインパネル（走行操作） 11
メインパネル（電装） 23
メインパネルによる異常と処置 94

モンロー調節ダイヤルについて 69

や

薬剤散布機［こまきちゃん］ 153
薬剤散布機［箱まきちゃん］ 154

油圧ロックレバー 17
輸送について 41

横送り切換えレバー 15
横送り切換えレバーの調節 80
予備苗のせ台 20
予備苗のせ台のセット 46

ら

ラインマーカ 18
ラインマーカのセット 49
ラジエータフィンの掃除 125
ラジエータ冷却水の点検・交換 123
ランプ（電球）の点検・交換・反射テープ
の点検・交換 139

隣接マーカ 19
隣接マーカとマスコットのセット 50

ロータ自動スイッチ 16
ロータ高さ調節ダイヤル 17
ロールケース（繰出し部） 22
ロール・ブラシの取付け・取外し方法 106

わ

ワイヤハーネス（配線）・ヒューズ
の点検・交換 138

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　ー

ご購入日	型式名	区分

車台番号（製造番号）	エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

都道府県	お問合せ先	都道府県	お問合せ先
北海道	北海道営業技術推進部	滋賀、京都、大阪、和歌山、奈良、兵庫	大阪営業技術推進部
青森、秋田、山形（庄内地区）	秋田営業技術推進部	岡山、広島	中国営業技術推進部
岩手、宮城、福島、山形（庄内地区以外）	仙台営業技術推進部	島根、鳥取	中国営業技術推進部（米子事務所）
栃木、群馬、茨城、千葉、埼玉、東京、神奈川、静岡	東京営業技術推進部	香川、徳島、高知、愛媛	株式会社四国クボタ 営業技術課
新潟、長野、山梨	新潟営業技術推進部	山口、福岡、佐賀、長崎、沖縄	福岡営業技術推進部
富山、石川、福井	金沢営業技術推進部	大分、宮崎、熊本、鹿児島	熊本営業技術推進部
愛知、三重、岐阜	名古屋営業技術推進部		

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)376-4434	〒061-1274	北海道北広島市大曲工業団地3丁目1番地
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号
中国営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市東区宍甘275番地
中国営業技術推進部(米子事務所)：電(0859)39-3181	〒689-3547	鳥取県米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本市富合町廻江846-1
本社営業技術部：電(072)241-7247	〒590-0823	大阪府堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関
協会排出ガス自主規制適合エンジン」
であることを示しています。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　PR251-9751-7